

- (イ) 護謨栽培國の事實上全部を此協定に加入せしむる事
- (ロ) 各國に割當つる生産量の各年額基準決定を差當り一九三四年より一九三八年に至る五箇年間とす
- (ハ) 新たに栽培する事は各國一般に禁止すべき事

一、國際協定の規定中主要なる事項左の如し

(イ) 此協定を海峽植民地、馬來聯邦州、非聯邦州、ラブアン、ブルネイ、蘭領東印度、錫倫、印度、緬甸、佛領印度支那、英領北ボルネオ、サラワク、暹羅の各地に適用す

(ロ) 最初の制限協定期間は一九三四年六月一日より實施され一九三八年十二月卅一日を以て終るが國際護謨取締委員會は制限協定期間以前九箇月乃至十二箇月内に各關係國政府へ制限期間終了後も更に制限規定を存続せしむるや否やに就て意見を聴取し得べく關係政府は其上申を考查し賛否を定むるものとす

(ハ) 此協定により行はれたる制限計畫は生産割當式(クオート)にして各年(制限期間内)各國に割當る輸出許可量基準を設定す(單位千噸)

	一九三四年	三五年	三六年	三七年	三八年
海峽植民地、馬來聯邦州、非聯邦州、ラブアン、ブルネオ	五〇四	五三八	五六九	五八九	六〇二
蘭領東印度	三五二	四〇〇	四三三	四六七	四八五
セイロン	七七・五	七九	八〇	八一	八二・五
印度	六・八五	八・二五	九	九	九・二五
ビルマ	五・一五	六・七五	八	九	九・二五
北ボルネオ	一一	一三	一四	一五・五	一六・五
サラワク	二四	二八	三〇	三一・五	三二
暹羅	一五	一五	一五	一五	一五

一九三四年の割當基準は前表の内四年に對する割當基準量より比例配分す

一、關係政府は(以下に擧ぐる特別國の場合を除く)自領より輸出する護謨の正味量を限定するに當り國際護謨取締委員會が當座定むる割當基準のパーセンテージを採用すべく暹羅を除いて其パーセンテージは各國共に同一なるを

要す

暹羅に於ては一九三四年中輸出し得る最小限量は暹羅に割當られ、初年基準量の五割以下ならざる事又三五年より三八年迄の輸出量はそれ〴〵七割五分、八割五分、九割及十割以下ならざる事に協定す

一、海峽植民地政府が本規定の全部を遵守せしむべき地方はウエルスレー、ヂンヂンクス、マラツカ及ラブアンに限るものとす、新嘉坡及彼南島に對しては政府は生産管理及輸入を取締る方針を取るべきであるが現在行はれて居る通り島外輸出を管理せず

一、佛領印度支那政府は自領より輸出せる量の記録を完全になし得る様管理を嚴にするを約し且つ左の事項を承認せり

(イ) 國際護謨取締委員會の命に應じ三萬噸と制限各年佛國に輸入され居る量との差の一割に該當する護謨を提出す

(ロ) 佛領印度は(イ)への追加として國際護謨取締委員會の命に應じて各制限年に佛國へ輸出され貯藏され居る過剰量に相當するパーセンテージを制限各年に夫々割當基準量に課す事とす

(ハ) 制限期間中の各年に於ける佛領印度支那が輸出する總量は第五項(三)に特記された同領輸出割當量に課すべき減少平均パーセンテージを以て輸出される量より大なるを得ず

一、協定國政府は刑罰を課する規定を設けて護謨輸出を嚴重に取締り政府が發給する落書を有し其輸出せんとする護謨が政府委任の官吏に依り明確に出荷主を證明されないものは一切輸出を禁止するを要す、又同様罰則下に前記の如き出荷主證明書を有せざる護謨の輸入を一切禁止する事とし斯る不正護謨に對しては燒棄の罰則を設くる事

一、關係政府は互に提携協力して密輸、脱税其他の不正行為を取締る爲め内外人に對する取締規定を設くべし

一、一國が制限期間内の如何なる年内に於ても其國が輸出を許可し得る正味量より五歩以内を超過せしめた場合は別に協定不履行とはならないが其翌年の輸出量を其超過量だけ差引くを要す、又一國が制限期間の一年に輸出した量が許可範圍に達しなかつた場合は其不足量を翌年の輸出に増加するを得、但し其不足が如何に多くとも其翌年埋合し得る數量は一割二歩を超過するを得ず

一、各關係政府は其設置する委員會に就ては國際護謨取締委員會と相談して其各國委員會の權限及機能を定め其委員

會をして國際協定の運用と履行に任せしむる事に同意す、此國際委員會の主要機能は各國に對し許可すべき各年輸出割當基準に對するパーセンテージを定め且つ必要に臨み其パーセンテージを變更し又規則に關し各國政府に勸告或は提議をなす事等とす、此國際委員會は左の國々の代表より成るものとす
海峽植民地、馬來聯邦州、非馬來聯邦州、ブルネイ、ラブアン（六名、三名交代）蘭領東印度（五名三名交代）セイロン（二名交代一名）印度及緬甸、佛領印度支那、北ボルネオ、サラワク、暹羅以上各一名

一、關係各國政府は歐米の護謨製造家代表より成る陪審班を設くるに同意す、本陪審班に對しは國際護謨委員會が製造家側の利害に影響する事項を決する場合必要と認むる都度其意見の提出を求む。

一、各國は税を課し或は他の適當と認むる手段の領内の取締規定實施に要する經費並に其國の代表が國際委員會の事業に當るに要する經費を償ふものとす

一、各政府は罰則を設けて其所轄領域に於ける栽培園主を監督し彼等自身或は其管理下に於て其栽培生産したる護謨全體より二割以上多きストックを前十二箇月内に所蔵する事を禁止し且つ搬出する事をも禁ず、又園主をして一箇月に生産し得る規定量の倍量を所持せしむる事をも嚴禁す

各政府は其領内に於ける護謨の全ストック量を管理限定し其ストックは輸出年量の一割二歩五厘を超過するを得ず但しサラワク及暹羅は此項の履行を必要とせず、然し兩國政府共に本規定の目的を考慮し不當に多くのストックを造らしめざるやう注意し之を取縮るを要す

一、本項及前項目中に設けられた例外國を除く各關係政府は罰則を設けて本協定期間中新栽培を嚴重に禁止する要あるものとす、其罰則としては強制的に園主の經費を以て新栽培樹を廢棄せしむる事、其他適切な手段を講ずべし、但し暹羅に在つては制限期間中と雖も約三萬一千英反以内の新栽培を許可するを得、一政府が純然たる試験的目的を以て小面積の新護謨園を造らしむるとも協定違反を構成せず、且つ此種試験園を制限協定期間内に造り得る面積合計は本制限規定實施當初に於ける各領の確實なる護謨栽培總面積數の一步の四分の一以上を超過せしむる事を得ず

一、各政府は左記條件を以て現在既成園を更生せしむる爲めの再栽培を認め得るも其面積に制限を設くる要あるものとす

一、栽培園主が其園の一部に對し再栽培せむ事を請願する場合には政府が必要と認むる詳細案を提出せしめ再栽培許可申請書に添付せしむ、其場合政府は之に許可を與へ得るも其再栽培面積は現在所有面積の一割以下たるを要し（但し次年度制限率に比例する要あり）制限期間内總面積の二割を超過せしむるを得ず
政府は罰則を設けて前記規定に違背せしめざる様嚴重に取締る要あるものとす、罰則は強制的に許可面積以上の再栽培を廢棄せしむる等適宜有効なる措置を取るべきものとす

一、各關係國政府は本協定が如何に履行されつゝありやを調査せしむる爲め國際護謨取締委員會派遣の代理官に對し其調査に要する便宜を充分に與ふる要あるものとす

一、各關係國政府は罰則を設けて護謨宣傳の用となる護謨樹の葉、花、種子、蕾、若芽、枝、根又は如何なる生活部分なりとも輸出を禁止すべし

一、本協定締盟國は總て生産、需給の自然バランスを速かに均勢ならしむべく研究を進め護謨需用方面の新開拓、宣傳をなすの要を承認し左の手段を取るやう勸告す

(イ) 制限協定期間内に其領内より輸出し得る正味量に輸出税を課し其収入を護謨研究及宣傳費に充つ

(ロ) 是等研究及宣傳計畫の爲め各政府の提携協力を以て國際研究所を設置す、暹羅及サラワクは此件に必ずしも寄與の要なし

17、英領馬來の錫鑛業

馬來三大重要物産の一なる錫は又一面世界の錫である、即ち近年世界錫總産額の平均三割強を占て居る。廣袤十七萬

英反（一九三三年ベラ州一一六、一〇五英反、セラゴール州四〇、九六七英反、ネグリスマラン州八、四九八英反、

パハン州九、〇三八英反、計一七四、六〇八英反）に達する馬來聯邦州の錫はバンカ、ピリトン兩島、ポリビヤ、ニゲ

リヤ及暹羅と相列んで世界的である。

護謨も錫も國內に産出しない北米合州國がこの英領馬來の二大資源に垂涎措かず、同國科學者が護謨と錫の代用品研

究に多大な國費を費消しつゝあるのも故なきでないのである。最近の馬來に於ける錫生産は左の如くである。

年次	馬來産額	世界總産額
一九二九年	六七、〇四一噸	一九〇、〇〇〇噸
三〇	六二、〇六三	一七〇、〇〇〇
三一	五一、二五〇	一四六、〇〇〇
三二	二七、〇九一	九二、七六三
三三	二二、八二六	八四、七六三

護謨栽培事業が馬來に紹介されざる頃は馬來政府の唯一財源は錫であつた。錫こそ馬來産業開發の生みの親、この資源開發により馬來の生命は悠久を約束されたのであつた。

今日錫鑛業の爲めに無慮十有餘億弗の資本が投下され且數十萬の移民労働者が使役されて居るのである。又これに依存する商工業者が大したものである。即ち國內にありては先づペラ河水力電氣會社が經營する發電事業、錫精鍊所及聯邦馬來鐵道、錫輸出業者等を筆頭とし各種の機械材料供給業、調度品及日常必需品賣込業者等から更に汽船會社、銀行保險會社等直接間接本鑛業の恩恵を受けつゝある範圍は實に大なるものがあるのである。

馬來半島の錫と云へば昔からペラ州が最も有名で聯邦州全産額の六割三分を占めて居る、聯邦四州の錫産額は

	一九三三年	一九三二年
ペラ州	二四〇、八五五擔	二七六、四〇八擔
セランゴール	一一四、二八六	一九、〇四〇、九八六弗
ネグリスマラン	一〇、五四一	一三三、九八四
パハン	一七、一二一	一四、五三五
計	三八二、八〇三	二〇、九一二
		一、四三五、八〇〇
		三〇、七三一、五三〇

右統計を通じて特に注意を惹くのは一九三三年は三二年に比し數量減退せるも價格が増加せる事で、これは一九三一年三月一日以來實施を見た國際錫限産協定の結果、生産數量が制限されたが世界的に錫價が一大恢復を見た爲めである。

投聯邦州に於ける錫鑛山の人種別勢力を見ると茲にも集約的機械工業の動向を表示して餘りある時代の變遷が太い線を描いて居る。即ち世界大戰前は支那人の勢力と白人の勢力は略七對三の割合で非近代的採鑛方法を踏襲せる華僑が過半の勢力を誇つてゐたが、それが世界的不況のため資本の壓力、生産の合理化、火力電氣に依る新動力の紹介、最新式ドレッヂヤの輸入等幾多の理由で漸次位置を顛倒し、一九三三年には白人經營六割六分、支那人三割四分と全く勢力分野を一變した。

	一九三一年	一九三二年	一九三三年
白人經營	二六%	六五%	六六%
華僑經營	七四	三五	三四

ペランの水力電氣發電所の完成と雷動力採鑛ドレッヂヤ紹介の二事實は舊式 lode mining 法を退けドレッヂヤ使用に依る採鑛一九三三年全産額の四五% (廿三萬九千四百十一擔) を占め (一九三二年は四二%) lode mining に依るもの、僅かに三八・九% (一九三二年四〇・九%) になつた。

更に馬來州の歲入中重きをなす錫輸出税は

	一九三一年	一九三二年	一九三三年
對歲入比率	五、四七一、七九九弗	三、四五三、三七八弗	四、七七七、四七五弗
其他鑛山收入	九六・四%	八八・二七	九〇・八一

計 五四〇、二六九 四五八、七〇〇 四八二、九〇二
 六、〇一一、九六八 三、九一二、〇八七 五、二五四、三七七
 右表に瞭かなる如く實に錫輸出税に依る政府収入は鑛山關係總收入の九割以上を占めて居るのである。
 新嘉坡の錫市價

年次	最高	最低	平均
一九二七年	一五九、〇〇弗	一二七、三七	一四四、九三
二八	一三一、五〇	一〇三、六二・五	一一四、一八
二九	一一五、五〇	八九、二五	一〇四、二七・五
三〇	九二、二五	五四、一二・五	七二、八九
三一	七一、三七・五	五〇、三七・五	六〇、二九
三二	八一、七五	五二、八七・五	六九、七六
三三	一二四、〇〇	七一、七五	九九、九九

馬來に於ける原鑛生産量は國際限産協定に依り制限さるゝ事となつた爲め精鍊所は自然夫れ丈け事業の縮小を餘儀なくされ、その對策として國外よりの原鑛輸入量を増大するに至つた。

運	一九三三年	一九三二年	一九三一年
羅	一四、三〇六噸	一三、六七九噸	一七、三八三噸
パンカピリトン	一、四八六	九、〇八八	一九、五九二
緬甸	三、八四五	三、四八〇・三六	三、六五、三九一
安南	一、二八三	一、六四、七六四	一、七〇、一〇四
南阿	一、四四	一、三四、四八〇	一、六四
日本	七九〇	九〇三、六〇〇	五九、三〇〇
計	三三、一四三	三五、九八三、四四〇	三、七三、三三六

右統計の示す如く馬來は世界一の産額を有しながら更に略同量の錫供給を諸外國より仰ぎ、その精鍊せるものを米國を筆頭に歐洲及東洋諸國へ輸出しつゝあるのである。歐洲大戰後一時パンカ、ピリトン錫は馬來へ卅五萬擔も輸出された事もあるが、大體年々三萬噸乃至二萬八千噸を供給してゐたが和蘭が精鍊事業自營の利益を考へ直接本國へ輸送し Ruhem Hollerd に於て精鍊を開始したので一九三一年は二萬噸を割つて一萬九千六百噸となり、三三年は千四百八十噸、三四年は只の卅二噸に激減して仕舞ふた。尙日本より錫鑛の輸入され始めたのは一九二四年以來の事で宮崎縣西臼杵郡岩戸村見立鑛山の産地にかゝるもので大阪範多商會の輸出品である。

次に馬來の精鍊事業は一九世紀末までは政府も全く放任主義を執つてゐたが、精鍊所設置の有利に閣議が氣付き一八八六年 Sward and Junhuing 社設立錫精鍊事業開始を嚆矢に一九〇二年後者の屬系會社 Eastern Smelting Co. Ltd が彼南に生れた、當時總督スキッテンハム卿の英斷で原鑛輸出に課税し保護政策で米國の世界錫精鍊所乗取策に勝つ事が出来たのである。現在領内の精鍊所は Straits Trading を第一とし Eastern Smelting 及新嘉坡の Ban Hook Hin の三つで聯邦州にも Chap Tan Ban Toopudu 其他大規模ならざるスメルターがある。各精鍊所の銘柄及品質左の如くである。

Straits Trading Co (S. F. C.) 99. 87% Ban Lock Hin (B. H. H.) 99. 98%

18、護謨相場漸く好轉

護謨市場は現物廿二仙八分の五、一―三月物廿五仙八分の一の強調を持続しつゝあつたに拘らず、六月は在留邦商何

れも賣行き面白からず商賣甚だ振はなんだと何處でもこぼしてゐた。制限前にとあらん限りの能力を傾倒し賣急いだ結果、煙煙室までカラツポにして仕舞ひ六月に入り却つてほん槍商狀で賣手少く、おまけに税金問題に悩まされ土人園、支那人園とも餘裕なく町へ出て来る者すらメツ切り減つたと云はれるのに、商人はまた綿布輸入割當を見越し出来るだけ仕入れたのであるから至る處金融梗塞、さつ張り賣れないと云ふ現象を呈するに至つたのである。然し護謨價が今の値段を持続する限り相應半島の購買力は回復するに相違ないのである。扱綿布、人絹織物割當で安い日本品拂底の結果、グンと値段が釣上げられ、それにつれて一般物價漸騰傾向濃厚のため折角値上げの苦力賃銀も結局蛇蜂とらずで、少しは安定せんとしつゝあつた馬來の景氣がまた挫折するのではないかと尠からず杞憂するに至つたのである。更に蘭領——スマトラ方面と來ては日蘭會商の雲行き暗澹として前途豫測すべからざるものあり、加ふるに何しろ始めての護謨生産制限で經驗ある英領の如くキチンと行かず、殊に土人園に對しては殆んど手がつけられない有様で八封の輸出税も徒らに市場を混亂せしむるばかり制限の實少しも擧げないと云ふので、更に三分の一減産勵行に方針變更の説さへあり支那へ仲買も安心して買入れが出来ず、土人はまた一日稼いで十七八仙位では食ふて行けないと採液を休む者、甚だしいは護謨樹を切捨て、仕舞ふた處さへあるそうで、とても町へ買物に出掛けるなどの餘裕がない。馬來半島もスマトラもこの有様では商賣が面白からなんだのも當然である。田村總領事の嚴重抗議で割當規定に幾分緩和を見たとは云へ我綿サロン、人絹サロン、糸染綿布は六月一日より十九日までの間に割當數量を遙かに超過し、綿サロンは今後七年間人絹サロン一年間、糸染綿布四箇年間全然輸入禁止と云ふ殆んど全滅の大打撃ではどうにも日本商人は立ち行く道がないのである。最惠國約款をたてに勿論我外務省は倫敦大使館を激勵して、不法極まるこの割當制の撤廢に奮闘しつゝあるのだらう。

一方に於て英佛協定成立し佛蘭西は英國品の輸入割當を撤廢し、英國は佛國の絹物類に對する報復關稅の徵收を廢棄した。更に問題となつてゐた日本電球の輸入割當も一九二九年——三三年の平均輸入數量と云ふことに倫敦で協定成立したのである。勿論日本の要求は割當制限の撤廢であるが、一九二七年から三三年までの五年間にして貰ふだけでも大變な相違があるのである。

ポイコット眞最中に加ふるに護謨價無前の慘落で馬來が經濟的にドン底の窮乏に喘いでゐた五年間の平均數量で日本の綿布、人絹織物輸入を制限せんとするのは餘りに現時の事實を無視するものである。護謨價の立直りと世界的景氣好轉兆候がこの日本品輸入旺盛に一層拍車をかけたものであることを否むことは出来ないだらう。然も護謨、錫値上りで幾分苦力賃銀が引上げられ相應金融が圓滑になつて來たと云つても到底、馬來の現狀は高價な歐洲品を需要するだけの餘裕はないのであつて、彼等の生活は安價な日本品の輸入に依つて辛うじて支へられつゝあるに於てをやである。況んや極端な邦品の輸入制限に依つて英國品がそれだけ賣行を回復し得るなどは斷じて考へられないのである。結局ひどい目に逢ふのは馬來の需要者であつて、生活窮乏に對する呪咀の聲は應て本國への反抗心をそゝる以外の何物でもないに相違ないのである。輸入割當に依つて生ずる關稅收入の激減を政廳當局は果して如何なる方面から補填せんとするのだらうか、本國への軍費獻金は減額されたが現前の時局は愈々防備費激増の餘儀なき狀勢にあるのである。結局あせればあせる程英國は愈々自分の手足を食ふ様な結果になりつゝあるのである。大英國の威力はその太陽沒することなき廣大な領土を確保する所に存したのだ、然も加奈陀、濠洲、南阿等の自治領既に本國の云ふことを容易に聽かず、印度及び直轄殖民地何れも不廉な本國製品の購買を強要され、極端に生活を脅威さるゝに至つては將に西に沒せんとする太陽を今更ら再び呼戻すすすがはないのである。迷へば愈々氣があせる、強度の神經衰弱に悩まされつゝある巨人の末路を餘りに氣の毒だと我々は見ざるを得ぬのである。

19、景氣好轉も制限割當で駄目

南京正月（昭和十年）以後十日間ほど全然取引がなかつた。綿布、雜貨類もボツ／＼買手が現はれて来た、尤も綿布類は割當で二萬や三萬碼のライセンスを貰ふてゐても店の經費を償ふだけの商賣をする事が出来ないものである。随つて三月四月とためて置くから輸入高にも非常なむらが出来、甚だ思惑が難かしく危険率も多いと云ふ事になるのである。況んやその取引高の減退を雜貨で補填しようとするところが新しく手を擴げて来たのであるから、勢ひ戦線に異常な變化が招来されねばならないのである。然も二ヶ月半も未發行の儘になつてゐた本年度織物割當ライセンスが漸く二月十五日から下附されたが、邦商側に對しては前年よりも一割二分八厘七毛も天引されて居る。其處で總領事館と日本人織物輸入組合では

- 一、如何なる理由で一二・八七%を個別割當量より差引いたが、同率は何を基礎として算出したか
- 一、卅餘通増發されたライセンスは如何なる理由に基くや、その交附先及び交附總量
- 一、昨年の超過量一、〇五四萬碼は如何なる方法で差引いたか

等に就て政廳當局に問合せたが中々確實な理由の回答に接せず、且官報の解釋に明瞭を缺く點あり何れも政廳に對するテクニクの問題であるだけ、非常に煩雜で急速解決困難であらうと見られ、三月一日田村總領事と島田商務書記生出席、織物輸入業者と右問題を中心に種々懇談する處あつたのである。前年五月七日割當令發表前の既約品千五百四萬碼の輸入が許可されたのであつたが、それだけを今年の輸入量から差引くと云ふのであるが、その方法にも疑問の點あり一割二分八厘七毛を個別割當量から差引いたのも何を基礎として算出したか判らない、殊に前年ライセンスの發給を受けた店が七十軒であつたのが急に今度百軒に増加したのはどう云ふ理由であるか、輸入ライセンスは従來外國織物の輸

入をやつてゐた店でこれ迄の輸入數量に應じ夫々發給されたのであつて、それが新規に卅軒もにはかに増發されると云ふ事は甚だ不思議に耐えない事實であり、その交附先きと交附數量は是非明らかにして貰はなければならぬだらうと信ずるのである。何にしても本年一月の馬來貿易額は五年來の好記録で、前年の最旺盛時五月の九千八百萬弗を遙かに抜き一億二百六十六萬四千弗に達して居るのである。一月はどちらかと云へば輸出共少い月であるのに此好記録を示したのであるから、例年最も旺盛な月である五月は勿論のこと全年を通じて未曾有な盛況を示すだらうと見られて居るのである。護謄は三割制限の豫想が裏切られて二割五分据置となつたが第三期の七、八、九月が三割制限と決定し、九十三四萬噸の需要に對し八十五萬噸の生産で約八萬噸の不足、随つて現在の過剩ストック卅萬噸は四年で消化し得る筈で、相當市場は安定するに相違なからうと見られて居るのである。胡椒は六十五萬噸まで買煽られたのであつたが遂に受渡し不能に陥り爲めに倫敦市場を少なからず混亂せしめたのであるが、コブラも四弗八五仙と奔騰しサゴ粉も二弗六十五仙と何れも底値から見れば倍近い値上りであるから、地方購買力の恢復を想像するに難くないのである。尤も其處には織物類の如く割當で非常に數量を減じぐんと値段を釣上げられた物もあるが、一般に購買力の恢復で需要を増しつゝある事實をいなむ事は出来ないものである。唯蘭印に於ては土人護謄が利潤を殆んど輸出税として取上げられ、特にスマトラの在留邦商は亂暴極まる重税に泣かされて居ると云ふ有様で、非常に商賣がやり憎くなりつゝあるのである。其處へもつて来て新嘉坡には又ボツ／＼家賃値上の聲さへ傳はりつゝあるのである。卸は相應多忙でも店賣がそれ程好くならない、殊に支那人、印度人のみならず白人商館までが一齊に日本雜貨を直接輸入する様になつた爲め愈々値段の競争が激しく、勢ひ資金の手薄なものは益々苦痛に耐えない様になりつゝあるのである。ハイ街支那商の綿密輸入が暴露し、税關の検査が非常に喧ましく面倒になつて来た、輸入割當が極端な關稅引上げだと無理を強行せんとすればどうしても法網をくゞらんとする者をださざるを得ぬのである。何故に馬來、蘭印の住民は安い日本品を自由に買ふ事が出来

す無理にも高い歐洲品を買ねばならないのであるが、少し物産の値段が騰つても生活費がかさめば残る處はなんにもないものである。

南洋情緒

秋は南洋にもゴム山そめて紅葉若葉の伊達更紗
招く心が穂に出たラ、ン月になびいて白けてる
窓も時雨で晴れない胸に師走淋しい獨身者
小鏡かくせぬ鏡に窓の雨が冷たく寫る暮れ
更けて淋しい時雨をなほも泣かす千鳥が憎らしい
坊の寝顔が頼りの夜業針で縫込む外所の春
汗でひらいた新植林地しぼるゴムさへ細る市價
芭蕉卷葉をほぐらす雨に滲むてがらの紅しほり
暮れて行く空眺むる窓に焼けてかすれた夕あかり
濡れた噂も夕立雲の晴れて暑さのます土用
雨のさみが晴れたる今朝は空もみな月青々と
思ひ穂に出てマンゲスチンの滋がついたかはげぬ紅
ハンカチーフにしむマンゲスチンの紅が其夜の思出を
今を盛りのドリアン賣りに南洋情緒のしむ憂氣

辻のランプにすひ寄せられて値切るドリアン盛る初夜
心競馬で狂ふた歸り何處へそれたか氣にかゝる
競馬かげらふ人氣に燃えて晴着輝く婦人席

月に洗はれ汀の椰子に臘る滲んだ小提灯
何處へ行く灯か臘の月に椰子の樹間を滲ませて
椰子は氣強ふ嘯く男すねて汀の月に立つ
月の柴舟漂ふ磯の波に流れて鳴く千鳥
芭蕉かよはく破れて雨に泣くか玉散る露しづく
歸る我家の背戸たそがれていと夕顔宵化粧
雨のあぢさい師走の窓に咲いて耻かし小紫
月のペランダ噂の戀が椰子の葉すれにあほられて
猿も飼はれてたつきの藝に世すぎせはしい暮の街
師走のどかに植物園の猿に餌をやる異人の子

雨に淋しい節季の店をジャズに二階の蓄音器
加俸榮華も爲替に消えて汗も冷たい暮の雨

捨てて行く船未練な濡に残る思ひの黒煙り
薄い紙にもある裏表で勤めする身に實もある

二五、馬來輸出入現況

日馬貿易消長

一九三五年度英領馬來貿易總額十億五千七百萬弗、前年に比し二千四百萬弗一昨年比し約二億八千萬弗の増加で貿易收支勘定戻も一億六百萬弗の輸出超過となり、これ亦一昨年より六百五十萬弗の増加を示し改善の跡顯著なるもので國際生産制限による主要輸物産の市價立直りが直接原因となつて居る。

	一九三五年	一九三四年
輸入總額	四七五、五〇二、五一五弗	四六七、一五七、二二九弗
輸出總額	五八一、九五一、〇二五	五六六、六三九、五三七
貿易總額	一、〇五七、四五三、五四〇	一、〇三三、七九六、七六六
輸出超過	一〇六、四四八、五一〇	九九、四八二、三〇八

主要國貿易表

	一九三五年	輸出入	輸出入合計
日本	三〇、四一二、七二八弗	五二、六八四、五一七弗	八三、〇九七、二四五弗
英國	七五、〇九九、三七〇	九三、九七二、四三三	一六九、〇七二、八〇三
美國	九、一〇三、四三七	二一三、五八七、八七二	二二二、六九一、三〇九
英領諸國	八二、〇四一、八一	八一、二五〇、二一〇	一六三、二九一、〇二一

歐、諸國	二二、五五三、四六九	七四、五三七、五九一	九七、〇九一、〇六〇
蘭印	一五〇、四五七、六〇一	三八、六五七、八五五	一八九、一一五、四五六
其	一〇五、八三四、〇九九	二七、二六〇、五四七	一三三、〇九四、六四六
合計	四七五、五〇二、五一五	五八一、九五二、〇二五	一、〇五七、四五三、五四〇
一九三三			
一九三四年			

輸 入	輸 出	輸出入合計	輸入超過	輸出超過
日 本	三〇、四九六、四九七	五、三二一、四三六	八、八七、八九七	三、三二一、七九七
英 國	六七、三五〇、九三	一〇七、三九三、八四	一七四、六八、九六	一八、八三、〇三
米 國	八、三五、五五六	一八、五五、〇六	一六、八〇、六八	三〇四、四八四、四五
英領諸國	七三、四八、空一	六七、三五、三三	三九、四三、八四	九一、六〇
歐米諸國	一九、九四、〇三九	八七、九四、〇五	一〇七、八六、二四	五、九四、三三
蘭印	一五、八七、五〇〇	三六、四一、七三	一六、三五、三三	一一、七九、七六
其 他	一〇三、〇九九、九三	三七、七九、一〇三	二九、八九、〇三五	七、五三、五三
合計	四六七、一五七、三三九	五八六、三九、五七	一、〇三三、七六、七六	一〇六、四八、五〇

馬來の輸入貿易

卅五年度馬來輸入貿易は貿易總額の四割五分に當り、前年より八百卅一萬弗の増加であつた。年額百萬弗以上の輸入品に就て三四年、三五年の輸入額を比較すれば五十萬弗以上の増加品は

ハラ護謨(一、三〇一萬弗)、白米(五〇八萬弗)、コブラ(三三二萬弗)、燈火用石油(二五五萬弗)、乘用自動車(二二七萬弗)、ブローイン・クリン米(一二二萬弗)、漂渡船(一〇四萬弗)、紙卷煙草(九七萬弗)、サゴ粉(八九萬弗)、セメント(八八萬弗)、ポイルド・ライス(八八萬弗)、液體燃料(八四萬弗)、自動車トラツク(八〇萬弗)、アレカナツト

(七八萬弗)、兵器(七四萬弗)、麻織物(七一萬弗)、ライスブラン(六〇萬弗)、ガソリン(六〇萬弗)、亞鉛引鐵板(五二萬弗)、加糖煉乳(五一萬弗)の廿品、其他小麥(三七萬弗)、生果(三〇萬弗)、ブランデイ(二四萬弗)、石炭(二八萬弗)、藤(二二萬弗)、燧石(三五萬弗)、糸染織希(二七萬弗)、麻袋(二二萬弗)、賣藥(二二萬弗)、等九品の増加も亦特筆に價する。

重要中繼貿易品中原料部門に屬する物即ちハラ護謨、石油ガソリン、サゴ粉、液體燃料、アルカナツト、籐等の輸入増加はそれ自身それだけ輸出隆盛を表明するものであり、又錫景氣の出現は新式ドレツヂヤの輸入を増加せしめ、石炭の増加は馬來諸港出入船舶數又は噸數及び採炭量の増加並にローカル工場の消化力を物語つて居るのである。織物輸入割當の結果卅五年の輸入量は前年に比し各品種共枕を並べて減退を餘儀なくされたが只一つ糸染織物丈けが反對に廿七萬弗を増加したのは注目すべきであらう。

領内四百五十七萬の總人口中九割を占むる亞細亞人の主要料たる白米の輸入増は馬來聯邦洲に於ける輸入税(擔一五仙)撤廢に負ふ處尠くない、セメント、亞鉛板等建築材料の著増は嗜好品たる煙草酒類(ブランデイ、ウキスキー)の増加と共に馬來景氣の立直りを如實に示すものである。

更に前年に比し輸入減少せるもので五〇萬弗以上のもの

ウエツト・ラバー(一六、八二萬弗)、白胡椒(八、三二萬弗)、スチツクラツク(一、八四萬弗)、染色綿布(一、六三萬弗)、生阿片(一、五九萬弗)、捺染綿布(一、四八萬弗)、自轉車部分品(一、〇四萬弗)、鹽干魚(九九萬弗)、錫鐵(九三萬弗)、黑胡椒(八二萬弗)、生牛(七八萬弗)、ティンプレート(七〇萬弗)、綿サロン(六七萬弗)、陶磁器(五六萬弗)の十四品で、自轉車タイヤ(四七萬弗)、護謨函(四一萬弗)、琺瑯鐵器(三九萬弗)等がそれに續いて居る。

即ち輸入減少の主位を占むる土人護謨と白胡椒は共に蘭印政府が直接仕向地へ輸出するに至つた結果で、當領中繼貿易

易勢力の割奪を意味するものであり、スチツクラツクは暹羅よりの輸入激減したのであり、阿片は印度よりの輸入減、綿布、人絹、サロン類は割當に作ふ本邦品供給難のため、自動車部分品又主として本邦品の輸入減（一六三萬弗より七四萬弗に）に因るもので、タイプレットは英國品が五七七〇噸八七三、二六五弗減少で、伊日等の割當品が一般鳳梨工場で歓迎される様になつた結果と看做されて居る。

百萬弗以上増加商品

	一九三四年	一九三五年	増加額
錫	九六、七二四、二七一弗	一一七、二九四、〇五一弗	二〇、五六五、七八一弗
コ プ ラ	九、九八〇、一三〇	一六、八五五、七五五	六、八七五、六二五
ガ ソ リ ン	六、四七八、〇一九	四〇、三三八、一〇〇	三、八六〇、〇八一
椰 子 油	二、三五五、〇四二	四、九一七、九五四	二、五六二、九一二
燈 火 用 石 油	五、七九五、八二七	八、〇七五、八六五	二、二八〇、〇三八
白 米	七、〇八四、一七一	九、三五五、九一八	二、二七一、七七七
パ ー ム 油	一、三七八、四七五	三、三〇八、九二九	一、九三〇、四五四
ア ン カ ナ ッ ト	五、四七三、〇七八	六、七〇二、三一四	一、二二九、二三六
鐵 鑛	四、七六三、八九一	五、九三九、一四九	一、一七五、二五八
サ ー ゴ 粉	一、九八九、九二五	三、〇八四、二三五	一、〇九四、三一〇
次で白胡椒（六二萬弗）、黒胡椒（四七萬弗）、自動車（四四萬弗）、グロークン白米（三七萬弗）、シガレット（三五萬弗）、磷酸石灰（三一萬弗）			

減少せる商品

	一九三四年	一九三五年	減少額
パ ラ ゴ ム	二七一、九四四、七三八弗	二五二、三二〇、六二二弗	一九、六二四、一二六弗

ス テ ッ ク ラ ッ ク	二、四一三、八九二	五三三、八八六	一、八八〇、〇〇六
鹽 干 魚	七、二六八、七八二	六、四九三、六九一	七七五、〇九一
捺 染 絹 布	一、六六八、三八五	九六三、八六九	七〇四、五一六
ラ テ ッ ク ス	七、一一九、五四八	六、五八五、三六九	五三四、一七九
テ レ ビ ン 油	一、六五一、六六六	一、三五五、三四三	二九六、三二三
染 色 綿 布	一、八五七、五七三	一、五七〇、九六九	二八六、六〇四
ヂ ル ト ン	一、三三四、七一〇	一、一八六、〇五五	一四八、六五五
綿 サ ロ ン	一、〇三九、三五一	九九八、三八五	四〇、九六六

最大増加商品は錫二千五百六十六萬弗増、これに對立する最大減退商品はパラ護謨千九百六十二萬弗、二大宗輸出品が對蹠的に極端性を示した事は面白い現象である。次位増加コプラ（六八七萬弗）は歐米需要増加で市價躍進のため、第三位のガソリンは蘭印へ三百十萬弗日本へ百五十萬弗増加に依る、椰子油及パーム油の輸出増加も目立つ、前者は英國へ後者は日英國輸出増加のため、燈火用石油も英領及び日本へ夫々約百萬弗も増加し、鐵鑛は日本向輸出増である事贅言を要せぬ。

對日貿易

卅五年の對日貿易は輸出入合計八千三百九萬弗にして前年の八千八百八十七萬弗に比し五百七十八萬弗の減退であつた。對日貿易が馬來外國貿易上占むる地歩は僅か八%弱に過ぎず、率勢的に見て殖民地政府が本邦商品を色眼鏡で見るとは當らないではないかと思ふのである。殊に對日貿易に於て馬來は二千二百萬弗前年對日爲替平均一九六圓九三錢で邦貨換算約四千三百卅圓の受取勘定となり、日本は馬來の好ましき貿易對手國の一であるに於ておやである。然かも前年に比し輸入は七百八萬弗減輸出は百卅萬弗増である。輸入減は割當施行の纖維工業品減の爲である事は何人にも想像

される處であり、又輸出増は内地諸工業の殷賑を反映するものであらう。十萬弗以上の輸出入品を順位に掲げて見る。

輸入之部

品名	数量	割合	品名	数量	割合
染色綿布	二、一六一、九一六弗	六・七八	干物野菜	三七〇、三七九	
絹布	一、六八九、〇〇八	五・五六	錫	三六〇、九〇〇	
石炭	一、四三二、八三二	四・七〇	家族用綿製品	三五八、九六〇	
鹽干魚	一、三一八、六五〇	四・三一	自轉車タイヤ	三五〇、五二三	
捺染綿布	一、一七八、九九〇	三・八八	其他衣類	二九五、五二四	
人絹布	一、一四九、四四七	三・七八	小間物類	二九四、四四五	
晒綿布	一、〇四二、二八四	三・四二	其他製品	二八四、一三八	
綿製着類	九九八、六一九	三・二八	玩具	二七七、六七七	
亞鉛板	九五四、八三二	三・一一	燐寸	二六九、四七二	
セメント	七七五、四一七	二・五五	生果	二四九、八九一	
自轉車部分品	七四七、六六五	二・四六	毛織物	二四九、五七二	
サイデン	五五九、一三六	一・八四	綿毛布	二三八、七八五	
機關車	五四五、八四二	一・八〇	絹サロ	二一九、六四〇	
玳瑁引其他家庭鐵器	五四〇、一四八	一・七九	加糖煉乳	二一七、八一四	
護謨靴	五〇三、七八一	一・六五	糸染綿布	二〇四、二九一	
未晒綿布	四八〇、三九三	以下略	家庭用硝子製品	一九四、一四八	
陶磁器	四七五、四八三		其他木製品	一九三、四八五	
其他絹製品	四三九、四四〇		帽	一八〇、一二八	
馬鈴薯	四一二、八〇四		硝子瓶	一七七、八七七	
サロン	四一二、五九七				

輸出の部

時計	一七五、八三〇	食料品	一一九、一三三
絹糸	一七三、四九九	莫蔞及蕈	一一六、一六八
護謨包装箱	一五五、四六九	杏仁	一一四、五五二
寒天	一五三、二五三	針金	一一四、五一一
貨車	一五二、六五三	ラシオン	一一三、五八八
自動車タイヤ	一三三、七七四	自轉車部分品	一〇八、三五八
綿手巾	一三一、二五二	カーバイド	一〇二、二〇五
緑茶	一二六、七四一	紅茶	一〇一、一五二
紙製外文房具	一二六、五五二	藥品賣藥	一〇〇、七五六
魚類罐詰	一二二、一三九		

輸入品は年額五十萬弗以上の十五種商品丈で輸入總額の五割を占め、最近重要輸入品として特に目立つのは亞鉛板

パラ護謨	一八、四三六、三一六弗	三五・〇〇	藤	二五六、六六六
ガンリン	一六、二二五、四八三	三〇・八一	パンム油	二四九、四〇五
鐵鑛	五、九三七、三七八	二・二七	滿俺鑛	二四八、五二四
錫	四、六九一、六一一	八・九〇	夜光貝高瀬貝	一七三、七八三
燐酸石灰	一、九八三、五二六	三・七六	ラデツクス	一六二、四二三
石油	一、七三三、三九九	三・二八	カッチ	一五三、五四六
テレピン油	五三一、四八四	一・〇一	古鐵故鐵	一四二、四一九
麻袋	五一六、四五四	〇・九八	麻袋	一一五、〇二一
サゴ粉	二五九、一八〇	以下略	牛皮	一〇〇、五八六

輸出品は護謨、ガソリン、錫、鐵鑄の四種で全體の八割六分を占めてゐる。今前年との比較消長を知るため主要輸出入商品（十萬弗以上）の對照表を掲げて見る。

甲表増加せるもの

品名	一九三四年		一九三五年		比較増	
	數量	金額	數量	金額	數量	金額
サードン鐘詰	三、三三噸	五、六一九弗	三、四七噸	五、五九一、三六弗	一、一四噸	一、九七二、一七弗
其他魚類鐘詰	二、七九	一〇一、三五一	四、四八	一三三、一三九	一、六九	三〇、七八八
生果	一、五九九	一五、四八四	二、六七七	三、四九、八九一	一、〇七八	九、四〇七
綠茶	二、五、二六封度	五、七、七、五	六、六、〇、三五	一、三六、七、四一	四、一、〇、七三	七、四、九、五
馬鈴薯	一〇、五、五噸	三、四、〇、四九	一、一、三、三一	四、二、八、〇四	七、七三	七、一、五、五
乾物	三、三三	三、七、五、三五	三、八三	三、七〇、三七九	五	九、五、〇、三六
セメント	六、七、〇七	五、八、三、八、五九	八、八、一、三九	七、七、五、四、七	二、六、四、三三	一、九、五、五六
硝子瓶	七、五、一、三、六哥	一〇、八、二、九、〇	一、三、四、六、七	一、七、八、七、七	四、六、三、三一	六、九、五、八七
亞鉛引鐵板	五、五、四、九噸	六、五、〇、五、九四	八、一、二、五	九、五、四、八、三三	二、五、七、六	三、〇、四、三、三八
綿毛布	三、九、六、七枚	三、三〇、六、六九	四、三、七、九三	三、三、八、七、八五	一、〇、一、一、五	八、一、一、六
絹サロンスレン	五、〇、五、八、九、五噸	一、六、九、六、七、五	五、七、四、三、四〇	一、六、九、〇、〇八	六、九、〇、〇八	六、八、四、三、〇五
絹ダンカイン糸	一、四、八、七、三、噸	一、三、三、四、七、三	六、九、〇、八〇	二、九、〇、〇八	一、七、三、四、九、九	八、七、一、六八
其他絹製品	一、五、七、四、九封度	一、九、一、七、七	一、〇〇、九、三一	一、七、三、四、九、九	八、五、一、七、三	一、五、四、三、三三
柘下	六、七、六、五噸	一、九、一、九、四	一、三、九、八、九、三	四、三、九、四、〇〇	六、七、一、二、八	三、四、七、五、五六
絹製肌着	七、三、六、三打	一〇三、三、七、九	八、五、九、〇八	一、四、五、五、三	一、三、二、七、四	一、三、二、七、三
カーバインド	四、六、一、七三	九、三、三、六〇	五、五、六、八、九	九、九、八、六、九	一、三〇、六、四、六	八、四、九、九、九
	一、四、二、四噸	八、六、五、六五	一、八、五、四	一〇三、三、〇五	四、四〇	一、五、六、四〇

機關車	四臺	三、九、四、七	二四	五、四、五、八、四三	二〇	五、三、一、八、九、五
貨車	二〇	一〇、三、五、七	六、七、五	一、五、三、六、五三	四、六、五	一、四、三、三、九、六
自動車タイヤ	一三、八〇八	一〇、五、五、八、八	一四、七、六、三	一、三、三、七、四	一、九、五、五	三、八、一、八、六
燐寸	一、〇、三、三、四、七、六本	二、七、〇、三、六	一、三、三、〇、四、八	二、六、九、四、七、三	二、七、九、五、七、三	五、三、四、三、六
紙製以外文房具		八、八、一、七〇		一、三、六、五、三		三、八、三、三、三
莫蔴及蕙	六、〇、九	九、八、七、三九	八、二、七、五	一、六、一、六、八	二、三、五、六	一、七、四、三、九

乙表減少せるもの

鹽乾魚	四、七、八、八噸	一、五、九、四、五五	三、一、三、五	一、三、八、六、五〇	一、六、〇、八	三〇〇、八、〇、五
寒天	一、一、五	五、六、七、〇、六	九、七	一、五、八、三、五八	一、八	三、四、五、五
明糖煉乳	八、三、八、四箱	二、九、一、四、六、八	五〇、四、一、九	二、七、八、二、四	三、三、四、五	一、七、八、六、九
紅茶	九、六、七、三封度	一、五、六、七、五	五、六、七、〇、九三	一〇、一、一、五、三	四〇、八、六、九〇	五、五、五、三三
石炭	三、八、三、五噸	一、五、四、八、五、七八	二〇、三、五、八	一、四、三、三、八、三三	三、五、八、三、七	三、五、七、四、六
錫鑛	八、八、一噸	一、一、七、八、六、〇〇	二、八〇	三、六〇、九、〇〇	六〇、一	八、七、七、〇〇
陶磁器	八、三、七、四、三九	八〇、三、五、五	四、七、五、四、八三	二〇、四、二、九、一	三、六、一、九、五、六	九、八、三、三、四
家庭用硝子製品	八〇、三、五、五	八、五、一、五、六〇	二、〇、七、六	五、四、九、一、四、八	一、一、八、八	八、一、四、五
家庭用鐵器	三、三、五、九噸	一、五、八、四、七、四	一、五、二、二	一、二、四、五、一、一	三、三、九	四、三、九、六、三
針金	一、八、六、一	一、九、三、三、八〇	二、五、二、七	一、八〇、一、三、八	三、三、九	一、三、一、五、三
釘	二、四、二、五噸	三、六、一、三、四	一〇、三、三、三	一、七、五、八、三、〇	四、四、三、三、五	四、九、二、九、四
時計	一、四、七、五、八個	七〇、八、八、六〇	六、八、七、一、一、七九	四、八〇、二、九、三	八、四、一、九、六、三	三、三、八、五、七
未晒綿布	一〇、八、三、一、四噸	一、七、四、九、八、八一	一、一、三、七、九、〇九	一、〇、四、三、二、八、四	七、二、八、三、七、八〇	七〇、七、五、九、七
晒綿布	一、八、六〇、一、六、三九	三、三、五、四、七、八、七四	二〇、八、四、三、四、四八	二、一、六、二、六、六	一、三、九、〇、七、一、九、四	一、三、八、五、九、五、八
染色綿布	三、五、四、七、八、七四	三、三、五、四、七、八、七四	二〇、八、四、三、四、四八	二、一、六、二、六、六	一、三、九、〇、七、一、九、四	一、三、八、五、九、五、八

捺油綿布	三、〇三〇、三九〇	三、〇四〇、二〇三	一、二七、九九〇	一八、三〇〇、一九九	一、八六、二二二
絲染綿布	四、九三三、三八四	四、九六九、五〇〇	二、四二、五九二	三、五七、四六八	三、五六、九五六
綿サロン	三、〇三九、〇六七	一、六三三、〇九七	三、五九〇、五九二	四二〇、五九七	七五三、五〇〇
毛織物	三〇五、三四三	三〇四、三〇七	二五五、〇五七	三、四九、五七三	六四、七三五
人絹布	一、三、五七、八六八	一、九四〇、〇五三	七、六三四、五六六	一、二四九、四四七	五〇、三六六
人絹サロン	四〇三、二四九	三三四、〇三六	二二一、三四四	五〇、七〇一	一九三、〇〇五
帽子	七九、二五八	二五七、五〇五	六四、六〇〇	一九三、四八五	一四、五〇八
明子	五、八四四	一、二七、五〇五	三三、五九四	七、三三三	三三、三五〇
印刷紙	六九三	一〇六、七三九	五五〇	八四、五四四	一四三
自動車部分品	一、六三二、六七五	一、六三二、六七五	一、六三二、六七五	一〇八、三五六	二一、三三四
自轉車部分品	三三六、五〇打	六四九、九三五	一九七、一九五	七四七、六六五	八八四、〇〇〇
護謄	九三六、〇四六	三三九、六六五	八七、〇六九	五〇三、七七一	三九、八八五
自轉車タイヤ	一、〇四八、三二本	一三六、二六六	四九〇、三〇五	八〇、九九九	五九、九七七
同物	五、八三〇、九八個	三九三、九五〇	四、八六九、八六四	三九四、四四五	五九、〇三六
小間物	八三三、二五九個	一三三、七三三	八五、七六八	一三三、五八八	九五、〇四四
玩具	一、九九、三三箱	四九〇、一〇六	五二、四六五	一五、四六九	七九、八六八
ゴニ包装函	二二六、五三四	三二六、五三四	一八四、一四八	一八四、一四八	三三、三六七
其他木製品	一〇〇、七四打	五九、八三三	八五、五七五	二九、五三四	一五、一六九
其他外衣類					

増加せるもの

對日輸出貿易表

サゴ粉	六七五噸	三〇、五三三弗	六、一九一	二五九、一八〇
燐酸石灰	一〇五、〇六〇	一、七六一、九二五	一一六、六七八	一、九八三、五二六
鐵鑛	一、〇八九、八五四	四、七六一、九二五	一、四〇五、四二一	五、九三七、三七八
古鐵鑛	一〇、八八五	一三三、七七八	九、四〇〇	一四二、四一九
滿俺鐵鑛	九、六八四	七七、四五二	二六、八四二	二四八、五二四
パーラム油	八九一	八一、二〇一	一、六五四	二四九、四〇五
ラデツクス	二〇四	一〇二、六七六	二七八	一六二、四一三
藤袋	一、二五九	二四九、〇二六	一、三四二	二五六、六六六
麻袋	七、〇二四	七七五、四〇六	二六、二一八	五一六、四五四
燈火用石油	一二九、八一九	一四、七二三、二四二	一五、七七五	一、七三三、二九九
ガソリン			一四二、九六二	一六、二二五、四八三
減少せるもの				
牛皮	四〇八	一〇三、八四〇	三四八	一〇〇、五八六
パラゴム	五一、八二一本	二一、四七九、六五四	四二、六一四	一八、四三六、三一六
夜光貝高瀬貝	四六四	二〇六、二二二	四九四	一七三、七八三
錫	二、七八〇	五、三六八、一五八	二、五〇〇	四、六九一、六一一
カバケ	一、一四八	一六二、八四七	一、一七三	一五三、五四六
テレピン油	五四九、九二〇	六九九、六八六	四五八、一七七	五三一、四八四

輸入の大宗中増加顯著なのは亞鉛板二千五百噸卅萬弗を第一とす、同品は前年中白耳義との競争に終始し薄口錢時には原價を切つて猛烈な白兵戦を挑んだものであるが、蘭印の輸入制限で八月以降可なり中繼貿易は全面的に萎縮した。

サゴ粉 一、三六六、二六四

對米貿易

パールム油 一、二七八、〇八九

卅五年度對米貿易は輸出入合計二億二千二百萬弗、馬來貿易總額の二割二分を占め、輸出二億三千三百萬弗、輸入九百萬弗、二億四百萬弗の出超で前年より輸入八十五萬弗輸出二千五百萬弗増である。實に對米輸出額は馬來總輸出の三六・六六%を占めて居るのである。輸出の大宗は勿論護謨（一億三千四十九萬弗）と錫（七千六百十二萬弗）でこの二品が輸出の九割三分強を占め、其他ラテックス（二百九十八萬弗）、デルトン（百十四萬弗）、ダマル（六十八萬弗）、サゴ粉（六十一萬弗）等が纏まつて居る。

輸入品は僅に十五種、年額六十萬弗を越へるものなくドレッツヤ及同部分品（五七萬弗）、懷中電燈用電池（五〇萬弗）、生果（四七萬弗）、ラヂオ機械（四二萬弗）、アスファルト及瀝（三八萬弗）、電氣器具（三〇萬弗）が纏まつたものである。

對蘭印貿易

對蘭領貿易は卅五年度輸出入合計一億八千八百萬弗、馬來總貿易の一割八分弱に當り、輸入一億五千萬弗、輸出三千八百萬弗約一億一千萬弗の輸入超過である。蘭領の價値は熱帶物産の供給にあり、海峽殖民地は其中繼に對しストラテックポイントを占めて來たが其輸入も昨年は九百萬弗減であり、又一度馬來に輸入された外國品の配給と言ふ意味でスマトラ及ボルネオ西部が重要な位置を占めてゐたのであるが、それも不況を各種制限令等で荷動きが激減したのである。

蘭印より當領へ
 ガソリン 三八、四五六、〇八五弗
 パラ護謨 二四、九九九、四五七弗

ウエツト護謨	一九、六一九、八五三	サゴ粉	一、三九五、七八二
液體燃料	一一、三五二、八〇六	綿サロン	一、二三九、六五八
燈火用石油	九、四〇八、四〇六	生豚	一、一四一、九三〇
コブラ	六、五一三、八二六	挽材	九八九、三二八
精糖	四、八四九、一〇六	石炭	八四八、〇七九
アンカナット	三、五四〇、六三五	滑油	八一九、五五七
白胡椒	二、八八六、六三〇	落花生油	七七九、八三二
黒胡椒	二、〇九九、五一一	鮮魚	七六三、〇二〇
生珈琲	二、〇九六、四九七	鹽干魚	五五二、〇六二
テレピン油	一、五〇三、七四四		五二七、五一八
藤	一、四五九、八六七		

當地より蘭印へ

白米	六、五〇一、六三三弗	シガレット	六四五、七五一弗
鹽干魚	五、三〇九、二四五	椰子油	六四一、五三三
ガソリン	三、七四七、四五一	染色綿布	五四九、一一三
ブロークンクリン米	一、二三〇、六八六	麻袋	五三〇、三七八
乗用自動車	一、〇三二、七七一	玉葱及葫	五二二、二九八
燈火用石油	八五三、五五五		

輸入品中最大増加はバラ護謨（九五六萬弗）、コブラ（二八三萬弗）、アレカナット（七三萬弗）、サゴ粉（六四萬弗）、液體燃料（五一萬弗）、等又減少せる物は土人護謨（一八二三萬弗）、白胡椒（六九六萬弗）、ガソリン（二三〇萬弗）、黒胡椒（七〇萬弗）等、輸出品で増顯著なものはガソリン（四一六萬弗）、白米（一六一萬弗）、燈火用石油（五七萬弗）、自動車（四三萬弗）等、減少品は鹽干魚（九八萬弗）、液體燃料（七七萬弗）であつた。

二六、海峽殖民地現況立法會議報告概要

一九三三、三四年海峽殖民地現況に關する報告概要は左の如くである。

人口 一九三四年四月一日現在一、〇四六、一一四人、内歐洲人九、九一三人、馬來人二九四、七四八人、混血人一一、五九二人、印度人一〇八、〇六二人、支那人六一〇、一六〇人、其他一一、六三九人、死亡一一、五九二人千人に對し二五・五三、嬰兒死亡三、六六七、千分比一六九・六四、脚氣死亡者前年上半期一、〇〇七人、本年同上四三一名、肺患死者亦前年二五三名が今年同期二一五名に減少した。

教育

及學校、新嘉坡職業學校昨年十二月の卒業生五十名四十八名の就職を見、今年十二月以前電機及水管科増設彼南職業學校は一九三二年開校汽車二級生徒六十八名、六月初廿六名の新入生を加へ現在生徒一〇四名

マラツカ職業學校、本年秋舊醫院跡に開設土木、裁縫、製靴、自動車、電氣及び水管科等漸次授業開始の豫定

私立英語學校新嘉坡五十校生徒五、五〇〇名、支那人學校三八五校生徒二七、七七六名、印度人學校四七校生徒二、

四二九人、印度人女學校一彼南天主堂内にあり。

義勇兵

現在兵力七二七名、新嘉坡歐籍二五五人、亞細亞人一〇〇名、三・七時榴彈砲四門及び高射砲、タンク二

臺等を以て訓練を行ひ、無電隊將校三名兵六三名あり、軍司令部の援助を得て防空演習を行ふた。彼南歐籍一三二人、

亞細亞人九三人、マラツカ歐籍二八人亞細亞人一〇〇名。

海軍義勇兵四月廿八日創設、現在將校四七名水兵一八一一名あり、第二シールベル號にて訓練を行ひつゝあり。

警察

と犯罪、昨年十二月卅一日現在、警察署長インスペクター、巡查等總員四、一二〇名本年六月三、九三八名、中二二八名は英語通譯及書記である。

一九三三年の犯罪報告に依ると、六一三五件、前年より一、三〇五件の減少で、同年六月までの犯罪者二、五四七件共産黨關係者廿人、殺人犯三二年四七人、三二年五〇人、本年六月迄の殺人犯一五人、謀殺犯九人、強盜三二年一五七人、三二年一〇四人、同年六月迄二〇件。

船舶

新嘉坡入港船本年上半期昨年比し既に一三四、五〇九噸の増加、内約英國船四三六、〇七〇噸、和蘭一〇四、四一四噸、諾威九九、三三七噸、伊太利六五、七六八噸何れも増加に對し、日本三三九、九五八噸、獨逸五七、九一五噸、瑞典五八、一七三噸、丁抹九、四〇七噸の減少である。

貿易

一九三四年上半期貿易總額四億六千四百四十一萬一千弗、前年下半期より一七%六の増加、輸入二二一、〇六〇千弗、輸出二五〇、三五一千弗、護謨增加六〇・一、ガソリン同四・〇、自動車同部分品一・八、鳳梨、罐詰一・三、卷煙草一・三、國別では英帝國廿七%、米國廿一、和蘭一九、歐洲大陸一一、日本九、其他一三%、金貨硬貨千二百萬弗（輸入四百萬弗輸出八百萬弗）、郵便小包其他七十八萬六千四十弗、出超四千七百九十萬三千弗、昨年下半年三千八百五十六萬九千弗、對馬來貿易八五%、聯邦州一億三千五百五十九萬一千弗前年より廿七%増、非聯邦州四千六百萬弗。

漁業

狀況昨年を通じて賣値依然頗る低廉成績は必ずしも不良ではなかつた。海峽殖民地及び馬來聯邦の漁夫二萬二千七百九十人、内馬來人一二、二九六人、支那人九、〇〇二人、日本九〇三人、スラニー七六人、不明二。日本人漁船の新嘉坡市場水揚高四千五百噸全體の四四パーセント、全馬來よりの鹽乾魚及び鮮魚六萬六千噸平均一斤五仙であつた。

1、一九三六年度海峽殖民地豫算

一、公債	三七、一〇六弗	二四、土地局	三一〇、六六五弗
二、恩給	二、四七八、七六二	二五、司法部	四八六、九三六
三、慈善事業補助金	七二、七七五	二六、港務局	五四七、一二九
四、總督俸給	一四〇、〇四一	二七、海上測量局	七七、二五七
五、馬來文官	六三〇、一一〇	二八、醫務部	四四六、三一三
六、殖民地文官	一一、五〇〇	二九、衛生部	六二三、五四六
七、書記	一、二四五、三九五	三〇、公共衛生局	一一一、六三四
八、輔政司駐劄官參政司	二三七、〇〇二	三一、醫院藥房	二、四四八、四九二
九、總督秘書	一〇、七五六	三二、軍事費	
一〇、馬來編制局	三二二、一六六	イ 國防費献金	四、〇〇〇、〇〇〇
一一、農業部	九八、七一六	ロ 當地軍費	四五四、二七〇
一二、化學分析部	六三、八四九	三三、消耗費	三、〇九五、四二九
一三、查帳所	一二四、五二〇	三四、博物館圖書館	五一、二七六
一四、華民保護局	八〇、二〇〇	三五、警察	三、〇六四、九四二
一五、合作部	三〇、〇二五	三六、郵務	二、〇一九、九四二
一六、水利局	三五〇、〇二二	三七、印刷	二二五、八〇二
一七、教育局	二、五九七、三九六	三八、監獄	五七四、四四四
一八、稅務局	一、四六九、五六〇	三九、工程所	七三九、二五二
一九、漁業部	八七、三六四	四〇、公共土木	一、一六六、二五五
二〇、森林部	六〇、七九七	四一、特種土木	四、八一〇、四五六
二一、園藝部	二九、〇九七	四二、會計局	八一、六六一
二二、移民護照所	五一、七三九	四三、測量局	四一五、四四八
二三、土木局	二二、五七二	四四、運輸	一一、二五〇

四五、財政所	一四六、〇三三弗	法定除去費目(第一、第二及第卅二項)	四、〇五五、四〇一弗
四六、獸醫部	七二、七五七		
四七、開墾補助費	五、八五一	實際支出	三三一、八九三、五七〇
計	三五、九四八、九七一		

2、海峽殖民地衛生情況

立法會議に提出された醫務局の一九三五年報告によると海峽殖民地(特に新嘉坡)に於けるマラリアが相當増加して居るが市民の健康状態は相當好くなつて居る。

▽マラリア患者病院收容數一三、四三二名、死亡一、六九八名(一九三四年度五、九六五名、八一四名)。然しマラリアとはつきり病名のついたものとはつきりせぬものとの合計死亡數は前年に比し僅か百六十八名の増加に過ぎなんだ。

▽全體の死亡率は千人に付二五、一一で前年は二六、五四であつた。

▽出生率は千人に四一、七六海峽殖民地始まつて以來の高率で而も乳兒死亡率千人に六五・二八の最低レコードである

▽人口増加率は五九、一九五名(移民を含む)死亡率は前年と同様で之は市民の健康惡化を示すものでない證據である。尤もマラリアも増加はしてゐたが猖獗といふ程度に至つてゐない。

▽海峽殖民地人口の種別左の如くである(括弧内は新嘉坡人口)。

支那	六六六、六二六人	(四二七、九六二)
馬來	二八九、六一七	(六八、九七二)
印度	一二五、七九八	(五〇、三〇四)
混血	一一、九四七	(七、三一一)
歐洲	一一、二七七	(九、二二八)

其他

一、一七、〇二三

(八、六四五)
(五七二、三一〇)

3、市衛生年報により新嘉坡の健康状態

一九三三年度新嘉坡衛生年報は依然として當地が非常な健康地であることを證明して居る、新嘉坡にはコレラ、天然痘及びベスト等の發生全くなく同年度内天然痘、ベスト各一件あつたが、前者は印度苦力で本國から感染し來つた事實が確められ、後者はベンガル人ジャガでカルカタ及蘭貢より輸入された食料(主として米類)に該地方のベスト菌が附着して來た爲めの感染なることが捕鼠試験で確められた。

コレラは一九二八年以後根絶してゐる。同年内五千七百七十九匹の捕鼠解剖試験を行ふたがベスト菌保有の物は唯一匹もみなかつたと言つても差支なく、前記ベンガル人の居所(ポート・ウエイ)の鼠狩を行ひ唯一匹菌保有鼠を検證し得たに過ぎない。チブスとパラチブスは二百五十五件あり一九三二年の百五十五件に比し大なる増加なるが、此病氣は可成り流行しても一般が之に大なる注意をなさず自宅で漢法療治をなす者多く、從來は一向届出ない傾向ありし事も同年度の増加に關係がある。本年は學童間に流行せるため教育父兄及び開業醫が懸念し當局者もその撲滅に協力し、患者の詮索につとめたので罹病者届出數が増加したと認められるのである。

死亡率の依然首位にあるは結核で、届出數九百七十件であるが尙調べて見ると千八百八十九件に上る事が知れたので強制申告規則も差して効果的でない。此肺結核死亡者千九十四人は多く陋屋部落の不衛生状態が主因をなし、死亡總數の一割二歩六厘六毛に當る、結核を少くするには市内諸所に介在する住民過剩且つ不潔状態にある集團家屋の清掃と一般衛生思想の普及を必要とし、前者は市のイムプルヴメント・トラストが漸次之を行ふて居る。因に同年の新嘉坡人口

内容は左の如き人種別になつてゐたのである。

人種	男	女	計
白人	四、二四八	二、五一八	六、七六六
雜種	三、〇三六	三、二九七	六、三三三
支那人	二二六、五〇一	一四一、二八一	三六七、七八二
馬來人	二四、五七四	二一、〇一七	四五、五九一
印度人	三五、四一五	七、五四六	四二、九六七
其他	四、五四四	三、四〇三	七、九四七
計	四十七萬七千三百八十八人		

尙三年前內死亡者病氣別は左の如くであつた。

病名	一九三三年	一九三二年
肺及氣管支炎	一、六四四人	一、五三九人
結核	一、一八九	一、〇八八
嬰兒ヒキツケ	七三三	七八六
腹疾	六五六	六八四
生後間もなく死亡	五八四	六〇三
脚氣	四三四	五〇九
マラリヤ	三六六	四六三
赤痢	三二五	三八二
計	五、九三一	六、〇五四
出生率千分比	一六、八八一	三五、三三六
死亡率千分比	九、三八七	一九、六六

4、市参事會五ヶ年計畫

今年六月廿六日市参事會で先に特別委員會を任命して新嘉坡市の五ヶ年計畫を修正せしめた報告書を採擇發表された右報告書には議長ハム氏以下レイコッフ、黄兆圭(S・Q・ウオン) エリアス、テツセンソーン、ソーレー・ジョーンズ氏等の署名あり、大要左の如くである。

世界大戦が終つた後當時の總督ギルマード氏は「馬來は未拂殘金をもつた國である」と云はれたが、勿論シンガポールもその中に含まれてゐる。茲に於て入るだけの金は凡て無駄なからしめる上から人員の増加を來したのであつた。本報告は嚴格なる規定で必ず實行しなければならぬといふのではなく、大體の目標となるべきものであつて種々の計畫案は市参事會が時機に應じて適宜取捨して行けば宜しいのである。未拂殘金(未濟事業)は今日に至るもうまく片がついてゐないが、今残つて居るのは下水整理と洪水豫防だけであらう。兩問題に就ては目下着々工作を進めてゐるが、これらが片づけばシンガポールも順調な發展を遂げられる譯であつて、然る後に年々適正なる發展の跡が見られるに至るべく、従來の様に多數の人員も要らなくなる。斯くて今後は年々臨時費として百萬弗あれば可なるべく、若しこれだけのものを自由に使ふことが出來ても過去の轍を踏まぬ様せねばならぬ。と前書して次の如く述べてゐる。

一九三四年より三八年に至る五ヶ年計畫承認後一九三五年六月廿八日日本委員會任命され、これが修正を議する事となつた。これが修正審議の必要上市財務部に對し一九三六―四〇年に至る五ヶ年の歳入見積りを提示せしめ、且各部に對し當該年度の支出見積りを行はしめた。これに依つて先づ部分的に一年の豫算を均衡せしめるため課税だけで歳出入見積りを立て、貿易の項目を後廻しにしたのであつた。市財政部からは次の如きものなら妥當であらうといふ慎重

詳細な歳入見積りが提出された。即ち

一九三六年	六、九八〇、一三〇弗	一九三九年	七、三二二、七五〇弗
三七	七、〇七三、八五〇	四〇	七、四四七、四五〇
三八	七、二〇〇、四五〇		

數ヶ月先の收入すら見積るのは仲々困難なことで、これが事實として一九三六年十月に一九三六年度見積りを六、九八〇、一三〇弗としてゐるが、現在では更に増加すること殆んど確實となつてゐる。さて今度は支出であるが之は五ヶ年計畫の原案の順にやつて行く、即ちどうしても減らされぬもの、貸付減債基金、人件費等々から萬一の場合必要なるべき特別支出等は手をつけず、そのまゝにして置いた。各部よりの五ヶ年に亘る支出見積りに對して逐次検討を加へ、市財政部でも査閲して次の様なものが出來上つた。

一九三六年	人件費	其 他	合 計
一、八〇七、三〇三弗	四、六〇〇、〇〇二弗	六、四一五、三〇五弗	
三七	一、八四五、七一八	四、三六五、七四六	六、四八一、四六四
三八	一、八八八、九一五	四、六四五、八六二	六、五三四、七七八
三九	一、九〇七、一七一	四、九三五、一五二	六、八四二、三二三
四〇	一、九二六、九七六	四、九五六、八二二	六、八八三、七九八

右の外各部の臨時費として左の如く割當を決定した。

一九三六年	五六四、八二五	一九三九年	四八〇、四二七
三七	五八二、三八六	四〇	五六三、六五二
三八	六六五、六七二		

此處に於て一九三四、五兩年度市基本金の剩餘並に稅收が漸次遞増しつゝあるに鑑みこの剩餘金中より百萬弗をとつて

次の如き割當により小規模の下水工事を行ふこととなつた。

一九三七年 三二五、〇〇〇弗 一九三九年 三五〇、〇〇〇
三八 二七五、〇〇〇 四〇 五〇、〇〇〇

但し右は市の基本金剰餘がもつと多くなれば當然右の割當も増加されることになつてゐるのであるが、かくて臨時支出たるべきものは左の如くなる。

一九三七年 九一七、三八六弗 一九三九年 八三〇、四二七
三八 九四〇、六七二 四〇 六一三、六五二

各部より提示された臨時支出費目に就て充分検討を加へた結果次の如き案を決定したのであるがこれには左のものが含まれてゐる。

一九三六年 七二三、四五〇弗 一九三九年 八三四、〇〇〇
三七 九四一、四五〇 四〇 七二二、七五〇
三八 九五五、四〇〇

然して財政状態の概算見積りは次の如くなる。

一九三六 一九三七 一九三八 一九三九 一九四〇
▽歳入 六、九八〇、一三〇 七〇、七三一、八五〇 七二、〇〇四、五〇〇 七、三三二、七五〇 七、四四七、四五〇
▽支出
人件費一八、〇四七、三〇三 一、八四五、七一八 一、八八八、九一五 一、九三五、一五二 一、九二六、九七二
經常費 四、六〇八、〇〇二 四、六三五、七四二 四、六四五、八六五 四、九三五、一五二 四、九五六、八二二
臨時費 七二三、四五〇 九四一、四五〇 九五五、四〇〇 八三四、〇〇〇 七二二、七五〇
計 七、一三八、七五五 七、四二二、九一四 七、四九〇、一七八 七、六七六、三二三 七、六〇六、五四八

不足額 一五八、六二五 二四、〇六四 一四、七二八 三、五七三 一〇九、〇九八
十二月卅一日現在基本金有高 二八、六四四、〇一二 二五五、三四三 二、二二五、三四三 二、二二五、六一五 一八、七二二、九四四

△蚊撲滅局 本豫算表編成後更にマラリアの猖獗を見たるに鑑み規定を増加するの必要ありと認む。

△道路擴張工事 ユーチユカン路、市管理区内にある部分だけ擴張すべく一萬四千五百弗を支出、郊外局が五年内にユーチユカン路を擴げるならば本委員會に於ても市に屬する部分の擴大を異議なく承認す。

△運河並に浸水緩和 マイリツチ貯水池の溢流の開設(地代は別)三萬六千弗、但し後刻ダムの安全上元通りの方が可と分ればこの項目は取消す。

△ロバートソン・キーよりプロサイゴンにかけ新嘉坡河に新橋架設廿五萬弗、一九三九年には現在の第一號プロサイゴン橋を取かへるため廿五萬弗の公債を起さねばならなくなるかも知れぬが本公債は恒久事業公債八百萬弗中に肩替りしても可なるべく小規模下水工事の廿六萬一千六百三十弗より支出しても宜しく、市債を發行せなくても済むであらう。

△公債勘定 原案通り、當地にて資格を得たる者を建築技師助手として月俸三百五十弗乃至四百弗にて取かへたきも適任者なくば再考すべきこと。

道路費一哩五百五十七弗 一九三五年の道路、橋梁、溝渠修繕費合計五三七、五三九弗〇七仙、八一二哩の道路が修復されその工費は四五二、七〇五弗六二仙、一哩に付五五七弗四〇仙であつた。

最近數年の道路修理費一哩當り平均工費は左の如く低下した。
一九三〇年 九七〇弗 一九三三年 五〇七弗
三一 九六五 三四 五五二

一二七、新嘉坡防備現狀

新嘉坡の軍備概要を觀るに陸軍は最近各兵種に亘り著しくその數を増し、コードン・ハイランダース歩兵大隊を迎へ從來に三倍する兵力を擁する事になつた。現在の各種兵員數は總計四、三八六名でマルタの兵備を凌駕して居る。即ち

- 歩兵(最近迄二箇大隊) 一、七六三名
- 砲兵(重砲四箇中隊、高射砲兵二箇中隊) 九七七名
- 工兵 七三九名
- 印度兵 五三四名
- 經理、輜重、信號、醫務、法務 三七三名

この外に義勇兵あり。

海軍は全力を擧げてセラタ根據地の完成を急いでゐる。本年二月發表された海軍豫算の新嘉坡割當額は八百六十九萬三千磅で本年三月までに支出されたのは五百三十萬磅に達し、本年度僅かに四十五萬磅計上されてゐたが四月追加豫算として二百萬磅計上され、之は繫船設備、突堤、浚渫装置、作業場、工廠等の施設に今後繼續費として支出されるのである。

空軍は現在飛行中隊三箇と航空國民軍より成り近く一箇中隊増派されるのであつて、島内に軍用飛行場四ヶ所と民間飛行場一ヶ所あり、陸海軍を通じて新嘉坡防備費に對する海峽殖民地の負擔は大戦以來累計一億弗に達してゐる。その内譯は

- 海峽殖民地政府支出(一九三三年以降) 一六、〇〇〇、〇〇〇弗
- 海峽殖民地よりの献金 一、五〇〇、〇〇〇
- 海峽殖民地支出(一九三三年以前のもの) 六〇、〇〇〇、〇〇〇
- 柔佛サルタンの献金 四、三〇〇、〇〇〇
- 馬來聯邦よりの献金 一七、二〇〇、〇〇〇

これによると半島からの献金だけで二千三百萬弗に達し防備費の大部分は出先の經費で賄つて居るわけである。近く駐屯軍司令官は中將(現在少將)となることになつて居る。

1、セラタ海軍根據地完成

英國下院で新嘉坡海軍根據地に支出された總經費は浮ドックを除き三百四十三萬八千磅で、馬來新西蘭及び香港から合計二百十二萬二千磅の献金があり、海軍省の純支出は百卅一萬六千磅であるとの發表があつた。猶一九三二年度英國海陸空軍豫算説明書から考察すると、同年初頭に於けるセラタ軍港建設狀況は、

- 一、浮船渠及び無線電信所完成し
 - 二、航空施設及び重油槽も略完成
 - 三、乾船渠、工廠、陸上廳舎等約三分の一完成
 - 四、陸上要塞は計畫の四分一完成の儘一九三一年以來工事中止
- であつて、大體の觀測では先づ半分の工事が終つたものと見るべきであらうが、當初計畫の一九三七年までに果して全部完成するか否かは聊か疑問なきを得ないと見られてゐた。

新海軍根據地は新嘉坡島と馬來半島南端との間にある東西に細長いジョホール水道の東半を占め、船渠、航空隊、工

廠等軍港施設の大部分は新嘉坡島の北岸セクタに在り、市街の中心地から約十四哩を離れ、軍港水域幅一哩長さ十四哩、水深十一尋以内であつて、潮流の影響も少なく、風波を遮蔽した大艦隊の碇泊地として最も適當な良港である。且、セクタ海軍根據地の建設は日英同盟廢棄の已むなきを觀取して早くも一九二一年六月決定したものであつて、時の首相ロイド・ジョージ氏は下院に於て「海外領土の一層安固を期する爲め、若干の海外基地施設を新式化し或は之を擴張する必要あり帝國議會の意見も概ねこの政策に同意せり」と述べ、マルタ、アデン、ツリニコマリ、コロポ等に於ける軍事施設の整備以外、特に新嘉坡根據地の建設が含まれてゐたのであつて、それは華府會議五箇月前のこと、且同會議に於て太平洋諸島の防備制限が決定され香港がその中に加へられたに拘らず新嘉坡を其制限外に置くことを強要し、總經費約一億一千圓の豫定で一九二三年軍港新設工事に着手したのであつたが、一九二四年勞働黨内閣一時これを中止し、その年十一月統一黨内閣工事を再開し、一九二九年十一月勞働黨の海軍大臣は下院に於て今回の軍縮會議（倫敦）の結果が確定する迄、新嘉坡軍港は海軍に關する限り工事を出來得るだけ遅延せしめ、中止し得るものは中止し新規工事は開始せざることを聲明したが、所言は殆んど實現しなかつたといつても差支へなかつたのである。

更に一九二三年五月英國海軍大將スレード氏は「東洋に新海軍強國の出現と共に是非共東洋に強大なる海軍を常置する必要がある。香港のみを以てしては充分といふことは出來ない。新嘉坡は理想的にして優秀な地點である」と述べ又「一九二三年及び一九二六年の英帝國會議で議決した英帝國外交の大方針、即ちスエズ運河を経由し、東方及び南太平洋に至る航路の保持は英帝國に取り最も重要で、外交關係の指導に當つて常にこの點を銘記するを要す」と新軍港の重要さに就いて言明したのである。然も一九三一年の夏、佛蘭西のデラージ提督は「新嘉坡軍港論」を著し、「人は新嘉坡軍港の攻撃的性質のみを論ずる、然し同軍港の防禦はどうだ、日本艦隊が同港附近に迫り、強力な陸軍を馬來半島に上陸させたら、英軍司令官たるもの果してこの軍港を守りぬくことが出来るか、嘗て旅順は砲五百門を以て防禦された恐るべき要塞であつたが、日本軍はよくこれを奪取した、況んや陸上防備の薄弱な新嘉坡は守るに四萬の軍隊と強大な空軍を以てしても日本軍の猛襲の前には到底耐えられさうもないではないか」と極論したに對し、多士儕々の英國海軍にも軍事評論家にも、デラージに一矢を酬ひる者のなかつたのはどうした事であつたらうか。否既に英國自身、對日作戰の困難を訴へて居るのである。海軍擁護派の頭目チャーチル卿は下院に於て、デュットランド海戦の勇將ビイチ元帥は上院に於て、共に東洋作戰が絶望に近いとの歎聲を洩らしてゐる。チャーチルの僚友アメリー元海相は「新嘉坡軍港がなければ濠洲、新西蘭及び印度の防備は困難だ」といつたが、一千百五十萬磅のセクタ軍港が完成するのは果して何時の日であるか、ビイチ元帥をしていはしむれば對日作戰の遂行は地中海、大西洋方面の海軍を拋棄することだ。新嘉坡に主力を遠征させた後のホーム・フリートは一夜にして西班牙級の三流海軍に落ちてしまふ上院議事録に出てゐるビイチ元帥の言葉を藉りると、

「我等は佛蘭西海軍の白刃の下に置かれて居る、その場合に我が商船隊を守る艦は三流の巡洋艦のみだ、然も佛海軍はプレスト・ダカールより我が大西洋貿易線をうかゞひ、地中海にあつてはツローン、アルジェールに據つて我が商船隊を睥睨するのである——我輩は到底斯くの如き状態に堪へることが出來ない」と悲鳴を擧げたことがあるのである。我々は必ずしも極東時局の切迫を豫想し、セクタ根據地建設工事の現状を見て特に此感の痛切なるを覺へるのではないが、極東問題の紛糾に對する英國の苦惱が相應深いものあるを想像せないうで居られないのである。

【附記、廿二日英國下院で海相は新嘉坡海軍根據地建設工事に關しジャクソン商會との契約完了期一九三五年九月が遅れるだらうと想像すべき理由なし、海軍の豫備工事を含み契約及び臨時支出總額五百十五萬五千磅で浮船渠は九十萬七千磅を要した、機械工場設置に關しては何等決定を見なかつたとの説明をなした。】

2、新嘉坡軍港に對する各國の皮肉な批評

一九三四年一月新嘉坡に開かれた英國海軍會議に關しザ・チャイナ・ウィクリー・レヴェ誌は南洋視察より歸國せる南京大官談として次のやうに述べてゐる。其一は非常時勃發の場合英海軍は全力を盡して新嘉坡根據地と香港の防衛に當る、其二は日本が北支に侵入せる場合英海軍は南支に於ける地位を直ちに強化し、英國の貿易と權益を擁護せねばならぬ。其三は非常時に當り南海の英海軍は東印度の和蘭海軍と密接な關係を結び、兩國海軍は馬來諸島の安全を保持する。この三つが會議の内容だつたさうである。眞偽は別として英國の極東政策として當然それは豫想されることである。而して此政策遂行上の戰略的根據地として新嘉坡と香港の重要なことは勿論だが香港は華盛頓條約の制限により防備力の強化は一應出來ない譯であるから、新嘉坡の防備が英帝國海軍戰略上のキー・ポイントであることは云ふまでもないのである。

新嘉坡軍港は日本より三千哩、濠洲より最短距離二千四百哩、シドニー、メルボルンから五千哩、新西蘭のウエリントン港から五千三百哩の地點にある。日本よりも遙かに遠距離にある英國領土をこの地點を中心として防禦しようといふ英海軍政策は香港防備の制限前なら兎も角、今日に於ては英海軍本隊の對東洋根據地としての資格を充分に具へる必要があるから、英海軍當局の力の入れ方が大變である事は當然である。

英國議會は一九三三年に比し五七六萬磅の國防費増加を可決したが、その三分の一以上は一九三九年完成豫定の新嘉坡軍港建設工事を一九三五年末までに大體完成して置くために充當されたのである。五〇萬磅は重砲隊及び空軍の設備擴張費に充てられ、七五萬磅は海軍設備に支出されこの外馬來守備隊の員數を一、五二名より二、三三三名に増加した。英帝國は新嘉坡軍港建設に一九三四年末までに七〇〇萬磅を支出したが、尙完成までに四〇〇萬磅を要するさうで

ある。英帝國は極東海上制覇のため一億一千萬磅の巨費を投じ、晝夜兼行で工事を急いで居る。此工事に従事せる苦力支那人最も多く八、〇〇〇人に及び其外馬來人四、〇〇〇人、印度人二、〇〇〇人一四、〇〇〇人の東洋労働者が酷使されて居るのである。

然し英海軍は「危機」を目指して新嘉坡軍港の完成に努力してゐるが、濠洲及新西蘭は果してこの軍港の完成によりて充分敵國の侵攻を護り得ると信じて居られるであらうか、和蘭もまたその植民地の保護をその完成に懸けてゐるやうだが、イギリスのパイオターはこの軍港の戰略的意義について「ニューヨーク・タイムズ」紙上でかう述べてゐる。

「かゝる信念（濠洲、新西蘭の）は英帝國にして新嘉坡に充分の兵力を維持することが出来れば全うされるだらう。乍ら、必要な戦艦、巡洋艦及び其他の兵力は現在でも實在してゐないのである。濠洲艦隊が新嘉坡防備に馳け参るとしても此兩地を結ぶ距離を考へて見るがよい……」

「英海軍が將來充分なる兵力を回復するなら新嘉坡は有力な艦隊根據地となるの日もあらう……然し戰略的には英國の極東海上に於ける主要根據地は香港である。この兩港の防備が適當に行はれ英本國が八隻の戦艦とこれに對し相當の補助艦をスエズ以東の任務のために割愛するなら、極東に於ける戦争の危機は背後に押しやられるだらう……」

決勝を無視した戰略論のないやうに、戰略論の生む平和論も正にかくの如きものであらう。香港の防備が現状維持である限り英海軍の戰略は當然新嘉坡の徹底的強化に赴かざるを得ないのである。一九三〇年浮船渠がセレタに曳航されて來た事實を諸君は記憶してゐるだらう。然しこの船渠は一萬噸級を容れるに過ぎないのだ。ロード・フィツンヤ以來の大艦主義の傳統は今日對東洋作戦上大きな齟齬を來してやうであり、新嘉坡軍港工事のスピード・アップでも要するにこの齟齬の補強工事を物語るものに過ぎないだらうか。

3、新嘉坡の防備と空軍大擴張

英國下院の質問に答へモンセル海相は新嘉坡の防備は主として陸軍省の係りで、海軍は根據地の防備だけに當るもので建設工事の進捗に連れ各般の施設着々整備しつつありと述べて居る。

一九三四年に於て新嘉坡駐屯軍は數百萬弗の豫算で兵營の大擴張をなすべく、現在のアレキサンダー及び新設のチヤンギー外更に數ヶ所が選定され、既に土地買収に着手して居り、俗稱觀音島に近いプロ・ターコンにも新要塞が建設され第二のプラカンマテとなる筈で極秘裡に各種工事の請負が命ぜられた。尙此外駐屯地域の道路、蚊の撲滅其他工事費百萬弗が計上され、支那人木工、左官等は頗る活況を呈してゐる。

更に新嘉坡空軍は馬來半島各州市廳と協力して二箇年内に半島に約廿ヶ所飛行場を造りリンクを形成する豫定である。財政的困難がなければこれは夙に出來上つて居る筈であり、今更起つた計畫ではないが豫定リンクは新嘉坡を基幹としマラツカ、ポートスピテンナム、吉隆坡、チツテワン、太平、彼南、アロスターを主要飛行場とし臨時着陸用としてスクダイ(柔佛州)、バトバハ、モア、ポートデクソン、スレンバン、コーラセラランゴール、テロクアンソン、一保、ニボンテバル、スンゲイバタニ、パダンブツサル等が指定される筈である。

三月六日印度の軍事費に對する英帝國の補助金年百五十萬磅支給の追加豫算可決、右補助金は今後永久繼續されるものである。更に十九日數名の下院議員新嘉坡海軍根據地に關する情報を求め、アバデア選出労働黨議員ジョージ・ホル氏「建設、修理及び土地に百萬磅を追加支出するは最近新嘉坡に於て開催された海軍會議の結果に依るか」と問ひ、海軍省書記官長デイ・ユアン・オーレス大佐「嘉坡要塞に費さるべき金額は現在でも豫算原案の金額以下である。一九二三年度海軍豫算は約千四百萬磅であつた。該會議は豫算増額と何等關係なく新嘉坡要塞建設計畫を變更する意志

は少しもない、追加金額は電氣工場の設備に要するもので、同根據地が何國かに取り一の脅威であると云ふ觀念は全く妄想である」と答へた。

一九三四年度英國空軍豫算總額二千六百萬五千六百磅、前年より五十二萬七千磅の増加で年度内に九機乃至十二機を一單位とする正規飛行中隊四中隊増設、英空軍の現勢を八十一正規中隊となす費用を包含するもので、増設一中隊は飛行艇中隊となし新嘉坡に駐屯せしむるものと見られてゐる。海軍飛行隊はこれで都合十六中隊となるのである。

三月廿二日ビオー汽船バルナルド號で將校七名、兵三百名着星、廿四日ソーセツトマシア號で極東艦隊交代の將校五十名、海兵千名到着、新來兵は工、歩、輜重各科兵もあるが大部分は高射砲隊で當地要塞砲兵續々擴充され、チヤンギー兵營竣成、フォトカンニングに重砲兵旅團司令部が置かれた。

極東海軍會議

英國の極東海軍長官會議參列のため、支那艦隊司令長官ドレーヤ中將の旗艦ケント號一月十五日

(一九三四年)拂曉、航空母艦イーグル、輕巡洋艦サツフオク及びレーン、ヴェトランの二驅逐艦と軍用船テラーを隨へセレタ空軍の編隊歡迎機に迎へられつゝ着港、東印度艦隊司令長官ナスミス中將また同日旗艦ホーキンス號にて來着、濠洲代表ハイド中將、新西蘭代表ワトスン少將も十九日汽船ラワルビンデ號にて着星、廿二日ケント、廿六日ホーキンスで兩司令長官主催のアットホームあり、廿七日航空母艦イーグルで當地在留官民代表者を招待盛大な演藝會開催、廿三日から二月一日まで旗艦ケントで極東海軍會議が續行され、會議後ドレーヤ司令長官から會議に就ての公式報告が發表される筈であるが、内容は勿論絶対秘密で窺知を許さないが新武器と新戰術による海軍の革命的計畫及び海陸空の緊密なる連絡に就て重要な協議が遂げられたものであると想像されてゐた。尙ドレーヤ中將は卅一日サツフオイ號に轉業、新たに英本國より派遣されたコンツォル號に旗艦を移すことになつた。極東海軍會議は一九一〇年初めて新嘉坡で開催され今度が二度目であつた。

4、民間飛行場と新建築

新嘉坡民間飛行場の地上げ工事も殆んど完成した。タンジョン・ルーとの間に群居してゐた昔懐かしい馬來の海上家屋も既に半分以上取壊された。カラン河口からビーチ路へ掛けて數哩に渡る海岸埋立ても堰堤だけは全部出来上り、カトン寄りから地盛りも順次工事を進めつゝあるのである。愈々それ等が皆完成した曉きは随分あの邊は面目を一新して仕舞ふことだらう。

セレタ海軍根據地は一層馬力をかけて完成を急ぎつゝありと傳へられて居る。もとより詳細な事は知る由もないが主力艦を入れる大ドックを二つも築造しつゝある由で、久しい間グロテスクな姿をさらしてゐた浮ドックも愈々任務を終つて取りのけられるのも遠い事ではないだらうと云はれて居る。工廠を始め重要な建築物工事には多く囚人が使用されてるとの事で、チャンギーに刑務所を移すべく着々工事が進められて居る。石を採つたプロ・ウビンにも飛行場が出来るそうである。何にしても海軍航空隊の擴張、兵營工廠等の建設で最近續々來着しつゝある海軍關係の人々の家族を收容すべく夥しい住宅が柔佛バル近くに建設されつゝあるのであるが、目下市内住宅地帯の民家を借りて假寓してゐるのでサラリーマン向きの手頃な家が殆んどふさがつて仕舞ふて居る。恐らく二千家族に達するだらうとの事である。隨つて根據地の完成と共に警備隊の増加のみならず、軍人以外の英國人も必ず一萬人以上増加するだらうと云ふのであるから、新嘉坡の白人向き商店は非常な發展をするに相違ない。大部分の利益はもとより御用商に依つて占められるであらうが、市内一般へのこぼれも決して輕視すべきではないのである。土庫の商業中心地區に對して主に海軍關係を相手とする新しいセンターが出来るに相違ない。

それにまた舊ビオー棧橋方面の改修擴張であの邊も面目を一新するだらう。市内でも警察と郵便局ばかりが見違へ

る様に堂々と改築されつゝあるのではないのである。久しい不況にさいなまれた多數華僑の引揚げで大通にさへ櫛の齒がかけた様に、見憎い貸家が列んでゐたのも護謨價の恢復でボツ／＼ふさがつて來つゝあるのである。スプリング・コートが歐羅巴ホテル跡に建築されるとの噂は地代が折合はず、交渉行憚るとの事だが何れ纏まるに相違ない。地主は二百萬弗缺けては困ると云ひ張り政廳側は百八十萬弗しか出せぬとの事で、大分差額があるのだが何とか歩み寄りねば仕方がないだらう。ハイ街突當りのフォト・カンニング・ヒルにも幾棟かの建築物が出来上りつゝあるのである。すつと此處に居る者にはそれ程目に立たないが三四年振りで來た人には必ず随分變つたものだらうなづけるに相違ない。

セレタ海軍根據地建設工事の進展に伴ふ新嘉坡の發展は先づ外形的に着々整備されつゝあるのである。在留邦人も漫然として唯その進行を眺めてゐて好いのであらうか、バッテリー路角の舊臺銀跡にバンガリーが新しくデパートを開けた、出来るだけ店一杯日本品を列べると云つてゐるのだ。ジョンリットルやホワイトウエヤロビンソンが相當影響を受けると、ポニヤリ我々は高見の見物をしてゐて果して好いのだらうかと思ふのである。(一九三四年十月記)

二八、馬來聯邦州一九三七年度豫算

馬來聯邦州會議十一月四日吉隆坡に開かれ、トーマス統監以下ネグリスマラン、ペラ、パハン各州サルタン殿下、セランゴール州攝政殿下、各州顧問官、議員列席、統監の財政、國防、教育其他に關する説明演説あり一九三七年度豫算案提出あり、來年度歳入に於て錫割當改正に依る收入減四百五十萬弗を見込まれるに拘らず引續き三百九十七萬七千七百七十八弗の黒字となつて居る。歳入、歳出の主なるもの左の如し。(括弧内一九三六年度分)

内 譯 入 六一、四五七、四四七弗 (五七、八一三、八二六)

關稅收入

二六、四二三、八二〇

(二三、九二一、四五〇)

消 費 稅	七、一七五、四五〇	(七、四四一、三〇〇)
土地及鑛山收入	五、七二七、八五九	(五、五七七、一七四)
營 業 稅	四、三二五、二二二	(三、八八五、六六三)
裁 判 料	四、〇一〇、六三七	(三、八八四、九八八)
ライセンス	三、四九三、五七一	(三、三五七、一八二)
歲 出	五七、四八〇、二六九	(五五、六三二、一四二)
内 譯		
行 政 費	三八、五三一、五九九	(三六、八四三、五二五)
恩 給 其 他	六、四一〇、〇八二	(六、三一六、五〇六)
公債借入金等利子	三、六一七、五七四	(六、四九九、六三七)

右の内公債の著減は一九二一年度英貨公債を償却して仕舞つたからである。
 各局報告、馬來聯邦邦政府各局報告に依ると三六年度上半期に於ける聯邦邦貿易、收入、人口、衛生各方面共著しい改善の跡を示してゐる、即ち上半期の對外貿易は二割七分増、收入の支出を超過すること九百廿五萬弗と云ふ好成绩を挙げ、一方出生率は死亡率の減退せるに對し記録的高率を示し、總人口は七萬五百八十名を増加した。また一般衛生状態も著しく改善を見ると共に重大犯罪の發生も少く且労働状態も改良され、學校授業料の收入も増加すると云ふ好績で、公債も年度末には六五、二八五、七一四弗に減少、その利子も僅に二、一九八、五七一弗になると云つた何から何まで著しい改善のあとを示してゐる。

柔佛州經濟情勢

柔佛政府總顧問發表 一九三五年年度支出總計千八百四十二萬九千七百九十八弗中英政府へ獻金五十二萬磅(新嘉坡)

貨四百廿八萬五千七百廿弗)實際政費千四百廿四萬四千八百八十八弗、三百一萬八千卅八弗の剩餘であつた。
 人口五十二萬八千二百九十九人中馬來廿五萬五千四百六十八人、支那人廿一萬八千五百五十人、印度人四萬九千八百三人、歐洲人七百九十三人、混血種三百十八人、其他三千七百九十七人、出生二萬三千廿二人中男一萬八千八百八十一人、死亡一萬三千二百廿四人中男八千八百卅三人、死亡最多は五月で最少は二月であつた。
 護謨園總面積八十三萬九千三百五十英反、護謨生產卅九萬二千四百八十六擔三千二百九十六萬三千五百九十八弗中エステート八十八萬二千六百六十二擔、百英反以下個人園五十六萬九千八百廿四擔、卅一年以來の產量と價格左の如くである。

一九三一年	數量	價格
一、五二五、一〇三擔	二〇、三一九、一三八弗	
一、四五六、三二二	一三、九〇二、三一一	
三三	二二、六二二、五七七	
三四	一、七四七、〇九九	四七、五六三、七八七
三五	一、三九二、四八六	三二、九六三、五九八
鳳梨	箱數	價格
一九三一年	八三八、一〇一箱	四、二二八、三七四弗
三二	一、一一七、二五八	四、四一四、七九六
三三	九四六、六八〇	三、八五八、三一九
三四	一、一五五、三〇九	四、八三八、九六二
三五	一、〇九六、〇四五	四、九三八、五〇五

椰子油價一月平均噸十六磅、二月最低廿二磅一七六が更に廿磅に低落した。

一九三五年六月末全馬來總人口

(海峽植民統計局發表) 馬來全人口は一九三一年四月一日現在四、三八五、三四六六より一九三五年六月卅日現在は、四、五二九、二二八人と一四三、八八二人と増加を示したが海峽植民地は此間一、一一四、〇一五人より一、一一九、一八六人と僅かに五、一七一人を増加したに過ぎなかつた。これは前年二月デングス(一九三一年人口一九、五九二人)をペラ州に返還したに依るもので、海峽植民地人口は馬來全人口の約四分の一と云ふ割合である。

一方前年度移民入國者の超過数は前年度一四二、〇八九人に比し一六、八八三人の減少であつて前年までの二ケ年間に於ける増加数は二六七、二九五五であつた。然しこれは一九三一年國勢調査から一九三三年十二月卅一日までに三五三、四三六人の超過を示したのを見て釣合ひがとれてゐない。一九三一年の調査から前年末に至る間の移民を通しての人口減退は八六、一四一人であつた。

馬來移民統計は護謨及錫の好、不況に左右される。支那人及印度人移民の移動に左右されるところが非常に多い。一九三四年護謨生産制限法の施行によつて護謨園の労働者需要は増加し移民數も急激に増加したが、出國數に對する入國者超過數は一九三四年末の二九、九六〇人から昨年一月には一二、六七八人と急激に低下して居り、昨上半期中は大體この程度に止つてゐたものが下半期著しく減少し十二月には僅四四一人となつてゐる。

土人經濟好轉で聖地巡禮五割増加

蘭印からメツカに赴く巡禮は曾て數萬を數へたが不況深刻と共に激減し、一九三五年の如きは總數三千六百人に過ぎなかつた。然るに昨今地方農村に多少恢復の兆を示して來たのか、卅六年のメツカ巡禮はコンシイ・テイガ社取扱四千四百人に及び、其他ブラウラス社の取拂も大體六百人とみられてる故總數約五千人となる譯で前年よりも約三割九分の増加である。尙卅六年の巡禮は殊に南部スマトラ方面からの者が多數に達してゐた。更に蘭印のみならず新嘉坡からの巡禮も増加卅五年の千百人に比し卅六年は千六百人となつてゐるから約五割五分の増加であり、尙目下數百人が便船を待つて居るといふ盛況である。船賃は昨年と同様であつた。このメツカ巡禮の數は經濟界のバロメーターと看做されてる故、今年の數の増加は明かに土人經濟の改善を物語つてゐるものであらう。殊に今後明年にかけて蘭印物産の輸出は益々好調を來すものと豫想されてるので、恐らく明年のメツカ巡禮者の數は倍加し巡禮船の配船も倍加するの必要に迫られるであらうと見られて居る。

市民の食べる四足年ザツト卅萬頭豚は一日に六百五十頭

新嘉坡市屠殺場に於ける一九三五年度牛豚羊屠殺總數廿九萬五千二百四十八頭、前年より五千四百五十頭増加で統計上最高記録であつた。一日平均屠殺は豚約六百五十頭で舊大晦日には實に三千卅五頭に上つてゐる。市屠殺場は一八九四年ジャランブツサと華民保護局附近の二個所に設置されたのであつて同年の豚屠殺數九萬五千九十八頭に過ぎないんだものが一九三〇年現在の新式建築に改良され卅四年廿四萬二千六十頭の豚を屠殺する盛況を示すに至つたものである。

新嘉坡と彼南の英國、外國商社

新嘉坡及彼南兩市の會社、商店數に就て八月廿四日立法會議に上提された報告に依ると、昨年末現在右兩市に本店を

有するもの五百四十八、本店を他に有するもの五百七十九で前者の内三四四は個人商社であり、年末四三が解消して居る、内譯は

栽培業八二、商業七五、鑛業六〇、製造業三一、印刷業及新聞二六、機械及ガレージ業二五、商店二四、護謨取扱業及製造業二一、船舶業一二、藥種商一二、銀行及保險業一〇、製氷業七、其他一六二

この五百四十八社の公稱資本四一七、九八八、〇七四弗、株式發行額一九七、八六〇、六〇八弗拂込済額一八七、四八八、二六七弗である。昨年中増資を行つたもの新嘉坡六、彼南二、減資せるもの新嘉坡二、彼南一であつた。又當地で設立された商社でない五七九社の内四六一社英國商社で一一八社が外國商社で、その内譯は

米國三五、和蘭二七、日本二二、佛領印度支那八、暹羅七、支那四、伊太利四、瑞西四、獨逸二、白耳義、丁抹、諾威、瑞典、西班牙各一

で商賣別にするると左の如くである。

栽培業二一〇、保險業一〇五、船舶業四〇、銀行業一三、鑛業二七、雜一八四

ケラントン近状

(ケラントン洲顧問發表)

パハン及トレンガヌ、ケラントン三洲境界高山を馬來の野生動物保護地たらしめんと銀禧式記念事業會提案をサルタン殿下洲民と共に欣然として賛成された。一九三五年度豫算剩餘卅二萬二百卅八弗、洲の債務は四百卅萬二千弗より四百廿六萬千弗に減つた。同洲主要産業たる米の收穫は陸稻十三萬九千九百十英反前年より八千六百英反の減少で二千九百六十萬四千ガントンの收穫あり、却つて前年より六百萬餘ガントンの増收、水田十萬八千四百四十英反平均一英反産穀二百卅五ガントンであつた。北部に一歐洲人米耕作開始政府は道路及河流を通じ運搬の便を計り既に百卅三萬五千ガントン(一ガントン七仙乃至八仙)の同收穫を擧げて居る。尙日本人の採鑛權を獲得した鐵鑛は東京で資本金百廿五萬圓の會社成立した。

全世界の津々浦々まで散在する華僑の勢力は實に侮るべからざるものあり、特に暹羅、安南、馬來、蘭印諸島に於ては商權を全くその掌中に握るほどの全勢振り、隨つてこれら在外華僑から故國への送金は國家經濟にも極めて重要部分占め、統計の示す處に依るとその最盛時一九三〇年頃までは一億元を突破する有様であつたが、最近數年來世界的不況の深刻化、特に馬來、蘭印方面に於ける事業界衰微は華僑にとりて致命的打撃となり、失業、歸國者續出に加へて各地に於ける華僑入國制限益々峻嚴の度を加へ、さしも全盛を誇つた華僑も急激に没落の一途を辿り僅か二年後の一九三三年度には華僑の送金額約五千萬圓に半減する悲境に陥つたのである。試みに一九三〇年以後の送金額を地方別に調べると(單位千元)

在外華僑の送金(最盛時より約半減)

	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
暹羅	四〇,〇〇〇	三五,〇〇〇	三二,〇〇〇	二〇,〇〇〇
新嘉坡	三〇,〇〇〇	二八,〇〇〇	二五,〇〇〇	一八,〇〇〇
安南	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,〇〇〇	四,〇〇〇
其他	二〇,〇〇〇	一七,〇〇〇	一二,〇〇〇	八,〇〇〇
計	一〇〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇	七五,〇〇〇	五〇,〇〇〇

と各地とも逐年減退し、更に一九三四年より五年にかけてはより以上の低下振りを示した。在外華僑の中心勢力をなしてゐるのは廣東、福建兩省で就中廣東省の潮、瓊地方は一九一一年より二七年頃まで在外華僑の送金に依て成金簇出、異常な繁榮を見せたものであるが一九二七年以來世界的不景氣は漸次華僑にも襲ひかかり、更に馬來南洋方面の護謨、錫事業不振に失業者を續出せしめ前記の如く衰微を招來するに到つたもので、今後到底往年の全盛振りを回復する望み

はあるまいと悲観されて居る。

蘭印の邦品壓迫愈々痛烈と新嘉坡

蘭印の日本品排斥、邦人商店壓迫は決して我々新嘉坡在留民が無關心では居られない重大問題である。新嘉坡の商賣は六分蘭領相手で四分が馬來半島その他である事實は今更ら云はずとも誰もが知り過ぎて居る處である。随つて極端に關稅が引上げられるのも相應打撃が痛烈だが、愈々輸入割當となると殆んど此方からは入れられぬ事になるのである。殊にその割當が一九三〇年のインボイスを基準としてとなると折角此處まで漕ぎ付けた我蘭印發展が全く畫餅に歸し、新嘉坡邦商も非常な打撃を受けなければならないのである。蘭領に於ける目醒ましい邦商の發展は英國の金輸出禁止と殆んど同時に勃發した滿洲事變に對する支那人のポイコット、それに世界不況のためあらゆる生産物が暴落し、過剩となり極端な窮乏のドン底に突落され、より低廉な必需品に依るにあらずんば其生活を支へて行くことが出来ないやうになつた結果である。加之、最近日本の産業が組織に於て技術に於て異常な進歩發達を遂げ、品質價格ともに歐米の精巧品に比し、些の遜色なきのみならず、一層優秀なものも尠くない様になつたのであつて、其處へ爲替安で殆んど歐米品の半價或は三分の一以下となつた物すらあるのであるから、到底何處の國の商品も競争する事が出来ない、お影で窮乏のドン底に喘いでゐる領民は辛じて生活を維持して行くことが出来たのだつた。随つてその反面長い間殖民地を搾取し豚の如く肥えふとつてゐた、本國の工場主が悲鳴を擧ぐるに至つたことは甚だ氣の毒に耐へない事實であるが、事情全く餘儀ない次第であつたのである。折角芽生んとしつゝある地方産業保護のためと云ふのは、特に蘭領に於ては餘りに白々し過ぎる口實にしか過ぎないのである。本國産業の蒙る打撃も決してそんなに騒ぐ程の事はないのである。もともとは蘭領東印度は英、獨、米國の市場であつたのであつて、洪水の如く浸入し來る日本品の爲めに驅逐されるのは和蘭品

でなく英、獨、米國品で極端な關稅引上げは端的領民の生活を脅威する以外の何物でもないのである。蘭印政府は最近引續き非常な赤字財政に悩み抜いて居る。然も現状増收の見込みは全然なく殆んど切詰る處は切詰て仕舞ふたのであるから、關稅の増徴で間接に一般民衆の懐中を絞る以外に手がなくなつたのかも知れない。然し絞られる民衆の忍耐力にも程度があり、國際情勢や國防的見地上餘儀ない點があるのだとすれば、本國の立場と同時に蘭領東印度そのもの、位置に就て最も慎重に考慮する必要があるであらうと信するのである。蘭領東印度が今日故意に日本品を排斥し在留邦商を壓迫する如き態度に出る如きは甚だ極東の平和を攪亂せんとするものであると見られても辯解の辭はないだらう。危いのは子供の火遊びだ、然もはたから此無力な幼兒を煽てマツチや石油を與へる赤面のあることを記者は最も憎まざるを得ぬのである。

日蘭會商と過酷極まる蘭印の壓迫

一九三三年の蘭領貿易は著しい不振で近年にない最低レコードを示すに至つた。(單位百萬盾)

年	輸 入	輸 出
一九三三年	三三一、六	四九七、〇
三二年	四〇九、九	五七二、七
三一年	六〇九、九	七九八、二
一九三〇年	九二一、三	一、一九一、五
二九年	一、二六六、〇	一、四八七、八

實に五年前の一九二九年に比し三分の一にも及ばざる有様であつた。之領内物産の輸出を經濟の根元とするものが世界不況に災ひされ、輸作物産需要變調の爲め特に物産市價の慘落で輸出金額の著減を來し、隨つて輸入減退を餘儀なくされた結果に外ならないのである。尤も此間に處し蘭印政府は經濟的豫防策に腐心し輸出方面では砂糖管理法を制定し、新規販賣機關として蘭印砂糖販賣組合を設立せしめ一九三三年始めより統制的業務を取扱はし

めつゝある外、茶の制限令及び緊急輸出制限令公布等總て右趣旨に基くものと稱し得べく、而して蘭印物産の市價は大體一九三三年に於て安定し、或は恢復に向ひつゝあるものとの印象を生ずるに至つた。例へば護謨、茶及び錫の如き明かに高騰を示し又砂糖、カボックは尙下落を續けつゝあるも暴落と稱する程の事なく、更にコブラとシトロネラ油は十二月中年初に比較して遙かに下落せるも總括的に主要輸出物産十二種の平均加重指數（一九二八年を一〇〇とし）は改善され、一月の三三より十二月は三四を示すに至り、尙一九三三年中輸出數量前年より増加せるものは石油、護謨、含油種子あり、反對に砂糖、珈琲及び其他植物性生産物は減退したが、輸出總量は大體前年と同程度を維持し、八、四八四千噸（前年八、五三五千噸）であつた。一方輸入は量に於て外米並に洋灰の輸入制限に依り著減し、又甘蔗植付其他栽培面積の大縮少で肥料需要の減退を來し、前年より約六十噸以上の減退となり同年の輸入總量一、六六四千噸であつた。尤も部分的には陶磁器、硝子製品、綿織物の相當増加を見たが、之は格安な日本品輸入激増と一九三四年一月より輸入税高率引上げを見越せる結果であり、其他領内工業の新企畫或は既存企業の新設備維持に必要な機械工具、車輛等所謂生産商品が一萬六千噸以上も輸入増加を來せるは特に注目し得るのである。更に輸入金額から見れば減退總額約五千萬盾で其約半額二千四百七十萬盾は嗜好食料品の減退で、又化學製品の減退約六百萬盾に及ぶも大體輸入品價格の一般的低落が金額減退の最大原因をなして居るのである。前年度輸入商品七十二種の物價指數は（一九一三年を一〇〇として）一月八六が十二月七八に低落し、就中絲並に織物類の下落最も甚だしく數量約八千噸の増加に不拘金額は却つて九百三十萬盾の輸入減であつた。尙蘭印政府は領内産業保護の見地から輸入上にも干渉的手段を講ずる事となり、殊に一九三三年九月十六日公布の緊急輸入制限令を以て過剩外國品の輸入に對し一時的制限手段を講じ得る事を主眼とし、且蘭蘭本國の利益のため割當を爲す可能性を包含せるのみならず、外國が蘭印内に工場を設置し割當制度の効果を減殺せんとする如き計畫に對し、之が阻止手段に關しても考慮を拂ふ事を豫想され特に蘭印物産の輸出に關聯し

て互惠的取極めをなし、輸出入の均衡を計る手段にも該制限令を利用せんとする底意ある事等蘭印當局の説明中に示され且又蘭印に於ける輸入最上の地位に進出し來れる日本を目標として右は立案されたる手段なる事明瞭で、本邦側の蒙る打撃甚大を豫期してゐた處果して九月末先に輸入制限を實施し來れるセメントの更新制限令を公布、引續き十二月麥酒越へて本年二月サロン、三月より晒綿布と夫々輸入制限を敢行し然も何れも本邦重要輸出品たるのみならず、之等新規制限令は公布毎に著しく本邦側に不利なる制度内容を以て臨み來る事とて在留邦人間の憂慮一方ならず、其間更に外國人入國制限令、大豆輸入禁止令等の實施あり他に廣く一般的輸入の自由を禁止し、經濟長官の許可せるものに限り輸入を指定せんとする制度並に新規營業の許可制法案が遠からず發表さるべしとの風評も有力に傳へられ、各般の空氣在留邦人の死活問題と見做し得るのみならず、昨年一億五千萬圓の輸出額に達せる蘭印市場に關する將來の安危に係はる緊急重大問題たるを以て内外邦人關係者の騒起となり、民間側諸團體より頻りに兩國政府に對する陳情行はれ俄然問題重大化するに至り、斯くして和蘭側の希望に基き日蘭會商開始となつた次第である。

和蘭並に蘭印が斯如輸入制限並に日本側に對する重壓方針を決するに至れる原因は素より各種事情の錯綜せるに基く事想像に難からざるも、不況の折柄日本品の輸入が昨年特に顯著なる進出を見たのみならず、邦人事業の發展刮目に値するものあるに引替へ從來輸入上にも將亦各種經濟機構上にも絶大なる地歩を占め來れる和蘭側が著しく衰退を餘儀なくされ來り、一大變革の招來機運濃厚化するに至れる事とて、自衛上人爲策を敢行するに至れるものと推せらる。

斯くして極度に購買力の貧窮化せる一般民衆消費階級は益々負擔加重を餘儀なくさるべく、既に輸入制限の行はれたる各品種にありては夫々意外なる市價の高騰を招來し成行き特に刮目に値するものと認められて居る。尙本年一月十日より實施された輸入税の高率引上げは純然たる財政上の見地に基くものと稱すべく、經濟界不況以來蘭領政府の財政益々赤字を擴大するに至り、各種緊急政策は勿論嚴重に腐心勵行し來れる處なるも遂に歲入歳入に伴はず、各種財源頻りに

研究され諸税一齊に引上げられ幾多新規課税が案出實施さるゝに至つたのである。如斯く財政經濟上の變革が不況の永引くにつれ益々餘儀なく擡頭し來るは勿論避け得ざる處なるも特に經濟上和蘭本國として、急激なる變化のまゝ放任する事は永年の和蘭中心機構を破壊し、その利益を喪失する恐れあるのみならず、其及ぼす影響至大なるべきを慮り、蘭印貿易整調を理由として和蘭側は日本蘭印貿易のバーター制を主張することとなり、その最も苦慮しつゝある瓜哇糖其他過剩物産の處分を特に日本向輸出増進により緩和せん事を欲し、同時に日本品の大量輸入を或程度制限せんことを期しつゝあるのであるが、日本側としては折角努力開拓せる地盤を不自然に局限さるゝ事に對する不満と、且つは必要以上に蘭印物産を押し付けらるゝ必然的影響の廣範圍に及ぶべきを考へ、其間相互の立場上、利害の一致仲々容易ならざるものあるべく、日蘭會商の前途相當困難が豫想されて居るのである。

日本輸入	數量(千キロ)	金額(盾)
一九三一年	三〇〇、八八五	九二、五五一
三二年	三〇三、二四七	七八、三三八
三三年	三六六、〇〇四	九八、四二八
同輸出		
一九三一年	六〇八、六三一	二二、〇五一
三二年	七六八、四三三	二二、六五七
三三年	八四二、九一八	二二、六二九

暹羅輸入九割まで日本品

暹羅稅關發表、内國に對する日本品の直輸入額は昭和七年四月より八年三月迄の一箇年間に於て九百八十一萬銖で暹羅總輸入八千九百五十萬銖(一銖七十五錢見當)の一四%だつたが、昭和八年四月から九年三月迄の一箇年間に七千四

百三十萬銖、總輸入額の八〇%に激増した。尙暹羅に對し總輸入割の三〇%を占めた最大仕出地香港及び新嘉坡より仲繼輸入さるゝ邦品價額も莫大なもので、一昨年香港より百三十四萬銖、新嘉坡より百七十四萬銖、即ち九%と一七%は日本品であつたが、本年三月に依る一箇年の邦品仲繼高は更に大飛躍をなせるに相違ないから、之等を加算すれば本邦品の暹羅輸入は總輸入の九〇%に達して居るのである。

一期を四年、改革は漸進的馬來分權制決定

- 馬來の分權制採擇に關し一九三二年末實地見聞に來たウイルソン殖民次官の報告書左の如し。
- 一、地方分權制度は明確に採用實施すべきであるが、改革は漸次實現を期すべき事
 - 二、地方分權制度實行期間の第一期を先づ四年前後とし其間聯邦と各州政府間の財政關係の協約を更改し、現在の状態より更に鞏固満足なものたらしむる事
 - 三、第一期地方分權制實行期間に於て農業協同、教育、電氣、森林、鑛業、醫學、土木、獸醫、司獄、排水、灌溉等各部局を各州の管轄下に歸せしめ、經費は聯邦議會を通過せしむ
 - 四、總督を主席とする聯邦顧問會議に各州代表を出席せしめ、普通制度により詳細なる行政問題を討議各州政府に交附實施せしむ、現在總務長官が執行しつゝある法定的行政權力の内各州政府に移管すべき事項一切に關し、總督より適當なる處置をとる
 - 五、未制限事業の豫算取消し、馬來建設局の設立は地方分權制度に關係せざるものとす
 - 六、第二期に於て聯邦の目的にあらざる各州の或種歲出入の自由主義に據つて各州政府の獨立性を増加せしめ得べき事

第一期實施終末期に於て歳入財源は各州の所得に歸し、各州は税則等を自身に設定歳出に對應せしめ中央の歳入を侵さしめない。中央政府は定額歳入を以て債務償還等の場合に處すべく準備金を積立つべき事。最終に於て現存せる聯邦組織及び其行政元首の遺留せる總てのものを廢止すべく新中央政府を組織完全に目的の達成を期す。

二九、在留邦人の三大事業、鐵山・護謨園・水産業

1、邦人獨占の馬來鐵礦

石原のスリメダン鐵山 南洋鐵業公司を設立して石原廣一郎氏が始めてバトバハのスリメダン鐵山の採掘に着手したのは大正九年九月十日であつた。そして十一年一月廿八日三井の夕張丸で二千五百二噸の鐵石を積出したのが第一船であつた。何しろ當時はまだ設備も整はずそれに恰度雨季で非常な洪水だつたので、積込みに十何日もかゝつたと云ふ騒ぎであつたが、爾來今日までに約七百萬噸の鐵石を内地に輸送したのであるが、まだく埋藏量はそんなに減つた様には見えないのである。

開設當時は職員十三名、大工等を入れ邦人全部で十八人、採掘苦力三百人であつたが現在は職員廿五名、苦力五百五十名で家族を入れると千人近くになる。尙運搬積込は全然別で請負でやつて居るのであり、其他間接にスリメダンの山に依つて生計を立てる者が相當に居るのである。最も盛んだつたのは昭和四年五年で八十萬噸以上づゝ積出してゐたのであるから、邦人職員廿一名、苦力も千三百程ゐて非常な景氣で事務所、舍宅等も全部新築し、發電所も六年五月完成、根本的に採掘設備を改善し能率を倍加した爲め現在は比較的人員少く、却つて經費を節約して數倍の仕事が出来る様になつたのである。ケマ、ンのマチヤンスタウン鐵礦は大正十四年から採掘を始め、あそこからは滿庵鐵も出して居

る。

尙大正十四年新嘉坡に石原産業公司を設立南洋鐵業の事業一切を繼承し、昭和四年七月業務擴張のため資本金を増加し石原産業海運合資會社と改稱し、更に五年七月合資組織に變更、石原合名會社とし、新嘉坡の石原産業公司も株式組織に改め、雙方とも資本金を又増額した。輸送の方は大正十三年金泉、銀泉及び馬來丸を購入、昭和四年南光、南進、昌元、昌仁の四隻を購入五年八月八千噸乃至九千噸級のミラン、エリイ、ポストン、マルタ、パンフイツク、ピクトリヤの六隻を買収し日本瓜哇バトバハの定期航路開設、七年ジヨホル、名古屋の兩船を新造し鐵礦のみならず一般旅客貨物の輸送に従事、南洋海運新設でジヨホル、名古屋等四隻を讓渡し今日に至つたのであつて、大正十年頃僅かに月三隻を以て輸送しつゝあつたのが現在七、八隻づゝも月々入港する様になつたのであるからバトバハが見違へる程立派な街になつたのも當然なことだらう。

日本鐵業のドンゲン鐵山

久原鐵業が馬來半島東海岸トレンガヌの龍運鐵山に始めて手を出したのは歐洲大戰當時の事であつた。久原は其頃卅萬圓を投じて南洋各地の資源調査を行ひ、馬來半島は勿論ボルネオの石油、タワオの農園等に手を着いたのであつたが現在のドンゲン鐵山を前所有者から買収したのは大正六年十月で、其後十三年特別探礦許可を得たが一時は殆んど中止の状態であつた。然し昭和二年十月八幡製鐵所と賣鐵契約成立し、四年一月久原鐵業日本鐵業と改稱し、同年トレンガヌ政府から五十年間の地券が下附され、直ちに第一期工事に着手島田常務取締役現業地に出張督勵して十五哩の鐵道も豫定通り五年八月完成し、九月鐵礦積取第一船が晴々しく入港し、雨季までに四隻三萬餘噸を日本に向け積出したのであつた。

ドンガン河口のコーラ・ドンガンのすぐ前に島があり、河口から二哩足らず溯航するとチエリジャがある。以前はこのチエリジャから更に河を上りそれから更に陸を五哩行つて鐵山に着いたのであるが、今は元山(採鐵場)からチエリジャまで鐵道が出来たから非常に便利になつたが、十一月から東海岸は雨季中浪が高く沖がよりでは到底積込み不能で二月末まで船が来ないのである。

一時非常に悪性なマラリヤが流行し多数の犠牲者を出したので、専門醫を招聘し病棟も日本人と苦力を別々にし、更に苦力小屋近くに假病棟を設け一寸した病氣でも直ぐ收容して治療に努め、一般苦力に一週一回必ずマラリヤ豫防劑を飲ませ、社宅は蚊の侵入を防ぐため窓等一切金網張りとし、更に周囲の雜木林、雜草を全部切拂ひ完全にマラリヤ蚊を撲滅することが出来た。元山に事務所があり(標高約八十尺)其附近に宿舍、苦力小屋が建設され邦人社員、家族合せで約百五十名、小學校は内地から正教員を迎へ新嘉坡日本人小學校分校と云ふ名義でやつて居る。

苦力は採掘、運搬總て直營で唯積込みだけを請負でやらせて居る。總體で千五百名位だらう、八割は支那人で貨車及び運搬方面に印度人、馬來人等が多く働いて居るのであつて、道路、下水から電燈、水道まで完備し一日廿五ポンドの氷塊十二個製造しつゝあり殆んど新嘉坡に居ると變らないのである。チエリジャにも假事務所あり電報其他はドンガン事務所を扱ふて居る。詰りこれがドンガンの全人口で町のコーラと云つても元々淋しい一漁村に過ぎなかつたのだから支那人の雜貨店が數軒あるばかりである。出羽屋は日本藥房が全部引受け前經營者は旅館の方だけやつて居る、尙二軒の邦人商店は會社の監督下に値段を協定し全社員のために便利を計つて居る。保田氏は山で珈琲店を開け高橋君は歸朝後片手間に寫眞までやつて居る。何しろ外に行く處がないから苦力で一杯菓子等も非常に賣れる。月賣上げ二千弗を下る様な事は決してないそうである。

社員の運動は矢ツ張りテニスが一番盛んで、野球チームは三度も新嘉坡に遠征したが柔劍道がまた盛んで柔道は四段を大将に二段以上が二三人も居るとか、苦力には慰安として月一度活動寫眞を見せて居る、輸送船は月十隻乃至十二三隻づゝ來る譯であるが同地では食料、野菜等何物も買ふ事が出来ず以前は船の飲料水まで持つて行つたのであつて、船員が上陸しても金を使ふ處がないのである。コーラには出羽屋の外に今一軒會社の宿泊所もあるが一寸離れて居るので餘り利用されてゐない、既に大概設備も出来て仕舞ふたので愈々百噸積出しとなつても別にコーラの町にも山上にも大して影響はないのである。

鐵鑛の存在状態は既成鐵石の崩壊せるものと二次的に堆積して成生せる鐵塊層で、大部分は磁鐵鑛一部は赤鐵鑛に變化したものである。初成の鐵床は熱帯の旺盛な風化削剝作用を受け崩壊轉落して現在の位置に累積したものらしく、其鑛石は豆粒大より八萬噸以上の大塊に至るものあり、大小塊探の稍規則正しき成層を見せて高さ五尺乃至五十尺に及び品位は平均六十四パーセントの鐵を含有し鑛量の多い事現在半島隨一と稱せられて居る。

採掘方法は鑛區の東端低平地から六十馬力のスチームシヨベル三臺と人力を補助として採掘を始め漸次高地に進展するものでそれにはインクライン及びエンドレンを設けて積込場に送鑛して居るのである。尙鑛内第一線に二千噸の貯鑛場兼積込場を設けてトロヤエンドレスで採掘場から此處に運搬し、ホツパーより貨車に積込むのである。

鐵道工事は三期に區分し第一期元山よりブケ・チエリジャに至る約廿哩を數區に分割し、軌間二呎六吋、軌條卅五封度中間停車場八ヶ所、十三噸の蒸氣機關車十三臺、六噸積貨車二百臺を使用年卅萬噸運搬、第二期復線工事着手年五十萬噸の鑛石積出し、第三期百萬噸出鑛と水運の困難な場合に備へる事とし、ブケ・チエリジャよりドンガン河の本流に七百八十呎の橫斷橋梁を架設し、河口に至る約三哩の延長復線工事をなし解運搬の障害を除去すると云ふのである。而して第三期工事成りまでブケ・チエリジャを終點とし、貯鑛場兼解運搬場約二千噸の木造設備をなし上部貨車から貯鑛場内に落下せしめ、下部はホツパーに依り解船積をなし沖合の本船に積込むのである。

ケラントアン洲のタマンガン鐵山

タマンガン鐵山は現在同所次長の職に在る鈴木信雄氏が日鐵ドンゲン鐵山を辭してレンガヌ、ケラントアンの大處女林を探查し其有望なることを知り歸朝々野に奔走して、昭和十年十月廿九日東京に於て社長白石元次郎、取締役今泉嘉一郎、横山章、松島喜市郎、香田五郎、渡邊勝家、佐藤麟太郎、監査役小笠原三九郎、松下長久、鈴木紋次郎、資本金百廿萬圓（全額拂込）の新會社を創立したのであつて、同年十二月愈々所長高橋次郎氏等と現業地に乘込み爾來八ヶ月從業員一同文字通り異體同心となりあらゆる困難に打ち勝ち馬來人、印度人、支那人等各種種を交へた日本村を千古斧鉞を加へざる大處女林中に開いたのであつて、來年三月第一船の積出しをなす可く仕事を進めて居る。

同鐵山はケラントアン洲のケラントアン川に沿ふた聯邦洲鐵道タマンガン驛から二哩に過ぎぬ所に在り、最初はタマンガン驛まで二哩半のゲーチ引込線に依る計畫であつたが、元山より東側のタマンガンレンヂを越へて鐵道への索道連絡が鐵道布設に比較して容易で能率的で而も廉價で済むことを發見し、第一期計劃として一時間六十噸輸送力なる單線式索道を架設することになり、元山に通ずる四間道路も完成し、諸建物も八九分通り出來上り索道コンクリート基礎工事を終り起點と終點に各千噸のホツパーを建設、鐵道との聯絡點に一哩餘の引込線を作り、同所より聯鐵貨車を利用し約卅餘哩メコタバル對岸パレバン驛まで出し、更に同所に約一哩の引込線と棧橋を建設して解積みをなし、ケラントアン本流河口沖合の本船まで凡六哩餘の水運送を経て本船荷役をなし、現在の賣込先きである日本鋼管會社の川崎熔鐵爐に直航するのである。

尙同鐵山起業參與者にはケラントアン在任英人ドクトル・ギール氏、鐵山技師ウィルヤム・サース氏、印度人辯護士シングー氏等の名があるのも變つて居る。

エンダウ鐵山發見と飯塚茂氏の事業

近頃素晴らしいニュースとして在留民を驚喜せしめたのは飯塚茂氏の鐵山發見である。氏自身數年間大ジャングルを探險して遂に柔佛洲とパハン洲の境をなすエンダウ川沿線にこの大鐵山を發見したのであつて、昨十年柔佛洲政府より權利を獲得したのである。柔佛洲に於て邦人が自から發見し政府から許可されたのはこの鐵山が最初である。

本年一月より仕事に着手し第一船八千噸を九月、第二船七千五百噸を十月積出したのであつて、そのスピードアップに世間を驚かせた。尙年産五十萬噸計畫が着々進められつゝあるのである。エンダウ鐵山は柔佛洲東海岸エンダウ川上流廿五哩にあつて三鐵區に分れ、何れも三、四哩離れて居るが水運の便に恵まれ、エンダウ河、センブロン河、レンゴウ河等何れもその積出しに利用されるのである。

鐵質は赤鐵礦で含有量頗る優良、埋藏量も相應巨大であることを専門技師が折紙をつけて居る。現在内地製鐵事業情勢から察し石原のスリメダン、日鐵のドンゲン鐵山と鼎立して確に南洋にその資源の一角を占むるものに相違なからうと信するのである。

飯塚氏はまた此外に昨年ジョホル州シテリ河上流に於て奇蹟的にタングステン鐵を發見して居る。

邦人にしてタングステン鐵の採掘權を所有し仕事に着手するのは氏を以て嚆矢とする、明年から更に本格的に採掘を始めるそうである。飯塚氏は慶應義塾出身で在南既に廿餘年、プランター出として尤も成功せる一人で株式會社南進公司を創立し現にその社長たり、スマトラに大倉農園のオイルパーム園を開き、護謨の南和公司に常務取締役となり常に南洋事業界の第一線に活躍しつゝある奮闘兒である。

2、護謨會社一齊増配

七年振りの高値實現例外なしに黄金時代を迎ふ

護謨界好轉、十月廿七日限産率緩和發表以來一段と活気づいた。市債の上向いたのは十年十月以後である。殊に最近益々著しく躍進の度が加はつたのである。廿九仙五〇は一九三〇年二月以來七年振りの高値である。これまで限産率緩和は悪材料と見られてゐた。供給の増加を懸念されるからである。一九三六年下半年四割限産を三割五分に引下げた時は市價は下向いたのである。

處が今度は三割五分から三割に緩和されたに拘らず、市價が騰貴したのだから業界の情勢一變が察せられる、今度の限産は來年上半年だけの取極めである。一般に一割程度の緩和を豫想してゐたのが實際は五分に止められたので一段と景氣を刺激して七年振りの奔騰を實現したのである。

米國消費高は特に進歩の跡も見られないが在荷逐次減少して需給内容は改善されてゐる、即ち本年一―九月消費四十二萬四千噸前年同期の卅六萬九千噸に比し五萬五千噸の増加に止まるが、在荷は廿二萬八千五百噸即ち前年同期の卅二萬六千二百噸に對し、差引き九萬七千七百噸を減少、率にして三割に當るのである。米國に於ける護謨の消費は自動車製作に支配される。自動車の製作は一―九月末までに三百四十六萬二千臺に上つた。前年同期の二百九十三萬三千臺に較べて五十萬九千九臺にして一割八分の増加である。十月以後も引續き増加の模様だからそれだけ護謨消費の前途は樂觀される。

一方生産制限は引續き行はれる。一九三七年上半年の輸出制限率は前記の如く三割に引下げられた。國際護謨統制委員會の次の會合は十二月十五日開催されるのであつて、更に限産率が五分緩和されるかも知れない、その上從來悪材料と見られてゐたギルダ貨切下問題も和蘭金輸出禁止で却つて灰汁抜の貌となり護謨界の前途は明朗化した、斯くて一方に生産制限の續行があり他方米國景氣上昇に依る需要増加が續くから需給状態は次第に改善される筋合にある。と言つ

ても減産の力で需給を支へて居るのだから暴騰は考へられぬ、卅仙内外の底堅い足取りを辿つて行くものと思ふ。既に廿九仙臺になつてから各社の利益計算はかなり良くなつて來た、護謨會社は方に黄金時代を迎へた譯である。

日本産業護謨

日産護謨は十一年上期決算(八月末締切)に於て五分増配を決定、一割配當を一割五分に引上げたのである。上期總收入百四十四萬七千圓、總支出七十三萬八千圓、差引利益金七十萬九千圓、拂込資本金六百萬圓に對し利益率二割三分六厘、前期に比し廿一萬八千圓七分二厘の向上であつた。

上期生産高は二百卅二萬二千封度前期二百廿四萬二千封度より八萬封度の増産である。採収面積増加のためである。上期平均採収面積一萬二千廿七英反前期より一千四百三英反を増加した、限産率緩和の爲で生産高前期に比し四分許の増加である。一方販賣値段は平均手取廿七仙二七、前期の廿二仙七七より遙に高い、コストは本社費加へて十二仙位だから差益十五仙二七、邦貨換算副業益を併せて七十萬九千圓。

十一年下期は來年二月末締切りであるが引續き向上見込まれて居る。生産高二百五十萬封度を豫想され、平均賣値内輪に見ても廿八仙を豫想されコスト十一仙位として差益十七仙二百五十萬封度で四十二萬五千弗、邦貨八十五萬圓に換算される。副業はマニラ麻、椰子、木材等である。椰子、木材は大して期待されないがマニラ麻は有望である。未だ耕地擴張中で本格的の収益を齎らさないが段々成績に寄與する見込みがある。十一年下半年期決算ではまだ五萬圓位しか見込まれぬらしいが今後は右の利益が加はるから力強い。

そうすると下期の利益金は九十萬圓を下らないものと見られ、利益率三割だから新税を考慮しても一割五分配當維持は心配ない。同社現在の諸税負擔は半期三、四萬圓である。今後倍額程度の負擔増加を避けられまいが、それ位の負擔税力はあるものと思ふ。株式時價四十四圓は幾分割安と見られる。

南亞公司

十一年下期決算は九月末締切り五分増一割五分配當であつた。下期護謨生産高百四萬封度コスト本社

費ぐるみ十四仙位、平均賣値廿七仙、豫定生産量に對し十三萬五千弗廿七萬圓に換算され拂込資本金二百八十萬二千圓に對し利益率一割九分三厘、前期廿一萬四千圓（利益率一割五分三厘）に對し進歩の跡が見へる、同社は借金がない。前年半額減資を行ひ内容を整理した爲めであるが、固定資産も尤も低廉で英反當り二百六十二圓同業中群を抜いて居る。廿年木以上の老齡樹が尠くないから多少割引を要するにしても相當強味を有するのである。

内容に不安なく護謨界前途樂觀される情勢にあるから普通配當一割二分、それに下期は偶々創業滿廿五週年に該當したので多少色をつけ特別配當三分合計五分と云ふ事になつたのである。然も今後を樂觀される。三五公司、日産護謨に次いで生産量が多いから市價の騰貴時代に於て伸びる力が大きい、十二年上期（十月—來年三月）の生産高はまだ判然しないが大體百十萬封度を豫想される。平均賣値廿八仙、生産費十四仙と見て差益十四仙、豫定生産量に對し卅萬圓の利益を見込まれる利益率二割一分四厘だから引續き一割二分配當は可能である。尙今後半期二萬圓位の増税負擔が加はるが利益増加が大きいから問題なからう。株價の九十圓唱へもまだ割安と見られて居る。

南洋護謨

十一年下期（十月末締切）生産高六十七萬封度、前期六十三萬封度に對し四萬封度の増加である。コストは本社費含み十三仙位平均賣値廿六仙半と見て差益十三仙半、六十七萬封度で九萬邦貨十八萬圓である。利益率一割八分、一割配當可能であるが一分増の八分に止めるのであらう、八分に止めると八萬圓位保留されるから借金は八萬圓内外に減することになる。

次回以降も樂觀される、十二年上期の生産高は限産率の緩和に依り幾分増加する。下期に比し五萬封度増しの七十二萬封度、平均賣値廿八仙と見て差益十五仙、七十二萬封度で廿一萬六千圓、利益率二割一分六厘だから増税を考慮しても八分配當の持続は問題でない。多少の増税も不可能とは考へられない。株式時價五十六圓は寧ろ安いと思はれる。

熱帯産業

十一年上期決算（四月末締切）の利益金は十二萬圓利益率四分三厘に過ぎないのに三分配當を行つたから窮屈であつた。然し下期以後次第にユトリが出来る、下期生産高四十萬封度の豫想でコスト本社費加へ十二仙半、平均賣値廿六仙半で五萬六千邦貨十一萬二千圓の利益で右以外利息収入が一萬五千圓位あるが合せて十二萬七千圓、拂込資本金五百五十二萬五千圓に對し利益率四分六厘、固定資産償却を四萬圓計上して純益金差引八萬七千圓、之に法定積立四千圓、役員賞與五千圓、退職手當基金三千圓、對外拂込資本金割合二分七厘である。積立金を手加減しないと三分配當が六ケしい、尤も配當積立金の準備があるから遺繰つて三分を維持するだらう。然し今後の成績は漸次向上を期待される。護謨樹の年輪が大部分五六年木で次第に生産増加を期待される、制限率を考慮に入れても半期五萬封度の増加は確實である。市價が高値を維持する限り成績は段々向上するに相違ない、遠からず幾分の増配可能となるであらう。株式時價の卅八圓は他に較べて買餘地が尠い。

ボルネオ護謨

下期決算は九月末締切で一分増の五分配當であつた。十一年下期生産高卅七萬封度前期の廿九萬四千封度に比し七萬六千封度の増加である。平均賣値卅三仙、コスト本社費ぐるみ十二仙だから差益十一仙、卅七萬封度で四萬一懸盾爲替四十三盾として概算九萬五千圓の利益で拂込資本二百萬圓に對し利益率九分五厘、前期より二萬二千圓率にして二分二厘の増加である。今後は盾貨爲替引返へして差益の減少を免れぬ。然し製品収入はそれをカバーして餘りあるから懸念を要しない。十二年上期生産高は三萬封度増の四十萬封度とならう。賣値更に騰るとして十二萬圓位の利益は見込まれる。利益率一割二分だから引續き一分程度の増配は可能である。結局他社との振合上六分に引上げよう。株價廿圓拂込が十五圓七十錢は手一杯と云ふ處だらう。

スマトラ興業

十一年下期の配當は豫想通り八分であつた。下期生産高四十三萬三千封度上期に比し八萬四千封度の増加で制限緩和の爲めである。生産費九仙賣値廿四仙差引十五仙の差益で邦貨換算十五萬一千圓の利益である。十二年上期決算は三月末締切で生産高六十萬封度の豫想、賣値は盾動攤影響受けるが蘭貨廿八仙としコスト一仙増の十

仙で差益十八仙、六十萬封度で十萬一千盾の利益である。日瓜爲替を五十二三盾とすると邦貨換算廿萬圓利益二割一分、固定資産の相當償却を行つても増配可能である。即ち十一年上期末の固定資産は合計二百五萬六千圓で廿ヶ年償却として約五萬一千圓を要し、外に法定積立金一萬一千圓、役員賞與九千圓、恩給扶助金五千圓を割つても尙十二萬四千圓を剩し八分配當の所要金は七萬六千圓に過ぎないから二分程度の増配は可能である。株價舊六十四圓五十錢、新卅一圓五十錢は充分買餘地がある。

馬來護謨

十一年下期決算は九月末締切りで生産高九十萬封度コスト十四仙、平均賣値内輪に見ても廿六仙封度十二仙の差益で十萬八千邦貨換算十九萬四千圓、拂込資本金三百十萬圓に對し利益一割二分五厘、同社は借金多く餘り内容は良くない。即ち十一年上期末の總植付面積六千六百六十六英反、護謨園敷定四百七十六萬圓と評價され英反當り七百七十二圓であるから標準相場五割以上割高である。其の上百五十九萬圓の借金を擁する拂込資本に對し約五割一分に當り支拂利息毎期三萬七千圓内外に及ぶ状態にあるのだから、利益を蓄積して内容を圖る事が肝要である。然し一分増の五分配當は餘儀なからう。次期になると一層好轉する、十二月上期（自去年十月至三月）減産率緩和で生産費は幾分増加する、大體九十五萬封度と豫想され平均賣値廿八仙としても生産費十四仙を差引き封度十四仙の差益で九十九萬封度として十三萬五千邦貨廿三萬九千圓、利益率一割五分四厘だから五分配當は樂である。新税を考慮しても引續き一分位の増配は無理とは考へられない。株式時價卅七圓は幾分割安の様である。

3、南洋漁場制覇の邦人漁業團

南洋一帯に亘る水産業は邦人の異常な活躍によつて今や全くその覇權を制するに至つた。その據つて來る所以のものは他國人に優つて邦人が根強い底力を有するためであり、他國漁業者が久しい不況に耐える事が出來ず殆んどへたばつて仕舞ふるに拘らず、邦人漁業者のみは不況に堪える抵抗力強く遂に景氣回復と共に又復反撥して隆々たる發展を遂げつゝあるのである。之を水揚高に就て見るに新嘉坡の一市場に於ける一九三三年中の日本漁業者の水揚高は總高の四九%價額六十萬弗であつたが、三四年は更に十一月末までは早くも七十萬弗の躍進的發展振りを示し、その割合も五三%に上つた。然らば邦人漁業者の出漁圏はどうかといふに西はビルマ沿岸から、東は濠洲沿岸に及び更に北に向つては新南、パラセル兩群島まで行つて居るのであつて、一方臺灣を根據とする貝取漁業の如きも遠く新南群島さては蘭領諸島まで出漁する關係上、新嘉坡を根據地とする漁船と高雄を根據とする漁船とは宛も入合操業の状態を呈するに至つたのである。詰り双方の漁業根據地はその間一千六百哩（基隆から北海道沖までの距離に相當）も相隔つて居るに拘らず、邦人漁船は双方からこの廣大な漁場に互に活躍しつゝあることは如何に邦人漁業者が優勢な地歩を占めて居るかを物語るものだらう。隨つて斯の如き邦人の活動に刺戟されて沿岸各國政廳が日本人に對し何等かの方策を講ずるに至ることは想像に難くないのである。即ち一九三三年十二月には排日を目的とする比島漁業法の制定あり、三四年十月には暹羅領海内水棲物捕獲取締法の發布あり、蘭印では東印度領海内に於ける安寧秩序維持に關する法令を議會で審議し、更にビルマでは英官憲が時局の緊張に伴ひ領海内の外人操業を嚴重に取締らんとする等、我漁業團は以前の様な呑氣な操業振りが出來なくなつた、乍併、之も考へやうで右の如き種々の拘束が出來たにしてもその都度邦人漁業者が之に應ずる適法行爲に出づれば必ずや従前以上の基礎堅き業績を擧げ得るであらうと關係識者は戒めて居るのである。つまり昔の様に廣大な漁場だからといつて無人の廣野を行く如く振舞ふことは却つて將來我漁業上の活動餘地を狭くするのであることを悟らなければならぬのである。

大昌公司の發展

永福虎氏經營の大昌公司はタンジョンルーに製氷工場と冷蔵庫を建設し、馬來半島への販路擴張に努めて居る。現在新嘉坡市場に水上げされる生魚は一年約二百萬弗で、その半分が日本人漁夫によつて供給され

つゝあり、その七割が大昌公司の賣上げで、昨昭和十年は八十萬弗近くなつてゐた筈である。目下新嘉坡で漁業に従事してゐる邦人は大昌公司の外大城、金城、新里の三組と舊石洋の残つた連中廿四五人で、約千人に上るであらうと思ふが、頭数でも亦大昌公司が七割の約七百人を擁して居るのである。使用船は運搬船廿四五隻、漁船五十隻で内發動機を備へたものが卅五六隻、何しろシグラツプにも船大工や網を染める連中が何時でも廿人位居り、今度はまたタンジョンルーにも卅人位居るのであつて陸で働いてる連中も相當あり、毎日の永福氏の家で一所に飯を食つて居る者ばかりでも四十人からあると云ふのだから大變である。タンジョンルーの製氷工場は一日の生産能力廿五噸、冷蔵庫は六百噸收容する設備があるが、毎日沖から取つて来る魚ばかりなら好いが、共同漁業が日本から野菜果物冷凍魚等をドシ／＼持つて来る事になつて居るから、とても六百噸では足りない。すぐ倍位に擴張する必要があると思はれる。尤も冷蔵庫の方が愈々本當に仕事を始めれば別に食糧品店を一軒開けて、主に卸賣を始めることになつて居るとの事である。新大昌の方は漁具、船具、機械類ばかりを賣つて居るのであつて一所と云ふ譯に行かない。殊に共同漁業の漁獲物を内地に送り、色内地から取寄せるとなると結局千四百五十噸位の冷凍船を持つた方が好いのぢやないかと永福氏は云つてゐた。これ迄は沖から歸つて来る船が一所になつて供給過剰になると非常に市價をた／＼かれて仕舞ふ。現在も沖買の支那人の手を通してバトバハ、馬拉加、芙蓉、吉隆坡から一保邊まで相應行つて居るが、少し品沸底で値が騰つて来るとさつ張り送らない。随つて地方のマーケットでは、何時行つても買へると云ふ譯に行かないから、そんなに澤山は賣れなかつたのであるから、既に幾ら生魚が一度に來ても日々の需要に應じて市場に供給し、剩つた物は冷蔵庫に入れて置き市價を崩される様な事がなくなつたから、今少し組織立つて地方へも安く生魚を送る様にせねばならないのである。それに半島の都會はもとよりスマトラのバレンバン、メダン、ジャンビー等にも賣れるのであるから、まだ／＼發展の餘地はある。總水揚げ高の六割位までは頭張らねばならない。更に加工の問題もあるが鮪の罐詰は内地と違ひ別に漁期と云ふものが

なく、年中獲れるのであるから、必ず面白いに相違ない。現在市價はムロ一箱四弗内外、寧ろ内地に比較して好い方であるが、ボイコットと來たらたまらない。一番ひどかつたのは昭和四、五年で一箱二弗乃至二弗五十仙の暴落振り、年總賣上高も五十萬弗に過ぎなかつたそうだ。販路の擴張はもとより更に經營法も組織的にして行けば、現在の漁夫の二倍迄は活躍出来るだらうとの事である。

日本煉乳の聲價と輸入激增

新嘉坡に日本煉乳の共同販賣店が開設される前年の、昭和八年の日本からのコンデンス・ミルク輸入總額三萬五千箱が、九年愈々共同販賣店を開けると九萬箱四十五萬弗と躍進した。馬來へ輸入される煉乳は和蘭廿五六萬箱が首位を占め、丁抹十二三萬箱、英國十萬箱約七十萬弗、瑞西三萬箱と云つた順位で一番賣れるのは何んと云つても最も値段の安い和蘭のグリーンセール一箱四弗八十仙と云ふので、新嘉坡だけで月五千箱は出るだらう。日本品では大體グリーンセールと同値段のアーム印が最も好く賣れ月二千箱位出る。且て煉乳の一番多く輸入された頃は月十四萬六千箱、中ネツスルが十二萬七千二百箱と云ふ有様で、當時日本品は金線とメリーミルクが僅かに三四百箱來てゐたに過ぎなないのである。

それが最近ではネツスルは漸く月千箱位の輸入に過ぎず、日本の煉乳は暹羅を入れて九年四月は一萬四千三百箱から這入つたのであるから全く隔世の感なきを得ぬのである。

尤もミルクの如きものはマーケット・プライスの關係もあるが大體輸出國の生産高に追隨するのであつて、そう急激な輸入増加を望むことが出来ないのである。然し品質に於て價格に於て斷然世界に維飛するだけの資格を充二分に持つて居るのであるから、更に日本煉乳の當方面に於ける活躍を期待する事は決して難かしいことではなからうと信ずるの

である。

然も日本品は安いが悪いと云ふ、先入感があるのでどうも叶はない。甚だしいのになると、あんな狭い國に牛が居るか、皆馬鈴薯で作るのだからうなんて悪宣傳をやる者すらあるのだから遣切れんが、馬來にはとても難かしい煉乳輸入の規則がちやんと設けてあるのであつて、相應優良品でなければ絶対に輸入する事を許さず、随つて市價には非常な高下があるが、品質その物にはそんなに優劣がない事になつて居るのであつて、市役所衛生試験場の分析表を見ると、

青	十	字	蘭	脂肪	乳含有量
ミルクメード	瑞	濠	九四〇	三二二五	
モンブラン	九六五	三三〇〇			
日本煉乳	九七五	三四一〇			
		三四一二			

寧ろ日本品が最も優良であることを立派に證明して居るのである。現に北海道の極東農場には世界記録を持つて居る。二イスメー・クリーター・オームビーの如き有名な乳牛が居るのであり、一箇年の乳量八二石七三九二、バター、五五〇八斤九五を出したのであるから一箱のコンデンスミルクを作るに、三斗五升の牛乳がいるとしても、其牛一疋で實に年二百五十箱も作るのであるから大變な話である。殊に我國の乳牛は殆んど世界的乳牛として有名なシヨトホーム、ゼルシー、ホルスタイン等に全部改良されて居るのであるから、何處よりも優良な煉乳を輸出し得ることは當然なのである。

輸入關稅は昭和八年六月從價稅となり、九年四月更に從量稅に改められ、海峽殖民地は無稅だが馬來半島に持つて行くには一封度外國品五仙、英國及屬領品一仙、つまり一箱で英國品四十二仙、外國品二弗十仙と云ふ差別待遇を受けて居るのであるが、英國品としては濠洲のミルクメード印も昔日の聲名を維持することが出來ず、殆んど日本と變らぬ數

南洋情緒

磯の椰子影おぼろの月に後姿もほつそりと
 うさの捨場に酔ふのぢやないがたまにや浮氣も新喜樂
 返しともない出船の朝を晴れぬ時雨に濡らす袖
 酔ふた二人に鳴く虫の音か時雨嬉しい波の音
 戀も淋しく雨夜が更けて師走心に酔へぬ酒
 戀も間借りのわびしい世帯晴れて添ふたと云ふばかり
 雨に淋しい師走の夜更けチープセールの濡れた旗
 續く雨季空師走も暮れて暗い思ひを泣く守宮

そよぐ薫風騎手華やかに勇む競馬のスタート所
 きそう競馬にいりつく腫馬券にぎつた手の油
 勇む勝馬いなく聲も冴えて毛並に輝く陽
 露に朝顔果敢なく散つて残る紫眼に滲む
 護謨が底値で馬來の村に月は冴ゆれど唄も無い
 チープセールの赤旗淋し吹くは不景氣風ばかり
 聞くは泣き事世も霜枯れて汗も冷たい年の暮
 汗で暮れる今年も師走熱い南洋も霜枯れて

三〇、在留邦人の現況と印象に残る最近の出來事

馬來在留邦人八千人臺を恢復

新嘉坡帝國總領事館管下在留邦人昭和十一年十月一日現在前年より三七六名を増加し七、九二四名となつてゐたが、その後總領事館より各地日本人會に通達在留届未提出者に對し、殆んど洩れなく改めて届け出を勵行せしめた結果、各地共増加し、更に四四三名を増加、即ち前年より八一九名の著増を示し、總數八、三六七名と昭和二、三、四年頃の八

千名臺を恢復にするに至つた。各地別現在數左の如くである。

地域	本業者		家族		朝鮮人		臺灣人		合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
新嘉坡	二、一七六	二、三〇〇	四四〇	一、八八六	一三	—	四五	二六	四、一七七
他海峽殖民地	一六六	一六六	二六	—	—	—	一六	—	三二二
柔佛州	五三	四〇三	一四	—	—	—	六	—	三三七
其他馬來半島各州	六五	七二〇	一四	—	—	—	二九	—	九九五
計	三、四六五	三、〇九	七六九	—	—	—	二〇	—	一、八九三
北ボルネオ及サラワク	六五七	五五二	二、二九四	—	—	—	七	—	七、三八五
總計	四、〇一七	一〇三	一、九一	—	—	—	三二	—	九八〇
大正九年	八、五四八	七、二四〇	八六八	—	—	—	二一	—	八、三六七
昭和四年	八、七二八	七、二四〇	二、四八五	—	—	—	九八	—	八、一八九

(×印は前年より増加數)

今大正九年以來の在留邦人の消長を見るに、

年	男	女	合計
大正九年	八、五四八	七、二四〇	一五、七八八
昭和四年	八、七二八	七、二四〇	一五、九六八
昭和二年	八、四一七	七、六一八	一五、〇三五
昭和一年	八、七二一	七、一一〇	一五、八三一

とその時代々々の馬來景氣の消長につれて在留邦人數の移動も激しく、昭和七年の護謨不況時代には六千臺に減退したのであつたが、同十年再び七千臺に戻し、遂に今年は再度八千臺を恢復し得たのであつた。之は勿論護謨好轉に伴ひ栽培園従業員の増加したことも勿論であるが、貿易隆昌、鑛山従業員、漁業關係者等が一樣に増加した爲めである。次にこれを各職業別に見ると、數に於て斷然押へて居るのは何と云つても漁業關係で、

漁業經營者新嘉坡一(家族男二、女三二)、柔佛七、ボルネオ二計二〇、同從業者新嘉坡一、二四七(家族男四八、女二二二)、柔佛三三、他半島二、ボルネオ男二七九、女六六(家族男五一、女二二二)
 次は會社員及銀行員で新嘉坡のみで男四九一、女四八、この家族男九四、女二三七、海峽殖民地及半島合計男七六八、女五(家族男一六一、女四二二)計男八六六、女五一(家族男一八五、女四九四)以下主なるものを見ると、物品販賣業者即ち雜貨商其他商人海峽殖民地及び半島合計男二二三、女一五、(家族男一六四、女四一八)採鑛冶金柔佛州五〇、他半島一六四、計二一四(家族男四〇、女一五三)寫眞業新嘉坡男一七、女一、柔佛男一三、半島共總計男一〇五、女一(家族男三一、女九六)醫師同關係者新嘉坡男二八、女二八、半島共總計男一一、女六一、(家族男六三、女一五三)農耕園藝海峽殖民地半島合計男一八〇、女四三(家族男八〇、女二二一)の順で此外家政婦なるものをふくむ所謂家事被傭人の數新嘉坡のみで男子一一、女子三四、半島共計男二三、女二五四名に上り、其家族は僅に男女各一名となつて居るのである。

徴兵延期壯丁(九百六十二名)新嘉坡總領事管下徴兵延期中の者及び十一年度適齡に達し延期願を提出した者九

六二名、前年十月一日現在の内地人在留民三、五八二名の約二割六分に及び府縣別では沖繩縣の四五四名を筆頭に長崎和歌山、鹿兒島、福岡、熊本の順で同年度在留申告書提出者八一五名、初めて徴集延期願提出者一四七名、府縣別左の如し（括弧内初めての徴集延期願数）

- 沖繩縣三八五（六九） ▲長崎六五（一一） ▲和歌山三九（五） ▲鹿兒島三四（四） ▲福岡三二（五） ▲熊本三四（二）
- ▲東京二〇（三） ▲愛知一五（七） ▲山口十六（二） ▲高知七（一〇） ▲大分九（四） ▲京都八（三） ▲長野一〇
- ▲兵庫七（三） ▲三重、廣島各八（一） ▲佐賀、栃木九 ▲香川八 ▲石川九（一） ▲大阪七（一） ▲岐阜七 ▲愛媛六（二） ▲福島二（三） ▲北海道、茨城五（一） ▲神奈川、静岡五 ▲島根、新潟四（一） ▲千葉五（一） ▲鳥取滋賀、宮城三 ▲福井、徳島二（二） ▲富山、宮崎二 ▲青森一（一） ▲山形、岡山、奈良、岩手一

昨年の邦人漁夫（一、〇六三名）

海峽殖民地及馬來聯邦州漁業局年次報告によると登録せる漁夫一九三五年以前年より一、七六二名を増加し總數二二五、三六九名で中馬來人一三、九七六、支那人九、九四〇、日本人一、〇六三、印度人三三六、葡萄牙人五三名、シヤム人一名であつて、漁具及漁船のライセンスに依る政府収入は二九、六二七弗一九三四年に比し二、九五三弗の増収であつた。

民衆の需要は益々低廉な邦品

不景氣の深刻化は翕然として高價な歐米品を捨て、低廉な日本品へと多數民衆の需要を乗移らしめた。然も支那商のポイコットで勢ひ顧客は直接邦人商店へ集まらざるを得なかつた。蘭領に於て邦商の活躍特に目立ち印度人、猶太人の邦品を販賣する者亦非常に増加した。斯くて相應邦品の賣行きを盛んならしめつゝあつたのが、益々爲替安にあほられポイコットの解消で愈々輸入の旺盛を招來するに至つたのである。随つて今や日本品は邦人のみならず支那人、印度人白人商館に依て直接盛んに輸入されつゝあり、勢ひ絶へずオバーストックの脅威を受けねばならず、猛烈な販賣競争は

極端な廉賣を餘儀ならしめ、輸入旺盛と反比例して多數の邦商は却つて非常な苦惱をなめさせられて居るのである。加ふるに滔々たる日本品の侵入に驚き關稅引上や輸入制限の聲各所に起り、特に英國に於て邦品關稅引上運動猛烈を極め三月マンチエスター商業會議所幹部會は馬來聯邦州政府に日本綿布關稅引上請願を決議、四月一日より聯邦州は英國品に特惠稅實施、煉乳百封度英國品一弗、他國品五弗となり、六月十七日より綿布、人絹、リンネル、交織物關稅を從價二割或はセール五仙（特惠稅一割、二仙五厘）に改正、高級品には影響少ないが、最も賣れる一般的の安物には非常な打撃である。然も日本にとつて最も影響の痛烈なるものは印度の關稅引上と通商條約廢棄の通告であつた。何しろ昭和七年度印度への綿布輸入英國四割七分三厘、日本五割二厘となつたに驚いて八月末從來三割の本邦品に對する關稅を一舉五割に引上げたがまだ追付かず、更に八年五月から七割五分とし通商條約を廢棄してダンピング稅を課せんとするに至つたのである。

其處で我國は英國綿業協商提議に應ずる事となり、先づ倫敦で下調べを始め、シムラで日印會商開催に協定八月六日澤田、倉田兩代表以下新嘉坡寄港、愈々廿五日から商議開始非常な努力で關稅を五割に引下げ、印棉買入れ百萬俵を基準として百五十萬俵で四億碼綿布輸入を認めることに決定、年を越え引續き尙細目協定に奮闘しつゝあつたが、尙新嘉坡に於ても此内外狀勢に刺戟され且つ特惠稅實施に依て蒙る打撃に對處すべく經濟振興委員會招集、九月廿六日宇尾日本人商工會議所會頭以下四氏出席ギブソン委員長等と忌憚なき意見の交換をなす處あつた。

英領馬來としては更に七年來問題となつてゐた地方分權制と關稅統制案あり、ウキルソン殖民省次官來南實地の調査を終り一月廿八日歸英の途につき、一期を四年とする漸進的改革に決定した旨五月發表された。八年一月一日より海峽殖民地及び馬來保護領一帯に新外國人法實施、四月一日から外國人入國制限法が改正され、我日本人は一船會社月廿五人を限り入國を許可される事となつた。大阪商船會社一月十八日横濱出帆スラバヤ丸を第一船として月一回の西貢、盤

谷線開始、南洋郵船も亦瓜哇からバダン及パレンバンへ航路を延長した。

二月二日世界觀光船エムプレス・オフ・ブリテン號でバーナード・シヨオ翁寄港、同日尾崎學堂翁、九日デビスカ
ツプ庭球選手佐藤、布井、伊藤三君寄港、三月十九日日本小學校創立廿周年記念式舉行した。

新嘉坡競馬場開場式

三萬本の護謨樹を切拂ひ三年の日子と三百萬弗の工費を投じてブキチトに新設された新嘉坡新競馬場の開場式は四月（一九三三年）十五日午後五時廿五分から總督夫妻、柔佛、ペラ兩サルタン以下三千に到る來賓を迎へて盛大に舉行された。トラツクは三つに分れ外部が本馬場で周圍一哩百十碼（ハフアロンクス半）巾七十五呎、第二中央トラツクは周圍一哩巾五十呎、第三（内側）七フアロンクス半巾四十呎、スタンド入口の家がトートインデゲーターハウス、スタンドの階下は大ホール、入口二階建の上部がウイン、プレス掲示場、階下大ホールに向つて右が札賣場左が Pay Out、札賣場の右方にキヤツクスウーブ賣場あり。本スタンドは長さ三百六十九呎、巾七十四呎、二階三階が觀覽席、四階二ヶ所にオーナーと役員席が設けられ、觀覽席の反面は廣いホールでバーの設備あり、三階の一部分には札賣場と支拂場があり、本スタンドの北隣りに食堂とテールーム、南隣り數奇をこらした建物がトレイナーとジョッキの控へ所で、其處で目方を秤るのであつて引き馬場がその隣りになり、スエズ以東有數の名に恥ない至れり盡せりの設備が整ふて居るのである。

排日問題に興奮した馬來東海岸の慘劇

昭和八年十一月六日午前七時馬來半島東海岸トレンガヌの町に於て邦人少女が慘酷にも首を掻き切られた兇事が突發

した。犯人は廣西生れの支那人で滿洲事變に依つて盛んに煽られてゐた排日思想に興奮しての兇行であつたのである。犯人は最初山田辰之助氏經營の山田商店を襲つた、同店主は同地日本人會長で當時歸朝中で、令弟安五郎氏が店主代理をして居り其安五郎氏に不意に切り付け頭部に負傷を負はせ、犯人は更に高商店（店主は同地副會長山田達二氏）を襲撃したが目的を達せず向ふ側の谷理髮店に闖入、九歳になる三女静子を殺害し無慘にも其の首を切り落し、鮮血したる生首を提げて町を歩いて居たと云ふのだから驚かざるを得ぬのである。

實にトレンガヌの慘劇は詳報を開けば聞く程鬼畜にまさる慘忍さに戰慄されざるを得ぬのであつた。原因は全く時代遅れの排日思想に逆上したものである。山田氏は後頭部に一刀あびせられ近所の支那人店に逃込まんとしたがオラン・ジツボン・タボレ・マツソで断られ漸く印度人の家に飛込み危ぶい生命を助かつたのであつた。

犯人は山田氏が支那人の拒絶された店に歸つたものと思つたらしく、再び取つて返して店內を探したがゐないので、二軒置いて隣の高見商店を襲ひ其所でも夫婦共になかつたので、谷理髮店を襲撃したもので無心で寝てゐた静子の首を二タ太刀で斬落し、生首を下げた儘カンボンチナに逃込み、居合せた四五人の同國人に自慢らしく吹聴しながら二度まで静子の首を足げにしたと云ふのであるから全く鬼にもまさる狂暴さであり、黙つてそれを聞いてゐたと云ふ支那人共の心理状態も到底我々日本人には了解されないのだ。當時山田商店前の往來につつ立つてゐた馬來巡查は呆然自失なす處を知らず、急を聞いて馳付けた警官が犯人に銃口を向けて發射したが安全装置があつて弾丸が出ず却つてカスリ傷を受けた。一人の馬來巡查は何處迄も彼を追跡した。漸々其所へ一隊の警官が到着し、勇敢な一印度人に依つて血潮したる包丁が叩落され難なく犯人は逮捕された。犯人は氣が狂つてゐたのだとの噂も傳へられてゐたが裁判の結果遂に死刑を宣告され、可憐な静子の恨みは兎も角も酬はれたのであつたが、慘忍を極むる支那人の狂暴性には在留民等しく魂を冷やしたのであつた。

東宮御誕生奉祝相撲大會と祝賀宴

昭和九年正月年賀の廻禮で全在留邦人が酔ふてゐる内から祝賀會と相撲係委員は準備に亡殺されてゐた。生憎二日から雨で殊に四日夜以來大豪雨、舊競馬場は一面の湖水と化しブキチマ路附近はさながら海の如く水浸しになつた處もあつた、それでも漸く五日土俵の改築も完成しオーネンを張つた折角の天井はすつかり雨漏りでアタツプに葺替へ、兎も角も六日午後四時半から嚴かな土俵開きの式を擧げ、引續き三井の那智山丸力士の稽古開始、六時半から日本人會主催東宮御誕生祝賀會開催、出席者二百卅餘名俱樂部階下大ホール一杯にしつらえた卓上に折詰と日本酒のコップを列べ、各料理屋の女將自ら女申連を指揮して酒間を斡旋し、福田日會長祝辭を述べ、起立萬歳を唱和し大阪商船社員の素人手品や、東京音頭、浪曲入出雲節續々餘興が披露され目出度く乾杯して散會、斯くて待ちに待つた俱樂部の奉祝相撲大會七日午後二時より開催、天も在留邦人の熱誠に動かされたものか昨日までの雨名残なく晴れて曇勝で涼しい申分なき角力日和となり一層人氣を湧立たせ千二百を越ゆる來觀者あり、最初は小學生徒の割相撲で我れを忘れて聲援する父兄の熱狂早くも場内を湧立たせ、四時から大人の稽古を初め六時半から卅分休憩、夕食後愈々大角力開始、行司、呼出何れも本式の立ちで殊に畑中氏の背中に日の丸を負つた紅白衣裳人目を惹き、ABC三組に分けて取進み各組飛付三人抜きを行ひ、奉祝餅撒きを終り、東西三役力士の土表入に引續き、赤塚露拂、小島太刀持で多良ヶ嶽の横綱土俵入りあり満場聲を呑んでその豪壯振りに打たれ、愈々最後の三役取組、

小結 伊豫海——○高田 關脇 ○寺地——太刀錦 大關 ○赤塚——水鳥
の勝負を終り、優勝カップ賞品を授與し全員起立兩陛下と皇太子殿下の萬歳を三唱して目出度く閉會したのは十時四十分であつた。

更に二月十一日の紀元節に俱樂部で奉祝演藝大會開催、午後五時半華やかに開場、芳江の「三社」、静子の「松のみどり」芳子、芳江、玉江、かす江の「春の山」地は房次、若梅、小梅、すみれで、續いて西平の「北洲」、常子の「花車」は櫻吹雪の平安神宮を背景で紅友染の長襦袢目も醒めるばかり、静子、金太郎また達者に「鶴龜」を踊り、七番は金彌の「老松」、八番は常盤女將姉妹の地で榮孝の「松づくし」九番は總出の「花見踊」十番芳江と静子の「萬歳」十一番静子と常子の「神田祭」十一番喜劇「裸地藏」の破るゝばかりの喝采を博し、中入後更に菊子の「牛若」、静子の「浦島」あり十五番は迎陽館女將の新内で喜樂女將の「浦里」さながら満場水を打つた如くに引入られ、續いて金太郎の「保名」芳江、菊子の「連獅子」最後喜劇「浮かれ蛸」に腹の皮をよらされ賑やかな東京音頭で萬歳三唱幕を閉めたのは一時四十分過ぎであつた。

邦人護謨栽培の元祖笠田直吉翁逝去

護謨栽培の恩人として在南邦人の忘るゝ事の出来ないスレンパンの笠田直吉翁（本姓笠直次郎）が昭和九年十二月十七日郷里天草に於て逝去の報を得、芙蓉市で盛大な追悼會が催された、翁は大正十二年十一月一度引上げ歸朝十五年再度來南したが間もなく天草の高濱に歸郷し、其後長崎に居を定め静かな晩年を送つてゐたのであつた。翁は實に邦人護謨栽培の元祖で明治廿六年ポルトヂクソンの英人ミチラン氏の手を煩はしセイロンに護謨種子一箱千個詰り五箱を注文し途中二千個は發芽して終つたが、殘餘をスレンパンに栽培したのである。故人の古稀に當り舊友中野ドクトル等主唱大人の尊稱を贈り盛大な祝宴を開いたのであつた。翁は又スレンパン日本人會の初代會長で同地方邦人の今日あるは全く翁のお蔭であると云つても良いのである。行年八十四歳だつたと。

長岡日蘭會商代表巴城入りと兩國代表の聲明書

長岡日蘭會商代表一行九年六月三日朝バタバヤ着、蘭印側及び在留邦人等多數の出迎へを受け大要左の如きステートメントを發表した。

「余は今一歩足を瓜哇に入れ、多年憧憬してゐた南洋第一の樂園に親しく接する機會を得た事を甚だ欣快とする、抑も蘭領東印度は原料主産國であり日本は近代工業に用ゆる原料の供給を他國に仰がねばならぬ立場にある。然も日本と蘭領東印度とは其距離僅か三千海里、歐米諸國に比し著しく地の利を占めて居るが、日本の工業製品も亦品質價格ともに蘭領東印度大衆の經濟生活に最も適合して居る。之らの事實に徴すれば日本と蘭領東印度は融和し、互に密接なる關係にある事は全く神の攝理による自然の連鎖であつて、此自然的關係に反し對立する如きは神の攝理に背くものと謂はざるを得ない。日本品が現在世界に有力且つ安價な事は周知の事實であつて、かゝる日本品が蘭印六千萬民衆に大いに歡迎されつゝあるは誠に欣快に堪えない。思ふに蘭領東印度の繁榮増進は畢竟我國の福祉増進に外ならない。九千萬の日本國民は蘭印との貿易關係の現状につき深く満足を感じるの事は寧ろ當然である。若し日本品の蘭印進出が果して蘭印の安寧繁榮を傷けるものであるならば帝國政府は之に關して充分の考慮を加ふると共に、蘭印の利益を尊重するは勿論、三百年來の日蘭兩國の政治的、經濟的親善關係に鑑み今後益々善隣の交誼促進を期するに吝かでない、一九一二年日蘭兩國政府間に締結された現行通商條約は、日蘭兩國の信條たる自由貿易主義に立脚した理想的な條約であるから、右條約の字句は勿論其精神を充分尊重し、共存共榮の本義に基き兩國の傳統的和親を助長する事が最も緊要である。我々が今回蘭印に來た使命は實に茲に存する。今次會商に期待する處は日蘭兩國代表双方共卒直坦懷に胸襟を開いて商議し、互讓妥協の精神を以て努力する事が先決要件である。會商成功を希望する點に於て余

は何人にも譲らないが此見地から特に蘭印政廳當局の考慮を切實に期待するのである」

右長岡代表の聲明書發表に對し、和蘭側首席代表メイヤー・ランネフト氏も亦次の如きステートメントを公表した。

「日本首席代表長岡閣下が蘭印到着第一歩に際し日本代表の善意と友情を披瀝するゝため簡單な聲明を述ぶる必要を感じられた今日、余も亦簡單な聲明をもつて、私方の善意を表明するの義務を感じる、日本と蘭領東印度間の貿易は無論兩國の利益の範圍以外の目的を有し得ない、然し蘭印も亦蘭印の輸出物産を輸入する他の諸國を有し且つ現在の通商政策と共にこれ等の關係を完全に考慮せざる可からざるは云ふまでもなく、萬一これが抑壓を許す如き事あらば單に不自然な状態を惹起するのみであらう。世界全般に亘る今日の大なる四圍の情勢變化は當領にも亦強度に生じ、そのため既存義務の完全なる遵守は云ふまでもないが、而も従前同様の目的を達するためには従前採り來りたる道を轉向すべく餘儀なくさるゝに至つた。蘭印經濟に當領住民以外の各國民も亦その建設の繁榮に努力し居るものにして、この當領社會の位置情勢の維持さるゝことは和蘭殖民政策の究極にして死活的利害關係を有する、若し何等かの事情強制的の下に蘭印をして餘儀なくせしめ又今後も手段に出づることを餘儀なくせしむる事ありとすれば、之等手段は如何なる見地に於ても何人に對しても決して攻撃を以て鼓舞されるものでなく、且つそれ等の手段は日本が曾てその國民的經濟生活の保護によつて達成したる感嘆すべき成果への追従的努力から生ずるものではない、夫等の手段は畢竟商品に對して交換され得るに過ぎぬこと、同時に今日全世界を通じて自國民企業保護を緊急とせるところより由來せる古き經濟的眞實の上に置かれて居るに過ぎないのである。余は兩國の立場が胸襟を開いて協調的合意的談合の精神に於て協議せらるゝならば兩者一致の、又兩國の同時的共通的繁榮の原則を表明し得る解決を見出し得るものと信じて之を疑はないのである。

タイプサムと舊季節

ヒンズー教徒のお祭の中で最も晴手なタイプサム、特に今年（一九三五年）は八年振り

で總督が来て下さると、タンク路のお寺附近の賑はひは、全く近年にない盛況を呈してゐた。何しろ廿九日(一月)からお寺では六十袋の米を用意して朝から大饗宴をやるのであり、銀の大針、小針を全身に突刺し、舌まで縫ひつけた行者や花御輿の行列がすつと例年よりも多く續々繰込んで来たのであるから見物、参詣の群衆で界限の雑沓はお話にならなんだ、印度人の菓子や小間物等々を賣つてる露店がすらりと並び、向ひの空地にはメリーゴウラウンドや廻轉臺が子供ばかりでなく大人までを乗せて盛んに廻つて居る。

唄賣り、踊子たゞもうお寺の境内は狂亂そのもの、渦巻きである。尙土庫裏のチツテの多いマーケット街も往來一杯旗や椰子の若芽の裝飾を張り廻し、一段氣勢を添へてゐたが之は一般的に印度人が景氣が良いと云ふより、近年その増加率が支那人に比較してすつと多い爲めであるだらう。

斯くて新嘉坡年中行事の随一として待ちに待たれた廿一日夜の海岸の大花火は、午後から大分曇つて来て一寸氣遣はれてゐたに拘らず、九時十分火の行列美しく銀の御輿到着を合圖に岡崎花火店の手で最も華麗に打揚げられ、ピーチ路からエスベラネードの廣場にかけて押寄せた幾萬と云ふ觀衆の頭上に、折りから冴へて来た十五夜の月に映えて一層の盛觀を爆發せしめ、歡呼喝采の叫びを揚げさせてゐた。

着飾つた一家を牛車に乗せ宿りがけで悠々田舎から見物に出て来る古風な眺めこそ無くなつたが、近年はギツシリ詰つたロリーの見物益々多くなつて花火の客は更にいやが上にも殖へつゝあるのである。殊に今年には海軍會議参列の軍艦が珍らしい見物をしたのであり、恰度廿一日夜イグル艦上で招待ダンス會があつて沖合遙かにイルミネーションで飾られた同艦の碇泊してゐるのが一層の美しさを添えてゐた。支那正月も後二週間、年末大賣出しがポツ／＼大通の景氣を煽つて居るが、まだその割に買物客の姿が少ないのはどうした事だらう。然も白茶、キャベツ、蜜柑等々支那から来る野菜や果物を積んだロリー引きも切らず、問屋町のアツパー・カーペンター街は往來一杯の雑沓で競賣の聲耳も聳せん

ばかりの騒ぎであり、開鴨、乾魚、菓子、祝蠟燭等々正月用品の數々がそろ／＼店頭に積上げられ、カキリマに春聯書きや名刺、カードの印刷店の列ぶのにも間もない事であるだらう。支那人にも年々新曆で正月を迎へる者が多くなりつゝあるのであるが、何んと云つても尙多數は舊曆でなければ本當にお正月を迎へた様な氣がしないのであらう。新世界はスラングン路にも新たに入口を設け、大劇場や花壇や賣店を殖やし、愈々十日から開門と着々迎春の用意を整へて居るのであるが、師走景氣のサツ張り引立たないのは長雨にたゞられた爲めばかりでもないだらう。

福建の獨立政府一溜りもなく南京軍の爆撃に討伐されたが、最も緊密な關係を有する當方面としては必ずしも獨立政府に賛成ではなかつたとしても、郷土軍の敗滅は相當變な事實でなければならなかつたのみならず、引續く騒亂と天災でその打撃を蒙つたことととも物凄じものがあつたに相違ない、何かと物入りの多い古い儀令を廢して出来るだけ新しい生活を始めようと云ふのも、寧ろ經濟的に餘儀なくされつゝある悲しいそれは現實暴露の一面であるかも知れないのである。

チンチングスペラに復歸

ペラ州サルタン殿下は海峽殖民地チンチングスをペラ州に交渉を續けられてゐたが、愈々今回ペラ州統治下に復歸協定成立、七月十二日(一九三四年)發表された、ペラ州は其代償として八萬六千八百五十弗を支拂ふ事となり、茲に同地は一八七四年來六十年目に舊領主の手に復歸したのである。

總督更迭

英國に歸國、健康勝れざるを理由に辭表提出中であつた海峽殖民地總督兼馬來聯邦州統監サー・クレメンチ閣下に對し十月十八日附正式退職の勅許あり、後任はゴールド・ゴースト(亞弗利加)總督サー・シエントン・トーマス閣下と決定せる旨六月十四日(一九三四年)附殖民大臣から發表された。

クレメンチ總督は一九三〇年二月五日前總督クリフオード卿の後任として香港より着任、産業不振の極にあつた四年の困難なる時局を切抜け、英領馬來の發展に盡粹された事實は周知のところである、特に滿洲事變突發に際しやゝもす

れば不佞華僑のボイコットに乗せんとするものあるを最も嚴重に取締り、在留邦人の保護に努められたのは尙吾人の記憶に新たな處である。

尙閣下在任中の功績としては國民黨運動の彈壓、地方分権問題の解決、馬來の關稅統制、住民の馬來化、稻作の獎勵及び當方面に於ける二大産業である錫限產協定を成立せしめ、護謨生産制限實施の端緒を開ける等枚舉に遑なき程である。クレメンチ卿は生粹の英國貴族的風格を多分に有せる人で、有數な支那通として知られ支那内地旅行に關する多數の著書あり、地理學協會より賞品を授與されて居り近年空港問題、彼南丘道路、ジョンストン棧橋改名、教育方針確立等に關し物議が繰返へされてゐた様であつたが、寧ろそれは率直な卿の人格が尙一般に認識されなかつた結果ではなかつたであらうか。尙閣下は最も眞面目に馬來の將來を考察し大いに刷新の實を擧げんことを期して居られた事を信じて疑はないのである。

新總督サー・シエントン・トーマス閣下は今年五十五歳、ケムブリッジのニュートン・イン・ザ・アイズル教區長牧師の長子として生れ、劍橋聖ジョンズ・レザヘッド及クインズ大學を出で、一九〇九年殖民省に入り東阿保護州ウガンダ、ニゲリア等の地方副長官を歴任、一九二七年西阿ゴールド・コースト民政長官、二九年ニヤザランド總督を経て三二年ゴールド・コースト總督に任ぜられた人で常識圓滿圭角なく調和性に富んだ手腕家であると傳へられる。フレメンチ卿の辭職が馬來の地方分権——事實は中央集權制の確立促進が入れられず、且つ教育問題で大反對を受けたことに基因するものでないとしても、輸入割當制實施の大問題を控へ海峽殖民地も馬來聯邦も時局多端、特に官民一致その協力に待たねばならぬ事の多い場合、新總督の人格と手腕に期待するもの一層多からざるを得ぬのである。

新總督着任 海峽殖民地總督兼馬來聯邦州統監サー・シエントン・トーマス閣下十一月九日（一九三四年）午後四時半夫人令嬢彼阿汽船ラムプラ號にて着星、雨を含む雲低く垂れた空に丹機機の爆撃機歡迎飛行の爆音勇ましく轟き、碇泊船また何れも滿船飾を施し郵便局を始めデコレーション華やかな建物には窓、テラス鈴成りの出迎へにて四時五分港務局ランチにてクリフォード棧橋に公式上陸、ウエリツシユ聯隊の囀鳴たる軍樂隊に迎へられ軍司令官リン少將の先導にて駐屯軍檢閱高等法院長ウォルター・ヒュガード卿以下出迎への文武官と握手をかはし、眞紅のマツトの上を夫人と共に進み自動車にて沿道に群がる各國民の歡呼拍手裡にガバメント・ハウスに入りカルデコット民政長官親任狀朗讀、高等官より忠誠の誓ひを受け、各州統治者、商工會議所其他各團體歡迎文を呈し市長、立法會議員、領事團、主なる政廳吏員の紹介あり、トーマス新總督等の熱誠なる歡迎に對し感謝の辭を述べ併せて就任の挨拶をなし、式後エムプレス廣場にて義勇兵を檢閲、雨後の緑滴るが如きスタムフォード路をオーチャド路へと總督官邸へ向ふた。

西村日會長急逝 新嘉坡日本人會長石原産業事務西村吉天氏十二月五日（一九三四年）午後二時五十分中央警察にて卒倒、急報に接し馳付けた青木博士の注射も効なく、安藤ドクトル、警察醫及び本病院より馳付けた歐洲人醫師の手當にも何等の反應なく遂に其儘永遠に歸らぬ旅にたられたのであつた。流石に勤勉そのもの、如く公私不斷の活動に寸時の休養すらとる暇なかつた西村氏も聊か最近健康を害し食慾不進に陥つてゐたのであるが當日も何時もの如く機嫌よく出勤、午前十一時頃近く歸朝の山本俱樂部々長を商船事務所に訪問、更に總領事館に廻り、午後同夜の日會委員會の件で福田氏と打合せ、所用あり中央警察に出頭英氏と二言三言話したのみにて、チャンド氏がまだ返事もせぬ内突然全身的に痙攣に襲はれ驚き抱へた英氏の腕に強くしがみつき、激しい苦痛のため顔面兩手をふるはせ、醫師が馳付けた時は既に間に合はなんだのであつて、何にしても餘りに急な事で病因判明せず本病院に送り解剖に附した結果心臓麻痺と發表され、變り果てた悲しい遺骸がオイスレーライズの社宅に運ばれ、階上に安置、哀愁に閉された社員以下多數の知己、友人に依つていとしめやかなお通夜が営まれ、涙一滴こぼさぬ繁野未亡人のけなげな姿も却つて弔問者の涙を誘ひ、わけてもまだいとけない二人の遺兒のいじらしさには全く泣かされるを得ないのであつた。

碇泊船また何れも滿船飾を施し郵便局を始めデコレーション華やかな建物には窓、テラス鈴成りの出迎へにて四時五分港務局ランチにてクリフォード棧橋に公式上陸、ウエリツシユ聯隊の囀鳴たる軍樂隊に迎へられ軍司令官リン少將の先導にて駐屯軍檢閱高等法院長ウォルター・ヒュガード卿以下出迎への文武官と握手をかはし、眞紅のマツトの上を夫人と共に進み自動車にて沿道に群がる各國民の歡呼拍手裡にガバメント・ハウスに入りカルデコット民政長官親任狀朗讀、高等官より忠誠の誓ひを受け、各州統治者、商工會議所其他各團體歡迎文を呈し市長、立法會議員、領事團、主なる政廳吏員の紹介あり、トーマス新總督等の熱誠なる歡迎に對し感謝の辭を述べ併せて就任の挨拶をなし、式後エムプレス廣場にて義勇兵を檢閲、雨後の緑滴るが如きスタムフォード路をオーチャド路へと總督官邸へ向ふた。

日本人會では取敢ず同夜石原社宅で緊急理事會開會々々の現職にあつて逝かれた故人に對する禮として日本人會々葬を以て葬儀を行ふことに決定、梅澤副會長を委員長とし六日午後三時半折りからしとくと降り出した涙の雨に送られつゝ故人の遺徳を物語る八十數個の花輪に飾られた靈柩車、遺族、導師以下蠅蠅十數町に及ぶ會葬者の自動車沿道の人眼をそばだゝし、四時十分スランダン邦人共同墓地到着、社員及び佛教婦人會員に曳かれ弔鐘の悲しく響く門内に入り最後を飾る撮影を終り本堂に靈柩を移し堀江老師、導師渡邊本願寺、遠藤日蓮宗兩師も參列し嚴肅なる讀經裡に令嗣、未亡人以下焼香を終り、葬儀を終り更に會葬者の多數は靈柩に隨ふて火葬場に至り、メラ／＼と燃え上る焔に限りなき悲愁の思ひを抱いて線香を捧げ偏に故人の冥福を祈つて引取つたのであつたが、たそがれそめた境内風なきに護謨のわくら葉ハラ／＼と散るも悲しく今更らの如くありし日の思出が胸に湧くのだつた。

人力車總罷業

新嘉坡車輛局は一切新しい人力車にライセンスを下附せず、年々車體検査を嚴格にして來た隨つて五六千人の車夫に對し車臺數僅かに三千臺内外に過ぎず、ポロ車が一臺百廿弗を唱へて居る有様で非常に不足を訴へつゝあるのみならず、益々修理費がかさむ結果車夫は車賃晝(自午前五時至午後三時)廿仙を廿五仙、夜(自午後三時至午前五時)廿五仙を卅五仙に値上げを命じたのである。然も人力車夫と雖も一週一度は休むのであつて月平均收入廿弗と見られ、齒代七弗五十仙、室代一弗五十仙とられ十弗内外で食ふて行かねばならないのであるから、到底衣服は勿論のこと煙草も満足にすへず、散髪代さへない實情にあるのであつて此際とても五仙の車損料値上げに應じ得ないと、二月(一九三五年)十九日正午から遂に總罷業を決定したが、華民保護局の斡旋で車主側の値上延期となり、廿日午後解決、三時頃から又ボツ／＼街上に車の影を見る事が出来る様になつたのだつた。

新嘉坡最初の國際陸上競技大會

ユニオンチャックの英國旗を中央に日華兩國旗を左右に翻へし、一時頃バラ／＼と小雨してグラウンドを濕らせ一層コンディションを好くした。ジャラン・ブツサル・スタヂヤムは七月(十年)

廿一日午後新嘉坡では始めての國際陸上競技大會の準備滞る處なく整ひ、藤色のユニフォーム華やかな華僑少年音樂隊の演奏に氣勢を添え、二時開會星華軍卅四名、日俱軍廿四名、航空隊廿名、警察隊十四名の參加選手及び役員整列會長虎胡文氏の開會辭代讀入場式を終り、直ちに百米から火の出る様な接戦を演じたのであるが、邦人選手は何れも日俱大運動會に於けるレコードさへ出ず、僅かに一、二等を得たのは槍投と走幅跳だけで期待の奥村も二百四百で三着となつたに反し、華僑選手は彼南の第三回全馬來華僑大會を控へ張り切つてるだけに素晴らしい元氣を見せたが流石に仁王の如き警察隊パンガリー選手の砲丸投と千五百の物凄さには齒が立たなんだ、總得點華軍八七、警察隊四一、日俱卅三、航空隊一三で邦人選手の成績左の如くであつた。

槍投 一等有田(四四米)、二等野澤、走幅跳 二等有田(六米二二)、二百、四百奥村三等、圓盤投 福田三等、三段跳 橋本三等、有田四等、一萬 花田三等、二宮四等、古和口六等、棒高跳 橋本四等

支那暴徒の日本人俱樂部襲撃

八月四日(昭和十一年)夜日本人俱樂部撞球大會で二階の球場には相當會員が集まつてゐた折柄、排日標語や旗、棍棒等を持ちワイ／＼多數の野次馬も混つた不佞支那人の一團、日本人俱樂部に押し寄せジャガバンガリーを負傷せしめ、誰もゐなかつた事務所に侵入、露臺日懸けて麥酒瓶等を投げつけ其儘サツと引上げミツドル路を海岸へと逃走、途中馳付けた巡査一四九〇號を鋭利な切れ物で三箇所も刺傷、僅かに客人鐘初、瓊人溫亞壽、何世仁の三名が逮捕されたのみで蜘蛛の子を散らすが如く四散して仕舞ふた。

ソラ日本人會に共產黨が押し懸けたとセルギ路は電車も通れぬ程一杯の見物で、二階で麻雀かなんかやつてゐた連中が狼狽して逃げ出すのを手を叩いて哄笑すると云つた大騒ぎ、一時は非常な形勢であつたが間もなく副探偵長、チャンベ高等課主任等馳け付け充分警戒するからと邦人を安心せしめ、別に損害もなかつたので其儘引揚げたが印度人等の見物十一時過ぎまでウロ／＼彼の界限を去らず、噂に噂を生んで無氣味な空気を漂はせてゐた。然し笑はれても邦人が全

然手出しをせなんだから大事に至らず済んだのであつて、若しも血の氣の多い連中逃がしてなるものかと飛び出したらどんな事になつたか知れないのであつた。逮捕された三名の取調等で判明した處では、一日反戦記念日のデモがセラタで火薬製造を發見され特に警戒嚴重となつた爲め手も足も出せぬ事になり、窮餘の一策當局の意表外に出で日會襲撃を敢行したもので、最近には排日商賣人や主義者等全く相手にされない様になつたので、何か一騒ぎして小使にありつかんとしたもので、大して根底あるものではなかつたらしいとも云はれるが、人間愈々食へぬとなればどんな事でもやるのだから時節柄相應警戒して居る必要はあらうと思ふのである。要するに食詰者の捨鉢的盲動に過ぎないから之をキツカケに排日運動が各地に傳波するなんて事は斷じてないだらうと信ずるから、詰らぬ取越苦勞等すると物笑ひの種になる、何にしても今は日本品でなければ賣る物がないのである。ポイコットの爲めにどれ程ひどい打撃を受けたかを思ひ出せば如何な華僑も北支の情勢や南京政府の態度を幾らたき立てた處で、再びポイコットや排日熱を煽らうとする如き愚を繰返さんとする者はないであらうと思ふのである。商賣上の損は判つてゐても昔は脅かされて仕方なく排日資金を嫌々絞られてゐたのだが、昨今はもうそんな事を云つて來ても相手にする必要もなければ、金もなくなつて仕舞ふたのだ、だから何かと問題を見つけては食つてゐた排日屋や主義者はどうにも食つて行く事が出来ない様になつて仕舞ふた性質の悪いハイナム人には判らぬながら共產主義等を標榜してゐる者もあるかも知れない、然し警戒は愈々嚴重になる、何處からも資金が出ぬとなれば當然消滅せざるを得ぬのである。デカ／＼新聞に書立てられ、ばそれだけ多く本部から金が澤山貰へるのだと誠しやかに云ふ者もあるが、果して此處等の黨員と稱しつゝある者が實際コミンテルン本部と連絡があるかは甚だ疑はしいのである。恐らく飯の種に共產黨だなんて脅かしてゐるだけで主義も何もさつ張り判らない連中に過ぎないだらうと思ふのだ。随つて支那人の事だから郷黨的に各地と相應連絡はあらうが、目的が日本人でなくして金持ちの華僑なんだから再び半島に對日熱が煽られる様な事があつたら大變だと杞憂する必要はないに極つて居る。

さらでだに市況不振の折柄又ゴタ／＼されては叶はない、全く今度の事件は發作的盲動で半島に飛火する様な事は萬年から、餘り神經を失らさない様にした方が好いのである。人間生んがためにはどんな思ひ切つた事でもするが、一般の同情がなければ到底物になるものではないのである。

不良支那人一味榮生堂襲撃

北支情勢急迫に連れ何か不良支那人一味が不穩な計畫をやつてると切りに噂され日本人會より夫々警戒を通知して來て居つた折柄十一月廿日午後七時過ぎヴィクトリア街とアラブ街角の鈴木榮生堂病院に支那人モツプ襲來、瞬間的に石、鐵棒切れ等を投込み急報に馳付けた警官隊の姿を見て蜘蛛の子を散らす如く三方に分れて逃走して仕舞ふた。人数は野次馬を入れて五六十名ばかり先頭に赤十字旗をかざし、石を投げると共に例の反戦ピラをバラ／＼附近に撒きちらしてゐた。損害は既に表戸を閉めてゐたので僅かに入口扉上から來た鐵片で正面に飾つてあつた解剖模型の硝子を破壊したに止まり、別に負傷等なかつたがソラ榮生堂が襲撃されたと北橋路、ミツドル路の邦人商店バタ／＼店を閉め一時は異様な緊張味を漂はしてゐた。反戦ピラから見ると右は過日の日俱襲撃一味と同類職業的共產分子の人騒がせに過ぎなからうと見られ、別に其後不穩な形勢やポイコット等の様子など全然なく當局では尙警戒を怠らず、一般在留邦人も努めて間違ひを起さぬ様注意があつた。

柔佛サルタン殿下御即位四十年祝賀式

九月(昭和十年)十七、八、九の三日間に亘り、柔佛サルタン殿下第六十二回御誕辰を兼ね御即位四十年の祝賀會が盛大に舉行され、各國人の賀表奉呈、閱兵式、大宴會、運動會等々が華々しく王宮前廣場で催され、十七日午前郡司總領事以下在留邦人の主なる人々參列、百姓會の星崎氏在留邦人を代表して賀表奉呈、邦人側からも四阿がしつらはれ廿日夜は華僑の奉祝提灯行列が行はれ柔佛バル空前の賑はひであつた。

日本の南洋發展は貿易を外にすれば柔佛とスマトラ東海岸州の護謨栽培と鐵鑛採掘だけだとも云へるのであつて、少く共柔佛王國だけではその投下資本に於て歐洲その他に相應對立して、餘り肩身狭ひ思ひをせず居るのであり、特にサルタン殿下昨年米國經由御渡歐の折り親しく日本に御立寄りあり、熱誠を込めた我國朝野の御歡待を受けられたのであつて、今度の祝賀會に當り態々徳川義親侯と石原廣一郎氏に對し、勳一等を御贈與遊ばされ日柔親善に對する努力に酬はれたのであつた。尤も馬來半島の土地的起業に始めて邦人が手を染めたのは、マラツカ奥地の米田開發やネグリスマラン州の護謨栽培の方が先きであつたのであるが、明治四十年前後護謨栽培熱勃興するや柔佛河沿線殆んど邦人の勢力に歸し、其後更に鐵道沿線にも延び、石原産業がバトバハの鐵鑛を採掘するに及び愈々柔佛王國に於ける邦人の勢力は半平として抜く可からざるものとなつたのである。況んや歐洲大戰後引續く無前の不況と幾度かのボイコットで各個人園の大部分没落し、馬來に於ける邦人の土地的起業はスレンバンを除き殆んど柔佛州内だけになつたかの觀を呈するに至つたのであつて、南洋發展の根幹たる護謨栽培と鐵鑛事業の現勢から見ても、特に我々は常に柔佛王國の御好意を感銘せないで居られないものがあるのである。

暹羅と馬來半島とスマトラに本當に日本人の根が下されねば日本の南洋發展は決して確實性を持つたとは云へないのである。日本の實勢力がこの一線に確立されさへすれば瓜哇も比律賓も佛領印度支那も、もとより問題でなくなつて仕舞ふのである。然も現狀に於ては我商權すら蘭印には、まれ佛領印度支那からは全然拒否されて居るのである。我陸軍は嚴に滿ソ國境を固めて赤化の侵入防止に不斷の努力を續け居る。而して日本は敢て領土的野心を此方面に有するものではないが、我海軍は新に充二分に支那海、暹羅灣及び蘭印方面の海上權を掌握するに餘りある實力を持つて居るのであつて、我國が年々需要する七萬噸の護謨と二百萬噸の鐵鑛は例へ如何なる事態が此方面に發生しようとも斷じて輸送を止める事が出来ない事實を我々は確に認識する必要があるのである。即ちその大部分を生産する柔佛王國と日本の關

係は最早やどんな事があつても斷ち切る事の出来ない深いものとなつて居るのである。随つてバーターシステムではないが印度の棉花と我綿布、雜貨の貿易に於ける如き商賣を是非共我々は蘭印と馬來半島でやらねば國家が立行かないのである。馬來の護謨、鐵、錫と蘭印の重油その他熱帶原料を買ふために我國は當方面に年額二億圓以上の輸出を是非とも必要とするのであつて、若しも此輸出が餘りに無法な彈壓を受ければ遂に南洋の平和を保つことが出来ない事態を生ずるかも知れないのである。歐洲大戰當時を回顧するまでもなく輸入制限だ無茶な關稅引上だとの身の程も考へず、勝手な熱を煽つて地方官憲の神經衰弱的態度が全く氣の毒にもなるのである。

三一、ジュビリー六日間

新嘉坡の催物と熱狂振り

五月五日(一九三五年)から一週間全英帝國を擧げて華やかなジョオチ五世陛下御即位廿五年祝典で沸返へる賑はひに暮れたのである。殊に五日の日曜夜新嘉坡ではイルミネーション一齊に點火され、ビーチ路海岸からエスペラネードへかけて一杯の出入、記念祝典を終へた十二日がまた日曜で完全にお祭疲れを癒やすことが出来たのであつて、前後八日間公休は六日だけであつたが諸官廳何れも仕事は午前中だけ、競馬だ祝宴だ舞踊會だと歡喜の渦に全市を擧げて巻込まれてゐたのである。

六日はさはやかな五月の空淺黄に晴れて絶好の皇帝日和、午前七時四十分トーマス總督夫妻エスペラネードの觀兵式場に入場、嘖嘖たる奏樂裡に英國旗晴れやかに掲揚され海軍兵、海軍義勇兵、駐屯軍、砲、工、歩兵各隊、柔佛兵、警察隊、シースカウト、ボーイスカウトの順で分列式開始、總督の閱兵を受け、空軍も大型爆撃機三臺を先頭に戰鬥機、偵察機三臺づゝ七隊廿一機、最後に當地飛行俱樂部の練習機五臺翼を連ねて式上低空に飛來、機首を下げて總督に敬禮

八時十分分列式を終り、股々たる廿一發の皇禮砲轟く中に、参列諸兵齊射萬歳三唱、總督勲章授與式を行ひ更に十一時より聖アンドリュース寺院に於て祝賀祈禱式舉行、市内各寺院も夫々祈禱式を行ひ全市に祝賀の鐘の音が鳴り響いたのである。斯くて午後五時總督官邸に内外三千の官民を迎へガーデン・パーテ開催、浮立つ軍樂隊の演奏に一層の盛況を添え心から皇帝陛下の聖壽萬歳を壽ぎ散會したのは七時過ぎであつた。郡司總領事夫妻、西村日會長、海上正金、金田臺銀、山口三菱、宇尾十田、安藤ドクトル諸氏が邦人を代表して出席した。

全市の裝飾とイルミネーション

タウンホール、政廳を中心には一方はクリフォード・ピヤまで一方はエスベラからスタンフォード路、オチャド路を経て總督官邸正門前まで華やかな國旗で飾られた柱に赤、青、黄の電球をつけ夜はさながら不夜城の豪華版、殊にタウンホールの華麗さは一際目をそばだせ、美しく電飾されたアンダーソン橋、ガバーナ橋を距てゝの眺めは何とも云へぬ美しさであつた。橋を渡つてから郵便局、香港上海銀行、ユニオンビル、アルカフ・アーケード等も見事にイルミネーションと旗で飾られ、土庫の各建物何れも思ひ／＼に旗でデコレーションされ、更にエスベラネードに歸れば市役所と聖アンドリュース寺院が脚光を浴びてクツキリとその偉容を浮き立たせ、ビーチ路に入る處にアラブの大奉祝門が建設され、續く海岸芝生にアルカフ寄附の大廻轉臺やメーリリーゴラウンド、自動車豆自動車等々華やかな電燈に飾られて一杯の人を集めてゐた。それからスタンフォード路は片側町だが飾柱の色電燈と家々のイルミネーションを競ひ博物館まで綺麗に飾られ、オチャド路に出ると飾柱も兩側に並び一層電燈も華やかにともされ、各商店の裝飾も總督邸前まで流石に一番華やかで、フォトカンニングの旗竿や司令部のイルミネーションも目立ち、五日夜一齊に點火されて以來夜毎大變な人出であつた。

馬來の假裝行列と華僑の提灯行列

ジュビリー二日目の呼物畫は馬來印度人の假裝行列、夜は華僑の提灯行列であつた。八十餘臺のトラック、自動車に趣向を凝した畫の行列、殊に佛教徒の王冠を載せた十角寶塔、總督邸前で王冠を衝いて天女が高らかに慶祝歌を唄ひ、更に十角の亭中から十人の少女が飛出して之に和したのは、總督も非常に喜ばれ、自ら寫眞を寫されたと鼻高々、行列は斯くてスタンフォード路、エスベラネードを練り、タウンホール前に整列、馬來人の卅九輛には軍艦、義勇兵、海賊船、瓜哇貴族やワヤン道中からアタツブ葺の土人家屋、ダーヤ、サカイの假裝等々あらゆる馬來風俗を網羅し、四時半愈々エスベラネードの芝生に繰込み、餘興開始の高潮に達した時、折悪しく雨に降られて解散したのは氣の毒に堪へなうだ。華僑の大提灯行列は参加百八十四團體、七時クリフォードピヤ前に集合、同半より行進を始め蠅蠅二哩、當地空前の盛觀と云はれ、行列が全部通過し切るまで三時間を要するといふ盛大さ、沿道全部通行止めで、スタンフォード路からオチャド路にかけ、身動きも出来ない見物ガバナールヒルからウキルキー路を下り、中央路に出でヴェクトリア街を曲り、ヒル街の中華總商會に至つて解散したのは一時過ぎであつた。

印度人の大花火と日本人會の打揚

三日目は印度人の大花火、タンク路のツツテ寺院で祝賀式を終り、八時半銀の御輿がビーチ路ラフルス學校前に到着するのを合圖に花火打揚げ、六日月の晴れた夜空に五彩輝き胸のすく様な爆音に沸き返へる見物人を喜ばし、全部打揚げたのは十時であつた。四日目の九日は市役所の繪畫寫眞展覽會、聖アンドリュース寺院の兒童祝賀式、ピクトリヤ・シヤターの奉祝演藝會、十日は午後三時から新世界で小學校生徒の祝賀會が開かれ、澤山なお土産を貰ひ、五時からの市

役所のアットホームがエスベラネードの芝生で開かれ、餘興として日本人會の打揚げ四十八發が景氣を添える筈であつたが、不幸これは失敗に終り、負傷人まで出す騒ぎを演じ、夜十時から軍艦テラ號で華やかな舞踊會が開催され、更に此間大世界では英國品展覽會あり、ラフルス、アデリツヒ、シービュホテルは毎夜の祝賀ダンス會で十一日夜は舊競馬場でボイスカウトの大篝火が催され、全市を熱狂の渦に巻込み半島各地また劣らず、ジュビリー大祝典の晴手を競ふたのであつた。

ジュビリー祝賀航空ペーヂェント

新嘉坡空軍の威容を示すジュビリー航空ペーヂェントが、越へて八月廿四日午後四時からセラタ海軍根據地飛行場に於て華々しく舉行された。内地の壯烈なペーヂェントを見馴れた目には餘りにも兒戲に等しい貧弱なものであつたが、何しろ馬來では始めての催しとあつて正午開門、入場を許して間もなくスコール襲來、一時半頃まで確かり降つたので飛行場の芝生は一面のぬかるみとなり、靴の底皮を透す氣持ち悪るさ何とも云へぬものがあり、餘程出足をにぶらせた觀があつたが、二弗一弗の入場料徴集に拘らず、態々半島から出て來た者さへ少からず、場所が廣いのでそれ程に思へななだが觀衆の数は恐らく二萬を越へてゐたであらう。青バスの一弗組は正門を入りぐるりと右廻りに飛行場を半周、爆彈投下の目標たる艦隊旗懸へる海賊城正面のなだらかな丘に運ばれたが、途中に數臺の飛行機を列べ天幕内に新嘉坡及び附近の鳥瞰寫眞數十枚を陳列、爆彈、機關銃、高射、エンヂン、飛行寫眞機等分解陳列しあり一々懇切に説明して呉れ、航空思想の普及に相當効果があつたであらうと思はれる。尙旅客機に十分間五弗で同乗飛行を許し、その方も中々の盛況で、吉隆坡等飛行俱樂部盛んに飛廻り、開會前既に場内を充二分に飛行氣分で漲らしてゐた。斯くて正四時愈戰闘機八臺の分列式でペーヂェント開始され、引續き二臺の高等飛行あり横轉、逆轉、低空飛行、急角上

昇等相當鮮かな手並を見せ、觀衆を喜びせ、模型爆彈投下、傳書鳩放出、書類釣上等一通りあつて大型水上機三臺及び戰闘機十八臺の編隊飛行あり。芝生こそぬかつてゐたが日も照らず見物にはおあつらへの上天氣、縦に横に或は方陣或は菱形と二隊に分れ銀翼を列ね、我物顔に大空を縦横に飛廻り、次いで三臺よりパラシュート落下の實演を見せ、空軍機の編隊飛行を終り、民間機十四臺の分列式開始、藍色の吉隆坡機を始め赤、白、黒、單葉、復葉、水上機と入亂れて三機づゝの編隊飛行、見事にまた小型藍色と白色單葉機と二臺の高等飛行あり。手に汗握らす鮮かな曲乘りに絶へざる觀衆の喝采を浴びつゝ低く頭上を縦横に飛廻り、愈最後の壯烈さを豫想させてゐた海賊城爆破が開始され、海賊軍の艦隊機もウナリを立て、プロペラーの廻轉を始め二臺見事に離陸し、攻撃軍を迎へ撃んと出發したが編隊飛行の攻撃軍機早くも翼を揃へて突進し來り、爆彈投下の姿勢をとると見れば残つた艦隊機火焔に包まれ、盛んに城内からも爆音起り猛烈な火焔に包まれ、見る／＼落城、夕闇迫る六時廿分過ぎ華やかなジュビリー航空ペーヂェントの幕を閉ぢたのであつたが、歸路を急ぐ數千臺の自動車一度に正門に殺到して必死の交通整理も容易な事では動きが取れず、たつぷり門まで出るのに一時間を要したのであるから、其混雑さ想像の外であつたのである。海賊城の餘燄猶燃えつゞけ、兵舎の窓は美しく灯され、夕闇に包まれた格納庫や建列ぶ工場等が眞黒く靜かに横たはつて居るのが物凄く、後を見ればキラ／＼光る自動車のヘッドライト限りなく續いて、護謨林に取圍まれたセラタ路に無前の盛觀が演出されたのも滅多に見られぬ光景であつたのである。

英皇ジョオチ五世崩御と新帝陛下踐祚宣布式

氣管支カタルでサンドリンガム離宮に御養中のジョオチ五世陛下心臓衰弱症併發、國民憂色に閉されてゐたのであつたが、一月廿一日(一九三六年)午前七時十五分遂に崩御遊ばされた旨全英領に發表された。寶算七十二、陛下はエドワ

ド七二世の第二皇子にましまして、千九百十年御即位この方廿六年間に亘り、太陽没することなき全英帝國を統治遊ばされたのであつた。

斯つてプリンス・オヴ・ウエルス殿下として國民敬愛の的であつたエドワード・オヴ・ウィンンドソー殿下エドワード八世として大英帝國の皇統を繼がせられ、廿二日午前十時聖ジエームス宮殿に於て古式床しき踐祚宣布式が舉行され、宮殿バルコニーからラヂオを通じて全世界に放送され、國歌大合唱と四十一發（新帝の御年齢に因）の祝砲が殷々として鳴り渡つた。尙先陛下の御遺骸は廿三日倫敦のウエストミンスター寺院に安置され、廿八日ウィンンドソーの聖ジョージ禮拜堂に於て大葬執行され、諾威王、同皇后兩陛下、丁抹王、ブルガリア王、瑞皇儲同妃殿下、ルーマニアのニコラス親王、希臘皇儲殿下等御參列あり。和蘭女皇は特使、佛國よりはラブアン大統領、ラバール首相、獨逸よりフオン・ワラズ氏參列、我皇室でも廿一日から三週間宮中喪仰出され、大葬には駐佛大使佐藤尙武氏が派遣された。

尙新嘉坡でも新帝陛下踐祚宣布傳達式が廿二日倫敦の午前十時に當る午後五時廿分、市廳舎正面石段上に於てトーマス總督により行はれ、馬來語、支那語、印度語に通譯され、緋の衣をつけた聖アングリユス寺院大僧正の祝賀祈禱文朗讀、廿一發の皇禮砲發射あり。海軍陸戰隊、駐屯軍空射三發、高く帽子を擧げて新帝陛下の萬歲三唱、四十分式を終り、悲しみの半旗も同日夕暮まで取止められた。更に廿一日悲電傳はると、日本小學校を眞先に全市學校休業、政廳も非公式に休み戸毎淋しい半旗を掲げ悲しみ包まれ、活動寫眞館、娛樂場、邦人料理店等何れも謹んで休業、廿八日の御大葬當日も臨時公休で全市弔意を表したのであつた。

阿野飛行士倫敦東京飛行完成

當地出身阿野飛行士五月（昭和十年十二月）倫敦發東京への單獨飛行の途に上つたとの電報に、是非とも成功さすべ

く俱樂部で完成祈禱式舉行吉報を待つて居ると、五月廿九日蘭貢から盤谷への途不幸タヴオイに不時着機體を大破したとの入電あり。六月二日應援金募集の協議會を開き千五百弗を得て激勵電報と共に送附、七月十四日蘭貢發、あらゆる苦心を嘗め盡して八月十五日大村に不時着十六日午後五時五十分漸く大阪城東城東練兵場に降り、十八日午後二時卅八分無事羽根田飛行場に着陸して大飛行を完成した。

三二一、景氣好轉と邦商の懷中工合

ジュビリー、競馬、ドリアンと引續きでは流行に景氣がばつたり悪くなるのも當然だといふ人がある。ジュビリーには店頭裝飾を始め、相當何處でも費ふたに相違ないが、少くとも在留邦商としては旗やこま／＼した裝飾品が非常に賣れて、出錢よりも却つて儲けの方が大きかつた處もあるのである。打揚げの寄附だつて一般的には募集されなんだ。記念基金に對しても土庫側は知らないが、下町は一體どうするかさつ張りまだ話も聞かない。國違ひ方面でも市役所の街頭裝飾は、濠洲百年祭の古で間に合せたのであつて、一番纏つたものが新嘉坡商人の懷中を肥やさなかつたのであるが、地方からの人も相應にあり、恐らくジュビリーは一般的に云つて決して市況を悪化せしめず、寧ろ景氣を引立てる事に少からぬ貢獻をなしたに相違なからうと思ふのである。奉祝競馬は最初餘り人氣がバツとせなかつたに拘らず尻上りで、本競馬最終日のピックスウキブ一等賞金四萬九千弗、六日を通じて彩票だけでも五十萬弗以上の賣高で、ガラや馬への賭金は勿論、それ以上であつたに相違ないから、百二十萬弗の金が動いた譯、相當これは小さい金融市場に影響を及ぼしたであらうが、ドリアンで淋れる花街は今ももうないのである。今年ドリアンが大變な豐作らしく盛り場は勿論のこと、市中何處へ行つてもカンテラの灯を圍んで、ヌラ／＼したやつを盛に頬張つてのを見受けたが、新世界あたりにウヨ／＼して野鷄連中、果してその爲めにお茶を引かねばならなんだことが幾晩あつたであらうか。ド

リアンも今では市況沈衰原因の一と見るより、寧ろ盛んに食ふ餘裕が出来ての賣行き旺盛ではなかつたかと思ふのである。要之、不景氣な口癖、滯貨の山積と極端な金融硬塞は確に事實には相違ないが、護謨が兎も角も廿仙豪を保ち錫が制限率緩和に拘らず、市況に何等の影響なきに見ても、それだけ馬來の收入が激増して居ることは疑ふべからざる事實でなければならぬのであり、舊債整理や貯蓄への轉向といった處で、相應購買力を恢復してゐないとは斷じて云へないだらうと思ふのである。殊に下町邦商と來ては船毎に荷物が積上げられ、銀行の支拂ひに日も亦足らない有様ではあるが、臺灣震災義捐金千五百弗、日本金に直して三千圓、河野飛行士聲援も名乗りを挙げたばかりで隣りに千五百弗も出來たのだ。大運動會の寄附だつて賞品を金に見積れば千弗以下では勿論ない。それに落語だ。日本トキーだ送別會だと最近出錢の多いこと、何處も手元の樂でないことは事實であらうが、兎も角それだけの事がチャンと出來て行きつゝあるのであるから、とてもアキマヘンも口程でないとい等は見ざるを得ぬのである。

蘭印が極端に悪く馬來半島も吉隆坡、一保を除いては、てんでお話にならない實情にあると云ふから賣行き良好とは勿論云へないであらうが、品物は決して賣れないのではないのである。問題はストックがさつ張り減らず、歐洲政情不安や米國ニラ法案の總退却等で、前途に少しも光明が認められないため、市場一般に沈鬱な空氣に閉ざされてるのである。然も綿布を始め輸入制限や關稅引上で少なからぬ壓迫を邦品は受けてゐるのであるが、英國品の輸入が幾分増加して來たといふても、日本品の輸入は全體的には少しも減退の兆を示してはいないのである。一番纏まつた綿布類が制限されただけは一般雜貨で充分取戻してゐるのである。大きな輸入商社は相應打撃を受けたであらうが、それも値上りで或程度カバーされ、下町の雜貨店は金融問題にこそ困つてゐるかも知れぬが、賣れることは相應賣れつゝあるのである。尤も懸賣が危険で殆んど出來ないから到底昔の様な樂な商賣が出來ないのも惱みの一つに相違ない。殊に蘭印の購買力枯涸と重稅問題の打撃だけはどうにも遣切れないのである。

馬來の自動車輸入前年の倍

新嘉坡ウエアネ兄弟商會總會はその決算報告に頗る興味ある計算を擧げてゐた。即ち一九三五年度に於ける馬來の錫輸出額は前年度六千七百萬弗より八千萬弗に増加し、護謨輸出額は一億八千五百萬弗より二億七百萬弗に飛躍、更に貨幣及金銀地金を含む全商品の輸出額は四億七千四百萬弗より五億六千九百萬弗と、合計約九千五百萬弗の増加を示してゐる。而してこの特別收入益に依つて馬來に於ける自動車所有者は非常な増加を示し、その輸入額一九三四年度四百八十八萬弗であつたものが、三五年度は一躍その倍額九百七十萬弗に著増してゐる云云。

三十三、英濠大飛行競技

1、着英國のスコット機倫敦新嘉坡廿八時間

濠洲百年祭盛儀の最大トビツク英濠飛行競争は、十月(一九三四年)廿日午前六時廿分モリスン機を先頭にミルデンホール飛行場をスタートとして、四十五秒置きに順次廿機離陸廿一日朝までは蘭機リード、晝頃モリスン機が抜き、氣の早い當地人は同日午後早くも各ビル屋上に昇つて先頭機の飛來を待つたのであつた。夕刻斷然スコット機リードの入電あり。廿二日午前三時四時頃來るかも知れぬと、セラタ飛行場は徹宵遺漏なき準備を整へてゐた。すると午前三時アロスター上空通過の報に待ち構へた觀衆まだ明けぬ朝風を切つてセラタへと自動車飛ばす。

スコット機はアラハバットから二千二百哩を一氣に赤塗單葉、二個エンジンの中型コメット・ギブシイ六號機を操縦し、湧返る觀衆のブラヴォに言ひ知れぬ喜色を滿面に現はし、輕快に着陸チェックを終り六時廿三分再び滑走を始め旭日に映へて時に赤く、時に黒く内にも南東へと姿を消して仕舞ふた。倫敦から新嘉坡まで七千哩餘を四十時間

正味廿八時間の驚異的レコードで飛んで来たのである。二番機は和蘭KLMの旅客機でバルメンチア、モル兩氏操縦、獨逸の女記者と二人の和蘭銀行家に乗せ午後二時二分着陸、北方の空一面スコール来るらしい黒雲を背に南へと二時卅五分氣持ち良いプロペラーの響をかすかに残して飛んで行つた。三番機は太平洋横断で有名なバングホーン氏とターナー氏の米國機ホーア號夜十時過ぎ着、薄曇の十五夜の月に送られ同卅分離陸、四番機は英國のジョン及びウオラー氏コメット機廿三日午前九時卅分着、五番機はマルコム・マクレゴール氏とヘンリー・ウオカー氏の新西蘭機廿四日午後一時半着、當地からメルボルンまで五千六百哩、結果如何と待つてるとスコット機チモール海上で一方のエンジンに故障を來したとの報があつたが、良く片方だけでダーウイン行を続け、廿三日當地時間午後十二時五十四分無事メルボルン競馬場に着陸、英濠飛行競争の輝く榮冠を得たのであつた。倫敦メルボルン間七十時間五十九分五十秒、二番の和蘭旅客機もメルボルン間近かでSOSを傳へられたが、廿四日午前九時五十五分ゴールリン、三着は米國のバングボーン、ターナー機で同日午後一時卅六分着で、華々しい大レースの幕を閉じたのだつた。

石澤巴城總領事着任

石澤新任バタバヤ總領事一月(昭和十一年)廿四日名古屋丸でスラバヤ着、スマラン經由廿七日バタバヤ着任、越田總領事より引継ぎを受け、越田總領事は二月十三日チエリボン丸にて歸朝。尙三好副領事も廿九日バタバヤに着任した。

日蘭會商再開

日蘭海運民間會商成立により兩國間の空氣漸く好轉して來たので、この機を逸せず更に兩國間の懸案たる通商調整に乗出すべく、石澤總領事本省の訓令を受けて着々軍備工作を進めつゝあり。蘭印側亦本國政府の回訓を待ち共に待機状態にあると見られてゐるが、石澤總領事近く更にハルト經濟長官と會見の様様である。而して是まで數次に亘つて行は

れた兩氏の會談は單に折衝前の打合せに止まり、従つて今後の會見でもまだ通商調整の具體的討議を行ふ迄には至つて居らず、通商調整の原則論には意見一致してゐても、日蘭政府の要求にまだ充分一致せぬ點もあるので、今後の會見にて双方の希望を提示し、然る後折衝方法を決定することゝなつた模様である。更にこの非公式折衝に於て兩者共本國へ請訓仰いであるので今後の會談に於ても通商問題を全面的に一舉解決することは困難であり、我方としてもそれを希望する。

一、邦人營業權の制限緩和

一、洋灰、麥酒、サロン、晒綿布その他邦品に對する輸入許可量の増加

一、法令による邦商の輸入取扱ひ數量の増加

一、制限令續發の停止

等を逐次的に解決し、兩國通商關係の正常化を圖るものと見られて居るのである。新嘉坡は此ところ錫相場ガタ落ちであるが、ポリビアが五月末割當量の木輸出利權を放棄した爲め馬來、蘭印第三・四半期は事實上九割の輸出可能となつたのだし、護謨價は五分の制限緩和に拘らず現物廿七仙(七月初旬)の高値を維持して居り、殊に小護謨園が十六七仙でクーポンを賣つて仕舞ふのは馬鹿らしい。タンピングすれば確かに四五仙儲かると云ふので漸次仕事を始め出す傾向にあり、失業苦力が目立つて消化されて來た等馬來の景氣は前途甚だ好調にある様に思へるのであるが、何んと云つても肝心の蘭印が制限令の續發で地方在留邦商は殆んど商賣上つたり、新嘉坡に仕入れに來てもライセンスがないので邦品を輸入する事が出来ない。ジャンビヤインドラグリの邦商は仕方がないから邦船が寄港し、直接内地から商品が來、幾分許可量にも餘裕のあるメダンカレンバンに出掛けて商品を仕入れ、新嘉坡に送つて貰ひ積みかへて漸く持つて歸ると云ふ不便極まる方法で、どうか店を維持して行きつゝあるのである。随つて經費も非常にかゝるのであつて、馬

鹿々々しい値段になるが、護謨の利益を悉く輸出税として取上げられ、極端に購買力が枯渇して土人ではあるが、仕方がないから文句も云はずそれを買はされて居るのである。随つて窮乏のドン底に突落されてストラ地方の土人相手の商店でも、品物さへ手に入れば相當賣れて行きつゝあるのであるが、何もかも輸入制限制當でどうにもならない。土人は益々収入は減る、税金は上る、然も生活必需品が目に見えて騰つたのだから遣切れない。如何に猫の如く柔順な瓜哇人と雖も、この苛斂誅求に果して何處まで耐え得るであらうか。殖民地に對する本國の搾取にも程度がある。日蘭の貿易關係を常態に復し、も少し土人の生活を樂にしてやらねば餘りに可憐さうである。蘭印の輸入制限や割當は全く日本に對する政策的に過ぐるやに思はれるのである。日蘭通商關係の調整は第一に住民の生活を考慮し、今少し緩和されねば在留邦商が立ち行かないばかりでなく、新嘉坡の繁榮を覆へし、土人の思想を益々悪化せしめないでは置かないのだ。幸ひに海運協定成立し、石澤總領事等の努力で非常に感情のもつれもほぐれて來たのであるから、是非共此機會を逸せず、全般的會商を再開し、日蘭貿易の好轉を取戻すべく最善の奮闘を祈らないでは居られないのである。

新嘉坡空軍の日本訪問

新嘉坡空軍の精銳シヨート飛行艇隊大三五九二、三五九三、三五九四三機スミス空軍司令官、スコット艇隊指揮官に率ひられ、二月(一九三五年)十日出發日本訪問の途に上るので、一月廿九日玉川に於て郡司總領事及び水曜會の操縦將校十二名と陸海軍司令官、艇船中の航空母艦ハームス號艦長招待盛大な送別會を催した。シヨート・シンガポール飛行艇は五百六十馬力ロールスロイス・エンジン四個、スパーマリンサンプトン大型機で普通速力百五哩、急速力百四十五哩、一千哩の航続性を有する優秀機でボルネオ島のイチン、マニラ、香港、アモイ、上海を経て廿三日鹿兒島着水、廿五日霞ヶ浦着の豫定であつたが、ボルネオで早くも一臺故障を生じ、アモイ發上海への途中又一臺不時着で機體を損じ、無事上海に着水したのは唯一機であつたが、恰度其日が二・二六事件突發で東京は大變な騒動、旁々日本訪問を中止し、南京を訪問し、非常な觀迎を受けてスミス司令以下上海まで、引返して仕舞

ふたのは残念であつたが仕方がなかつた。

三四、待遇改善要求罷業各所に頻發

電車會社の車掌、運轉手が總罷業決行十月(昭和十一年)廿二、三日新嘉坡市民は足を奪はれ赤バス、黄バス時を得顔に北橋路、スラングン路を横行し人力車夫までこんな時に儲けなければと、頗る鼻息の荒いことを云ふてゐたのであるから、確かに常夏の平和郷としては稀有の事實であつた。殊に會社が臨時雇ひを募集罷業團の要求に耳を傾けない態度を取つてると云ふので形勢益々悪化、運轉中の電車、バスを襲撃罷業破りだと、メチャクに毆つて逃げ出す連中を出すに至り、遂に二百餘名檢束されバンガリー巡査で固められた會社附近は、さながら戰場みたいな混雑で、廿三日夜十二時過ぎまで交渉漸く會社も多少要求を入れることを言明し、廿四日から大多數復業再び電車、バスの姿を見る事になつたが、最近益々労働階級に不穩な氣勢漲りつゝある事實を否定することが出来ないのである。

今度のストライキの口火を切つたのは鳳梨罐詰工場の従業員であつた。市内外十三工場千何百人が結束して待遇改善と賃銀値上を要求、華民保護局に代表をして陳情せしむる等中々態度が強硬であつたのみならず、相當のリーダーに依つて組織的に決行されたものと見られ、間もなく罷業はチャンギー、セレターの海軍根據地兵營建築場に波及し、當局の大彈壓と徹底掃蕩に一先づ争議は鎮壓されたかに見え、鳳梨工場も相應復業者を見つゝあつたのであるが、再び電車會社の罷業勃發に形勢を盛返し、支那總領事館に實情を訴へて仲裁を嘆願する等險惡な空氣を漂はし出した。

電車會社争議團の要求は、

- 一、インスペクター四名の嚴重取調
- 一、日給最低九十仙から一弗卅仙迄、一年後五十仙づゝ昇給月額四十弗に至る

一、月一日年六日の休養、社匡の證明ある者は廿八日間の病氣休暇を認め、其間日給半額支給

等七ヶ條であつたが、大體會社側が右要求を認めるとの事で大事に至らずおさまつたのであつたが、全然會社に誠意がないと遂に車掌、運轉手の總罷業となつたものであるが、何を云ふにも訓練なく組織を持たない争議であるから、却つて多數の暴行検査者等を出し、再び惨敗に終らざるを得なかつたのであつた。然し全然組合運動を認めず、労働階級の訓練を許さないと云ふ様な現在の實情が果して何時まで續けられるものであらうか、赤の洗禮を受けたハイナム人が續々渡航し來りつゝあり、コミンテルンにかぶれた瓜哇の國民運動の指揮者が絶へず往來しつゝあるのに、唯徒らに鞭だけ彼等労働階級を動物の如く使役せんとする事は、到底時勢が許さない様になるに相違ないと思ふのである。

斯くてどうやら一時鎮靜したらしく見えてゐた罷業騒ぎが、十一月廿八日市役所道路、下水人夫のタミール苦力三千五百の賃銀値上、醫療無料を要求してのストライキとなり、取敢ず市參事會で日曜から復業すれば彼等の要求を考慮すべしとの約束で一時解決したかに見へたが、同夜罷業團舊競馬場に集合、市役所使役印度人苦力全部と、カラン民間飛行場建設工事従業者まで参加一萬三千に達する總罷業となつたのであつて、全市溝も道路も清掃されず市場附近は足の踏み入れ場もない程の不潔さで、歐洲人が塵埃集めに市中を廻つて珍風景を現出、各所で罷業破りや警察が襲撃され、リースコース路附近で印度人刑事が支那人共產黨員に殺される惨事を發生するに至り、罷業約三週間に及び漸く賃銀値上等要求の大部分を入れて解決することが出来たのであつて、馬來栽培聯合會も遂にタミール苦力の賃銀値上を發表するの餘儀なきに至つたのであつた。

熱帯産業調査會

各方面の權威網羅臺北で華々しく開會

我南方國策に一エボツクを劃する熱帯産業調査會は、臺灣を中心とする貿易、産業發展への輝かしい飛躍を約束するものとして世人注視の前に十年十月十九日午前から臺灣總督府で開始され、各方面權威を網羅した委員より諮問事項に就き總括的意見を聴取する事となり、

法華津孝治委員、臺灣を南支、南洋發展の策源地とするためには拓殖會社を設立するのが良いのではないか

と述べ詳細は書類で提出する事となり、奥田、一番ヶ瀬、須田、山岸、小川、郡の各主任幹事夫々計畫書を一讀、更に顏、森、諸隈三委員意見を提出中野鐵平委員の石油事業に就き、此調査書には研究されてゐないが如何との質問に對し、

中瀬幹事長 本文、東洋に向つて輸出する仕事を臺灣で起す事を主眼としたので多少缺けた點もあるが特別委員會で充分考慮する

と答へ、

山地土佐太郎委員 南方進展は拓殖金融が缺けて居るから日本人の投資が不充分で此點考慮され度い、更に從來總督が南支、南洋を視察せぬのは遺憾である

大谷光瑞委員 爲替管理法は個人の投資する場合は如何なる具合になるか

山岸幹事 同法は資本の逃避を防ぐ爲設けられたもの、故事業投資は總督の認可があれば行はれこれは在臺者に限られる

と答へ、

幣原坦委員

一、交換教授に對する留意

二、南支、南洋に學術調査隊の派遣

三、極東熱帯學術協會の設立

四、高地科學研究開設
五、南支南洋から招致

等の希望案等出で、特別委員會を設置し具體的に研究調査を進めて、大掛かりな熱帯産業調査會を終つたのであつた。
臺灣拓殖會社創立 資本金三千萬圓の特殊會社として設立に決定。半額は臺灣總督府の官租地約二萬甲を現物出資をなし残り千五百萬圓は製糖會社其他民間各種事業關係者の出資及び一般から公募するもので、經營事業は

- 一、臺灣に於ける農業經營
- 二、移住民の募集
- 三、土地改良事業

四、移住民の特産物買取り、加工販賣

五、南洋方面の物資、特に鑛物、水産資源等に關する開設とそれに関する事業資金の供給
を目的とし、尙同社は拂込金の三倍迄社債發行を許されるもので、差當り運轉資金は政府以外の出資者による四分の一拂込金を社債で賄ひ、之に對し収益確實な處で官租地による小作料的百萬圓と投資事業の利益、貸銀の利鞘等が見込まれ、又民間出資への配當は年六分保證されて居り、特に南方國策遂行として總督府と協力活躍すべく、基隆、高雄に大船渠建設、海南島の調査（飛行場の設備）暹羅の製糖會社、文化施設の補助、新嘉坡、香港に總督府出張所新設等が總督府に計上される事になつた。

内定せる役員は

- 社長 加藤 恭平
- 副社長 久 宗 薫
- 理事 日下 辰直
- 理事 高山 三平
- 理事 大西 一三

臺銀特別資金貸出

新嘉坡を中心とする馬來半島及蘭印在留邦人一萬五千に達し、各種事業を經營して居るが

戦後反動の世界的不況と之に伴ふ生産消費の不均衡に災され、大正十四年末以來護謨其他農産品價格崩落し、最近更に各種貿易制限等により打撃を蒙りたる者少からず、流石の樂土南洋にも不況の襲來を見、邦人各種事業次第に經營困難となり、殊に小規模のものは其窮狀一層甚だしき現狀にあり、此間に處し、在留邦人隠忍自重克く自奮自強して、一層の經營合理化を計り、事業の維持更生に苦慮しつゝあるも、打撃不況のため益々金融不圓滑となり、殊に奥地小賣商より金融を仰ぎのたるものも金融の便を失ひ、折角築き上げた事業も僅少の資金缺乏により一頓挫を來す如き事なきを保せざる現狀に鑑み、臺灣銀行は通貨不安による多大の犠牲を顧慮せず、更に一步を進め、別に定むる貸出内規により特別貸出を廣く各方面に涉り奥地の邦人に對する地方貸出にも及ぼし、中小商工農業者の各種資金需要に應ずることとなつた。

南洋情緒

戀も若さも戻らぬ春が思出される宵の夢
小春日永を鏡臺出して白髪染する返へり咲き
派手な稼業も白粉はがしや小皺目にたつ顔のしみ
嘘も餘儀ない勤めに生る惱み身に沁む虫の聲
月も片割れ泣く戀すらもなくて淋しい獨り者
赤い幟の稻荷のやしろ滲む燈明に臘月
晴れて立つ虹未練も捨て、歸る甲板で見てるやら
芝に陽炎氣も浮々と誘ひ出すよな女夫蝶

戀に似たよな霞に浮いて島も夕陽に暮れる宵
月も朧の椰子林ぬけて戀の繪になる二人連れ
暑さ流してからりと晴れた虹に夕立の名残り雲
蝶でなくともこがれる様に燃えて並樹の鳳凰花
夢を叩く夜更けの千鳥泣て逢はれる身ではない
看板娘が彼氏のものとなつて齒にしむ氷菓子
娘洋装もシャンではあるが髻に振り袖高島田
二人隠れて逢ふキネマには戀のネオンが派手過ぎる

襟を替へても眼元に残る娘らしさが笑ふてる
子年廿五嫁にも行けず指の撥だこ嚙んで居る
島は常夏吹く秋風はないが淋しい雨季はある
ハツパかけろと死力を出してヒツト飛したホームイン

東風に送られ来るどの船も輸出景気で朗かに
犬も勇んで飛出す狩場ドツト揚がつた勢子の聲
閉めて鶏小舎出る足下に小犬じやれつく春の宵

三五、寄港船に迎へた人々の思ひ出

歐亞の關門である新嘉坡を通過する名士と稱すべき人々は、年々大變な數に上るのである。確かにそれは總領事館や會社の支店長等にとつて他所事ではない一種の氣苦勞であるかも知れないが、さらでだに單調な常夏の氣候にうみ勝ちな在留民の心にそれはどれ程緊張せしめ、新鮮な感觸を與へつゝあるか知れないのだ。特に最近に單に歐洲への來往ばかりでなく、南方國策確立の聲に促され、經濟發展の現狀と將來への對策に資すべく、重大な使命を帯びて來る人々もあるのであるから、決して在留民としては行きすりの話として聞き捨てにはならない場合が多いのである。英皇戴冠式御參列の御名代宮隨員として、東郷、乃木兩大將が寄港された事は恐らく在留民が永久に忘れ得ない事實の一つに相違ない。

御渡歐の今上陛下を新嘉坡在留邦人が親しくお迎へするの光榮を有した事は、國民として之より深い感激はなかつたのであつた。そして御答禮使としてプリンス・ウエルス殿下が日本へ御渡航の途お立寄りあり、海岸で盛大なマボ展覽會が開催されたのも昨日の様に思はれるが、もうそれも十數年前の昔語りとなつたのである。寄港名士の思出をたぐれば全く切りがない。然し飯塚茂氏が藤山雷太、井上準之助、門野重九郎氏等財界一流の名士を次ぎ々と連れて來て親しく南洋の實情を紹介された功績は、必ず何時までも銘記さるべき事實であらうと信ずるのである。以下はほんの此處

一、二年に迎へた人々で尤も印象深かつたインタービュだけを集めて見たのであるが、幾らかこれも新嘉坡の特色を説明するたしにならうと思ふのである。

シヨオ翁寄港

世界一の皮肉屋バーナード・シヨオ翁夫妻三月二日（一九三三年）朝世界漫遊の豪華船エムプレス・オフ・ブリテン號で寄港、市内觀光もそこ／＼三日早朝更に東へと楽しい旅を續けた。流石に記者團との一問一答は辛辣な皮肉と諧謔のカクテルであつた。

「新嘉坡では騷擾罪に對して非常に嚴格な處罰が與へられるそうだね」と先づ翁は記者に矛先を向け、さて

「一體君達の云ふコムニニユストは本當の意味のコムニニユストのことかね。基督教徒であつて基督教の眞髓を知らない者が多いと同じで、コムニニユストと云つても多くは不平分子の寄り集りで、眞のコムニニユズムを理解もしてゐない癖にコムニニユストと稱してゐる類だらう」

「セレタの軍港、そんな所があつたかね。なんでも浮ドツクとか云つた大きな水溜りを製造してゐるやうな話を聞いたことがあるが、そこで着物でも洗濯する氣かね」

「まあ何と云つても新嘉坡は東西文明の接觸地點だ。そんな設備もゐるだらう」

「景氣は何時頃よくなりますかかつて、世界の終末は何時かと質問するやうなもんぢやないか。愚問だよ。察する所、記者諸君も不景氣なんだね」

と却つて記者團をからかい、日支問題に就ては、

「わしは何も知らない。歐洲で日支問題に深い認識を持つてゐる者は恐らく一人も無いだらう。支那には黨派や軍閥が多く、國情が複雑だから吾々歐洲人には到底理解出来るものぢやない。わしが支那に行つた時支那將官がわしを煽てあげても虐待してもわしはその問題に就ては一句も吐かない」と多く語らず「もう一度極東に来て見度いと思ひませんか」との間に對し、

「いや、わしは眞直に東へ行くだけだ。そしたらもとの古巣へ歸るのである。わしが此船に乗つたのは著述と休養の兩方の爲だ」

ともより此邊の記者では太刀打が出来ない。所謂愚問が尙盛んに連發されたが多くは軽く一蹴され、文豪ゴルスワージー翁の計報に暗然として甲板を彼方此方歩き出した。尙二百四十名に近い漫遊客を果せた同船には大分ナンセンスなエピソードが出来たらしく、カイロで結婚式を挙げんとしたが居住三年以上でなければならぬと斷られ、コロンボでも駄目、遂に餘儀なく船中で式を挙げ、新嘉坡に来て取るものも取敢ず教會へ走り込んだと云ふのもあつたそうである。

嘉納老師範を迎へて柔道大會の壯觀

在南邦人待望の嘉納老師範一行と、門野經濟會議顧問夫人令嬢等に乗せた郵船宮崎丸は、新嘉坡水道の急潮にはぐまれ向ふ島を迂回して十一月四日（一九三三年）午後四時半カンボンバル四番埠頭に定繫された。老師範は紋付袴で見上ぐるばかりの偉丈夫鷹崎六段と、ガツチリした北島五段の間に立つて高く帽子を振りつゝ多數の出迎へを感謝して居られた。船の入港が遅れたので挨拶の暇もなく飯塚氏は一行を總領事館の自動車に導きカトンへと急がせた。シービュ・ホテルに於ける田村總領事主催のアットホームには柔佛王、同妃兩殿下を始めオールドフィールド軍司令官以下、領事團等主なる外人代表二百餘名多くは夫人同伴で出席、總領事老師範を紹介後講演に移つたがとても七十五歳の高齢とは見

えぬ元氣で長い旅行の疲れも見えず、流暢な英語で「柔道の使命」に就て約四十分間科學的に理論的に、高く袴の股立をとり、鷹崎六段を相手に、型を實演しつゝ説明された元氣には、自づから内外人とも威敬の念に打たれずに居れなんだ。先日六十の還曆祝賀宴を催した柔佛サルタン殿下も、廿餘貫六尺近い偉丈夫を腰に支へつゝ諄々説明する師範の元氣を見て、これなら自分もまだく働けると非常な感激振りであつた。續いて渡邊氏と華人門弟の亂取、鷹崎北島氏の投げの型、赤塚三段の五人がけ、飯塚六段の亞米利加煙草會社支配人レベリ、佛副領事ハンド兩氏稽古、鷹崎六段の金子三段及び林田氏を相手の壯快な稽古を終り、七時過ぎプログラムを終り、休憩後更に日本紹介のフィルムを映寫し、非常な成功裡に會を終つた。

それから更に夜九時十五分からピクトリヤ・シヤターで觀迎大會開催、全く文字通り柔道の大豪華版で、外人連には新聞廣告が遅れた爲め折角入場券を買ひに行つたが賣切れだつたから、どうにかして呉れと總領事館に怒鳴り込む者さへあつた程の熱狂振り。ジョンリツトリの賣子も切符賣行きの物凄さに全く驚嘆してゐた程の盛況で、三階ギヤラリ、二階廊下まで解放、舞臺の上にも百餘の椅子を列べて熱望の同胞を入れ、満員立錐の餘地なき壯觀を呈し、開會のベル鳴り響くや満場起立、壯嚴な「君が代」のピアノの音に誇らかな今宵の喜びを胸に湧かし、飯塚講道館有段者會長日英兩語で開會の辭を述べ、紋付袴白足袋の老師範破るゝばかりの拍手に迎へられつゝ、鏢鏢たる溫容を青疊敷詰めた舞臺の眞中に現はし、再び鷹崎六段を相手に柔道の眞髓に就て説明實演を繰返し、更に師範考案の國民體操の説明を終つて愈々晴れの觀迎大會に移り、各選手今日こそ講道館柔道の父なる老師範の面前に日頃の手並を現はさんと勇躍、先づ吉田、高田、竹口、橋本無段組の亂取り、北島五段の審判で齋藤、澤田兩初段の一本勝負を行ひ、鷹崎、北島兩氏の鮮やかな投の型に觀衆をうならせ、藤村、平川兩初段の試合は引分となり、飯塚、鷹崎兩六段の「極め」の型を終り、杉山四段の五人掛りは渡南日淺く元氣一杯の杉山得意の左體落、釣込足、大外刈、返跳腰と藤村、澤田、平川、齋藤の四

初段を順次に薙ぎ倒し、最後の金子三段をも大外刈で見事にきまつて満場の喝采を浴び、赤塚三段と渡邊氏の試合は元氣な赤塚老巧渡邊を四方固めで打止め、續いて北畠五段の魚住、林田の稽古を終り最後に期待の焦點、恐らく新嘉坡としてはめつたに見られぬ飯塚、鷹崎兩六段の試合あり、雷燈照り映ゆる卅二疊敷の演武場の真中に突つ立つて氣合をねらふ兩雄の巨像に、二千に近い感激に満ちた觀衆の眼はいりつけられて仕舞ふた。炯々たる飯塚六段の眼からは焔が出さうである。然も歐洲の柔道行脚で、至る處ジャイアントを薙倒して來た元氣一杯の鷹崎六段は微笑さえ浮べて餘裕綽々たるものがあつたと機を得た飯塚六段エイツとあの太ッ腹も破れそうな氣合と共に、背負崩れ一本きまつて觀衆どよめいたが、鷹崎の顔面漸く紅潮するよと見るや素晴らしい釣込足、ドシンと飯塚倒れたが「何をッ！」と手負獅子の如く猛然踊り込んだが、既に飯塚疲勞の息使荒く、互に機を見て容易に仕掛けず、一寸押え込み氣勢を見せたが、何分病後の飯塚元氣はあつても身體が續かず、手に汗握らす試合を中止、酔へるが如き觀衆をホツと我れに歸らせ、急激の如き拍手を送り、斯くて内外人を魅了して十一時十分大會を終り、老師範一行は五日正午河尻庭球選手も同船で出發、五彩のテープ賑やかに湧き立つエールに送られつゝ、日本への船路を急いで行かれたのであつた。

柔佛王日本へ

三月十二日(一九三四)年午後五時日本へ向け解纜の郵船伏見丸の上甲板は、文字通り蟻のはひ出るすき間もない程夥しい柔佛サルタン、サルタナ殿下見送りの群衆で詰つてゐた。馬來王族高官のみならず、州内白人護謨園の支配人等も擧つて出征したのであつたらう。六尺ゆたかな堂々たるサルタンも、小柄で若々しい妃殿下も、流石に幾千と押掛ける人々の握手攻めに聊か困惑の面持ちであつた。

三五公司の小泉さん、南亞の吉原さん、越後屋の未亡人と弟さん等の見送りで邦人も非常に多かつたのであるが、

どうにも一杯の雜沓で仕様がなない。船でもとても手がつけられないので、四時半頃から銅鑼を鳴らして頻りに下船を促してゐた。斯くて六番埠頭は忽ちハチ切れさうな一杯の人、メインマストの頂上高く月と星の王柔國旗を翻へした伏見丸は、濛々たる黒煙を煙突から漲らしつゝ徐々にともづなを解いて、後部から埠頭を離れ出したのだ。小泉さん達の手に、内地の學窓に急ぐ魚住、水津兩嬢の手に確つかり握られてゐた華やかなテープが一本々切れて行く。

サルタン殿下も手を高く揚げて見送りに答へて居られた。汐風に焼けた片岡潜水王の黒い顔、印度佛跡參拜に色あせた緒方師の法衣の袖も何時までも翻へつてゐた。柔佛武官の金モール、黒いソッコ、華やかなサロン色とり々の洋服の波に交つて、日本キモノの色美しい模様が殊更ら晴手に目立つてゐた。

斯くて柔佛サルタン、サルタナ兩殿下は約二週間日本内地御滞在、關西及び東京附近各地御觀光の上米國經由歐洲へ向はれたのであつて、舊知の尾張侯へお土産として珍らしい馬來狼や虎等御持参あり。内地新聞は猛獸狩りの王様來ると書立て、殊に護謨會社も業績立直りで大分景氣が好くなつた折りでもあり、櫻咲く内地各所の觀迎振りがさこそと想像されたのだつた。

賀陽兩宮殿下御寄港

昭和九年三月廿日午前賀陽宮同妃兩殿下の御寄港を迎へたタンジョンパカ埠頭はサン／＼たる常夏の陽に冴へ返り、鏡の如く風たる海の緑の殊更ら色濃きを覺へ、お出迎へにつどふ在留邦人の面上包み切れぬ嬉しさに輝いてゐた。九時半時の御乗船靖國丸は殆んど満船の勇姿をすべるが如く倉庫六、七番埠頭に横たへた。校旗を先頭の小學校四年以上の生徒百八十名、御通路兩側に堵列、一般奉迎の在留邦人も亦それに續き御上陸を待つてゐた。聽て船長御先導、紅白の布で巻かれたタラップを御一行はランチでコーラン沖まで御出迎へ申上げた田村總領事の御案内で御下船、在留民

の最敬礼に一々御會釋あり。桐花御紋章鮮かな總領事館自動車にめされ、お付きの人々日會長等の自動車二臺、それに續き總領事官邸に向はせられ、御少憩の暇もあらせられず伺候の日會理事、大内博士、西村ドクトル、新聞、雜誌社長等に拜謁を賜はり、柴田陳列所長に日本品の進出状態等御下問あり。妃殿下また總領事、郵船、商船夫人等に何かと御尋ね遊ばされ、御氣嫌殊の外麗しく御歡談後、十二時小學校に向はせられ、暫時會議室にて御休憩、講堂に陳列された兒童の成績品御覽の上、鈴木校長より奉呈の學校一覽を受けさせられ、校庭正面に一段高くしつらへた御席に御起立、全校生徒の君ケ代を終り、有勲者、日會會評議員、學校職員の順に拜謁を賜はり、福田日會長の發聲にて兩殿下萬歳三唱、總領事夫妻及日會長の御案内で森野郵船店長、大矢靖國丸船長以下御一行ボンゴ清涼館にお成り三時頃まで御興深げに糸を垂れ給ひ、殿下大鯛六尾、妃殿下も亦三尾お釣上げあり、非常な御満足にて幾枚も御清遊の光景をフィルムに收められ、三時半歸途につかせられ、夜は民政長官の總督官邸に於ける非公式晚餐會に成らせられ御歸船、常夏の一夜をケビンに御寝み遊ばされ、廿一日午前八時總領事、日會長、西永三井店長以下を隨へさせられ柔佛バルに成らせられ、沿道塔列の同地在留邦人に御會釋あり。九時過ぎ乃士園御着俱樂部に御少憩後奥田支配人の御案内にて具に園内の作業御覽あり、御歸途柔佛政廳に御立寄遊ばされ、寺院及び博物館を御見學、正午十分前手に日丸の國旗をかざせる二年以上小學校生徒及び一般在留民の最敬礼裡に御乗船、サロンにて森野店長、日會代表等の御航海の安全を祈り奉る旨の送別の辭を受けさせられ、シャンペンの杯を高らかに舉げ給ひ、デツキに出られ、五色のテープ華やかに日丸の國旗漲る埠頭の光景に御感激あり。御みづから大國旗をかざされ、嵐の如き萬歳を繰返し、テープをお持ちになつて居られた妃殿下まで國旗を打振られ、十二時五分愈々解纜のサイレン鳴り響くや、再び殿下は君ケ代を歌ひ出され、船と埠頭と天地も裂けよと萬歳の聲頻りに湧き起り、猶も殿下は大國旗を打振り、「みんなしつかり頼むぞ」と絶叫され、はてはキャブ・ブリッチの屋根に登られ、妃殿下始め鈴なりになつて「螢の光」を合唱遊ばされた。餘り

の熱狂振りに流石の靖國丸も面喰つたものか、ゴースタンをかけ過ぎあはや船首を埠頭にぶつつけはせぬかとハツと思はせたが、漸くの事で嵐の如き萬歳の聲を振り切り、コースをちやんと立直し感激漲る新嘉坡を後に歐洲に向ひ出帆した。尙田村總領事は御一行を彼南まで御見送り申上ぐべく同船、宮殿下より日會、小學校及び少年團へそれ／＼金一封御下賜あり。特に福田日會長へも御紋章入カフスボタンの御下賜があつたそうである。

佐藤庭球選手の死

波暗きマラッカ海峡呼べど答へぬ永遠の謎

四月六日(昭和九年)午前九時廿分郵船支店長宛、栗田箱根丸船長から「佐藤次郎選手行衛不明、遺書により自殺と認む、搜索したが見當らず、追惜に耐へず、内地各方面へ通知済み」との無電が来たとの電話があり、彼南からも「佐藤氏搜索で入港が遅れ六時頃となり模範試合取止めとなつた」との電報が来た。とてもこの身體で一所に歐洲まで行く事が出来ない、三選手に迷惑を掛けては濟まないから六日出帆内地へ歸港の照國丸で歸る事にしたと突然云ひ出したのを、どうしても旅行に耐へられないなら兎も角、全日本の興望を擔ひ若い三人を激勵して世界争覇を目指し奮戦せねばならない責任を有して居るのだから、是非とも意を翻へして此儘航海を続け、例へ試合に出る事が出来ないまでも、せめて倫敦の三木氏に三人を渡すまでも面倒を見てほしいと、五日夜俱樂部の歡迎會席上田村總領事、高橋俱樂部副部長等と共に記者も繰返し、歸國を思ひ止まらせ航海を続けしめんと説得に努めたのは、首席選手たる氏にその責任を果たさしめんと強要したと云ふより、寧ろ強度の神經衰弱に長途の航海が最も好結果を齎すだらうと信じたからでもあつたのである。随つて病のことは仕方がないのだから試合や重大な責任に關しては全然心配する事をやめ、一日も速かに健康を恢復し、更に舊に倍する元氣を振ひ起して貰はなければならぬのだとも説いたのであつた。然も病的に思ひ詰

めてる佐藤選手の繰返し口にしたのは、既に自分は不具者になつて仕舞ふたのだ。廢人に等しいこんな悲惨な身體で生
てる事はとても耐まらないと云ふのであつた。そんな事があるものか、まだ若いんぢやないか病氣さへ癒ればすぐ元通
りになるのである、少しも心配せず元氣を取戻して一意健康の回復に邁進せねばならないのだと説いたのだつた。其處
で佐藤選手も出發以來今夜の様に朗かな氣分になつた事はありません。これなら行ける様です、いや御心配かけて済み
ませんでした、斷然歸國を思ひ止まり航海を續けますときツぱり言明、覺へず皆が萬歳を三唱したのでつた。そして玉
川へ行つてからもふさぎの虫に閉ざされてゐた憂鬱そのものとも云ふべき佐藤選手の顔に幾らか光明のひらめきすら見
てゐたのだつた。然も遂にそれは消へんとする燈火の見せた最後のひらめきに過ぎなうのであつたか。彼南着後船
長、事務長及び三選手等からの情報を綜合して考へれば、病的に蝕ばれた君の頭を一杯に占領してゐたものは、華や
かなりし過去の思ひ出と廢人としての慘憺たる前途の幻影、そして果すことの出来ない重大な責任にせめられて遂に死
を選ぶ以外に活路を發見し得なうと思はるゝのである。悲しき遺書は佐藤家、庭球協會、栗田船長、西
村、山岸、藤倉、三選手及び婚約の岡田早苗嬢に宛た五通で、新嘉坡着前既に死を決してしまつたことあり、「新嘉
坡に於て醫師の診断を受けた際航海に耐へられないことはないとの診断であつたのと日本庭球協會よりの激勵電により
照國丸で引返す事を斷念し、再び箱根丸に乗船したが最早や自分の攪亂された神經は旅行に堪へられない、三選手諸君
は自分の死に意氣沮喪することなく英國に赴き、日本の名譽の爲め飽くまで邁進、濠洲チームと一戦を交へん事を厚く
希望する。自分の肉體は消えても靈魂は常に三選手諸君の上にあつて護るから勝敗に拘泥せずスポーツマンとして立派
にプレーして貰ひたい」そして「左様なら」の一語で結んであつたさうである。新嘉坡から同室であつた山岸選手は、
「佐藤君は船窓近くに位置を占めてゐました。事實この二三日は良好の様で事務長が彼南の模範試合に出場するよう勸
めたところ佐藤君は同意した位で、私は佐藤君が依然船室に閉ぢこもつてはゐたが自殺するやうな事は豫想もしませ

んでした。あの長い遺書を何時書いたかも吾々は知りません、私が最後に佐藤君の姿を見たのはデナーの時、佐藤
君は船室で食事をしてゐました。私は佐藤君を室に残してデナー後も甲板で西村、藤倉兩君とデツキゴルフに打ち興
じ十一時半頃歸つて見ますと佐藤君の姿が見えませんが、それから大騒ぎになつたのです」と語つて居る。八時半頃まで
は確に佐藤選手はまだ船室にゐたが、やゝ舉動に不審な點があつたので、それとなく二人のボーイが氣をつけてゐたの
であつたが、山岸選手が室に歸り同君が居らない事を發見し、直ちに事務長に訴へ船員を總動員して船中限なく搜索し
たが姿を發見せず、兎角する中一通の遺書を彼の船室から發見し海中に投身自殺したものと判明、栗田船長は直ちに船
首を元に返して水夫を督勵しボートで投身推定箇所の海上を搜索する一方、無電で附近航行中の船舶に右の旨打電、海
上に注意する様懇請し百方手を盡したが遂に何等得る處なく、船長は悲しくも搜索をあきらめて再び船首を立て直し午
後四時半彼南入港、船上に祭壇を設けありし日の面影を偲ぶ二枚の寫眞を飾り、日の丸の國旗と愛用のラケット、ハン
ドバックを傍らに置き船員乗客、彼南在留民等の禮拜に香煙縷々として一しほ悲しみを誘ふたとの事であつた。投身し
たと思はれる地點はマラツカ海峡のポーツステンナムから廿五哩ワン・ファトム・バンク燈臺附近と見られて居る。
その前年はデ杯選手一行を乗せた伏見丸が彼南を出て間もなく船火事を出して大騒ぎをしたのだつた、呪はれたマラツ
カ海峡、我が庭球界の世界制覇に何んと云ふ大きな犠牲であつたらう。

澤田日印會商代表歸朝

日印會商主席代表としてあらゆる困難と闘ひ遂に交渉を纏めて假調印を了し、目出度い歸朝の途にある澤田代表以下
一行四名五月一日（昭和九年）正午過ぎ伊太利汽船コンテ・ベルテ號にて寄港、豫想してゐた程の面やつれも見えず頗
る元氣で田村總領事、西村日會長以下出迎への有志記者團を豪華な食堂に導き愉快に交渉経過や數々の思出を語られた

「七箇月半の印度のホテル住ひには全く閉口した、最初はシムラでそれからデリーで會商を續け、正式會合十七回、私的會談五十餘回、直接相對して交渉の衝に當るものは僕とボア長官であつた、總督、長官、何れも我々の立場を充分了解し實に良くして呉れたが、英本國の主張と雖も中々聞かないと云ふ有様で、雙方の間に板挟みとなり長官が随分苦しい思ひをして居る様子は氣の毒に耐えない様な場合も幾度かあつた。雜貨の關稅引上げは最初から覺悟はしてゐたが彼れ程思切つて上げるとは思はなんだ。人絹にはふれないとハツキリ長官が斷言してゐたのだが、それもあんな事になつて仕舞ふたのである。然し制限や極端な關稅引上げに拘らず日本品は綿布、雜貨共に依然として盛んに輸入されて居る。一昨年の最盛期に比べて綿布は四千萬圓程の減退に過ぎないのであるから幾分値上り等の關係もあらうが、寧ろ一般雜貨の輸入高は殖へて居るかも知れないものである。尤も痛烈な打撃を受けたのはメリヤスであつたらう。ボア長官は確に立派な人物で夫人はスコットランド人である。印度政廳の最高機關は英人三人と印度人三人の閣僚と軍司令官及び總督の八人で、印度人でも三人の長官は何れも堂々たる人々である。殊に總督の權威赫々たる事實は邦人では一寸想像も出來ないのであるが、總督夫人が亦實に良くして呉れ幾度も晚餐に呼ばれ、愈々今度歸る時態々見送りに來て呉れたがあんな事は殆んどない事だつたらしい。然し何と云つても熱い處で長いホテル生活であるから皆病氣をするし、非常に日本食を戀しがつたので、三宅總領事夫人が種々苦心して材料を買ひ集め時々御馳走になつたが、デリーでは日本米が手に入らず漸々孟買から伊太利米を送つて貰ふて舌鼓を打つたのであつた。シムラも避暑地で非常に涼しくはあるが七千尺の高地で息苦しく決して健康地ではない。尤もデリーに行つたら一番涼しい僕の部屋でさへ九十二三度外へ出ると百十乃至廿度と云ふのだからとても耐まつたものでない。が流石に總督官邸は見かけは甚だ悪い赤茶けた石造だがその石が熱を吸収して仕舞ふのださうで、常に室内は七十五六度なんだから驚いて仕舞ふた。尙市内外に残つて居る古城や宮殿に行つて見ると厚い壁の間に水をとをして實に巧妙な装置がしてあるのがあつた。それから愈々今度歸ることとなつ

てデリーから孟買まで特別列車を仕立て、呉れ、大きな氷塊を扇風器で吹きちらし絶へず涼風を送る様にしてあつたがそれでさへ列車内の熱度百四、五十度、氷のとけた水がすぐ湯の様になるのであつた。顔はそれ程やつれてゐないかも知れぬが實に瘠せたですよ。出來るだけ各方面の人々にも逢つて來たのす、交渉の結果に就ては種々議論もあるだらうが、兎に角話を纏めて來たのですから苦心だけは認めて貰へるだらうと思ふて居る」云々と語られたが折悪しく篠突く豪雨で上陸も出來ず、其儘船内で時を過し五時解纜晴れの歸朝の旅を急がれた。

長岡日蘭會商代表一行を迎へて

愈々六月四日（昭和九年）から日蘭會商が瓜哇で開かれるのであつて、長岡代表一行も廿九日商船サントス丸で新嘉坡に寄港するのである。日蘭會商は曩に和蘭で齋藤公使とコリン首相との間に下相談が行はれ、今年一月六日改めて和蘭政府から本邦政府に對し公文を以て申込みあり、四月四日武富公使より申込受諾の通告を發したものである。和蘭側の申込に従へば日本と蘭領東印度との間に從來長年に亘つて存続し來れる通商關係を更に緊密化するためバツイアに於て日蘭兩國政府の會商をしたいと云ふのである。蘭印と日本との通商關係は最近に於て特に顯著な發展を遂げた。即ち昭和八年度日本から蘭印への輸出一億五千七百萬圓、蘭印からの輸入五千五百萬圓の巨額に達してゐる。然も今これを和蘭側から見ると目國領土を日本商品に荒され手も足も出ない感なきを得ぬのである。恰度英國の印度に於けると同様である。其處で和蘭政府は昨年あたりから自國産業保護のため各種の手段を講じ始めたのである。第一は本邦麥酒、洋灰、綿布の驅逐である。驅逐策としては輸入制限を行ふたのであつて、この輸入制限は單に右三種に止まらず、日本品を目標として一般的に行ひ、輸入商は許可制となし一九三〇年を基準として行はんとするのであるが、日本の對蘭印貿易は極めて近年著るしい發展を見たものであるから、若し一九三〇年を基準とされたら事實上わが對蘭貿易は死滅に

等しく蘭印在留邦人の商權は殆んど潰滅する外ないのである。現に蘭印には七千人の邦人が居るのであるが若し一九三〇年を基準にして輸入商特許制を實施されたら、三井物産、三菱商事、日本棉花、江商、東洋棉花の五社に過ぎないといふ事になるのである（一方本邦品の取扱業者を見ると現在和蘭商館五割、日本人三割五分支那人一割五分である）だから若しも和蘭側の云ふ通りになつたとしたら、日本と蘭印の通商關係は頗る危胎に瀕せざるを得ぬのである。然もこの滔々たる日本品の侵入に依りて蘭印は果して損をして居るのであらうか。蘭印にはまだ工業らしい大工業は無い、蘭印土人の購買力は低く低廉な本邦品を是非とも必要として居るのであつて、此際日本品を輸入する事は蘭印自身のため有利なのは蘭印政府も認めてゐるが、然し蘭印を唯一市場として来た和蘭本國の紡績はじめ雜貨業者の立場も考慮しない譯には行かない、英國及び印度政府がランカシヤ綿業者にひきづられると同じ關係にある。詰り最近通商上に行はれた種々の手心は永久その儘にして置かうといふのではなく、日蘭會商折衝を有利ならしめんための準備工作が相應加味されて居るのである。然らば和蘭側のねらひ處であるバター・システムとはどんな事であるか、既に述べた如く蘭印貿易、輸出一億五千七百萬圓、輸入五千五百萬圓この間約一億圓の片貿易關係を調節すべく、和蘭側はもう三千萬圓程度に日本に買つて貰ひ度いと云ふのである。詰り輸入に應じ交換的に相應輸出もしたいといふのである。處で今蘭印から輸入品を見ると採油原料二百廿萬圓、砂糖千二百萬圓、石油——重油、原油を除く——千五百萬圓、生護謨七百萬圓、錫百七十萬圓、木材百六十萬圓等が主要なものでそれらを萬遍なく増加すれば問題は容易に片着くやうに見えるが、石油關係の商品は大體他國品に比し高いし、他の商品も夫々會社關係があつたり他の第三國との關係があつて、單獨に和蘭との關係を急激に變更すること困難な事情がある。然しそう云つてゐては話が纏まらないから何とか工夫する必要がある。砂糖だつて内地需要は臺灣で充分出来やうが更に滿洲、支那輸出に力を注げばも今少し瓜哇糖を買ふことが出来るだらう、石油も運賃を下げるとか或は輸入業者に一部を負擔せしめて其輸入額を増し得るだらう。通商はあくまで平

和的相互的であると同時に最も需要者側の立場を無視することは出来ないのである。蘭印に於て本邦品が驅逐され同胞が商權を喪失することは決して蘭印だけの問題ではないのである。現に新嘉坡の商賣は六分が蘭印相手である。今長岡代表一行を迎へるに當つて到底我々は餘所々々しい態度では居られない所以である。先づ代表一行に我々はこの緊密な關係を充二分に説明すべき機會を與へられんことを切望せざるを得ぬのである。

山室中將寄港基督教會で講演會

倫敦に於て開催の救世軍最高幹部會議に出席の日本救世軍司令官山室中將白人秘書夫妻を伴ひ、七月廿六日朝入港の郵船鹿島丸にて寄港、海森牧師等の出迎へを受け水曜會の午餐會に出席、午後二時半よりアデス路日本基督教會にて熱心な約四十名の婦人聴衆のため清い心を持つ喜び、職分を盡す喜び、他人に親切をなす喜び、神に信頼する喜びに就て心から頭の下る様な敬虔な講演をなし、更に夜八時より病軀を休む暇もなく一般のため講演會開催五十名近き出席者あり、古今東西の説話傳説を平易に引用、神を知る喜びを説き信者ならざる聴衆にまで最も深き感銘を與へ十時散會廿七日未明歐洲に向ふてその行を續けられた。

海洋少年團の和爾丸來る

盤谷訪問を終り十二日同地を出帆した海洋少年團の和爾丸十九名の健兒と正副團長、學術班十名及び醫師、通譯等同伴五千三百五十三漚を翔破九月十七日午後二時二本マストの純白な船體を颯爽として新嘉坡に入港、サット碇を下したのが恰度三時であつた。これより先き柴田總領事代理を始め西村會長以下日會役員、少年團幹部等マスター、アツテングダント棧橋よりランチにて同船を出迎へ、潮焼けした健兒隊の三指の敬禮を受けつゝ乗船、原團長より一同に紹介さ

れ遠路來航の勞をねぎらい、碇船中の日程を打合せ、五時馬來少年團のコンミツショナーたるカーレ氏もストリート・タイムス記者を伴ひ安藤ドクトルの案内で來船、堅く手を握つて挨拶を交換し、十八日總領事館訪問、柴田總領事代理の案内でカルデコット總督代理訪問、日本少年團からの贈物である可愛い日本人形を贈呈、柔佛バルを見學、十九日午前クリフオド・ピヤ上陸、團旗を捧げ市中行進日本小學校訪問し、學藝會を參觀、原團長の講話あり、午後一時より當地少年團及馬來ボーイスカウトの和爾丸見學を迎へ、午後五時より日本人會主催の歡迎會に出席、夜七時より小學校庭に當地少年團と交歡、廿日夕總領事官邸の盛大なレセプションに出席、廿一日午前十時パタピヤに向け出港した。

ポウエル卿とサーモンド氏の來星

新嘉坡は一九三四年も押詰つて二人の珍客を迎へ一種意義深いエキサイトメントを感じさせられたのであつた。一人は英帝國航空會社政府代表サー・ジョン・サーモンド氏で一人は世界少年團長バーデン・ポウエル卿である。サーモンド氏の來星は航空事業に關する馬來の實情と將來の施設に對する大方針を決定せんが爲めであつて、目的は英本國と南洋、濠洲の連結を緊密にし一層政治經濟關係を圓滑ならしめんがためであり、必ずしも軍事的調査に來たのではないであらうがセラタ海軍根據地建設工事の進捗に連れ、當方面の航空設備に相當改善を急ぐ要ある事實が多いであらうことは想像に難くない處であり、サ氏の來南がその點に關し最も重要な使命を持つて居るであらうことは疑ひをさしげさむ餘地なき事實であらうと信するのである。殊にサ氏は馬來半島並びに新嘉坡の海軍及民間飛行場を視察せるに止まらず廿九日スミス航空隊司令を伴ひ和蘭機で態々メダン方面まで調査に出掛けて行つたのである。普通の商業航空港としての新嘉坡の位置と重要性に對しては現在の處別に不安を抱く何物もないかの如く思はれるが若し航空機の航線性が更に一層延長され蘭貢から一飛びにメダン迄來、スマトラを横斷して濠洲に飛ぶ様になるとした

ら相當距離が短縮され、倫敦メルボルン七十一時間は更に短縮されるだらうと思はれるのであつて、其曉新嘉坡の位置は當然メダン方面に置き替へられねばならぬ時が來るかも知れないのである。東西關門の要衝としての新嘉坡の位置は大英帝國の富と海軍力を背景として、百年の榮華を築き上げ得たものに外ならないのである。單に地理的關係だけなら或はサバンが一層重要性を持つて居るかも知れないのである。隨つて新嘉坡が愈々自由港でなくなり商業港よりも軍港として益々その重要性が認められる様になれば、或はその繁榮は蘭領の新しい港に奪はれないとも限らないのである。新嘉坡は英國極東防備の扇の要として一層堅固に裝備さるゝ必要があるであらうが、同時にその仲繼貿易を更に一層繁榮さすべく施設されねば折角の根據地も中味は却つて何處かへ取られて仕舞ふ不安なきにしも非ずなのである。

軍事的にも商業的にも地理的關係は今では陸と海と空の三方面から慎重に考察されねばならない事になつたのである。十一月卅日の和蘭メールで歐洲への最後の降誕祭プレゼントが發送されたのである。實は波阿汽船はその一日前新嘉坡を出帆したのであつたが、倫敦着は却つて二日遅れて廿二日になると云ふのであるから競争にならない。斯くてクリスマス用品の賣行きも後は濠洲及び近所への贈物があるばかりで特種物がギリ／＼一杯飛行便で發送されるのが残つて居るばかりとなつたのである。和蘭の瓜哇アムステルダム定期航空事業の發展に對し甚だ英國の當方面に於ける航空施設が遅れて居る事實は英國下院の問題にすらなつて居るのである。隨つてサーモンド氏の視察結果は相當期待さるべきものがあるに相違なからうと信するのである。

ポウエル卿の創始したスカウト精神は少年に剛健實實な氣風を養成せしむると共に、祖國を愛するが如くに世界の平和を確立すべくあらゆる犠牲をいとせず平和運動に奮闘する崇高な精神を涵養せんとするのであり、今やスカウト運動は國境を超越して世界至る處に發展して居るのである。然も世界平和とは決して國境を掃蕩してコスモポリタンとなる思想ではないのであつて、國と國とが仲良く喧嘩をせず仲善く喧嘩をせずに交際して行くといふ主義に外ならないので

ある。だから確乎たる祖國愛を持つて居る者でなければ眞から世界の平和を祈ると云ふ心は出ぬのである。

ポウエル卿が濠洲の百年祭を機として内地で舉行される世界少年團大會に臨場の途程々馬來を巡視し、親しく當方面の少年、少女團を檢閲されるのも決して意義がないとは思はれないのである。あらゆる人種と國民の交錯した少年團をどうしたら本當に立派な英國のスカウトとする事が出来るであらうか。それが究極の目的であらう事を我々は信じて疑はないのである。印度は英帝國の領土であるから勿論そのスカウトは最も立派な英國のスカウト魂に育て上げられて居るに相違ない筈だが、果して實際はどうであらうか、況んや此處で生れ、此處で育つたからと云つても支那人に英國魂を持たせることは到底出来ないのである。支那人は支那人、印度人は印度人、日本人は日本人、それで良いのである。色も思想も感情も悉く違ふ少年が互ひに仲よく競ひ勵まし合ふて經濟的發展と世界文化の向上に全身的努力を惜しまぬ、純眞なスカウト精神を養成され、ば良いのである。唯最も困るのはこんな雜駁な處に育つと英國人でもなく、支那人でも日本人でもない何處の國の者か判らぬコスモポリタンになつて仕舞ふ事だ。海外發展の最も苦しむのはこの問題であるのである。

三六、久邇、伏見、朝香三殿下

御乗艦の練習艦隊寄港

昭和九、十年度候補生百六十餘名を乗せた司令官中村龜三郎少將麾下の練習艦隊淺間、八雲兩艦には久邇少佐宮と伏見、朝香兩候補生宮の三殿下御乗組あり、三月廿八日午前八時四十五分濃霧を穿つて軍艦旗晴れやかにクリフオドピア沖に投錨、軍艦見ゆのけた、美しい電話を受け、シルクハットに威容を整へた郡司總領事以下出迎への日會理事、新聞記者團等正八時半政廳ランチ、キングフイツシャ號にて港務局棧橋發、プロブレニー砲臺と禮砲交換を終つたばか

りの旗艦淺間訪問、伏見宮博英王殿下に拜謁、中村司令官に入港の喜びを述べ、幕僚と碇泊中の日程に就て更に詳細なる打合せをなし、殷々たる總領事に對する禮砲に送られ八雲に至り、久邇宮朝融王殿下並に朝香宮正彦王殿下の御機嫌を奉伺し、日會役員以下はその儘クリフオドピアに歸り、總領事は司令官の公式上陸の案内をなすべく再び旗艦に向ふた。

軍艦ではそれから引續き軍司令官、空軍司令官及び海軍監督官の訪問を受け斯くて十時中村司令官は總領事並に幕僚を隨へ、軍樂隊の奏樂に迎へられ約一小隊の英國陸軍兵堵列せるピヤに公式上陸、禮裝に長劍いかめしい軍司令官以下の出迎へを受け、閉兵を終り直ちに政廳差廻しの自動車にて總督邸を訪問した。尙今度は特に棧橋構内に日本小學校職員生徒の整列出迎へを許したので、兒童の喜び一方ならず、中村司令官また小學生に微笑の敬禮を以て好意を謝したの嬉しい光景であつた。

午後二時より小學校に於て吉田商品陳列所長代理の「馬來の經濟事情と日本商品の將來」なる講演あり、伏見、朝香兩殿下は二時ピヤ御上陸一足先きに自動車にて學校に御成りあり、鈴木校長より學校に關する説明御聽取、校内御覽後校庭にて職員生徒一同の敬禮を受けられ、候補生は徒歩にて日の丸の國旗さはやかに翻るミツドル路を経て來校、兩殿下と共に大講堂を眞ツ白に埋めて四時半過ぎまでかゝつた長講演を熱心に傾聴し、五時半から俱樂部に於て開催された日會主催の歡迎會に出席した。尙總領事官邸に御滞在の久邇少佐宮には廿九日午前九時廿分附武官その他を隨へさせられ小學校へ成らせられ、校庭正面に設けられた御座所に御起立生徒の敬禮を受けられ、特に職員に拜謁を賜ふた。又中村司令官は兩艦長、幕僚を隨へ同日午前八時宮殿下御成りに先立ち小學校訪問講堂に四百の兒童を集めて簡單な訓話をなし、それよりスラングン共同墓地に參拜、空軍司令官答禮、ボンゴル清涼館に於ける日會理事主催の歡迎宴に出席した。

何しろ三殿下御列席の光榮に湧く俱樂部の歡迎會は在留民の出席申込み二百四十餘名と云ふ近年見ざる多數に上り、主客合せて約五百、正面に伏見、久通、朝香三殿下と總領事、その右に中村司令官、大河内、杉山兩艦長と列び來賓も此方の出席者もぎツしりその前に立つて、西村會長の歡迎辭に次ぎ汐風に鍊えた朗々たる司令官の謝辭あり、總領事發聲にて帝國萬歳、西村會長發聲で海軍萬歳を高く杯を擧げて各三唱し、周圍に設けられた壽司、おでん等の模擬店に突貫、三殿下も總領事、會長等と椅子に御着席あり、おでんのくしをお持ち遊ばされ麥酒の杯を乾され、八時より總督邸晚餐會に御出席のため司令官、總領事等と共に御退席、料理屋組合、佛教婦人會總出の接待に若き候補生連も充分健啖振りを發揮し、最後土俵上に整列、勇壯な「皇軍の歌」を合唱、感激に満ちた歡迎會を終つたのは八時半過ぎであつた。

久通宮殿下には廿九日ボンゴロの午餐會後三時半から海上、石垣兩氏御供申上げアイランド俱樂部に成らせられ、星崎、近本兩氏を御相手にゴルフを遊ばされ、セコンドコース十番目ホールから物凄く當りを見せられ、十七番目ショットホールでピンの近くへワン・オン・グリーンを遊ばされ、見事なプレイに外人拜觀者を感じせしめ給ひ、二時間程して夕陽映ゆる官邸へ御歸り遊ばされ、八時からアデリツヒホテルで開催された總領事主催の晚餐會に候補生宮殿下と御一所に御出席遊ばされた、同夜はカルデコツト民政長官夫妻以下外人側の出席者も四十名に達し軍樂隊の演奏一層の興を添え十時半三殿下御退席後も尙盛況を續けてゐた。

廿九日午後四時から小學校講堂に於て海軍々樂隊の演奏會あり、卅日午前八時ビヤ上陸候補生一行六十五臺の自動車を通らねて士乃護護園、柔佛バル見學、久通宮殿下は更に牧野東拓園支配人を隨へ給ひ淡水魚御採收あり、尙馬來特有の揚羽蝶の一種パピリオ・ブルキアナ・アルベセンスの標本をお求めあつたが當地博物館には豫備品なく、吉隆坡博物館に照會の結果、非常の光榮として直ちに館長より見事な標本を送つて來たので殿下も殊の外の御喜びで、御紋章入り

銀のシガレットケースを早速館長へ御下賜遊ばされたと承る。

更に卅日午後二時半より小學校講堂に於て龜田大尉の海軍講話あり、中島大尉は水泳選手廿數名を引率してエミリー丘プールに來場當地邦人選手と水泳小會開催、同夜六時より俱樂部道場にて壯烈を極めた柔劍道試合を見せ、八時から俱樂部前庭で映畫會開催、大盛況裡に十一時過ぎ閉會。

卅一日午前九時より聖ジョセフ校庭で軍艦對青年軍の野球戰あり、朝香宮殿下の台臨に兩軍選手の士氣彌が上にも揚り、海軍側必死の攻防も練習不足が青年軍の好守猛打に壓せられ十三A對二の慘敗に終つた。

在泊四日候補生等は柔佛見學の途中一寸雨に逢ふたと云ふが、新嘉坡は碧空拭へる如き快晴に恵まれ在留民何れも海軍デーの喜悅を滿喫、愈々卅一日午後三時から旗艦淺間でお別れのアットホーム開催、在留民の出席九百廿餘名と云ふ盛況を極め、八時から更に歡迎委員及び主なる在留民を迎へ最後の晚餐會開催、國際交歡に在留民との親睦に充二分の効果を擧げ、一日朝六時曉の風に輝く軍艦旗を翻へし威風堂々バタバヤに向け出港した。

尙出港に際し中村司令官より總領事及び日會長宛鄭重な感謝狀が發表され、案内や接待に寢食を忘れて奔走した佛教婦人會や少年團等へも夫々感謝狀と記念品が届けられ、久通宮殿下より日本小學校へ獎學資金百圓、日本人會へ御紋章入銀製花瓶一個御下賜、中村司令官より小學校基金へ二百圓、日會、小學校及俱樂部へ三笠艦上の東郷司令長官額用寫眞一葉宛寄贈、龜田大尉より教材として小學校へ帝國戰團艦及び飛行機の掛圖が寄贈された。

苦熱の行程五萬キロ松島巡閱使歸へる

中央亞細亞諸國及び近東巡閱使松島大使一行、南米經濟使節關圭三氏等多數在留民に迎へられ五日(昭和十年十月)午後郵船宮崎丸で寄港、松島大使は行程實に五萬キロ七月一日盤谷から國際列車で來星、三月に餘る焼くが如き苦熱の

旅に日焦けた雙頬流石に憔悴の跡いたゞしいものがあつたが、それでも中々元氣よく出迎へた記者に語る。

「ホテルの設備などお話しならず、交通機關も甚だ不完全で自動車の窓を開けると熱風で忽ち汗が蒸發して仕舞ふ。何しろ渴を覺へること甚だしい熱砂地帯の旅行の辛さといつたらなかつた。然し大體豫定通り任務を果して漸く此處まで歸て來たのでホツとしたのである。印度のカラチからアフガニスタンの首府カーブルに至り、又孟買に引返し海路波斯のブシルに渡りイラン高原を自動車で三日、首府テヘランを訪問、メソポタミヤをチグリス河に沿ふてバグダットに出で、鐵道及び自動車を利用しシリヤを経て土耳其に渡り、アンゴラからアレキサンドリアに渡り度いと思ふたが便船の都合悪く、再びシリヤを通りパレスティンを経てポトサイドに出で漸く宮崎丸に間にあふたのであつた。飛行機なら餘程樂であらうが一行四人相當荷物があり、兎に角特別に仕立てると一萬四千弗もとられるので到底利用することが出來ず苦しい自動車旅行を續けて來た。然も潮の如く一時輸出された日本商品も至る處バーター制敷かれ買つて呉れるだけ輸入を許すと云ふことになつたので、僅少な棉花位なもの、阿片や絨氈なんかそんなに日本が買へる筈なく前途甚だ見込みなき物となりつゝある。殊に海のないアフガニスタンへ我國から直接輸出は殆んど不可能で印度から現在一千萬圓程度の間接貿易が行はれて居るのである。

波斯は首府のテヘランに眞先きに三菱が乗込み相當商賣をやつてゐたので、三井もすぐ出張員を送つたが間もなくバーター制發布され、邦品進出の希望は殆んど絶たれて仕舞ふた。石油はあるがあれは英波石油會社の獨占で波斯の貿易勘定に入らないのである。何しろ地理的關係でソビエト露西亞の勢力が強くと、且國境を接する北方が購買力もあるのであつて、海から入る日本としては南部の貧弱な地方が相手であるから一層どうにもならないのである。シリアパンスティンは佛英の委任統治國で日本が國際聯盟を脱退したので最惠國待遇を受けることが出來ず、土耳其も盛んに日本品を輸入してゐたのであつたが例のバーター制で棉花と阿片を買ふだけ僅少な綿布雜貨の輸入數量が許可され

て居るに過ぎないのである。之を要するに中央亞細亞も近東も買ふてやる物が無いのだから、如何に民衆が低廉な日本品の輸入を希望しても輸出することが出來ない、のみならず至る處で聞かされた事は邦商がどん／＼無茶に値段を下げるので危険で日本品を扱ふ事が出來ない、少し賣れると思ふとすぐ外の日本商人がより安い値段で持つて來る。ストックが出來るとメチャ／＼に投資をやるのであるから到底危険で日本品は扱へないと云ふのであつて、最も切實に輸出統制の必要を痛感して來た」云々。

尙大使一行は同夜三菱の晚餐會に招待され、引續き喜樂の學士會觀迎會に關南米經濟使節等と共に出席、六日午後解纜歸朝の船路を續けた。

日埃會商代表笠間公使一行寄港

日本埃及通商條約改訂會商代表笠間果雄公使、相村商工省貿易局事務官、池田外務省翻譯官、民間綿業代表原日本紡績綿布主任、瀬川日本棉花アレキサンドリア出張所長同伴十月（昭和十年）一日入港の郵船靖國丸にて寄港、鼻眼鏡をかけた如何にも外交官らしい風采の同公使は次ぎから次ぎと名刺を出される多數の出迎へに應酬しつゝ、甲板に立つた儘愛想よく記者の出問に簡單な答を與へて呉れた。

「會商を目前に控へ埃及が突如綿布關稅從價四割引上げを發表したことは大分日本でも騒がれてゐたが、彼れは最初からの約束で一ヶ月の輸入額が規定以上超過した場合は爲替差額だけ關稅を引上げることになつてゐたので何も會商を目指しての行動ではない。然し日埃會商の前途は中々多難である。印度と事情を異にし相應棉花を買ふからそれだけ綿布輸入を認めて呉れと云ふ譯に行かない、と云ふのは埃及棉は良質で成可く日本に賣り度くない。全部でもマンチエスターで買ふとけしかけて居るのであるから甚だ話が仕憎い。まあ日印會商と日蘭會商のまん中位ひなものではな

いかと覺悟して居るのである。どの位かゝるが勿論豫想も出来ない。季節としては今から三月頃までが一番好い時であるが、非常に物價の高い處であるし吞氣に見物等して廻る暇はもとよりないだらう」
相村事務官もまた

「我對埃及貿易は本年度四百四十萬圓の入超を示し綿織物輸出の躍進と共に我實綿及線綿の印度に次ぐ原料供給國となりつゝあり、重要輸出市場の一で今回の會商の結果如何に依つては直に停頓中の日蘭會商並に近く條約期間満了の日印通商條約再締結問題にも影響する虞れが充分あるので頗る重大視されて居るのである。相當波瀾は免れ得ないでせう」

と語つてゐた。一行は同夜總領事館邸の晚餐會に出席二日正午多數在留民に見送られ重任を雙肩に荷なふて一路カイロへの旅を續けて行つた。

軍縮全權寄港

倫敦海軍會議に出席堂々所信を主張遂に軍縮會議脱退を宣言して歸國の途にある主席代表永野修身大將及永井松三大使以下一行廿一名二月(昭和十一年)廿二日午前九時入港の郵船管崎丸にて寄港、山の如き巨軀に張り切る元氣を見せ内外記者團をサロンに導き卒直に質問に答へ

「日本の平等案が簡單に受け入れられ様とは最初から思はなかつたが、日本の主張が飽く迄公平妥當なものである事を今でも確信して居る。然し脱退したから直ちに建艦競争が始まる如き事は恐らくあるまいと思ふ。イデン外相が日本脱退後香港の防備強化を説いたつてそれはお勝手だが、お互ひ東洋平和に害ある様な事は慎みたい。勿論日本は將來の國際會議も世界平和の爲めなら大いに協力するに相違なからう、佛蘭西、伊太利もまだ云ひたい事もあつたらうが

國力が伴はなければそれも出来ない。華府會議は勿論先年の倫敦會議までは日本もそうであつたが現在の日本の國力は比較にならぬほど強くなつてゐる。一昨年暮れ日本が華府條約廢棄を通告した時から既に今日あるを覺悟はしてゐた、然も軍縮に對する帝國の方針は終始一貫不動で最初からチャンと腰がきまつてゐた。御覽の通り田舎者だから懸引は知らんからね、其點は非常に氣が樂だつた」
と呵々大笑、一行は總領事官邸で晝食、ゴルフや市内見物に案内され夜六時から玉川の水曜會觀迎會に出席、夜十時半やかな見送り裡に出帆、一路歸朝の船路を急がれた。

高濱虛子氏と横光利一氏歡迎句會

佛壇の大御所高濱虛子氏父子と小説界の鬼才横光利一氏を乗せた郵船箱根丸は設備改善の第一船として船脚も軽く、三月(十一年)四日午前八時半タンジョンパリー十八番埠頭に纜を繋いだ。星坡句界にこの劃期的喜びを迎へて石田敬二ドクトルを始め東森たつを、山縣岳人氏等タラップを馳上り、上ノ畑楠窓機關長の紹介で直ちにプログラムを決定、敬二、たつを兩氏の案内で横光、楠窓兩氏も同伴自動車を飛ばしてセナイ園訪問、親しく護謨のタツピングから工場まで見學、態々苦力に椰子酒をとらせ珍奇な南洋の自然を句帳に盛つて歸路柔佛バル見物、王宮及び回教禮拜堂を訪ひ新嘉坡に歸り玉川で晝食を終り、市中をドライブして五時過ぎ植物園の吟行に参加された。

待ち構へた同人廿餘名、池畔をそゞろ歩きながら切りに句作に耽りつゝあり、先生は鐵無地の羽織、袴白足袋と云つた純日本式のいでたち、令嬢章子さんの華やかな洋裝、横光氏の麻袋の背廣服と凡そ色彩的にも新鮮な印象を受けないでは居られななのであつた。斯くて巨匠を迎へ感激沸く一同池を背景に記念の撮影をなし、熱帯植物について空葉、北浪子等の詳細な説明を聞きながら池畔を一周、今を盛りと咲き誇る蘭室を廻り珍らしい無憂華の花を賞し園内を自動

車で一巡、野猿の群遊せるを見て再びカトンに向ひ喜樂ですんぼんの鋤焼で夕食をなし、引續き觀迎會開催、新嘉坡
句界空前の盛況裡に箱根丸に歸船の先生の自動車を見送つたのは十一時過ぎであつた。先生一行は更に五日午前スラン
グン共同墓地に長谷川二葉亭の記念碑を弔ひ、正午多數同人の見送りを受け彼南に向け出帆された。

晩涼や栗鼠現はれて飛ぶ芝生

虚子

晩涼や大海椰子の蔭に立つ

同

マレー人夏木の蔭に一人づゝ

同

鯉怒る上には紅の花鬘

利一

熱帯の日落る椰子の林かな

同

水牛の車入りけり佛桑華

同

斯くて巴里で作曲修業中の令息友次郎氏に逢はれ獨逸、英國のペン俱樂部の招待を受け各地で日本特有の俳句を説き
非常な感銘を興へ、五月卅日また箱根丸で歸朝の途再び寄星、山口三菱支店長、奥田士乃園支配人、志村ドクトル及び
玉木北浪議氏に出迎へられ、長途旅行の疲れも見へず頗る元氣で上陸、山口、奥田兩氏の案内で玉川に到り涼しい海樓
で午睡後按摩を呼び五時過ぎからボンゴ動物園を見物し七時日本人俱樂部の歡迎會場着同人諸子と會談、森野郵船店
長の招宴に出席、互選を終つた處へ先生一行再び來着、直ちに選句を始められ十時半句會を終り楠窓子先生に代り歐洲
巡歴に就て感想を語られ箱根丸に歸船されたのは十二時過ぎであつた。

雲の峰湧き出すよし按摩とる

虚子

蟻の居る夕汐満ちぬ椰子涼し

同

火を焚いて居るも涼しや椰子林

同

帆船あり淺瀬越しかね雲の峰

同

チャップリンファイアンセ同伴來星

やつと廿一になつたばかりの新らしい情人ボーレット・ゴダード嬢とその母親及び米森義人秘書同伴、チャリー・チ
ャップリン三月(卅六年)十八日午後四時プレゼンント・クーリツヂ號で二度目の來星、そぼ降る雨にもめげぬ埠頭一

杯の出入に湧き立つ中を白麻服にフェルト帽、黄色ネクタイといつた瀟洒なスタイル、列んだゴダード嬢は小麦色のピ
チビチした近代娘「今度は全く休暇旅行です、新嘉坡は滞在四日、廿三日飛行機で瓜哇に飛びパリ島見物、馬來の風
光や色々珍しい動物を見たいと思つてゐる。結婚なんて私事は聞かずに置いて下さい」と無遠慮な記者團の質問に答
え其儘上陸、アデリビヒホテルに到着し暇もなく水泳俱樂部に出掛け、夜は新世界見物、十九日は人力車を支那人街に
走らせ、廿日舊知の少年感化院監督ジョンソン氏に招かれ感化院訪問百五十名の少年達を喜ばせ、午後キツピトルレ・
ストラトに開かれた柔佛トク・マコタ殿下主催のテーパーターに招待を受け、夜はまた新世界に行つてボクシング見
物廿二日夜から開催のアマチュア拳闘選手権試合にカツプを寄贈し、キャバレーで軽くルンバを踊り至る處で人氣を湧
かせ廿三日瓜哇へ飛んで行つた。

暹羅訪問經濟使節安川團長以下來星

三月(昭和十一年)廿四日盤谷着、日暹親善の大使命を果すべく約四週九十度を越ゆる暑熱と戦ひ各方面と交歡、
多大の効果を擧げ十九日訪問團を解散、瓜哇觀光を思ひたつた團長前三井物産筆頭總務安川雄之助氏、山崎物産社員同
伴四月廿日午後六時和蘭旅客機にてセラタ着、松本三井店長、飯塚茂氏内外記者團等の出迎へを受け、三井の招宴に出
席、シー・ビュ・ホテルに一夜を明し、廿一日朝同機にて瓜哇へ出發、廿五日又飛行機で盤谷へ引返し廿九日同地出帆
の乾隆丸で歸朝、老來意氣益々壯んな安川氏は着陸直後の惶危しいうちに記者團の質問に應じ、

「乗船の出帆が延期されたので瓜哇の涼しい處へ行つて一寸静養して來たいと思ふたのである。今回我々使節團の仕事
が失敗に終つた等と云ふ者もあるらしいが、行つて直ぐ話が纏まると云ふ種類の使命でなく、仲々そう簡単に實績を
擧げ得るものでもない。我々日本人が考へてゐる處と暹羅の人達が考へてゐる處とは大分食違ひがある事も判つた。單に

暹羅のみに限らず貿易調整と云ふことは必要で、我々も此點に重點を置いて充分視察研究して来たのである。暹羅米の輸入禁止も緩和され今年には相當買付けられると思ふ、棉花栽培は短時日で成績を擧げる譯には行かない。外に有望な輸出品があれば兎も角日暹貿易調整は一朝一夕に解決出来る問題ではなからう、クラ地峽問題、それは既に古い話でせう」

とストリート・タイムス記者の質問をあつさり打消された。尙同夕六時一行の臺灣製糖の城戸崎、スマトラ興業の岩田兩取締役汽車にて來星、城戸崎氏は「氣分的には今度の旅行は滿點の成果を得ました。確信した事は暹羅朝野の日本に對する認識が豫想以上深いと云ふ事であつた。私の方の營業參考にもと製糖情況について出来るだけ注意して調べて来ました。去年あたり政府も糖業擴張に外國資本の提供を大分運動してゐたそうです」云々と語り、岩田氏も亦「別に私としてお話する様な事はありませんが、現在の暹羅農業はまだ「發展の餘地が多い、米とチーク材を除いては全く幼稚そのものです、然もチークの伐採権は目下英國系會社が握つてますが、三年後右伐採権も期限が切れるから、そしたら公平の入札が行はれるでせう、暹羅高官の素晴らしい歓迎振りには驚きました。實に十何回の盛宴を張つての歡待に全く春爛漫の氣持ちになつて仕舞ひました」云云、更に三菱重工業の元良工博は廿三日の英國機で、副團長淺野良三氏は廿四日入港のトトラル號で來星した。

人氣者の悦ちやんや小林一三氏等寄港

郵船棒名丸は人氣者の悦ちやんを始めガルミツシユのオリムピック大會に出場した氷上選手一行や、東電、阪急社長で寶塚小女歌劇の育ての親である小林一三氏等多數名士を滿載して四月四日午後四時半入港、小林氏は小柄な白髮童顔に人懐こい笑みを浮べつゝ、記者團に語る。

「何しろ始めての洋行だから見るもの總て珍しく到る處で好い參考になるものばかり見て来た、米、英、佛、獨各一ヶ月餘の滞在で露西亞には去年十二月行つた。ジョセフィン・ペーカーに米國の興行先きで逢ふたが別に招聘に關する話等はしなかつた。米國が景氣が悪くなれば是非日本に行つて見度いと云つてゐた。今度の旅行で特に感じたことは歐米が非常に貧乏になつたと云ふが、貧乏の程度が日本とは全然違ふ、國威發揚も結構だが是非日本は國富の増進に全努力を傾倒せねばならないと痛感して来た、統制經濟必ずしも悪くない、今迄の様な無茶な海外貿易ではいけないが餘りに統制を強調し何んでも國營と云ふ様な遣方は決して國を富ます所以でない事を実際に見て来た。最近日本人は聊か自惚れ過ぎてゐる、まだ「歐米に學ばなければならぬ」事ばかりである。尙今度の旅行で最も收穫だつたと思ふのは獨逸の宣傳省と日獨文化交流を約束して來た事で、第一に獨逸の音楽、低俗なジャズでないワグネル等高尚なものやオペラを日本に紹介し、日本からは歌舞伎芝居を送り度いと思つてゐる。今獨逸は非常に親日氣分が濃厚であつた」云々。

豆選手稻田悦ちやんは船中の人氣をさらつてはしやぎ廻つてゐた。大石スケート監督は語る「冬季競技は歴史が浅くオリムピック出場スケート二回スキー三回目ですから成績に就ては何等語るべき言葉を持ちません、唯感心させられたのは大會の組織です、開會式にはヒットラ總統粉々たる雪中に立つて力強い宣言をやりましたが、流石にナチス獨逸何處までも軍隊式でドシ／＼準備を進めて行つた處は、とても何處の國でも眞似が出来ないでせう」次に廣田スキー監督一々選手を紹介し「オリムピック出場前諸君で暫く練習させたのですが其時は皆調子好く、相當のレコードを出したので非常な評判を立てられ却つて固くなり過ぎて一層成績を悪くした様です、龍田がジャンプでレコードを作りながら轉倒したのは全く残念でした」云々と語り何れもハチ切れそな元氣であつた。尙小林氏は同夜玉川の水曜會招宴に出席五日午前悦ちやんもおとうさんに連れられ市中見物、龜屋でお土産等を買ふて正午多數の見送りを受け色取々のテープ

華やかに出帆、晴れの凱旋の旅を續けた。

ペン俱大會出席の藤村有島兩代表

商船リオデジヤネロ丸は最近としては珍らしいブラジル行移民八百四十二名の多數を乗せて七月廿六日朝八時入港、九月五日から十三日までアルゼンチンのブエノスアイレスで開催される世界ペン俱樂部大會出席の我代表島崎藤村氏夫妻、有島生馬畫伯を始め新婚の夫人同伴サントス東山農事支店へ赴任の前デ杯選手藤倉二郎君等々を乗せ埠頭一杯の出迎へに華々しい上陸を前に島崎、有島兩代表は記者團に取圍まれながら物靜かに左の如きインタビュを與へた。

「今回の大會は第十四回で英國のウエルス、佛國のデードとクロードル、白耳義のメーテルリンク、獨逸のデワナツ、伊太利のクローチエ、西班牙のヴァチン等一流文士ばかりが卅名程出席するのである。私等は大會を終りブラジルに入り同胞移民の最も多い地方を廻り大和言葉を第二世が忘れない様人丸、業平、實朝、西行歌聖の和歌を碑にして適當な處に建てるため歌を書いて持つて来た、二人はそれから北米に渡りボストンと紐育で用事を済まし、有島畫伯は更に伊太利へ講演の旅を續け、藤村翁夫妻の旅程は今のところまだ決定してゐない」云々。

と語り大倉農園の三宅氏の案内でスラングン共同墓地に至り二葉亭の碑に花輪を捧げ、市中をドライブし飯塚氏邸で晝餐、ドリアン香りも味はひ、夜は更に飯塚氏の案内で玉川に同船者十數名と共に招待され南國の話に夜を更し、廿七日朝小學校訪問、多數在留民の見送りに華々しい別れを告げ長い船路を急がれた。

文部省練習船海王丸來星

地方商船學校九校の航海科終了生六十四名を乗せ五月二日芝浦出帆、裏南洋から濠洲、瓜哇を廻り八十六日約七千海

里を帆走して文部省練習船海王丸は七月廿六日夜十一時過ぎ入港、同船の來港を待構へてゐた日會では廿七日朝池田日會副會長、大内理事會議長、小澤幹事等ランチで同船訪問遠路來航の勞を犒ひ、卅日俱樂部の歡迎會に出席、八月一日午後二時半から四年以上小學校生徒及在留邦人の主なる人々百餘名を船上に迎へ、壯快な操帆實習を見せ盛んなアットホームを開催し、殊に二日日俱大運動會に選手を出場せしめて盛況を添え三日朝出帆、一路故國への歸路を急いだのであつた。

伯林第一報もたらし西條江口兩氏寄港

詩人西條八十氏と作曲家江口夜詩氏が九月五日郵船香取丸伯林オリムピック大會の第一報を齎して寄港、同窓の化住氏等に出迎へられ上陸、玉川で東京音頭の踊を習ひ六日午前護謨園見學で存分に南洋情緒を味ひ、日俱募集部歌の選を引受け一路歸朝の旅を急いだ。桑港、ローザンゼルス、ハリウッドに遊び親しく米國西海岸の二世邦人に逢ふて來たのだが、顔だけが日本人で喋るのは英語、餘りにその日本人離れして驚いて仕舞ふた。汗水垂らして金を貯めた親達の氣持が全く考へさせられるのである。今度のオリムピック大會はヒットラが世界を對手に打つた大芝居である。ヒットラが來ると外國人までナチス式の敬礼をさせられる。實に宣傳上手で、獨逸の女子選手が勝と自分の椅子の傍に腰かけさせたり芝居氣たつぷりで、獨逸人は競技そつちのけでヒットラの方ばかり見て有様であつた。然しスポートには全然門外漢の僕等も田島が三段跳に優勝し、日の丸の國旗が中央のポール高く飄へり、グリユネワルトの森に訝して君が代が合唱された時には覺えず目頭が熱くなつた。棒高跳は八時頃までかゝつた。メドウスと大江、西川の争覇戦で何萬燭光下に曝された肉體と肉體の壯烈な闘志そのものが最大の感激譜をかなでるのであつた。村社の奮闘振りには獨逸人さへ絶讃を惜しまなんだ。双眼鏡が涙で曇つて何回拭ふたか、私は肩先がムズムズ動いてゐるのを感じ

た。マラソンで孫が一着、日本としては廿年の宿願を達したのだから歡喜の絶頂で纏まつた印象すら残らない程嬉しかった。水上競技では前畑が最後のワンストロークで一位となつた時は何が何だか判らなく唯徒らに狂喜する邦人應援團の喧噪を聴げに感じてゐたが、につこりプールの中で前畑が微笑したので始めて勝たといふ意識を取戻した。餘りに今度の伯林大會が晴手だったので僕は東東大會が何だか恐い様な気がして仕様がな、至る處で二・二六事件を聞かれたのには弱つた。選手の前畑と似てるのか間違へてサイン攻めに逢つたので大いに書き飛ばしてやつた……
江口氏は今上陛下御渡歐の際御召艦の軍樂長として當地に寄港した人、當時のことを懐しく思ひますと語つてゐた。

三七、オリムピック選手の模範競技と

華やかな歓迎會

まだ降りやまぬ雨に濡れ光る四番埠頭にメインマスト高く五輪旗を翻へし、満船飾華やかに我オリムピック選手團を乗せた第一船鹿島丸は九月（昭和十一年）十九日正午入港豫定が非常に遅れ三時半漸く其雄姿を横付けにした、待構へてゐた歓迎委員等タラップが下されるやなだれの如く乗船滞船中のプログラムを打合せ、平沼團長は十餘名の内外記者に取巻かれ快活にインタビューを行ひ、選手一行百十餘名は直ちに日本人俱樂部の歓迎會場へ迎へられ、五時半から盛大な歓迎と慰勞會開催、更に八時から大世界で星華軍とバスケット・ボール試合をなし、前半二〇一九、後半三三一一八と流石に鮮かな手並を見せて多數支那人觀衆に非常な感銘を與へ、幹部は玉川に於ける有志招宴に出席久し振りで日本座敷にくつろぎ、全く故國に歸つた様な気分だと大喜びで漫談に夜の更けるを忘れた。廿日午後八時から機械體操八名小學校で千に餘る各國人觀衆に取巻かれて妙技を見せ、三隊に分れて市内及び柔佛バル、乃士園を見學、前畑嬢以下の女子水泳選手はYMCAプールで九時から支那人女子選手二名參加競技會開催、溢るばかりの各國人觀衆に絶大な

感激を與へ、女子選手も日俱グラウンドで軽い練習をして見せ照り付ける熱帯の陽にはち切れそうな元氣を示したが、待望のアンソン路スタジアムで開催の筈であつたホッケー及び蹴球試合は一萬を越ゆる觀衆詰掛てゐたが、開會前から篠突く豪雨で遂に競技中止の餘儀なきに至つたのは残念に耐へなんだ、斯くて豫想以上の熱烈な歓迎にすつかり感激した一行は昂奮の渦巻きたいな見送りを受け八時半華やかな凱旋の船路を急いだ。

陸上選手灘谷監督以下五十三名を乗せた第二船、伊太利郵船コンテロック號は故障で孟買に滞泊一週間、漸く廿七日夜八時入港同夜直に出港で競技會も何も出來ず、池田歡迎委員長や杉田領事手にく小國旗を持つた二百餘名の在留邦人に迎へられ四番埠頭に上陸、俱樂部の歓迎會に出席鋤燒鍋を圍み主客何れも十年の知己の如く打解けて歡談、マラソンの孫、三段跳の田島を始め村社、西田、大江、吉岡等破るばかりの拍手を浴びて自己紹介を終り十時過ぎ歸船、一時あはたゞしく出帆した。尙同船には團長王正廷氏の引率せる百に近い華僑選手も乗込んで居り、湧くが如き埠頭の出迎へは如何にも國際スポーツ親善使節を迎ふるに相應しい光景を呈したのであつた。

再制覇の榮譽を荷ふて凱旋の田畑監督、松澤コーチ以下四十四名の水上選手と約五十の應援團を乗せたオリムピック第三船靖國丸は十月一日午前七時、一杯に垂れ込めた濃霧をついて賑やかに入港、池田委員長以下多數の出迎へを受け九時十五臺の自動車をつらねて柔佛見學を終り正午俱樂部で晝食、午後四時まで買物や市中見物をなし、同四十五分から千二百を越ゆる熱狂的觀衆の拍手を浴びて入場、數名の當地支那人選手を交へYMCAプールで模範競泳會開催、百六十及百廿碼自由型、二百碼平泳、メドレーリレー及び飛板飛込を見せ壓倒的強身と美しいフォームを示し更に支那人選拔軍と水球戦に移つたが無念にも前半三對二、後半六對三で慘敗支那人觀衆を躍り上らんばかりに喜ばせ、七時半より俱樂部の歓迎會に出席盛んに健啖振りを發揮し九時帝國萬歲、選手團萬歲を三唱して散會夫々知人に連れられ市中をドライブし或は同郷人會、同窓會等の歓迎會に出席十二時前後歸船常夏の一夜を船で明し未明愈々懐しの故國に向ふて

纜を解いたのであつた。

更に十七日朝十時降りしきる雨の埠頭にレスリング及び自轉車選手を乗せた最後のオリムピック船箱根丸入港、山口俱樂部々々長、池田徹迎委員長以下に出迎へられ十二時過ぎ小降りになるのを待つて上陸、午後三時からジャランブツサ・スタジヤムで晴れの自轉車競技大會開催、とても此處らの田舎選手は側へも寄れない物凄いなスピードを出し、特に四哩リレーの如き一回半程も引離して全部優勝夕闇迫る六時半近く壯快なレースを終り、杉田領事夫人より夫々賞品を授與、尚レスリング選手は七時から俱樂部で壯烈な試合を見せ、引續き八時から兩選手團歡迎會開催、更に有志連中カートの喜樂に選手等を引張つて行き十二時頃まで痛飲、十八日未明箱根丸の出帆を見送つて華やかなオリムピック選手歡迎のプログラムを終つたのであつた。

賀川豊彦氏寄港

オリムピック水上軍を乗せた靖國丸には堀田正昭公使や動亂のマドリットから小さい二令息を伴ひ引揚げて来た宮澤書記生夫人等の外歐米十五ヶ國約十ヶ月の講演旅行を終り歸朝の途にある賀川豊彦氏もあり、午前日本基督教會、夕六時半より日本小學校にて講演會開催、長途疲労の色もなく非常な元氣で左の如く語つた。

「米國上陸の際トラホーム云々で一才在郷軍人會や産業組合の連中が騒いだが大統領の斡旋で別條なく上陸することが出来た。それは比島獨立前マニラで海軍軍人會の前に獨立宣傳演説をやつたのが一部の人々の神經を尖らしてゐた爲めであつたらしい、又ミシガン大學の支那學生が私が滿洲國なる文句を使つたのは支那を侮辱するものだとして反對示威運動をやつたのは困らされた、今度は主として各國の産業組合及び國民保健問題に就て調査して来たので、米國で約五百回七十五萬の聴衆に向つて共同組合の設立を説いて来たが、これは亞米利加でも記録で非常な反響を呼んだ様だつた、國民保健は組合でやつてゐる處と國家自らやつてゐる處とあり、組合でやつてゐるのでは丁抹が最もすぐれ、國家がやつてゐるのでは獨逸最も大規模で設備も整ふて居る様であつた。歐洲ではコムミニズムもフアンズムも共同組合

を組織して居る。混沌たる世界の現情は經濟的手段に依るに非ざれば平和は不可能である、何しろ至る處で講演をやらされ、基督教大會の時の如き二萬からの出席者で流石に身體も大分疲れた、當地では出来るだけ邦人の漁業状態を調べて行き度いと思ふて居る」云々。

ベナレス初轉法輪寺の大壁畫を完成して野生司畫伯來星

ベナレス近郊にダンマパーラー師が一九二九年建立した初轉法輪寺に釋迦一代記の大壁畫を執筆すべく五年前の今月新嘉坡を経て渡印、豫想以上の酷暑と資金缺乏に悩まされ、あらゆる困難と闘ふて遂に精魂籠めた卅二面の大壁畫を完成し、全印度の熱誠をこめた感謝に送られ歸朝の途にある野生司畫伯九月(昭和十一年)廿七日早朝彼南丸にて十月八日より日本人俱樂部にて個展開催、印度にて製作せる七十餘點を出陳非常な感銘を與へ、更に盤谷訪問アンコールワットに參拜して歸朝の途につかれた。

「最初は一萬留比當時の邦貨にして約一萬二千圓半年位で完成の約束で、釋迦一代記のみならず其前生に遡り約五十面に纏めて欲しいとの希望であつたが、高楠博士始め其方の權威と充分協議した結果卅二面に書上げる事になつたのです。然し實際行つて見ると季候の關係等もあり種々困難な問題があつて、大分構圖を變へねばならない處もありました。壁畫は高さ六間廻り十間の石造本堂内に必ずしも順序を追はず大小取混ぜ繪き上げたのであつて、石の厚さ二尺五寸其内部に煉瓦を一枚づゝ張りシツクイした上に書いたもので、地震さえなければ數百年は大丈夫もつに相違ないと信じてゐます。何しろ印度としては永劫に残る大壁畫を日本人に託したと云ふので相應猛烈な反對運動起り、官立美術學校長ムクルチャンドラー氏の如き率先運動に参加してゐたのであつたが、幸ひな事に愈々印度に着いて見るとムクル氏とは十五年前の舊友で「君なら反對の鋒を觀迎の鋒に變へる」と却つて大觀迎會を開いて呉れると云

富有様で大變都合が好かつた。尙強いて自炊生活の不便に耐えてゐた譯でなく言語不通の爲め餘儀なくされたのであつたが、今度歸る時感謝のため貴重な印度の古文獻を日本に贈呈する事となり、甲谷陀から約四百哩のゴラクグループ市で盛大な古文獻寄贈式が舉行された時「日本の佛教藝術家は下僕も使役せず、印度紳士の最も卑しむ炊事洗濯まで平氣でやり、我がニチー主義を日常生活の中に實行して居る。之は彼が藝術以外に印度に残した最大の教訓である」と賞讃されたのは全く汗顔にたえなんだ。それから又最初から非常に好く世話をしてくれたタゴール翁の處へお禮旁々別れに行くと、支那から來てゐた少將が全く日本人だから今度の大業が完成したのである、我々支那人、印度人には殆んど同胞愛と云ふものがない、實に其點羨望に耐えないと眞心から云はれたには私も動かされた、畫面が廣いのみならず非常に色を吸ひ込むので繪具が大變いる、其上四年も掛つたのであるから後には外務省の手を経て送金もあつたが、一時は資金難に陥り各地で展覽會を開き夫で漸く執筆を續けてゐたのであるが、至る處同胞愛の今更の如く深厚なるに感泣禁ずる能はざるものがあつたのである」と感慨深げに當時を追懐して語られるのであつた。

臺日と臺灣新報の南洋視察團

臺灣日々新聞社主催南洋視察團一行十四名九月廿二日朝汽車にて盤谷より來星、同夜七時半から南天酒樓の有志主催觀迎會に出席、金田豪銀店長の觀迎の辭に對し大補視學官「本朝來各方面を視察し皆様が斯くも健實に活動されて居られるのを見まして全く涙がこぼれる感を抱きました。元來臺灣では熱帯産業調査會に於て事を行ふと言ふ事になつて居ますし、機會ある毎に南方發展策を議したい、で今度臺日主催の此視察團が其トップを切つた譯で御座います。種々な御希望に副ひたいですが此處で空手形を出す譯に行きませんから歸つた上で皆様の御希望に對し充分研究致したいと存

じます」云々の謝辭を述べ、それから自己紹介を終り歡談に夜を更かし散會したのは十一時であつた。更に廿四日午後六時より喜樂に於て吉田陳列所貿易主事の新嘉坡事情講演を終り座談會を開き、引續き弘榮商會の招待宴に移り主客五十名歡を盡して十一時過ぎ散會、その翌日は瓜哇へ向ふた、越えて十月廿日臺灣新聞社主催の南支南洋周航船鳳山丸盤谷から入港、一行七十九名と云ふ多勢で廿一日午後三時より船上に主なる在留民を招待懇談會開催、種々臺灣特産のお土産を配り市中及柔佛バル視察、池田華南支配人も同船で廿四日未明瓜哇へ出帆した。

石射新暹羅公使寄港

九月卅日郵船白山丸にて來星、各方面の人々と逢ふて當方面の情勢を聽いてゐた石射新暹羅公使四日午前八時四十分の列車で愈々盤谷に赴任した。

「何をするにも充分雙方に諒解がなければ駄目である。出来る話も腹が好く判つてゐない爲めに詰らぬ誤解を招き打ち壊して仕舞ふような場合が往々あるのである。愈々盤谷に行つたら何をやるかなんて聽くのは早計に過ぎるだらう、兎に角暹羅の有力者と腹心を吐露して充分話が出来るまで懇親になつてからさ」と公使は出迎への記者團に語つてゐた。然しこれは非常に重大な問題であつて新公使がこんな腹で鞍り腰を落付け、先づ盤谷の有力者と充分懇親を結んで然る後暹羅のため出来るだけ相談にも乗らう、助力も仕度いと云ふ態度で行かれると云ふことは吾々に非常な期待を持たせるものだと思ふのだ、日本としても暹羅としてもお互ひ考へて居ることは澤山ある、同時に周圍の情勢や國內の事情が種々錯綜して居るため下手に持出し短兵急に功を急いだら却つて失敗を招く様な事があるに相違ない。

日暹貿易の現状は近年輸出が躍進的増勢を續けて居るに拘らず、さつ張り輸入すべき物が無いので餘りに貿易が一方的に偏り過ぎるのである。然し米は朝鮮、臺灣で餘る程出来るのであるから餘に碎米でも買ふより外仕方がない。

日本のチークヤラツク需要なんて云ふものは知れたもので問題にならない。日本人が盤谷にどつしり腰を落付け相當資本を擁し暹羅米をどしどし買込み、瓜哇や支那、滿洲等に賣込む様になれば幾らか貿易決済のたしになるかも知れないが、要するにそれ位では無限に増加して行く日本品の輸入に對しては九牛の一毛に過ぎなからうと思ふのだ。結局日本としては暹羅の産業開發に出来るだけ助力し其購買力をグングン増進せしめると共に日本への輸出品を作らせる様にするより外方法がないのである。

革命政府の最も惱んで居るのは財政的窮乏であらうと信するのだ。暹羅國民には殆んど資力が無い、其商業的勢力が殆んど支那人に依りて獨占されてる現狀では本當に暹羅が獨立國家として前途に活躍を期待することは出来ないのである。教育の普及も國防力の充實も先立つものは金である。然も政府の租稅收入が支那商人から絞るのが唯一の財源をなして現狀では逆も思ひ切つた革新も何も出来ないのが當然である。

暹羅の急務は日本の資本と技術的協力を得て國內産業の開發に銳意奮進することであらうと信するのだ。然も既存勢力が此新たな暹羅の革命政策を極力妨害しつゝある事實を吾々は見逃すことが出来ないのである。

ヒマラヤの處女峰ナンダゴット征服

立教登山隊講演會

大ヒマラヤの處女峰ナンダゴットを征服、輝く榮譽を荷ふて凱旋の立教大學登山隊一行堀田團長以下四氏十一月十五日朝、商船ヒマラヤ丸にて寄港、千田氏及び柳大毎特派員の招宴に出席、午後五時半より俱樂部に於て講演會開催、堀田團長思はず手に汗を握らす壯絶な體驗談を試み同行の竹節大毎特派員更にそれを補綴し、百五十に餘る出席者に非常な感銘を與へたのであつた。

「七月廿八日へいぐ丸で新嘉坡に寄港、勇躍印度に向ふた堀田、竹節兩氏及び湯淺、濱野兩學生は八月十日カルカッタ着先發の山縣君と合しカトゴダムの終點驛で汽車を捨て、アルモラでダーヂリンの案内人や苦力等八十人を集めカラバン隊を組織し、恐ろしい山蛇の襲撃に悩まされナンシサリ河を土人の肩車に乗つて渡渉、一萬呎の峠を越え西藏への通路であるゴリ河溪谷に沿ひ百十餘哩の裾野を十一日で踏破、最後の村マルトリにたどり着き六十五人の苦力を返し、十五人だけ連れて九月二日一萬五千呎の處にベース・キャンブを建てたのであつた。何しろヒマラヤには二萬呎を越ゆる山が三百もあるものであつて、年々各國から金に飽かした登山隊がやつて來るのであるが、まだ征服された山は數へる程もないのであつて、ベース・キャンブから何んとも云へない壯嚴なそれらの山々が手に取る如く見渡されるのであつた。處が恰度その頃英米人よりなるナンダ・デビー(二萬五千呎)登山隊が成功したとの報を得て、どうしても我々も成功せねば歸れないと一層緊張して、愈々九月六日聖山への挑戰第一歩を踏み出し、第一、第二キャンブと段々登り十五人の苦力も其處に置き、案内人と我々五人だけで第三キャンブを一萬九千呎の處に建て、九月廿六日更に二萬五千呎に第四キャンブを作つたのであるが、第二キャンブを作つた頃から天候が悪くなり、廿九日愈々第一回の頂上攻撃を開始したのであつたが、其前夜生命と頼む石油コンロの工合が悪くなり、僅かにビスケットをかちつて出掛けたのであるが非常な悪天候で進む事が出来ず無念の涙を呑みつゝ引返すと、其間に第四キャンブは既に雪に埋まつて仕舞ふていたので、餘儀なく第一キャンブまで引返さざるを得ないのであつた。處が幸ひ天候回復したので十月三日再度出發すると今度は非常に身體の調子も良く、五日朝十一時第四キャンブに到着遂に午後二時五分二萬二千五百呎の頂上を極める事が出来たのであつて、携へて行つた日の丸の國旗と立教校旗、大旗旗をピトンで止めて雪中深く埋め萬歳を三唱した時の氣持ちは恐らく終生忘れる事の出来ない感激の場面であつたらうと信じます。斯くて七日ベース・キャンブに歸り又同じ路を歸るのもと思ひナンダゴット連峰を一周して世界でまだ三人目だ

と云ふトレイルバ越へをやつて十八日アルモラに歸着、孟買に出で汽車で甲谷陀に来てヒマラヤ丸に乗込んだのであつた。今度の成功は勿論天祐に依る處大であつたらうが、我々日本人が白人よりも簡素な生活に馴れ高山病に悩まされる事少く、彼等が三四日も安静せねば癒らないのに、我々は一日も立てば充分元氣を回復し得たと云ふ様な點も相當關係があつたらうと思ひます」云云。

斯くて感激に満ちた講演會を終り喜樂の招宴に出席、十六日未明出帆歸朝の途に就いたのであつた。

各地邦人團體と

新嘉坡の商社支店

總領事館と領事時代の回顧

新嘉坡に始めて帝國領事を置いたのは今から五十八年前の明治十二年四月八日、支那人胡旋澤氏を帝國副領事に任命し駐在せしめたのが開祖であるが、同氏その翌十三年三月死亡の爲め其儘閉鎖、十年後の明治廿二年一月廿二日中川恒次郎氏領事代理に任命され愈々正式に領事館開設、翌廿三年五月廿四日齋藤幹氏領事代理として着任次で廿六年十二月五日齋藤氏二等領事となり、夫れより事務代理等三名を経て卅二年六月一日領事官補小幡西吉氏事務代理として着任、更に六代を経て卅七年二月廿一日領事田中郡吉氏來星、更に八代を経て大正二年八月四日領事藤井實氏着任、領事官邸を總督邸裏にあつた領事館より分離してレデーヒルに置き、大正三年嶺夫退治を敢行して在南邦人の風紀革正に大英斷を振ふた。實に「地僻にして吏尊ばる」當時在外國民といつても一般

に官吏崇尊の傾向内地に於けるよりも更に甚だしきものある、領事不在の影響地に比して特に甚だしきものがあつた。それまでの領事の中では齋藤氏が最も材幹の卓越を傳へられた。氏は南洋に於ける邦人發展の狀態を洞見し努めて同胞の企業を奨励し、幾分にも邦人の善化に腐心せるもの、如く其笠田、中川諸氏に珈琲栽培を勧めしことの、縱令失敗に終りしにせよ南洋に漂浪せる日本人をして遊逸の恥づべきを觀念せしめては入り變り立ち變り來任せる領事中氏に過ぐる者は恐らく無かつたのである。之に反し最も可憐な失敗領事と傳へられたのは在任六ヶ月、居留民を騷擾せしむる外何事をも爲さざりし近藤愿吉氏であつたらう。其小心にして善意の人たるに相違なきも官僚主義の乳汁に育てられたる臭味粉々として四邊に當り散らさるゝあり、就任の日より居留民の一部に對して意見議論を戦はず等相踵げる紛争氏の在任期間を終始したのであつた。特に最も噴飯に堪へななどは氏の反對新聞を忌むことの非常識にて、天長節夜會の招待不招待を新聞記者賞罰の色別けに利用せしが如き

ことあり、即ち當時南洋自由評論として氏に對抗する一雜誌ありしが、氏は其主幹に向ひ「新聞を廢めされば天長節に招かず」と漫言せしことの、如何に「萬機公論に決すべし」と明治の初年御宸翰遊ばされし我天皇陛下の官吏に不似合なることよ、此失言の爲め全く進退維谷窮地立往生せんかと思はれた氏は幸にも當時の有力者二木、播磨、小林、矢ヶ部四氏の斡旋に依頼し僅かに官僚的面目を保持して、懲戒せんとした雜誌主幹と和解することを得たる如き如何に當時外務省の人物差配が杜撰を極めてゐたかを想像せしめるのであつた。氏に繼げる代理領事岩谷謙吉氏は不得要領と云はれながらも比較的在留民と親しみ、前任者に依つて歪曲された感情を相當融和せしめ得たのであつたが借金を残して急逝したのは氣の毒であつた。藤井領事の後横山老書記生一人淋しく領事の留守を守つてゐた折に歐洲大戦勃發、六年一月九日山崎平吉領事着任、領事館をラフルスチャンパーに移し、武田氏以下書記生も急に増員され八年五月總領事館に昇格し、繁激を極むる事務に盡瘁しつゝ馬來半島全在

留民代表者を召集して、自發的廢娼を決議させ得たのは恐らく永久に残る功績であつたに相違ない、十年轉任副領事吉田信友氏一時總領事代理となり、同年八月廿日總領事浮田郷次氏着任、次で十三年十二月副領事乙津録次總領事代理となり、十四年四月三日商務官中島清一郎氏總領事に任命され事務所を現在のユニオンビルディングに移した。次で總領事玉木勝次郎氏また盛んに在留民の一部と衝突し紛争に終始して轉任し、後藤、米垣、伊藤の兩副總領事代理の間却つて在留民との間も融和し事務の進捗を見たのは皮肉であつた。次で田村貞次郎總領事昭和 年福州より來任、滿洲事變、上海事變で華僑の思想漸く險惡加ふるに爲替安の波に乗つた我輸入激増に連れ關稅障壁益々強化され、遂に綿布輸入制限割當の實施を見、官民の協力一致を思ふ事一層痛切なるものあつたに拘らず兎角感情の融和を缺けるは残念であつた田村氏去り柴田副領事暫く總領事代理を務め九年現任郡司喜一領事の着任を見たのである。

新嘉坡商品陳列所

南洋協會が新嘉坡に商品陳列所を開設したことは既に述べた。同所は産業、貿易、制度其他各般の實情を調査し南洋を内地に紹介すると共に一面日本を正しく南洋に認識せしむる事を目的として大正七年五月ブラスバサ路に開館、十年五月今のハイ街に移轉したのである。尙當初中南洋の企業貿易に従事すべき適材を養成すべく學生會館を置いたが八年九月八月各十八名の修業者を出したが經費等の都合で中止した。其後スラバヤに商品陳列館、パタピヤ及メダンに出張所開設され管轄區域を減じたが當方面に於ける邦人の發展と歩調を合せて相當の効果を擧げつゝあるのである。初代所長は木村増太郎、二代三種五郎氏、三代石井健三郎氏の後を受け大森益徳氏所長代理となり、増淵佐平、柴田權次郎、畑氏を経て現任小原友吉氏に至つたのであつて、貿易主事吉田喜一郎氏數代の所長を迎へ特に當方面の實情に精通し在留民から感謝されつゝあるのである。

新嘉坡の邦字新聞と雜誌

新嘉坡の邦字新聞は最初眞面目な報道機關としてゝなぐ、勝手な事ばかり書き互ひに悪口を云ひあつてゐたもので、パツク、南洋評論、星坡サンデー、星嘉坡日報と鐵筆騰寫版のものが次ぎから次ぎと發行され、活字、印刷機を有する福田天心氏の南洋新報出て聊か體裁を備へるに至つたが、本當に新聞らしいものが發行されたのは大正三年曾木重高、古藤秀三兩氏に依つて發刊された南洋日々新聞の誕生からであつた。殊に同紙は歐洲大戰の好況に恵まれ尤も堅實なる發展を續け、一時「日英實業新聞新嘉坡新報」の競争紙發行されたが地方的信用率として抜く可からざるものあり、兩紙間もなく廢刊し益々その獨占的地歩を堅め、昭和四年末古藤社長後手塚貞吉氏社長を繼承、同社記者たりし長尾正平氏別に「新嘉坡日報」を發行して居る。尙雜誌は故佃主幹日々新聞主筆を辭し大正五年九月「南洋及日本人」を發行せしこと夙に讀者の知悉せる處なるべく、主幹瓜哇日報を發刊大正

十一年正月バタバヤで急逝後當房盛吉氏よく遺業を繼承して今日に至つて居るのである。更に趣味の同人雜誌としては第一歩及びナ、スなる俳誌が發行され、本社を出た辻森哲草氏が趣味雜誌を二年程發行してゐたことがあつたのである。

新嘉坡日本人會

大正四年七月十日大典奉祝會及本會設立に關し第一回相談會を開き、爾後相談會を開く事二回委員會を開くと九回に及び、漸く九月十二日日本人會發會式を兼ねて第一回評議員會を開き理事二十二名を選挙した。當初常選舉の理事は井上雅二(南亞公司)、大谷登(郵船會社)、鈴木重道(醫師)、古藤秀三(南洋日々新聞)、和田義正(日清護謨)、阿部重兵衛(三井物産)、中川榮三(雜貨店)、江崎眞澄(臺灣銀行)、川上精一(三井物産)、中山晉(三井物産)、西村竹四郎(醫師)、海津幸一郎(乙宗支配人)、木村大介(三五公司)、宇田成和(臺灣銀行)、遠藤隆夫(栽培業)、北元隆(齒科醫)、小氏木爲二(栽培協會幹

事)、芝田皆助(永井禎商店)、田尻才六(田本商店)、葛田顯理(齒科醫)、川端政夫(齒科醫)、中野光三(醫師)諸氏で會長に鈴木重道、副會長に中川菊三氏を推薦しウキルキー路四號に事務所を設置、十月廿九日集會結社法の規定により除外登録をなす旨登録官より指定があつた。當時新嘉坡在留邦人約一千五百名、柔佛州内邦人二百餘名あり、兩地を網羅して茲に本會の誕生を見たのであつた。

同月日本小學校を本會の經營下に移し本會事務所の一部を校舎に充て、同十一月本會主催御大典奉祝會をタウンホールに開催、出席者八百餘名に及び盛況を極めた。五年一月帝國領事館より在留證明、身分及營業證明等に對し保證料徴收の認許を得た。

六年六月英語科を加ふ。
七年三月陳德全慈善病院内本人患者附助手を本會より推薦する事とす、四月事務所及小學校をシヨート街五號に移す。

會員は之を分ちて普通會員及び贊助會員とし、普通會

員を一等より七等に分ち七年七月末まで贊助會員なく普通會員五五七名、同年十一月始めて贊助會員二六、普通會員五五九計五八五名、八年四月末贊助會員二九普通六四四計六七三、九年六月末贊助會員四〇普通會員一、二〇八計一千二百四十八名で今日迄の最高記録を示してゐたのである。

大正七年十月小學校敷地としてウオタール街一五五號一八、〇〇〇平方呎を購入。

八年二月小學校々舎新築を決議し寄附金募集趣意書を配布した。

九年八月事務所をブラスバサ路七九號に移轉、九月始めて國勢調査の事務を執掌。

十年一月小學校建築工事着手、同年三月御渡歐、同八月御歸朝の途次御寄港の東宮殿下御迎送に關する諸般の事務執掌、五月廿八日事務所をハイ街四四ノ一に移轉し次で九月ウオタール街小學校樓上に移轉す。

十一年二月日本人俱樂部創立委員を選定し、同三月舊青年會より引継ぎを了す。

同年三月英皇儲殿下日本に御渡航の途次御寄港に際しスタンフォード路に純日本式大鳥居を建設し邦人約一千名鳥居下御通過の際萬歳を三唱す。

同月四日舊青年會夜學校を本會經營とし小學校内に移す。

八月南支汕頭大暴風雨慘害に義捐金募集中華總商會に送附。

九月波蘭人孤兒約五百前後二回に亘り我赤十字社の救護を受け當地通過歸國に慰安を與ふべく衣類其他寄贈品を募集し且つ日本人俱樂部に招待した。

十二年五月日本小學校海外兒童教育費補助金一千六百圓政府より支給あり、爾後毎年適宜補助支給の事となつた。

八月事務所をノースブリッジ路日本人俱樂部内に移轉す、同月小學校父兄會設立及本會規則修正に付き政廳登録官に届け出で。

九月三日關東地方大震災の電報に接し緊急理事會を開き、總領事館を通じ皇室の御安否を奉詞すると共に一般

義捐金募集に着手し、邦貨換算二十一萬三千三百九十錢を東京震災救護局へ送附した。

十三年一月攝政宮殿下御成婚記念事業の議起り兒童寄宿舍經營に決し、七月廿三日土地建物買入を議決、右資金は新嘉坡馬來島のみならず廣くスマトラ及蘭領各地に及ぼし一萬二千七百九十弗廿八仙を募集、之に本會基金より六千五百圓を加へマウント・エリザベス十四號ホーブコークを購入、十四年四月一日附舍の運びとなつたのである。

同年六月十一日秩父宮殿下御寄港の砌、同寄宿舎御參觀を仰ぎ設備に對し特に御褒めの御辭を賜はり日本人會小學校及寄宿舎に御下賜金があつた。

五月廿七日但馬震災義捐金二千八十弗募集送附。

十五年五月新嘉坡日本少年團を本會に引繼ぎ監理する事となり、八月一日事務所をセルギー路一〇七號現在の地に移轉、九月葬儀及墓地内規制定、前年來行ひつゝあつた墓地整理と相俟つて愈々將來の統一を期したのであつた。

同墓地にて會葬を営む。

排日運動の爲め見合中の小學校増築工事四年九月六日地鎮祭を行ひ同十八日杭打工事開始、五年十一月竣工、増築に伴ふ大講堂の模様替も九月十三日完成更に舊校舎の大修繕を十二月廿日より始め、六年二月竣工同月廿二日増築校舎落成式を擧げ、森田會長より寄附者に感謝狀を贈つた。

翌年の世界不況と排日ボイコット等の爲め會員の移動甚だしく、加ふるに對日爲替暴落は日本人會の收入に著るしき影響を招來したので教職員一般に思ひ切つた減俸を敢行し、又方面委員を設け一部會員の等級繰上げ新會員の入會を勧誘し各委員の非常な努力に依り漸く會收支の均衡を得るに至つた。

八年五月廿五日バトバ日本人會經營同地小學校並びに日本鑛業ダウンゲン鑛山經營の日本小學校を在外指定新嘉坡日本小學校分校として總領事館を通じ本省より認可指令を得た。

學校運動場賣却並に借入、隣接土地購入の件政廳最高

學齡兒童増加の爲め小學校擴張の必要に迫られ隣接地八、二〇〇平方呎を九月廿九日四萬弗にて競落、引續き一般寄附金により校舎増築の議を決す。

十五年十二月廿五日、大正天皇崩御に際し弔電を宮内大臣に呈し、越へて昭和二年二月七日御大喪當日午後九時小學校講堂に於て遙拜式を舉行、七百名の參列者があつた。

馬來半島奧地に大洪水あり南洋日々新聞社と共同して義捐金を募り九百四十二弗五十仙を送附した。

昭和二年三月六日奥丹後震災に三千三百六十一圓餘の義捐金を送附。

五月ギルマード總督轉任歸國に際し七寶燒花瓶一對を贈り在留民の謝意を表した。

三年十一月十日、聖上陛下御即位御大典に當り宮内大臣宛祝電を發し、花火を打上げ祝賀會、大運動會、相撲大會を開催して尤も盛大に祝意を表した。

五年五月八日高松宮同妃殿下御寄港奉迎送をなす。

十月廿九日古藤會長同仁病院にて逝去翌卅日日本人共

顧問會通過、舊運動場九、〇二三平方呎（バックレーン除き）平方呎二弗五仙總額二萬二千五百五十七弗五十仙にて市役所に賣却、隣接地三、六五八平方呎、平方呎四弗五十仙總額一萬六千四百六十一弗にて買入、運動場として市役所より中央路寄土地約八千平方呎有償借入に決定した。

八年十二月廿三日皇太子殿下御誕生の趣拜聞、同日午後同時俱樂部に參集祝杯を擧げ、九年一月六日大奉祝宴を開催、更に七日日本人俱樂部主催祝賀角力大會、二月十一日大演藝會を催し竹の園生の御榮を奉祝した。

九年二月ネグリスミラン洲日本人會經營小學校を分校として認可指令あり。

同年四月廿九日天長節に當り、天皇皇后兩陛下より社會事業部の事業御獎勵の恩召を以て金一封御下賜の旨總領事館より傳達あり、六月廿二日會長總領事館に出頭拜受して星貨に換算正金銀行へ定期預金として預入れ、優渥なる聖旨に遵ひ社會救濟基金として別口座として整理することになつた。

新嘉坡日本人俱樂部は大正十一年二月新嘉坡日本人會の選定した俱樂部創立委員の奔走に依り同三月舊青年會より設備一切を繼承し、日本人會の附屬事業として創立されたもので、會員相互の向上親睦を圖るを目的として今日に至つて居る。

最初は青年會時代よりの北橋路事務所内に柔劍道場、玉臺、ピンボン臺、圖書室、バー等の屋内設備を有する外敷地内に弓術場とテニス・コート及びスラングン路庭球場等を管掌し會員相互の利用に供して來たが、大正十五年七月末セルギー路に土地建物を購入して移轉し従前通り一部の設備を整へ、大運動會、武道大會、角力大會、水泳大會、庭球、バトミントン、ピンボン、弓術、撞球、麻雀、碁將棋及び軟式野球大會、講演會等を主催し、會員相互の親睦を圖ると共に青少年の剛健なる士氣を維持することに努めて居るのであつて、部長、副部长、會計主任の外各部に委員を置き、有給幹事と書記若干名を置いて諸般の世話をして居るのである。

創立以來の俱樂部部長と副部长

自大正十一年四月	部長 宇尾榮次郎
至同十二年四月	同 服部一郎
至同十三年四月	同 竹内精一
至同十四年四月	同 板倉勝温
至同十五年四月	同 牧野元
至昭和二年四月	同 安藤公三
至同三年四月	同 森田歳一
至同四年四月	同 宇尾榮次郎
至同五年四月	同 森田歳一
至同六年四月	同 伊藤榮治
至同七年四月	同 宮田章治
至同八年四月	同 山本七五三洲
至同九年四月	同 森野憲由
至同十年四月	同 森野憲由
至同十一年四月	同 森野憲由

自大正十一年四月	同 山口勝
至同十二年四月	副部长 服部一郎
至同十三年四月	同 永福虎
至昭和二年四月	同 森田歳一
至同三年四月	同 梅澤源次郎
至同四年六月	同 森田歳一
至同四年四月	同 荒井金次郎
至同五年四月	同 佐竹俊雄
至同七年四月	同 森田歳一
至同八年四月	同 森田歳一
至同八年三月	同 高橋末吉
至同四年四月	同 高橋末吉

新嘉坡青年會俱樂部の前身

中野光三、田尻才六氏等の主唱奔走で新嘉坡に始めて青年會が創立されたのは、明治四十一年五月の事であつた。當時領事は鈴木氏、内藤、田村の兩書記生最も斡旋に努め井上外務省留學生も亦頗る盡力した。然るに長田

秋勝氏來星するに及び寧ろ日本人會と改稱すべしと主張し、多數會員の賛成を得て政廳に改稱の許可を出願したのであつたが許されず、二百餘弗の積立金をメチャクに費消されたので創立者連非常に憤慨し、改めて四十二年四月三井の笠原支店長始め主立ちたる在留邦人の助勢を得て、スラングン路で盛大なる運動會を開催し若干の剩餘金を得て再び會勢を挽回し、ピクトリヤ街に事務所を置き擊劍柔道等を奨励し大に青年同胞の元氣鼓舞しつゝあつたのであるが、一度青年會を攪亂せんとして失敗した秋勝氏は更に南洋新報及び自由評林紙上に在留同胞を罵倒して休まず、血氣の連中亦黙視するに忍びずと會報紙上に痛烈な反駁文を掲げ、伊藤友次郎氏の新嘉坡日報にも駁文を掲載する等切りに論争に花を咲かせてゐた。四十四年には三井社宅で運動會開催、四十五年より初めて會費を徵集月三弗、二弗、一弗の特別會員を設け正會員は凡て五十仙とした。大正二年十一月ベンクレン街に事務所を移し栽培協會や小學校に教室を貸し、中川榮三、鹽崎俊雄氏等熱心なる會員諸氏の献身的奮闘に依

て會員數も四百五十名に達し、時に玉利博士、松村介石等寄港名士の有益なる講演を乞ひ、大正三年三月より一臺の球臺を寄贈され更に田尻氏の名義にて會の積立金を借入れ一臺を購入し始めて撞球部を置き、武道獎勵と相待ち修養と親睦を計る事に盡力してゐた。當時の青年會は今日の日本人會の仕事の一部も引受けてゐたのであつて練習艦隊入港時の如き會員總出で湯を沸し、事務所を開放して其休憩所に當る等々元氣でもあつたし活動もしてゐたのであつた。

新嘉坡日本人小學校

齒科醫山本作次郎氏は自由評林を發行すると共に盛んに日本人小學校設置の必要を提唱してゐた。聽て氏の熱心なる勸設は佐藤トクトル、原袋江渚氏を動かし、明治四十五年七月頃から愈々具體的に小學校設置問題が新嘉坡在留邦人有志間に協議され、西村醫師、葛田齒科醫、福屋、丸下、日本商會及び萬田の加藤氏、廿四番の小林千代吉氏等も熱心なる賛助者となり、世話人が月五弗づゝ

追出された、代りには日本商會の紹介で柳田毅三氏が就職し紊亂を極めた校紀を刷新し、後年まで父兄に愛惜される成績を残して獨立商業を始め其次ぎに山田教員が來任、一九一五年秋日本人會の手に經營が委ねられ高橋校長以下内地から有資格教員が招聘され文部、外務兩省から指定學校の認可を得、校舍もベンクレン街、ウキルキ路、シヨオト街と移轉し愈々今の敷地に新築することになつたのである。時の日本人會長は商船の山崎主計氏、校長は佐藤氏で計畫を立てた頃は大戦景氣で寄附金もドシ／＼集る、大變な勢ひであつたが愈々起工と云ふ場合になつて休戦、市況逆轉ベニツク襲來と云ふ騒ぎで土庫の商社にも引揚げる處があり、下町の景氣も一變して山崎會長の苦心一方ならぬものがあつたが八方に奔走して漸く完成を見るに至り山崎氏は重任を果して神戸へ榮轉したが、新校舍完成と同時に生徒の數年と共に倍加して忽ち教室の狹隘を感じ、どうしても増築せざるを得ざるに至り餘儀なく隣地を買入れ、建築計畫を進めて居ると今度は濟南事件で猛烈なボイコットが起り寄附金處で

經費を負擔する事とし、大正元年十一月三日、明治陛下の天長節を記念してミツドル路元東洋ホテルの家で小學校は初めて孤々の聲を上げたのだつた、開校式には随分寄附金も集り算盤から國旗までも兒童に買ふてやる事が出來た。殊に伊藤理髮店の如き特志家は態々石盤卅枚を自分で學校に持参して呉れた程であつた。教員には宮村と云ふ人を備入れ集つた子供は廿八名であつた。

然し何事も丸くは行かない其頃の新嘉坡、神聖なるべき小學校の設立にさへ擲り合の喧嘩すら遣つた程で、南洋新報も反對する建部某の南洋週報は全く學校採潰しの爲めに發行されたのであつて、第一岩谷領事が開校式に斷じて出席せずと頑張つた漸く駐在武官戸奈、淺田兩少佐の忠告で皆川書記生を代理とし且夫人を参列させたのであつた。

而して既に開校してからも幾度も紛擾が繰返へされ學校の看板をベニツキで塗潰す等の小供らしい悪戯さへ演ぜられた、殊に不都合なのは宮村教員で二年間の在職中に千餘弗の借金を作り女郎屋を踏倒して遂に大正三年八月

なくなつたが、學校のことだけは如何なる困難に逢ふても出來るだけの事をせねばならぬと宇尾日會長があらゆる苦難を排除して遂に増築の工を完成したのであつた。昭和八年三月十九日盛大な創立廿周年記念式を舉行したのであつたが、學校廿年の歴史を回顧して見るとそれは全く在留邦人が不況とボイコットにさいなまれつゝ血みどろになつて今日の基礎を固めて來た繪巻物を眼前に擴げて見る思ひがするのである、先生にとつても比較的教員に理解なき父兄が多いのであるから遣り憎い處があるに相違ない、殊に博物標本や参考書と云つたものも乏しく教へるのに非常な苦心をされつゝあるであらうが、是迄の校長が何れも餘り評判の良くなかつたに拘らず、若い先生が熱心且つ親切に兒童を訓育し相當の成績で内地の中等學校へ入學することが出来るだけに育て上げられた事を心から感謝せず居られないのである。それだけ廿周年記念式と云ふ様な場合、父兄會が千餘弗も使ふて何かするなら第一に教材、標本等を買入れ少しでも教授上に裨益するやう考へて貰ひたかつたのだ。校舍の壯

麗や先生の揃ふて居ることから云へば内地の一萬や二萬の都會では到底比較もされない程立派に過ぐるのである。

然も生徒の多數は此處で生れ全く内地を知らないものであつて、到底教科書や先生のお話だけでは眞實に母國の自然を飲込むことが出来ない環境に居るのである。どうしても標本や活動寫眞等で親しく其實物を示して教へる以外に方法がないのである。單に教科書を覚え込ましただけでは立派な日本人に育て上げることは出来ないのだ。教室の壯麗よりも我々は教材の豊富ならんことを願ふ、先生の數の多からんよりも心から兒童を愛する少數の先生の親切心がほしいのである。海外在留民の子弟を教育すると云ふことは内地の師範學校で習ふて來たことを其儘受賣りするだけでは足りないのだ。風俗、人情、氣候を異にした環境にあつて親しく見ることも體驗することも出来ない母國の風習、人情を教へることが既に非常に困難なる事である。然も我々は更に海外發展民として亞細亞有色種族のリーダーとして、世界覇權を爭ふ日本人

たる眞骨頂を心に深く植付けなければならぬのだ。

先生は當然時に遅れぬ様に絶へず勉強して居らねばならない、南洋の動植物、天文等に對しては博物館や圖書館に行つて相當研究して居られることであらうと信するが、此處の自然に對する正確な認識なくして見もせぬ内地の事物を比較説明する事はもとより出来ないことである、だから先生がぼん槍してゐたら子供は此處の事も内地の事も何も判らない、中味のカラツボな風船玉みたいな物になつて仕舞はねばならないのだ。先生が先づ大いに勉強して頂かねばならない、隨つて父兄會は直接教育上必要な設備を補ふことに注意すると共に先生の勉強を出来るだけ助けて上げねばならぬだらうと信するのである。

記念式舉行に當つて云ひ度い事はまだある。どうも子供のお行儀が悪くて困る。先生が標準語を使はないので甚だ言葉が悪くて仕様がなない等々、廣く家庭に就て不審を聞いて廻つたらそれこそ限りがないだらう。然も學務委員や父兄會があらゆる世評に耳をふさいで只管學

校當局の擁護に努めつゝあるのは何故であるかを疑はざるを得ぬのである。廿周年を記念し大いに先輩苦心の跡を感謝するのは意義あることだと信するが、それだけ一層學校の現狀に顧み、眞實に愛する子弟に對して親切であるかを反省して見ねばならないのだ。あらゆる情實をめぐり出し學校の内容を清新ならしめ、若い先生の心を緊張せしむることが廿周年を記念する何よりの企てだらうと思ふのである。

新嘉坡醫學校と醫師法の設定

新嘉坡醫學校はエドワード七世陛下を記念するため、一九〇五年七月海峽殖民地及び馬來聯邦州醫學校の名に於て設立されたのである。其前年九月支那人及び其他亞細亞人有力者が連署時の總督サー・ジョン・アンダーソン閣下に醫學校設立の急務に就いて請願したのである。その主なる理由は大略左の四項目であつた。

- 一、人口に對する醫師の不足
- 二、貧民患者救済の必要

三、無免許醫の取締の必要
四、言語不通のため英人醫師は一般亞細亞人に不適當なること

右請願に對し總督は醫學校の設立は必要であり且つ賛成する處であるが、學生の募集が困難であらうから其奨勵策として優等五名に、一人月額十五弗の特待金を與へる必要がある。隨つてこの基金として六萬弗と校舍建築費一萬一千弗合計七萬一千弗の金額が得らるならば政府は其維持費年額一萬三千二百弗と尙他に優等生十名の特待金を支出しても好いとの事であつた。茲に於てか請願者は早速寄附金の募集を開始し間もなく一萬七千弗も超過する如き好成绩を以て募集を了したのであつた。其處で前述の如く海峽殖民地及馬來聯邦州醫學校の名稱で産聲を揚げたのであつた。即ち一九一二年エドワード陛下の記念事業として募集し十二萬四千八百五十餘弗を學校に寄附し、其利子でキング・エドワード七世教授なる椅子を設けた。第一に就任されたのがキャンベル博士である。之と同時に校名をキング・エドワード七世

醫學專門學校と改めた。

開校當時は生徒僅かに廿三名の少数に過ぎなかつたが、今や三百名に達する盛況を呈してゐる。學生の實地研究所として本病院、タントクセン病院、産科院、傳染病々院、精神病院、脚氣病院、病理研究所、外來患者診療所の八病院を使用して居る。斯く設備も整頓して來たので一九一六年十月英本國の大醫師會に於て認められる事となり同會に登録する資格を與へられた。

同醫學校設立前、即ち一九〇四年迄は醫師に關する完全なる法規がなかつたので無資格者が相應横暴を極めてゐたが、醫學校設立と同時に醫師法發布されて醫師の登録嚴重となり、當地の醫會で認めた専門學校の卒業者以外の者には登録を許さない事になつた。尤も從來開業してゐた者で試験の上登録を許された者が數名あつて、其中に邦人も一名ゐた、斯く醫師法が發布された以上無資格者が醫業に従事する事は絶対に出來ないのは云ふまでもないが、若し敢て之をなす者が發見され告發されたら開業してゐた期間一日五十弗の罰金刑に處せられるので

榮に浴して來たのであると鈴木團長祝辭を朗讀、郡司總領事、西村日會長、安藤理事も夫々少年團に對して希望を述べ、カイレ氏安藤氏の通譯で

親愛なる日本少年團の十周年祝賀會に招待されたことを非常に嬉しく思ふ、十年の歳史を作ることは普通の努力では出來ないのである。各人種間にも澤山少年團が組織されるが二、三年で空しく解散されるのが少なくないのである。本日は幼年隊、少年隊、青年隊並びにガール・ガイドまで揃ひて出席してゐる様で非常に結構なことと思ひます。殊に私が常に日本少年團に對し感謝して居ることは、どんないな依頼でも一旦引受けられた以上何處までも忠實にやつて呉れる事です、更に廿年祭の時にも是非再び私を招いて下さい。

と祝辭を述べ、創立者の一人蔦田も一言したいと一流のお説教をなし、「花は薫る」の團歌を合唱して式を終り、校庭にて記念撮影後、訓練實習、折詰會食、夜に入り更に満月浮ゆるキャンプ・ファイヤーをなし次ぎ々と各隊の餘興あり、喜悅に溢るゝ篝火を終つて散會したのは

あるから一年やつてゐたとすれば一萬八千弗の罰金になるのである。尙今一つ注意を要するは醫師の廣告である。當地方は日本内地と異なり、醫師と辯護士は絶対に廣告する事が出來ない、假令各自の専門科目又は診療時間でも禁じてあるのである。

新嘉坡日本少年團十周年記念式

種々支障のため延び／＼となつてゐた新嘉坡日本少年團創立十周年祝賀式が六月十五日（昭和十年）午後五時から小學校大講堂に於て郡司總領事、西村日會長、馬來少年團聯盟デイス・リフトコンミツシヨナー・カイレ氏以下多數の内外來賓を迎へ盛大に舉行された。

新嘉坡日本少年團は大正十四年三月廿五日日會長齋藤武夫氏を理事長、蔦田、福田太、櫻尾、大島諸氏を理事、杉本校長を團長、田中、荒井兩氏を副團長とし健兒卅一名を以て結團式を擧げたのであつて、昭和九年八月新たに幼年隊を設置し現在九十餘名の隊員を有し、各宮殿下御寄港の折りは何時でも御警衛の任に當り數々の光九時過ぎであつた。尙此十周年式を機會に鈴木團長より創立の親である齋藤現郵船倫敦支店長以下今日までの團長、副團長に感謝狀を送つた。

日本人共同墓地西有寺緣起

ベランダのトタン屋根に凄じい音をたて、護謨の實がはちけて落ちる。晴れた空がすく／＼と延びた護謨の梢と遙かに聳えたつ椰子の上に眞つ青に擴がつて居る。春の彼岸の最終日、廿四日はお地藏さんの日であつた。スラングンの西有寺で觀音講の連中が御本尊の觀世音に參詣し、兼ねてお墓參りを仕様と思ひ立つて集まつて來たのである。

家に居ればもうお勝手に遠ざかり嫁女やコツクの御料理に文句も云はず、孫のお守に日を送つてゐようと云ふお婆さんばかりであるが、何れは花街華やかなりし頃は一花も二花も咲かせた連中、米まで持つて來て今日はお寺の裏所でお握りをにぎるやら權詰をあつためるやら汗の流れるのも忘れて若やつて居るのである。東洋ホテ

ルと西有寺の小さい子供連はお堂の横の樹陰で砂遊びに
餘念がない。

ペランダの卓子を圍んで野遊びにでも行つた氣分で御
自慢の御馳走を平けて居ると後の一行もやつて来た。廿
人近い講中が賑やかに箸を動かして、煩さい家庭から解
放されてのんびりと、思ひ出懐かしい昔話をしてるのを
聞いて居るのは實に長閑な光景であつた。九十のお婆さ
んが沁々云ふのである。もう此お寺が出来た頃の事を知
つてる人も段々少くなつて仕舞ふた。釋棋仙和尚があら
ゆる困難と戦ふて此共同墓地に草庵を結んでゐた當時の
ことを思ふと全く夢の様である。

明治四十四年十一月暹羅皇帝戴冠式に参列の日置默仙
老師が來島琢道師を連れて寄港され、始めて釋教山西有
寺の稱號を與へられたのであるが、其頃はお寺と云つて
も名のみ、本堂も極狭いもので和尚さんの部屋は三疊敷
程の間、それに一間の板の間と半疊程の土間がついて
るお勝手だけで、默仙老師の來られた時は釋子和尚の病
氣が大分進んでゐたので非常に氣が短くなつてゐた。

したのを二木氏の堅忍努力で漸く維持して來たのであつ
た。

初め共同墓地として得た地積は凡そ八英反だつたが、
後二木氏更に私有地四英反餘を寄附し九九九年無料貸下
げの許可を得たもので、其後釋子和尚が印度佛跡參拜を
志して寄星したのを請ふて精舎に住職たらしめ、始めて
供養に讀經に在留民をして自ら慰藉せしめ、安住の基礎
を固むるに至つたのであつて、今のお寺を造營するにも
釋子和尚は喧しく云ふ、横濱に歸つた澁谷銀治氏からも
折角自分等が苦心して作つた共濟會、もう相當基金も出
來て居らねばならぬ筈である。一日も早くお寺を建て、
ほしい、場合に依つては出掛けて行くといつて來る。然
も共濟會の基金どころか頼母子講も内容はスツカラカン
二木氏も全くそれには血を絞られる様な思ひをしたのだ
つた。然し澁谷が來て此事實を知つたらどんなに悲しむ
だらうと、萬難を排して遂にお寺の建立を決定したので
あつた。

西有寺の御本尊觀世音は釋子和尚が播州から奉仕して

世話人一同種々とお取持ちに氣をあせつて居るのである
が、何分狭くてどうすることも出来ない。釋子和尚が氣
をもんでガミ／＼怒るが默仙老師は平氣で私等の作つた
手料理をうまさうに食べて居られた。

スラングンに始めて新嘉坡日本人共同墓地を二木多賀
次郎氏が作つたのは明治廿一年十一月の事で、當時在留
邦人の男子僅かに十七人、娘子軍は世界無宿のルンペン
と看做され、彼等の病者は海峽殖民地に華僑富豪陳德勝
が建立して慈善病院に托する外致し方なく、其死者は獄
死者及び斃牛斃馬の埋葬地に送られ恰も日本にて行倒れ
を處分する如くなりしを哀れに思ひ、幸ひ澁谷銀治氏が
會て上海に在り本願寺の事業たる慈善會墓地の制度を知
つてゐたので、二人力を併せ政廳に願ふて日本人墓地を
創設し、囚人墓地に埋められてゐた同胞廿七人の白骨を
牛頭馬骨の間より堀出し新墓地に改葬し、無縁塚を建立
し永久に同胞相憐れむ情を表したのであつて、爾來幾年
墓地經營の困難に加へ南洋在留邦人に常事として引續
ける紛争に波動さるゝこと一再ならず、幾度か崩れんと

來たもの、會て日置老師から西有禪師の手を経て播州に
來たものでそれにも深い因縁があるのである。尚同寺建
立當時長崎の浩臺寺から態々御本尊を送つて來たのであ
つたがどうした行違ひであつたか、それを送り返して仕
舞ふたとか、何しろ其頃はステレツ全盛時代、折角墓地
がありお寺が出来ても眞に頼りになる檀家がとても少な
い。其處で釋子和尚は護謨を植て將來の自給策を圖つた
のであつた。今は時勢が變つてその護謨の樹も大分切倒
され、古い昔の事を覚えて居る人も殆んどなくなつた
觀音講も出張所（最初はクイン街今はペンクレン街）が
立派になつてスラングンまで行かない事になつて仕舞ふ
たが大切な御本尊を忘れては罰が當るだらう。此處には
觀音様があり六地藏もあるがお祖師様がまだないからは
非生てる内にお迎へしたいと九十の婆さんが云ふてゐた
二時から北川和尚と堀江師の讀經ありお参りを終り、涼
しい廊下で四人の子供さんが無邪氣な童謡を復習する
さて／＼今日は好い生命の洗濯をしたと講中涙を流さん
ばかりに喜んで、三時半迎ひの自動車が來たので一時歸

路についたのであつた。

本願寺出張所と日蓮宗布教所

西有寺の釋棋仙和尚に少し遅れて明治廿八年本願寺から太田周教師が派遣され、布教の傍ら熱心に兒童教育等にも力を盡して居られたが機縁熟せざりしものと見へ布教所を開設するに至らず間もなく歸朝され暫く其儘となつてゐたのか、大正四年桑野淳城師來星してペンクレイン街に眞宗教會創立六年愈々本願寺出張所となり婦人會も出來て何事にも奔走してゐたのであるが、同師歸朝後中村順三師時代、經谷某別に布教所の看板を掲げ信徒も亦分裂して見憎い宗門の恥を曝してゐたのであるが、渡邊師統一融和の任を帯びて來星し、再び兩派を併せて布教所を擴張し現在のところに移轉し、同師歸朝後井上師一時主任を代理し現在の清水師に及んで居るのである。前田豊良師が始めてショート街に日蓮宗假布教所を開設したのは大正六年四月であつた。後漸次信徒も増加し現在のカイクレスに移轉したのであつて、同師歸朝後岡

野師を経て遠藤師時代布教所内に猛烈な鬭争起り結局遠藤師排斥派總代側の慘敗に終つたのであつたが遠藤師も亦後任を現在の田淵即壽師に譲つて歸朝せざるを得なかつたのである。最近岡野師が南洋監督の名儀で再度來星布教所内に居ると云ふことである。

横濱正金銀行支店

横濱正金銀行がチュリア街の角に開設したのは歐洲大戦景氣漸く來らんとする、大正五年九月五日本誌の創刊に後るゝこと一週間目であつた。初代支部長は大塚伸次郎氏で以來前田忠、有馬長太郎、森軍之助氏を経て海上浩氏に及び、海上氏は在星滿六年不況のドン底から滿洲事變、爲替安、輸入大激増時代と貿易情勢幾變轉の最艱難時に會し良く多數在留邦商を指導して、信賴を一身に集め本年夏内地に歸朝紐育から現任の山本恒雄氏を迎へたのであつた。店が現在のラフルス・プレス一八號の新築ビルディングに移つたのは一昨年であつた。

臺灣銀行支店 がロビンソン路に開業したのは大正

元年九月二日で初代支店長は奥山章次郎氏、瀧田傳吉、江崎眞澄、高木復亨氏と大戦景氣と護謨栽培事業勃興の好況を満喫し市川氏時代休戦、鈴木破綻の痛手を負つて以來竹本、平野、宮島、宮田氏を経て現任金田武治氏に至つて居るのであつて、今や内地及び臺灣の南洋發展熱權頭に促され大いに其活躍が期待されて居るのである。事務所はバツテリ路十五號から更に現在のラフルス・プレス三一に替はつて居る。

日本郵船會社支店

明治廿六年日清戰爭頃歐洲航路と印度航路を開設しながら、郵船會社が新嘉坡に支店を置いたのは大正七年十月一日で、それまではバタワン、サイモンズ商會を代理店として出張員が來てゐたのであつて、支店開設後も暫く輸入係と會計係だけがラフルス・チャンパー内の新事務所執務し、庶務、輸出及船客係等は尙従前通りバタワン・サイモスで仕事をして居り、八年三月ラフルス・プレス三一號に進出してから初めて全部を同所に移

したのであつた。事務所は其後更に今のラフルス・プレス一八正金の上に移つたのである。

初代支店長は宮下龍藏氏だが氏の前任出張員として今の社長大谷登氏が新嘉坡にゐたのである。尙宮下氏から小栗、齋藤、松井氏を経て昭和十年現支店長森野意由氏が倫敦から來任されたのである。何しろ歐洲航路も更に北歐線が新設され印度航路もカルカッタ、孟買、コロンボと三線あり其他貨物船、臨時船等月廿餘隻の來往であるから全支店員の多忙さは全く同情に耐えないのである。

大阪商船

の支店開設は大戦好況の初潮大正七年六月でそれ迄はガスリー商會をエージェントとして時々同社船の寄港を見てゐたのである。

初代支店長は山田怒氏で二代が山崎主計氏、日本人會長として小學校建築問題を解決した人、氏の神戸へ榮轉の後を受け元次席牧野元氏が三代目店長となり、戸田、山本兩氏を経て最近今の上森文二氏の來任を迎へたのである。商船は大戦中歐洲航路、印度航路の外獨立した當

方面の航路を經營してゐた事あり、其後歐洲航路を郵船に委譲し南米航路に主力を注いでゐたが、又歐洲航路再開の噂があるから益々仕事は忙がしくなるばかりである。店は最初から今のデサウザ街二號であつた。

三井物産支店

三井物産會社が新嘉坡に始めて支店を開設したのは明治廿六年實に今から四十四年前のことであつた。初代支店長は福井菊三郎氏、最初パツテリ路八號で開業、南洋貿易のあらゆる方面に活躍し又我輸出商品の紹介にどれだけ努めたが知れないのである。

歐洲大戦勃發當時は中山晋氏が支店長で鹽田、稻葉氏等の古強者あり、十一代支店長三神敬長氏を迎へて縦横に腕を振ひ、三神、大久保、高橋の三氏日本人會長として在留邦人のために奔走する處から、高橋氏以後廣岡信三郎、西永義文氏を送つて昭和九年八月現在松本季三志氏を十八代支店長として迎へたのであつて、店はパツテリ路今のギヤシンの處を経て現在のKPMビルデン

グと三度移轉して居るのであり、その巨大な資本力を以て輸出入貿易に絶大な威力を發揮して居るのみならず、昨年来更に同社船舶部と國際汽船の快速船を以て彼南、新嘉坡、日本經由紐育定期航路を開設し勘からさる脅威を英米船に與へて居るのである。

三菱商事支店 新嘉坡に開設されたのは大正八年で引續き瓜哇方面にも支店を置き、二代目店長服部一郎時代に愈々陣容整ひ各方面の輸出入貿易に着手を擴げて來たのである。支店長はそれから針澤一夫、伊藤榮次郎氏を経て今の山口勝氏となつたのであつて、事務所はユニオンビルの四階にある。

華南銀行 は臺灣に本店を置き南支、南洋のローカル銀行として經濟的日支親善のくさびたらんとして創立されたもので、新嘉坡支店の開設は大正八年六月二日、初代支店長は小笠原三九郎氏で始めチユリヤ街二六號にオフィスを設けパツテリ路二號を経て現在の臺灣銀行横丁チエンチアレーに移轉したのであつて支店長は小笠原氏に次いで山瀬、佐々木、土井、吉田、稻場氏を経て現

在の池田佐一郎氏になつたのである。

南洋倉庫株式會社

新嘉坡支店は、大正九年五月營業開始、最初事務所をウインチエスターハウスに置き後チユリヤ街二號に移り更に大正十五年一月現在のパツテリ路二號に移轉したのである。初代支店長は東比古氏、次ぎの本田光徳氏の辭職後専任支店長を置かず、十一年本部より監督矢田氏來星支店長を兼ねたのであつて、それから篠田、川津氏を経て現任支店長井上清氏に及んで居る、同社は創立間もなく歐洲大戦終り引續く世界不況やポイコット等に悩まれ、業績甚だ面白くなかつたのであるが、金再禁輸以來爲替安の波に乗つた輸入の大激増に幸ひされ、倉庫も益々殖え非常な繁忙に追はれて居るのである。

千田商會

新嘉坡に本店を置いて廣く南洋印度に活躍して居る株式會社は千田商會一つである。社長は千田牟妻太郎氏で熊本のひと、且て三井物産の若手支店長として辣腕を唄はれ歐洲大戦中獨立、カルカッタに千田バーネツト商會、當地に千田商會を創立して縦横に手腕を振ふ

た。印度、瓜哇方面に知己多く通商會議の參謀としてその裏面的活躍が何時も期待されて居るのである。

事務の宇尾榮次郎氏とは米國以來の名コンビで當地護謨業界に重きをなしてゐたのであるが病を得て目下歸朝靜養中であるのは残念にたえない、殊に宇尾氏は大正十五年四月から昭和四年四月まで日本人會長として小學校増築の難事業を引受け在留民から多大な感謝を受けてゐたのであつた。

野村合名支店

大阪の合名會社野村商店の新嘉坡支店開設は大正十三年十月で最初はホワキトウエービルに事務所を開けてゐたが後今のユニオンビルに移轉したのである。野村合名はスマトラのアチエ洲にハチ英反の油椰子及珈琲園を經營し、ボルネオのバンジャルマシにも三萬二千英反を租借し既に護謨六千英反を植付けて居るのであつて、當地支店は主にスマトラ農園の世話と護謨の賣買をやつて居るのである。初代支店長は山内實氏二代店長の森田節藏氏は日本人會長、副會長及俱樂部長として非常に在留民の爲めに盡力する處あつた。三代目吉

川貞雄氏現任支店長は植田喜代治氏である。

弘榮商會 の上田弘剛氏は川原商店の新嘉坡支店長として若い時から護謨業界に盛名を謳はれた人であった。大戦後倫敦に渡航して親しく同地の護謨取引市場を視察し、川原商店破綻後獨立して今日に至つたものであつて、店員皆錚々たる若手揃ひである。

日本賣藥 は日露戦後支那及び南洋に各自の商品を統一輸出の増進を期すべく明治廿九年東京に創立された會社で、先づ大連と新嘉坡に支店を設置する事とし、當地支店が始めてロビンソン路に店を開けたのは四十年五月一日であつた。尙新嘉坡支店からスラバヤと蘭貢に出張所を出してゐたが後それは支店に改められた、同社の資本金は當初廿萬圓であつたが大正九年二百萬に増資され一般藥品、醫療機械のみならず各種雜貨の輸入もやつて居るのである。初代支店長は山崎茂樹氏で大正三年迄七年間在星、二代の市岡氏友田の支店長となり竹内精一氏來星、勤續十一ヶ年、青年會長となり日會副會長となり公私在留邦人のために盡す處からず、同氏大連支店

長に榮轉の後を受けて現在の梅澤源次郎氏が支店長となつたのであつて、店は其後ノース・ブリッジ路四六四號を経て大正四年七月今の同町四九一五一號に移轉したのである。

南部商會 が大和商會の後を引受けて新嘉坡に艦船納入業の店を開けたのは大正十一年であつた。ポートサイド及び古倫母に兄弟店あり、特に令弟のやつてるポトサイドの店は尤も古くから同方面通過の邦船に名を知られてゐたのである。新嘉坡の辰造氏が一番の長兄で町田支配人は大和商會時代からの古強者、傍ら最近一般雜貨の輸入販賣にも手を擴げつゝあるのである。

越後屋吳服店 越後屋の先代高橋忠平氏が始めて吳服行商として新嘉坡に來たのは明治廿七年七月のことである。愈々當方面の非常に有望なるを看破し店を開けたのは四十年八月であつた。爾來一風變つた頑固な氣風が内外の信用を博し廣く半島及メダン方面にまで活躍し、廢娼後斷然店の體裁を白人向に改めたのが大當りで隆々たる盛運を迎へたのであつた。更に柔佛河沿岸に護謨園を開

き昭和四年今の店舗を新築し、忠平翁歿後組織を株式會社に改め益々繁昌を續け中央路一三一號に擴張發展すべく新店舗の建築を急いで居るのであつて、支配人の樽正義氏は勤續廿七年の最古參者である。

土母他商店 店主下田楯之助氏は來星當時江尻隆弘藥房に店員をしてゐたが後獨立して同商店を開け綿布を商ひ、大正十一年頃から内地でサロンを織らせ輸出せしめんと八方に奔走し、一九二九年十月始めて日本製サロンを賣出し品質の向上と値段の引下げに苦心し、遂に印度、獨逸、和蘭物を驅逐してカエンニツボン（格子サロンの）の盛名を謳はるゝに至つたのであつた。綿布輸入制限當以來非常に輸入に打撃を受けたが尙よく其盛名を持續して居るのである。

三鼎商會 は大正十一年の開業で北橋路舊俱樂部の裏手に事務所を置き自轉車同部品、電氣器具、塗料、陶磁器、硝子、諸機械等を販賣してゐたのであるが後今のウオタール路に移轉し、自轉車及部分品専門で殆んど業界を牛耳る勢力を持つて居るのである。店主の中塚保

次郎氏は京都の人、大正六年來南石原洋行店員として勤務し後獨立して今日の成功を得たのであつて、關口支配人また活動家として業界に重きをなして居る。

同仁醫院 は醫學士鷺尾信一氏が大正五年五月來南博愛藥房に勤務中内外人に手腕を認められ七年四月獨立してベンクレン街に同仁醫院を開業、後現在のミツドル路に進出しプライベート・ホスピタルの許可を受け、昭和七年院長後後も尙良く盛名を維持し隆昌を續けつゝあり、内科醫長青木儀維博士、外科婦人科醫長渡邊格博士益々内外人の信望を蒐めて居る。

南洋商行 本店は名古屋で新嘉坡支店は更にメダンパレンバン、彼南、アロスター等に支店網を有し半島各地に殆んど支店同様の取引店を持つて居る。陶磁器と硝子類に主力を置き一般雜貨の輸入と賣藥、醫療機械の販賣をやつて居るのであつて非常に手廣く各方面に活躍して居る。尙久田前支店長昭和九年退店して神戸に大田洋行を開業後杉山鈺造氏が支配人で内外に采配を振つて居るのである。

東洋ホテル ホテルとしては碩田館が古くもあるし尤も名を廣く知られてゐたのであるが、最近では東洋ホテルの隆昌には到底叶はない、東洋ホテルの主人笠直三郎氏は福岡の人で明治四十三年來南最初は護謨園に入り大正三年獨立してミツドル路にホテル開業、勤勉力行より來往客の信頼を博し家屋も買入れ隆昌を續けてゐたのであるが、昭和十一年一杯でリースが切れ放棄の餘儀なきに至りパスパス路突當りの宏壯な家屋に移轉したのであつたが、又家主が同家を他に讓渡退去を迫らるゝの不幸に會し、近くクキン街に家屋を新築し陣容を立直して一層の活躍を期するとの事である。

花屋商會 は新嘉坡唯一の書籍店であり、樂器部と貸自動車部を兼營し傍ら一般雜貨の卸賣をやつて居るのである。主人の櫻尾七太郎氏は紀州出身で新嘉坡に來たのは大正二年十月であるが、其以前六七年も瓜哇の福島洋行に勤めてゐたのであつて、來星間もなく古川護謨園の酒井支配人の知遇を受けピクトリヤ街に花屋ホテル開業護謨園の開設に奔走して漸次産を作りリオ島に貸家を

相當持つてゐた事もあつた。後ホテルをやめて本屋に轉向昨年現在の家屋を買入れ尙盛んに活動を續けて居るのである。

邦人醫師の草分中野光三氏

新嘉坡邦人醫師の草分は中野光三氏である。福岡縣久留米の人で五尺そこゝの小男であつたがドクトルお酒として有名な豪傑であつた。長崎醫學校——當時は第五高等學校醫學部と云つてゐた——を卒業し明治廿六年上海に渡航、荒尾精氏に私淑し日清貿易研究所の豪傑連と交り、盛んに南洋雄飛を鼓吹され翌年二月郵船孟買航路の第二船廣島丸で、印度へ行く宇都宮太郎、松石安治の兩大尉と同船聽診器一本を提げ飄然新嘉坡に上陸した、當時在留邦人の男子は數へる程も居らず話せるのは、三井物産の支店長代理犬塚信太郎氏、小田柿捨次郎氏と友常和仲君それに大和商會の國井藤兵衛君位のものであつた。其頃新嘉坡は獨逸醫師の勢力非常なもので勢ひ競争せざるを得ず随分意地悪い妨害を受けたが屈せず、漸次

日本醫學の眞價を認識せしめ卅七年勸められて吉隆坡に分院を開けたが、馬來半島ではそれが最初の邦人醫院であつた、然し當時は新嘉坡に各地の高貴な馬來人が遊びに來て別荘で悠々してゐた。

卅二年か三年の春後年幸徳事件で斷頭臺上の露と消えた大石誠之助が來てヒル街に開業したが、一年程で孟買に行き間もなく歸つて仕舞ふた、更にそれよりも二三年前自由黨の名士で朝鮮事件の首魁馬城大井憲太郎が來てマラバの小山本店にゐたが後中野醫院に移り、一度歸朝し若い連中を數人連れ來てロビンソン路に日本雜貨の卸店を開けたが一年で減茶々々にして仕舞ふたがその中には高商出の太田文一といふ眞面目な人もゐた。竹橋砲撃事件で軍職を去つた岩本千綱中尉が來たのは廿九年か卅年であつた。暹羅から安南トンキンを廻り雲南境の秘密境まで具に探検して來たのだつた。更に卅四年には康有爲を尋ねて宮崎滔天、内田良平、藤崎某の三人が來たが警部が多數の巡查を連れて旅宿の松尾ホテルに包圍し大變な騒ぎで警察に連行し追放になつたが、香港紙幣で二

萬五千五百弗持つてゐたそうだが、更に四十年の暮頃大江卓と奥宮健之がネパール王と共に碩田館に泊つたことがある。

更に所謂名士の寄港を迎へた中には伊藤博文公、栗野慎一郎男の如きは二回も逢ふて居る。殊に一番印象に残つて居るのは乃木東郷兩大將が寄港された時であつた。在留民から記念として馬來の古刀を贈る事になり數名の代表が船へ持参したのであつたが、困つたのは乃木さんから刀の由來を聞かれた事であつた。誰もそんな事を知つた者は一人もない大いに困つて居ると二木多賀二郎君が「ハイ將軍様に申し上げます……」と出たものだ。吾々は何をどう申上げて呉れる事かと心配していると本人平然として、某王様が度々猛獸や毒蛇を征伐に行かれた時お持ちになつたものでござりまする。ハイ、その刀には毒がウンと仕込んでござりまするからお觸りになるのは危険かと心得まするハイ……」と、口から出放題を申上げ奉つたものだ、ハタで聞いてゐて能くもアンナ出鱈目が平氣で云へるものだと感じた。然し其處は乃木さんだ

からすつかり眞に受けて、で何年位の物だらうと更に問はれるのである、愈々二木君もこれには困るかと思ふと「ハイ、御意には御座りまするが何分年中暑い國でござりまするので土人などは自分の年さへも知らない様な次第で御座りまするから刀の年もどうも分りかねます、何卒悪からず思召しの程をお願ひ申上げます……」で到頭胡魔化して仕舞ふた。恐らく乃木さんをあんなに欺いたのは二木君位のものだらう。まだ外にも面白い事が随分あつたよと酔顔に笑ひをたゝえつゝ、呵々大笑してゐた面影がまだ目先きにちらつて居るのであるが、痛快だつたそのドクトルも大正十二年の春逝いてもう今年は十四年になるのである。

齒科醫の元祖山本作次郎氏

齒科醫の先達は山本作次郎氏である。氏は明治卅五年の春印度のネパール王國に行く積りで寄港したのであつたが、當地の有望を確信し方針を變へヴィクトリア街日本酒店の隣家にあつた宇治田と云ふ珈琲店の二階で開業

したのであつた。尤も氏の前にも久戸とか柴川等と云ふ齒科醫が来て二三ヶ月程滞在してゐた事があつたが餘り成績が好くなかつたからと態々注告して呉れた人もあつた。然も山本氏とても充分の用意があつたのではなかつた。拔齒三丁、齒科釜にピンセットと少しばかりの藥だけ、一弗八十仙の破れ椅子二脚を下から借り長持の上に白金巾を覆ふて、大膽にも始めて堂々大日本齒科醫の看板を擧げたのだつた。所持金たつた廿七弗引越しの車賃やら、うどん代煙草錢を拂ふたら残る所幾許ぞと云つた次第であつた。のみならず當時の情なかつた事、白人は勿論馬來、印度人、支那人一人として國違ひは氏の看板を振向ひて見ようともせず、僅かに在留邦人の患者がボツ／＼來て呉れたばかりであつた。此處に於て氏は口腔衛生の勾緒に附す可からざる所以を先づ一般に周知せしめねばならぬと最新治療法の大意を説き、從來の不完全極まる支那人入齒師等と日本齒科醫の全然撰を異にせる事實を英支新聞に連日廣告したが少しも効果がない、更に小冊子を作り英漢文に翻譯して貰ひ車十臺で頒布させ

た。自身で版木を彫り日本齒科醫山本と大書したビラを刷つて、警察だらうが橋の欄干だらうが何處でも構はず無暗ヤタラにベタ／＼張りつけさせたから訴へられる、罰金は取られる直接談判に押し掛けて來た者が四十人以上あつた。然し兎も角も斯くして新嘉坡に邦人齒科醫の存在を宣傳し得たのであつた。折柄日露戦争が始まり皇軍連戦連勝急に日本が偉ひものとなつたので續々治療を乞ひに來る患者が殖えて來た。爾來林、岩窪、今岡諸氏もやつて來て遂に南洋が日本齒科醫の獨壇場となるに到つたのである。而して山本氏は南洋有望の信念を愈々固め、開業三年目から進んで齒科醫の養成を始めた、イの一番の入門者が葛田デニストで家主の宇治田君も弟子になり、クーチンの内田氏芙蓉の大河氏等が最古參の方で印度、蘭貢、暹羅は勿論の事遠く南米まで氏に仕立てられた人々が堂々日本齒科醫として發展したのだつた。

新嘉坡總領事館日記抄

商務書記生島田靜夫

明治廿二年一月申川書記生新嘉坡領事代理として着任市内ソフアア路に帝國領事館を開設す。同氏が着任早々新嘉坡の實情を報告せる記事は今日より顧みて大いに興味ありと思はれるを以て左に之を摘記せん。

「前略、氣候は一年の内平均百七十日は必降雨あり皆驟雨にて霖雨なるものなくこれが爲めに大いに熱を拂ひ清涼を催す、驟雨の降る素より定まりなきが故に官制を以て各屋前伊太利風の廊下を設け雨中の通行に便にすとも實際此處に貨物を堆積し往來を妨ぐ、土人支那人等出づるときは紙製傘を携ふ。即ち我國の俗に照降傘と稱するものと殆んど其製を同じくす。

暑氣強きが故に當地には洗湯なるものなく、各家大瓶(木製又は陶製)を置き水管を布きて水浴をなす、大抵一日の中三度位浴するを以て習慣となす尤も頭腦を數

々冷すを必要とせり。

人口——最近(一八八一年)の調査を掲ぐれば總數十三萬九千二百人、中歐米人二千七百人、支那人八萬六千二百人、馬來人二萬千五百人其餘は亞拉比亞人、印度人等なり、日本人は當時男八人女十四人なりしが今日にては女のみにて百五十人に近しと云ふ。マラツカの人口は男五萬二千人、女四萬一千人、彼南及其近傍男十二萬四千人女六萬六千人なり。

當港に於ては支那人の人數多きと富豪の者又少なからざるを以て同人種の勢力弱しとせず、議員にも支那人三名ありて侃々同人種の利を保護す、又同人種の内には暗黨なるものあり郷金によりて黨を立て賭博竊盜を事となし、時に暴行をなすものあり歐洲人の中には政府に於て幾分か讓れるが故に彼等増長すとの不平の聲あるを聞けり。

尙奇なるは人力車を曳くものは必ず支那人にして馬來人は之を賤しみ業として顧みず、而して之に乗る者も多きは支那人若しくは水夫の類にして歐米人は決して之を

用ひず(人力車臺數三千臺)

人氣——新嘉坡にて思ふところは氣候の惡きにあらずして人氣の不良なるにあり(中略)獨り支那人のみならず印度人、馬來人の如きも中々狡猾に且つ侮慢にして特に日本人を輕蔑し且つ愚弄すること甚だしきものあり是れ他なし從來當地に居住する者は一に小賣商、行商を除くの外は淫賣女及び之に由りて口を糊する水夫上りの者のみにして彼の行商の如きも右の女子を以て得意となし、彼等の居所に出入し加之紳士紳商と云ふ者にして來往の途次又歩を狂くるか故に日本人と見れば必ず淫賣女に關係ある者と思ひ輕蔑するものなり、此の如き有様なるを以て日本人の當地に於て支那人、馬來人を使ふは實に骨折なり。

商業の見込み——思ふに我が物産の中石炭の如きは格別その餘のものにて多額の輸出を爲すに至るが如きは容易の業にあらざる如し、然れども大輸出業者、製造家に於て適當の品物を成るべく廉價に且つ丈夫に製し、出費を省き賣込に勉むるときは多額の輸入を望むべからずと

云ふの理なく、一攫千金を望みて來るは誤りなり。

家賃——上略一ヶ月八十圓ならば場所柄上ノ下か中の上位の處にて一通りの家あらん、小賣店ならば中ノ上位の場所にて四十圓位にて可なりの家あらん、場所によりては一ヶ月二十七八圓にて稍廣き家を得らるべし。

右の外家の入費は用水代にて水管の大小と個數によりて一圓五十錢より三圓に至る。

日本雜貨店——今まで見當りたる處にては日本雜貨を專業とする者支那人二名、日本人の小店二ヶ處、外に西洋人の勸工場の如き處に日本衣裳、陶器、漆器等を陳列す。

廿三年五月、齋藤書記生(幹)着任、後二等領事。

同年十一月軍艦比叡、金剛入港コロンボへ抜錨。

廿五年末、在留邦人數。

新嘉坡 男 七九人 女 二〇四人

廿六年八月瓜哇勸業博覽會開備。

廿七年二月軍艦吉野コロンボより入港。

三月大婚廿五年御祝典奉賀、主なる在留邦人(六四名)

より賀表奉呈、この内には小田柿捨次郎、中野光三氏等あり。

廿七年末在留邦人数

男 一一九人 女 二七八人

廿八年三月在留邦人より陸海軍資金を献納す(金一千八百圓總代二本多賀次郎、澁谷吟)

六月農商務省商品見本陳列所開設(領事館内)

七月藤田領事(敏郎)着任。

九月柔佛新サルタン宣言式並に故サルタン葬儀執行。

廿九年七月伏見宮殿下露國皇帝戴冠式御参列の歸途佛船にて御寄港あり。

八月練習艦隊金剛乗組水兵當地病院にて死去。

當時新嘉坡の主なる邦人商店、三井物産合名會社支店大井商店、乙宗商店。

醜業婦漸増の狀勢にありとの報告多し。

卅一年十月日本同銀當領輸入禁止法案立法會議通過廿六日より實施せられる、當時同銀流通高約十八圓内外の由。

同年末在留邦人数

新嘉坡 男 一二七人 女 三六四人

彼南 男 二四人 女 八三人

卅二年十二月總督サー・チャレス・シツチエル急病死

卅三年三月閑院宮殿下佛船にて御寄港(久水三郎領事)

卅四年一月四日新嘉坡盤谷間電信連絡開始。

同廿二日ピクトリア女皇崩御。

四月廿一日英國ヨーク公及妃殿下濠洲への途御寄港あり「市内裝飾萬端實に眼を驚かす許りなり」とあり。

五月十八日軍艦橋立入港、船渠にて修理中乗組津田少尉候補生誤て海中に墜落行方不明となり死體發見されず

五月十八日赤道附近の南洋諸島に顯はれたる日蝕皆既は六分三十秒に亘る珍らしき長時間のものにて各國觀測隊スマトラ地方に出張、日本より平山天文臺長來南す。

八月新嘉坡市街鐵道敷設計劃發表する。

當時の交通機關は

自用馬車 一、七一五臺

營業用馬車 五〇二

人力車 八、〇六一

にして人口十九萬三千人に對し車輛甚だ驕多なる上、今般倫敦デイツク・カー會社及英國電氣製作會社の手にて電車鐵道敷設の企劃あり、成功の見込にて交通上便宜多かるべきも本邦より毎年十四萬圓の輸入ある人力車需要上大影響を來すべし)云々。

一八九一年三月海峽殖民地人口調査

總數 五七二、二四九人

内新嘉坡 一二八、五五五(邦人七六六)

彼南 二四八、二〇七(同 一九九)

馬拉加 九五、四八七(同 二〇〇)

十月一日民政長官スエツテンハム氏總督に昇進す。

卅五年々初新嘉坡に於ける日本人雜貨商八軒、内主なる個人商店

乙宗商店、米屋商店、澁谷商店

四月廿日英皇戴冠式参列の淺間、高砂兩艦入港。

五月四日小松宮殿下御渡英の途獨逸汽船にて御寄港。

八月九日英皇戴冠式祝賀大會催さる。

在留邦人二千餘弗を據金煙大を打上ぐ。

同日ピクトリア・メモリアルホール起工式舉行。

八月末邦人營業妓樓數八十三軒、娼婦六百十一名。

政廳より婦女の渡航に付一層嚴重取締方申出あり。

卅四年海峽殖民地貿易額

輸入 三二〇、五二〇千弗(本邦より七、六六一千弗)

輸出 二七八、七五三 (同 一、四六四)

卅六年四月十三日梨本宮殿下佛船にて御寄港。

四月農商務省商品陳列所閉鎖、同所の事務を取扱ひたる大和商會へ引繼ぐ。

四月海峽殖民地金貨本位制採用可決せらる。

卅七年日露開戦と共に各地在留同胞より恤兵金送附依頼多し、即ち三月には新嘉坡邦人總代富木音吉氏外九名

より五千餘圓献金あり、其内には葛田顯理、西村竹四郎、山本作次郎、田尻才六、富木デン等の名あり其外一圓二圓等の小口人名は大低女性なり、スレンバンの中に「姓不詳スギ」と記されたる献納願のあるのは涙ぐましい思ひがする。

二月廿一日領事田中都吉氏着任。

四月新總督サー・アンダーソン氏着任。

五月調査邦人商店名

三井物産支店、米屋商會、澁谷商店、大和商店、日新商會、米井商店、乙宗商店、矢ヶ部商店

卅七年末現在邦人數

新嘉坡 男三九人 女九〇二人

娼家 一〇一軒 娼妓六〇一名

彼南 娼家三四軒 娼妓一八一一名

八月十一日有栖川宮同妃兩殿下歐洲よりの御歸途獨逸汽船に御寄港あり。

九月九日新嘉坡市街鐵道第一線開通。

卅九年一月東北飢饉救助寄附金として新嘉坡在留邦人より五百七十圓據金あり。

三五公司愛久澤氏護謨園を買収す。

十一月岸書記生領事々務代理となる。

四十年二月廿七日伏見宮貞愛親王殿下御渡英の途英船に御寄港。

三月十一日遣米艦隊筑波、千歳寄港。

四月廿二日久邇宮殿下郵船伊豫丸にて御寄港。

五月廿日練習艦隊松島、嚴島、樣立三艦入港。

四十一年一月廿七日伏見宮博恭王殿下郵船博多丸にて御寄港。

二月練習艦隊三艦入港當時三名の病者あり入院加療中竹内三等水兵死亡し邦人共同墓地に埋葬す。

卅九年の本邦と海峽殖民地間貿易總額七百四十萬弗、

(一弗一圓十五錢) 内輸出五百萬弗(錫、ボルネオ、

ゴム) 輸入二百四十萬弗(燐寸、石炭、絹織物、人力車漆器)

在留民間に小學校設置の議あり、當時一學齡兒童十名同未滿のもの十數名に過ぎず焦眉の急とは云ひ難し」とあり。

十月鈴木榮作領事着任。

四十二年一月卅一日梨本宮妃殿下加茂丸にて御寄港。

四十三年七月、主なる日本人商店

新嘉坡(前記の外) 福屋、中川、小山、小野等

彼南 山田商店

コーランポ 松田商店、永野商店

十月十二日軍艦生駒入港。

十月末馬來半島護謨園邦人經營者

柔佛州内

三五公司の外石丸、山崎、加藤其他十氏あり

開墾面積四千英反、聲邦州内六百英反

當時は護謨企業勃興時代にして總面積四、五十萬英反

會社の配當二〇パーセント乃至一二五パーセントに上れり。

十二月岩谷副領事着任。

四十四年四月十四日遣英艦隊鞍馬、利根兩艦寄港

四月卅日御名代東伏見宮同妃兩殿下、本郷、乃木兩大將を従へさせ給ひ郵船加茂丸にて御寄港。

四十五年(大正元年) 十二月廿五日練習艦隊吾妻、宗

谷諒閣中にて在留民の歡迎會見合はさる

大正二年三月廿二日軍艦淀入港

四月十一日岩谷領事腦溢血にて突然死去。

藤井領事着任。

十月廿六日郵船新造船香取丸處女航海の途寄港、恰も港内には本邦へ廻航の途にある新艦金剛雄姿を横ふるあ

り、當地官民の日本に對する印象を深からしめたり。

十二月廿二日民政長官ウイルキンソン氏柔佛邦人經營の護謨園を視察し、邦人栽培業者の經營振りを賞讃す。

大正三年一月櫻島噴火、新嘉坡在留邦人には多數の鹿

兒島縣人(百六十名)あり何れも非常に憂懼、東北地方

飢饉及右鹿兒島救濟義金として三千五百餘弗を送附す。

四月十一日昭憲皇太后陛下崩御。

五月廿四日御大葬遙拜式舉行せられ碇泊中の軍艦最上号砲を發射す。

三月一五月に亘り宮島醫學博士一行馬來護謨園の衛生状態を視察す。

八月歐洲大戰勃發。

十月在留獨塊人、悉くセントジョンズ島に離隔さる

四年十月新嘉坡日本人會設立。

五年邦人醜業婦調査に依れば

新嘉坡 娼家 七〇 娼妓 三八〇

彼南 三二 一三三

マラッカ 一〇 四三

其他半島を合し總計一千五百名と稱せらる。

六月現在在留邦人總數七千名、大正五年末頃より本邦有力商社の新嘉坡に支店出張所等を開設するもの相次ぎ七年には主なる商店數五十餘、從業者四百五十名に達すその主なるもの左の如し。

臺銀、正金、郵船、商船、山下、三井、三菱、乙宗、増田、久原、鈴木、南洋貿易、千田、川原、加藤商事、日蘭貿易、小倉、茂木、永見、石原洋行

六年一月山崎平吉領事着任。
九年一月各地日本人代表出星、自發的に廢娼斷行を決議し、同年六月末迄に新嘉坡、馬拉加等は廢娼を實行し其他の地方も年末迄に實行すること決定、六月末現在娼婦數九百七十名、同十一月調査によれば新嘉坡廢娼數百八十四名其他の地方を合し五百九十四名にして殘存者は五百名となれり。

十年三月十八日

東宮殿下 御訪船の途軍艦鹿島に御乗艦、香取を隨へ給ひ御寄港、十九日御上陸、同夜總督邸の公式晚餐會

なるものあり、海峽殖民地より五萬弗を緊急支出電送す
十三年一月廿八日佛國にて御加養中の北白川妃殿下白山丸にて御寄港。
九月ジヨホル陸橋開通式舉行。

十四年三月英國東方艦隊提督會議新嘉坡にて開催さる
六月十一日秩父宮殿下御渡英の途御寄港あり。
七月山陰震災。

柔佛日本人會

大正六年十月十五日柔佛日本人會創立第一回相談會を菊水旅館に開き野村勇、井上智通、明坂安治、日吉辰吉、平野享造、濱口友彦、西山新七、神崎甚十郎、渡邊季松、山本福次郎の十氏を創立委員に擧げ、同廿五日委員會役員を左の如く決定。

會長 野村 勇
副會長兼會計 西山新七
理事 平野享造、渡邊季松、神崎甚十郎
同卅日天長の佳節を卜し發會式を兼ね祝賀會開會、事務所を會長方に置き設立登錄を政廳に届出許可を得た。

には閑院宮殿下御臨席あり、廿日總督のヨットにて新嘉坡島御巡遊、廿二日御出港あらせられたり。

四月海峽殖民地國勢調査によれば總人口八八一、九〇〇人、内新嘉坡四二三、〇〇〇人十年前に比し十六萬九千人の増加なり。

六月大阪商船の印度丸郵船横濱丸とマラツカ海峽にて衝突事件あり。

八月浮田總領事着任。

十二月北白川宮殿下箱根丸にて御寄港。

十一年三月馬來ボルネオ展覽會開催、邦人側も参加。

十月北白川宮妃殿下箱根丸にて御寄港。

十一月朝香宮殿下伏見丸にて御寄港。

十二年一月長崎縣下島原震災、義捐金二千餘圓送附。

三月新嘉坡海軍根據地建設決定の旨發表さる。

五月十四日朝香宮妃殿下宮崎丸にて御寄港。

翌十五日故北白川宮殿下御靈柩香取丸にて入港、妃殿下同船に御成りあり御靈柩に御供花御通夜遊ばさる。

九月一日關東大震災、英國政廳を始め官民の同情非常

當時柔佛バル在留邦人で一家を持つてゐたのは十八名であつた。大正七年四月三日神武天皇祭に大運動會開催、同年七月十五日墓地に六角堂建設、盆會施餓鬼供養新嘉坡より西有寺、本願寺、日蓮宗住職參列す。

八年世界大戰平和克復祝賀會に假裝行列を催し馬來俱樂部、官殿等を経て政廳に至り土乃園の池田氏一同を代表して祝辭を述べアドバイザーから答辭を受けた。

邦人護謨園の發展に連れ政廳との關係益々密接となり意志疎通機關として本會の指命愈々重大の度を加へて來た。殊に野村會長衛生局に勤務しつゝあり各園との連絡を計るに非常に都合が好かつたが、尙一層親交を深からしむべく各護謨園の賛成を得て千四百弗の寄附金を集め

全柔佛州庭球大會を主催、大チャレンヂ杯を寄贈し井上濱口、明坂理事を始めインチ・バカ・ダト・アワン閣下等の盡力により柔佛俱樂部コートで第一回試合舉行三五

回はコタテンギのヤング氏優勝、爾來同大會は毎年九月十七日サルタン殿下誕生日を卜し、全柔佛の選手を集め

尤も盛大に舉行することゝなつた。

大正十年十二月十五日北白川宮成久王殿下御渡歐の途
御來遊あり、井上、明坂、濱口三理事御案内申上げた。

舟越練習艦隊司令官柔佛政廳公式訪問、ダト・イスマ
イル出迎へ自動車に同乗してトンコ・マコタ訪問贈物あ
り宮殿を拜觀して歸星された。

十一年十月十九日北白川宮妃房子内親王殿下浮田總領
事、中島商務官の御先導にて御來遊あり。

十五年七月廿七日伏見宮博義王殿下三井支店長の御案
内にて御來遊。

昭和四年十月會長野村勇氏辭任。

同五年五月八日高松宮宣仁親王殿下同妃喜久子殿下玉
木總領事御案内にて士乃園御來遊あり在留民陸橋前廣場
に整列奉迎送申上ぐ。

曩に昭和三年五月の濟南事件のポイコツトに引續き滿
洲事變突發に依り、支那人の態度相應惡化の兆ありしも
特にサルタン殿下の御厚意に依り、兵隊を邦人住宅附近
に派遣監視せしめ何等被害を蒙ることなかりしに對し井

二月八日御歸國氣船までお迎へ。

二月十一日始めて總會を兼ね建國祭奉祝、餘興等盛大
を極む。

七月十五日、益會墓地中央に無緣佛供養墓標建立法華
經八卷讀誦。

九月十七日サルタン殿下還曆と在位四十年祝賀會に百
姓會と相談、バトバハ同會、モア同會及石原産業と合同
煙花を打揚ぐ。

十二月廿三日午前六時三十九分皇太子殿下御誕生の吉
報總領事館の通知に接し在留民各戸國旗を掲げ、會長福
田登一本會を代表して宮内大臣宛祝電發送

昭和九年二月廿四日軍艦球磨乘組員來遊各所を案内す
三月十日十一日、練習艦隊淺間、磐手松下司令官以下
候補生來遊士乃護謨園及各所案内。

柔佛バル小學校より軍艦拜觀希望申込あり傳達の結果
直ちに許可あり、十二日校長教員附添ひ生徒六十餘名軍
艦拜觀本會より會長及理事數名案内役として同道非常な
感銘を與へた。

上、福田兩理事王宮事務所に出頭お禮申述べたに對し殿
下より「何時にても支那人等が危害を加へんとする時は
申出でよ」との有難きお言葉を給はつた。

昭和五年十月總領事館より在留邦人國勢調依頼あり其
結果を取纏めて報告す。

六年ジャランイブラヒム十四號山下商店二階に事務所
移轉。

十一月十八日サルタン、サルタナ兩殿下歐洲より御歸
國に就き理事一同御出迎ひ申上ぐ。

同十九日新王妃殿下册立式舉行にモア日本人會、バト
バハ日本人會及び日本人栽培協會と協同奉祝煙花を打上
ぐ。

昭和七年九月九日サルタン殿下御渡歐に就き理事一同
御乗船まで奉送。

同十月八日新嘉坡日本小學校生徒來遊ステーションま
で出迎へ各所を案内す。

昭和八年一月八日、サルタン殿下還曆、安南香港等御
訪問奉送。

三月廿日賀陽宮同妃殿下田村總領事御案内申上げ御來
遊在留民一同奉送迎。

九月十八日義勇和爾丸乘組海洋少年團長原大佐に引率
され西村新嘉坡日會長附添へ來遊各所を案内す。

十月十三日新嘉坡日本小學校二年生來遊茶菓饗す
昭和十年三月廿一日練習艦隊淺間、八雲中村司令
官、久邇宮朝融王、伏見、朝香候補生宮以下艦長幕僚候
補生來遊各所を案内す。

旗艦淺間のアツトホームに井上理事出席、中村司令官
より金五十圓を本會に寄附された。

七月廿二日新嘉坡及び護謨園方面の援助を得、事務所
をジャランイブラヒム五五號の現在の新館に移轉、南亞
公司より撞臺の寄贈あり記念大會開催、新嘉坡及護謨園
よりも出席本間清氏寄贈のチャレンヂ杯争奪撞球大會開
催、大津君第一回優勝者として同杯を保持す。

十月一日付國勢調査記入表(男百三十九、女百二十名
計二百五十九名)を取纏め新嘉坡總領事館に發送)

十月十日新嘉坡日本小學校三年以上六年まで二百十名

鈴木校長及受持教師に引率され來遊各所を案内す。

十月十一日出淵濠洲南洋經濟使節一行來訪本會前にてサルタン殿下に面會郡司總領事の紹介で挨拶の辭を取かはされた。

九月二日臨時總會開會役員互選の結果左の如く決定す

- 會長 牧野紫郎
- 副會長 福田登一
- 會計主任 本間清
- 理事長 井上智通

牧野氏會社の都合で會長辭任。

モア日本人會

大正四年十一月御即位祝賀會空前の盛況を極め直後記念事業として日本人會創立の議あり、當時モア在留邦人百餘名ありしも未だ團體的統制機關を缺き同胞相助くる組織を有せざりしを以て、時期尙早等多少の異論あつたが遂に協力發展を信條としてモア日本人會組織を決定し新年を迎へて愈々その創立實現を期したのであつた。斯くて大正五年一月五日男女會員八十一名を得て同會

創立、同三月廿日内容を共濟の精神に則り會名を日本人共濟會と改め四月十日正式登録。

同年八月廿日政廳土地局宛日本人墓地敷地下附出願、同十月「スंगाイアボン」に約一千坪使用の許可を得、靈域建設の第一歩を踏み出したのであつた。

大正七年二月末日山崎領事の管内巡視を迎へ有志觀迎會席上、領事より昨年來懸案の共濟會を他の團體と合せて之を新嘉坡日本人會モア支部となす事の提案あつたが双方に異議あり成立を見なんだ。

八年十月十三日柔佛政廳結社登錄官宛モア日本人共濟會を解散し、一切の事業財産をモア日本人會に繼承の件山崎新嘉坡總領事代理の證明を付して認可出願、十一月九日承認を得て十二月廿日新舊兩者大會を開催、興廢繼承の手續全部を異議なく完了した當時の會員男女合せて百四十七名、爾來毎年一回四月を期して會員定期總會を開き、昭和九年第十六回總會の時には會員總員數六十一名であつた。

モア日本人會墓地管理規定摘要

會員死亡埋葬の場合は墓地區劃順次に従ひ本會の指定に依り一區劃(幅六尺長八尺)を無料使用するものとす
會員外邦人埋葬の場合は使用料として參拾弗を本會に納入するものとす
但墓地使用料の負擔に堪えざる者は理事會の決議を経て免除することあるべし
墓地は等級を附せざるも勝手の選定を許さず、本會指定の順次に従ふものにして、死者なきに豫め敷地の專有を許さず
規定敷地以外の墓地を使用せんとするものは會の承認を得て隣接地一區劃を限り分與する事を得、但此場合は五十弗の使用料を徴收す

共濟會時代の會長と副會長

- 自大正五年一月 會長 谷山輔
- 至同八年末解散迄
- 自大正五年七月 副會長 新谷新造
- 至同七年七月
- 自大正六年一月 池崎 臻
- 解散迄

モア日本人會會長と會計主任

- 自大正八年十二月 會長 岡本林平
- 至同九年四月
- 自大正九年四月 市岡 計介
- 至同九年十二月

自大正九年四月	中村 吉太
至同十一年四月	
自大正十一年四月	酒井峰次郎
至同十二年四月	
自大正十二年四月	小野塚修市
至同十四年十二月	
自大正十五年一月	池崎 臻
至昭和二年四月	
自昭和二年四月	中村 吉太
至昭和六年四月	
自昭和六年四月	池崎 臻
至昭和七年四月	
自昭和七年四月	池崎 臻
至昭和八年七月	
自昭和八年七月	池崎 臻
至昭和九年四月	
自昭和九年四月	池崎 喜磨太
至昭和十年四月	
自昭和十年四月	池崎 臻
至昭和十一年四月	
自昭和十一年四月	池崎 喜磨太
至昭和十二年四月	
自昭和十二年四月	池崎 臻
至昭和十三年四月	
自昭和十三年四月	池崎 喜磨太
至昭和十四年四月	
自昭和十四年四月	池崎 臻
至昭和十五年四月	
自昭和十五年四月	池崎 喜磨太
至昭和十六年四月	
自昭和十六年四月	池崎 臻
至昭和十七年四月	
自昭和十七年四月	池崎 喜磨太
至昭和十八年四月	
自昭和十八年四月	池崎 臻
至昭和十九年四月	
自昭和十九年四月	池崎 喜磨太
至昭和二十年四月	
自昭和二十年四月	池崎 臻
至昭和二十一年四月	
自昭和二十一年四月	池崎 喜磨太
至昭和二十二年四月	
自昭和二十二年四月	池崎 臻
至昭和二十三年四月	
自昭和二十三年四月	池崎 喜磨太
至昭和二十四年四月	
自昭和二十四年四月	池崎 臻
至昭和二十五年四月	
自昭和二十五年四月	池崎 喜磨太
至昭和二十六年四月	
自昭和二十六年四月	池崎 臻
至昭和二十七年四月	
自昭和二十七年四月	池崎 喜磨太
至昭和二十八年四月	
自昭和二十八年四月	池崎 臻
至昭和二十九年四月	
自昭和二十九年四月	池崎 喜磨太
至昭和三十年四月	
自昭和三十年四月	池崎 臻
至昭和三十一年四月	
自昭和三十一年四月	池崎 喜磨太
至昭和三十二年四月	
自昭和三十二年四月	池崎 臻
至昭和三十三年四月	
自昭和三十三年四月	池崎 喜磨太
至昭和三十四年四月	
自昭和三十四年四月	池崎 臻
至昭和三十五年四月	
自昭和三十五年四月	池崎 喜磨太
至昭和三十六年四月	
自昭和三十六年四月	池崎 臻
至昭和三十七年四月	
自昭和三十七年四月	池崎 喜磨太
至昭和三十八年四月	
自昭和三十八年四月	池崎 臻
至昭和三十九年四月	
自昭和三十九年四月	池崎 喜磨太
至昭和四十年四月	
自昭和四十年四月	池崎 臻
至昭和四十一年四月	
自昭和四十一年四月	池崎 喜磨太
至昭和四十二年四月	
自昭和四十二年四月	池崎 臻
至昭和四十三年四月	
自昭和四十三年四月	池崎 喜磨太
至昭和四十四年四月	
自昭和四十四年四月	池崎 臻
至昭和四十五年四月	
自昭和四十五年四月	池崎 喜磨太
至昭和四十六年四月	
自昭和四十六年四月	池崎 臻
至昭和四十七年四月	
自昭和四十七年四月	池崎 喜磨太
至昭和四十八年四月	
自昭和四十八年四月	池崎 臻
至昭和四十九年四月	
自昭和四十九年四月	池崎 喜磨太
至昭和五十年四月	
自昭和五十年四月	池崎 臻
至昭和五十一年四月	
自昭和五十一年四月	池崎 喜磨太
至昭和五十二年四月	
自昭和五十二年四月	池崎 臻
至昭和五十三年四月	
自昭和五十三年四月	池崎 喜磨太
至昭和五十四年四月	
自昭和五十四年四月	池崎 臻
至昭和五十五年四月	
自昭和五十五年四月	池崎 喜磨太
至昭和五十六年四月	
自昭和五十六年四月	池崎 臻
至昭和五十七年四月	
自昭和五十七年四月	池崎 喜磨太
至昭和五十八年四月	
自昭和五十八年四月	池崎 臻
至昭和五十九年四月	
自昭和五十九年四月	池崎 喜磨太
至昭和六十年四月	
自昭和六十年四月	池崎 臻
至昭和六十一年四月	
自昭和六十一年四月	池崎 喜磨太
至昭和六十二年四月	
自昭和六十二年四月	池崎 臻
至昭和六十三年四月	
自昭和六十三年四月	池崎 喜磨太
至昭和六十四年四月	
自昭和六十四年四月	池崎 臻
至昭和六十五年四月	
自昭和六十五年四月	池崎 喜磨太
至昭和六十六年四月	
自昭和六十六年四月	池崎 臻
至昭和六十七年四月	
自昭和六十七年四月	池崎 喜磨太
至昭和六十八年四月	
自昭和六十八年四月	池崎 臻
至昭和六十九年四月	
自昭和六十九年四月	池崎 喜磨太
至昭和七十年四月	
自昭和七十年四月	池崎 臻
至昭和七十一年四月	
自昭和七十一年四月	池崎 喜磨太
至昭和七十二年四月	
自昭和七十二年四月	池崎 臻
至昭和七十三年四月	
自昭和七十三年四月	池崎 喜磨太
至昭和七十四年四月	
自昭和七十四年四月	池崎 臻
至昭和七十五年四月	
自昭和七十五年四月	池崎 喜磨太
至昭和七十六年四月	
自昭和七十六年四月	池崎 臻
至昭和七十七年四月	
自昭和七十七年四月	池崎 喜磨太
至昭和七十八年四月	
自昭和七十八年四月	池崎 臻
至昭和七十九年四月	
自昭和七十九年四月	池崎 喜磨太
至昭和八十年四月	
自昭和八十年四月	池崎 臻
至昭和八十一年四月	
自昭和八十一年四月	池崎 喜磨太
至昭和八十二年四月	
自昭和八十二年四月	池崎 臻
至昭和八十三年四月	
自昭和八十三年四月	池崎 喜磨太
至昭和八十四年四月	
自昭和八十四年四月	池崎 臻
至昭和八十五年四月	
自昭和八十五年四月	池崎 喜磨太
至昭和八十六年四月	
自昭和八十六年四月	池崎 臻
至昭和八十七年四月	
自昭和八十七年四月	池崎 喜磨太
至昭和八十八年四月	
自昭和八十八年四月	池崎 臻
至昭和八十九年四月	
自昭和八十九年四月	池崎 喜磨太
至昭和九十年四月	
自昭和九十年四月	池崎 臻
至昭和九十一年四月	
自昭和九十一年四月	池崎 喜磨太
至昭和九十二年四月	
自昭和九十二年四月	池崎 臻
至昭和九十三年四月	
自昭和九十三年四月	池崎 喜磨太
至昭和九十四年四月	
自昭和九十四年四月	池崎 臻
至昭和九十五年四月	
自昭和九十五年四月	池崎 喜磨太
至昭和九十六年四月	
自昭和九十六年四月	池崎 臻
至昭和九十七年四月	
自昭和九十七年四月	池崎 喜磨太
至昭和九十八年四月	
自昭和九十八年四月	池崎 臻
至昭和九十九年四月	
自昭和九十九年四月	池崎 喜磨太
至昭和百年四月	
自昭和百年四月	池崎 臻

バトバハ日本人會

バトバハ日本人會の創立は大正八年で當時の會長は佐々木亦二氏であつた。其後石原産鐵鑛石の採掘を開始するに及んで日に月に異常な勢ひを以て發展し、開港場となり在留邦人も益々増加して大正十五年頃既に會員數四百二十名に達し新嘉坡に次ぐ隆昌を示してゐたのである三五公司以下の護謨園とグリメダンの鐵山を持つて居るのであるから邦人の勢力斷然群を抜きボイコットの時でも此處だけは何時も殆んど杞憂を抱かせないのである。

マラツカ在留邦人消長の回顧

大正五年藤井領事が敢行した「在留邦人社會淨化作業」は或る一部に相當の恐怖を與へて其目的の大半を達すると同時に、同領事の地方巡視により促進された各地日本人會の創設は近き將來に於て遂に「娼婦自廢」の劃期的時代を齎したのであつた。然し此恐怖時代に彼等は其組合

の帳簿を總て焼き捨て、仕舞つたので、多年同胞が血と肉を削つて築き上げた切角の記録の大部分を消失した事は實に残念に耐えない事實であつた。

惠共會なる相互保護團體が明治四十二年迄スレンパンの協力下であり、死亡者の埋葬も當時は遙々ス市に送つてゐたのであるから、今日市の共同墓地に遺つて居る三四基も皆それ以後のものである。

惠共會の事務が男子在留邦人の手に移つたのも恐らく其時代であつたらう、大出、田代が會長となると共にス市埋葬の煩を打切る事となつたのであつて、此邊からマラツカ第二期發展となるのであるが、それに入る前附記して置かねばならないのは明治十二年四月三日、軍艦筑波乗組看病夫長長谷川兼吉の石碑がブギチマ現存地から、大正五年に叢林中から発見されたのと、市共同墓地に今尚幅一米長さ二米餘のコンクリート寢棺型牀に小石碑深く龜太郎墓と刻まれ、詳細全然不明の物が残つて居るのである。多分支那人洗衣店に雇はれてゐた明治卅年臺の物であらうか、其他傳説的にも歴史的にも舊都マラ

ツカと邦人の關係は相當有名であるに拘らず、現在迄何等遺跡の發見されないのは残念である。聖ポールス・ヒル即ち理事官邸信號臺及海岸に面せる其麓を圍る多數の官衙、警察署長官邸並に各會社事務所の占めつゝある昔の城砦地域の地中には恐らく相當の史跡が埋没されて居るものと見られて居るのであつて、昨今歴史協會の事業として新たな發見に努力して居るから或は邦人に關する事跡も發掘される事があるかも知れないと期待されて居るのである。

第二期 前驅時代の功老者の發展は大出、田代、伊藤、津田、宮本、西山の雜貨賣藥、コーヒ店であるが尙

未だ在留邦人の店舗は花街地域に限られてゐたが、石井寫眞館、磯洗衣業、鈴木齒科醫、日本醫院、筒井、石山上田の雜貨店、丸山射的店（後年の大丸山にあらず）と明治時代の終末期漸次花街以外に進出する者が増したのであつて、一九一四年五月六日別表軍艦最上歡迎會寄附者を見ると略當時の狀況が偲ばれるのである。

大正二年より六年に亘る急劇なる在留邦民の増加を見た

のは歐洲大戰勃發に依るのである（別表參照）

主なる人々の中齒科の橋本兄弟、雜貨旅館の村島、雜貨の佐藤、丸山（友三）、永野（現日新聞社員）柔道の關口、齒科の結城、中村（現日會長）、理髮店鳥居、宇佐美（スレムバン）、久保寺寫眞店等がある。

斯くてかゝる現況で第二期も終りを告げ個人的星城と小取引販賣から愈々本格的に交易日本としての活動に入つたのであつて、日本郵船が定期寄港を開始し川原、千田兩社が出張員を置いたのも其頃からで、殊に前者は極めて短期であつたが後者は其後出張員田尻氏の活躍に依つて外人間に盛名をうたはれ、全マラツカ庭球選手權五ヶ年確保の輝かしい歴史を残したのであり、全馬來の覇者淺野選手も亦在留者の一員であつたのである。又笠田大人、久米庄三郎事金子氏も亦當時短期ながら居住してゐたのである。

殊に大正十一年十一月十八日處女航海の郵船箱根丸北白川宮妃殿下御乗船の光榮を齎して寄港、妃殿下の御上陸はなかつたが日會役員の御機嫌奉伺に對し御下賜金あ

り、有名な關根船長の優待を受けて歸つた。尙此時給仕某盤の申毒にて急逝、後年一切を日會に託され悲しき墓標は永遠に同船の寄港を思ひ出させるのであつた。

尙北白川妃殿下、朝香宮同妃殿下を御見送り申上げ、秩父宮殿下の奉迎を最後として郵船は又マラツカ寄港をやめて仕舞ふた。右五殿下御下賜の記念として第一回は柔佛在留邦人製陶業者に依頼し會備品の大土瓶と茶碗及び大湯呑一箇宛を全會員に配布し「賜」の一字を記して永久の記念とし、第二回はスポーツの宮を記念すべくテニス優勝杯を作り之は中村デンチストの机上を飾つて居る。殊に第三回は日本人會章を菊の青葉で抱かせ「御下賜金によりて」と畏れ多かりしが五殿下の御尊名を刻んだ大銀杯を作り、毎年正月及天長節御尊影に供へて拜する事として居るのである。

尙後年今上陛下御即位大典奉祝記念事業として、繼續基金募集を計畫するに當り、右陛下賜金殘餘と運動部解散による剩餘金を基礎としたのである。

大正十二年十三年數氏來馬を中間とし又前驅として愈

々發展時代に入るのであるが、眞實にマラツカ邦人の活躍は大正十三年で一時中絶し昭和六年より八年へかけての三年間であつた。是れは大正十四年の上海事件昭和二年の山東出兵、同三年の濟南事件に依るポイコットが間接的に大なる障害を招來した原因となつたのである。

團體の回顧

惠共會 明治時代から大正の初期にあつた主として樓主各自の利益擁護と救護機關で會長は大手、田代、筒井、鈴木の順かと思ふが後には現在の日會の前身に近いものとなつたのである。

青年會 マラツカ日本人青年會は大正三年八月創立同年十一月廿三日登録

初代幹部 會長 石井長助、副會長 彦坂正義、幹事 鈴木碩三、會計 村島勝次郎、書記 橋本哲造
會員資格を限定したので會員數は少かつたが後には領事館よりも何かと通信も來、在留届(當時は毎年一回全在留届出)の事務も取つてゐた。

大正五年四月海軍々人の墓石發見の際も青年會より領事館を通じ海軍省に故人の略歴等調査を依頼し、判明と共に大修理の要を認めつゝありし折柄、第三艦隊司令官野間口中將右事實を聞知し、銀一封を送られ工事一切を青年會に委嘱されたので石井會長大いに盡力する處あり特に野間口閣下に「追悼之辭」の題字を乞ひ、文は彦坂副會長の草案に副官の訂正を願ひ臺石に刻したもので、同年十一月廿五日野間司令官代理石田大尉、驅逐隊代表柿原上等兵曹外下士官水兵代表三名參列、西有寺住職大塚智船師導師で慰靈祭執行、石田大尉の感話あり、英靈正に四十年にして再び同胞の香華を受ける喜びに會し得たのであつた。

マラツカ日本人青年團

斯くて青年會は大正八年十二月迄名義を存続してゐたのであるが、六年日本人會創立と共に其活動を中止したのである。

大正八年日會解散後當時の壯青年中堅組を中心として

創立總會を十月卅日天長節祝日を期して開催、日會の遙拜式に代り中村齒科醫會長、菊池副長、久保寺、荒城等を幹部として盛大な會合であつた。然し同團の登録に就いて華民保護局より二つの青年會は贅物である併合したらとの注言あり、舊青年會の登録名義讓受の承認を得たのであつたが、恰も娼妓自廢問題を中心とする新嘉坡總領事管下聯合日本へ會創立の議ある事を内聞し、寧ろ日會の復活が急務となり、新設青年團の活動は自ら休止せざるを得ざるに至つた。當時栽培協會佐藤幹事の視察旅行(多分半島食料自給問題に關し米田適地調査)を迎へ一夜講演を求め、主に經濟上の雑話であつたが氏の宗教家的説話は多數聽衆に妙からざる感銘を残した様であつた。然も同團は時機を得ず至極短命であつた。

日會附屬運動部 國運伸展の影響をうけマラツカでも切りに青年會挫折を惜む聲あり、大正十年九月、日會運動部なる名稱の下に同志の團結を計り、委員として主任石井長助、副中村千誠、會計山下綾太郎の三名を挙げ先づテニス部大弓部を組織し、十一月三日の佳節を期し

新設ブキチナ・テニスコートに大會を開催、何れも珍流なる大弓の試射は今尙格好の話題となつて居るが、一方庭球部は漸次發展し殊に十一年八月田尻氏の入會を迎へ俄然優勢となつたが、弓術部は指導者なき爲め惜しくも中絶に終つた。

十二年六月スレンバン庭球部員を招き初めて對抗試合舉行、小岩井主將以下坂田、後藤、菅の強豪に零敗を喫し僅に田尻主將の金星一つに其面目を保つ事を得たのであつた。然も此試合を最後にブキチナ・コートは客員メソバ華僑の金力に土地租借権を取上げられて仕舞ふたので、邦人の面目上其儘にして置く事が出来ない、現在官立ハイスクールの運動場になつて居るクンチエン路の廣場に日々埋立の土を運び、車千臺で一大運動場を作つたのであつたが石井主任の熱情ある監督で僅に百數十弗の小経費で完成する事が出来、後年更にグラス・コート一箇を加へ大弓場も併置し數回スレンバン軍を迎へ、思出の親善マッチやスポーツ外交の記念を残したのであつたが其約十英反の原野も亦一括して官立學校敷地に買

上げられ、昭和三年六月卅日彦坂會計の名に依つて事務終了となつて仕舞ふた。小數部員の物質的負擔は勿論石井、中村諸氏の現場整理の勞も徒らにマンドル・ブツサルの尊稱を残すのみの悲しい思出となつたのである。然も同運動では毎年天長節奉祝運動會が行はれ、朝香宮御下賜金による記念杯の中村受領、田尻選手が連續五年全マラツカ・選手權確保祝賀庭球大會舉行、全馬來選手權を得た淺野選手の練習試合も行はれ、ス市招待試合には千田護謨園より鈴木、藤本、池田、増田諸氏がマラツカ友軍として來援も楽しみの一つであつたのである。

日本人會 大正六年四月創立總會開備(別表に人名あり)大正八年平和祝賀會參加準備中S某の供托金消費より會計上の紛糾を生じ遂に解散、然るに同年末山崎總領事より管内賤業者の自發的廢業に依る在留民向上發展に關する數ヶ條の諮問事項通達と共に、各地日會合同協議開備の通知あり、感情を清算して大同に和するの必要を痛感し、十二月廿七日特別委員の手で投票を門戸に掛け聯合會出席代表を選出、彦坂、筒井選ばれて出星、廢

娼問題を決定して歸り九月十六日改めて全在留民を召集聯合會決議事項を報告し、日本人會々則の設定を終り再び日會の再興を見るを得たのであつた。

マラツカ日會現在

- 正會員五十二名 男卅七名、女十五名
- 一級九名 男九
- 二級六名 男五、女一
- 三級 廿三名 男十六、女七
- 四級 十四名 男七、女七
- 家族會員 四十六名
- 妻卅三名、父一、母一、嫁一、學童五名、男一、女四
- 幼稚園生四名 男一、女三
- 同市外正會員十名 男四、女六
- 同家族會員 四名 妻三、子供女一
- アロガンヤ男一、女三
- スンギバロ 男一、女一
- モリモ 女一
- ジャシン 男二、女二
- アサハン 女一
- 他州正會員 男四名
- 同永族會員 六名 妻四、子供二
- タンカ 男一、女一

スローム 男二、女一
バタンマラツカ 男三、女二
縣別 一市十八縣

長崎	一七	和歌山	六	熊本	五
佐賀	四	山口	三	福岡	二
兵庫	二	長野	二	鹿児島	二
愛知	一	山梨	一	山形	一
栃木	一	徳島	一	大阪市	一
群馬	一	神奈川	一	宮城	一

職業別

醫師	二	齒科	二
寫真	二	商業	一〇
旅館(兼二)	三	理髮業	二
ビヤホール(兼)	一	ドライブリーニング	一
洋裁	一	撞球	二
製帽	一	看護婦	二
栽培業	一	家政婦	七
女中	一		

大正六年四月日會創立當時の會員

- 筒井 信吉 雜貨商 兵庫縣
- 石井 長助 寫真 長崎
- 宇佐美 已之吉 巴 愛知

彦坂正義 醫師 愛知
 鈴木禎三 齒科 山形
 結城寅之輔 同 福岡
 橋本吉熊 同 鹿兒島
 佐藤武雄 雜貨商 熊本
 村島勝次郎 同 大阪市
 永野平吉 同 山口
 關口恒 射的 北海道
 中村干誠 賣藥 長野
 笠置乘應 製靴 石川
 丸山友三 射的 奈良
 田代熊吉 雜貨商 神奈川
 伊藤由兵衛 齒科 愛知
 米田榮吉 齒科 長崎
 島田福太郎 藝工人 岡山
 古瀬英吉 大工 長崎
 西山善吉 珈琲店 廣島
 立花吉左衛門 裁縫 長崎
 山崎政吉 雜貨商 東京市
 大町喜代治 大工 長崎
 相馬剛 理髮 長野
 常盤平太郎 同 神奈川
 島本音吉 洗張業 福岡

星野益造 製靴 神奈川
 石井善助 寫真 長崎
 山田ノブ 賣藥 神戸市
 宮崎トモ 食料酒販賣 長崎市
 業主三十五名 男二八、女二
 樓主女五
 家族 七十四名
 男二〇、妻一四、子供五、女三五
 軍艦最上歡迎會寄附金
 十三弗 石井長助
 一〇弗 筒井信吉、鈴木禎三、田代熊吉、土岐トメ
 自動車一日 村島勝二郎
 八弗 彦坂正義、丸山友造
 六弗 橋本哲造、上田琴作
 五弗 中村稔、腕野喜代造、毛利てる、林田りよ、岩本ゆき、五十二番
 四弗 七十八番、八十五番、岸本一男、下釜ルオ
 三弗 柏原渡一、佐藤捨次、磯田松與武、安岡關太郎
 小砂利一、西山善吉、近藤某、岡本(タンピン)、六番、村上なつ、小池周
 十五弗 惠共會

關東大震災義金(大正十二年九月)

百弗 余光源、參拾弗 梁朗文、十五弗 楊子華
 十弗 陳禎忠、曾夢球、蔡之禮、五弗 陳氏
 百弗 岩隈あさ、彦坂正義
 五十弗 石井長助
 三十五弗 筒井信吉
 三十弗 OMM洗帽店、野口なを
 廿五弗 結城寅之輔
 廿弗 鈴木禎三、本多甚助
 十五弗 川口よし子、中村干誠、ハチ・ハセン、馬場とい
 十弗 山下敬太郎、田中庄一、石井武一郎、宮崎すぎ
 松原イチ、江島ホドヨ、彦坂たつ
 五弗 堀義重、中川傳次、浦田磯吉、山本信夫、金森
 ハツ、藤本新太郎、林田清兵衛、石井新太郎、鈴木
 登喜次、中村ハツ、中村夫人、大倉忠平、早川こと
 鶴田いき、鈴木夫人、岩崎せきの、篠崎國二郎、松
 田さね、澤田箒、久保ツル
 三弗 高比良ツヤ、成瀬クラ
 二弗 金子さだ

七弗 中村干誠
 五弗 西田與志男、林田和吉、秋本豐市、石井長助、
 森本義高、鈴木禎三、千田護謨園、同園藤本(同但
 商品)筒井商店、飯野同、原田同、志村同、滿留同
 桑野同
 參弗 栗山ソナ子、朝山チエノ
 二弗 大隈慶次郎、竹中銀市、本田泰助、野口なを、
 篠國次郎
 一弗 岩下、大倉忠平、盛田アサキ、前田豊治、泉
 サヨ

皇太子御誕生奉祝大會寄附(昭和九年四月)
 一〇弗 藤好米太郎、彦坂正義

十五年以上在留者
 廿八年 石井長助 寫真 明四一
 廿七年 鈴木禎三 齒科 明四三
 廿六年 彦坂正義 醫師 明四四
 廿一年 鳥井兼吉 理髮 明四五轉
 廿年 大倉忠平 研師 大四
 同 田代熊吉 雜貨 明四一死
 同 林田清兵衛 製菓 大五轉
 同 篠崎國次郎 コック 大五
 十九年 秋本豐市 寫真 明四四
 同 笠置乘應 製靴 大三轉
 十七年 筒井信吉 雜貨 明三七途中不在